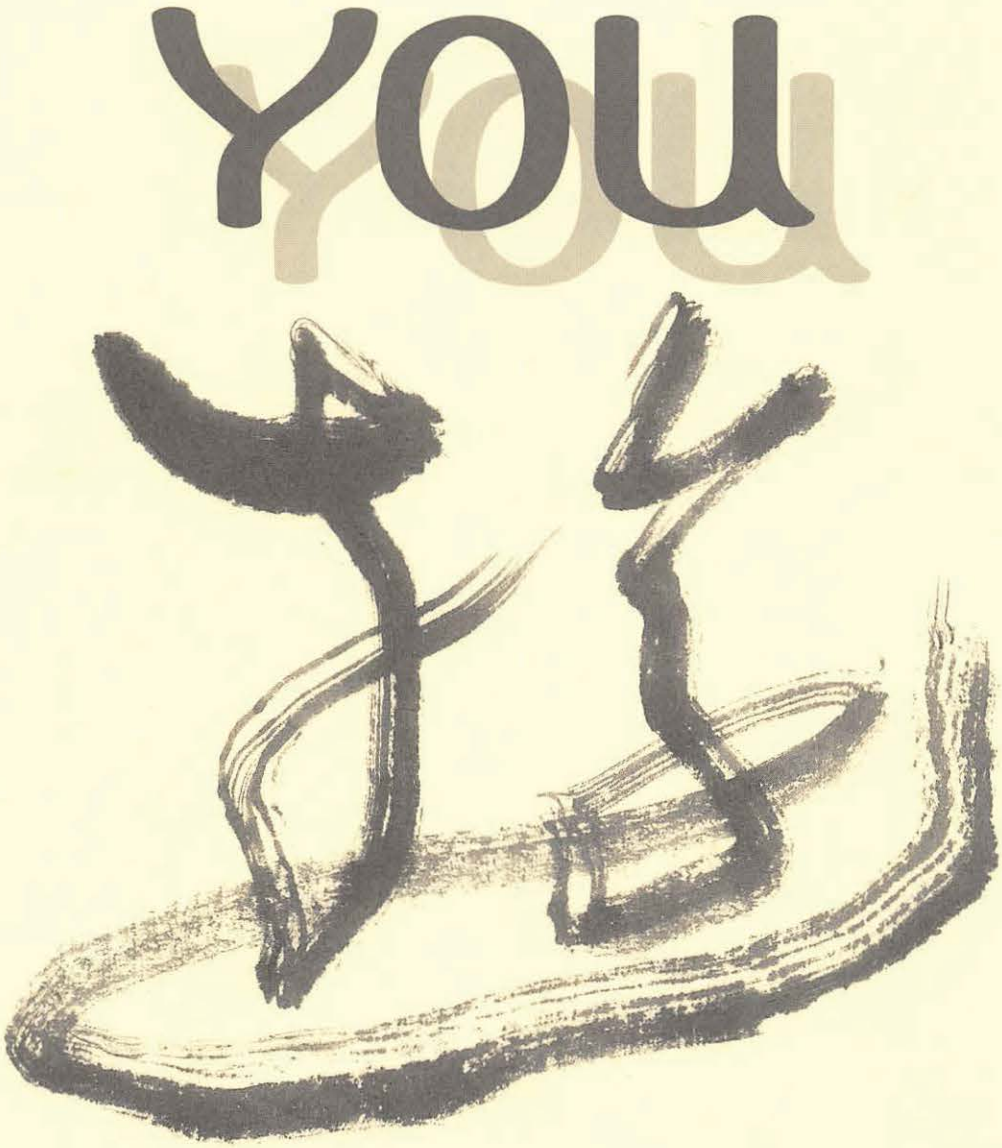
平成 23 年度学内版GP：就業力育成支援プログラム
取組名称：社会力を育む第 18 期「信大YOU遊世間」の実践　報告書

教員養成フレンドシップ事業

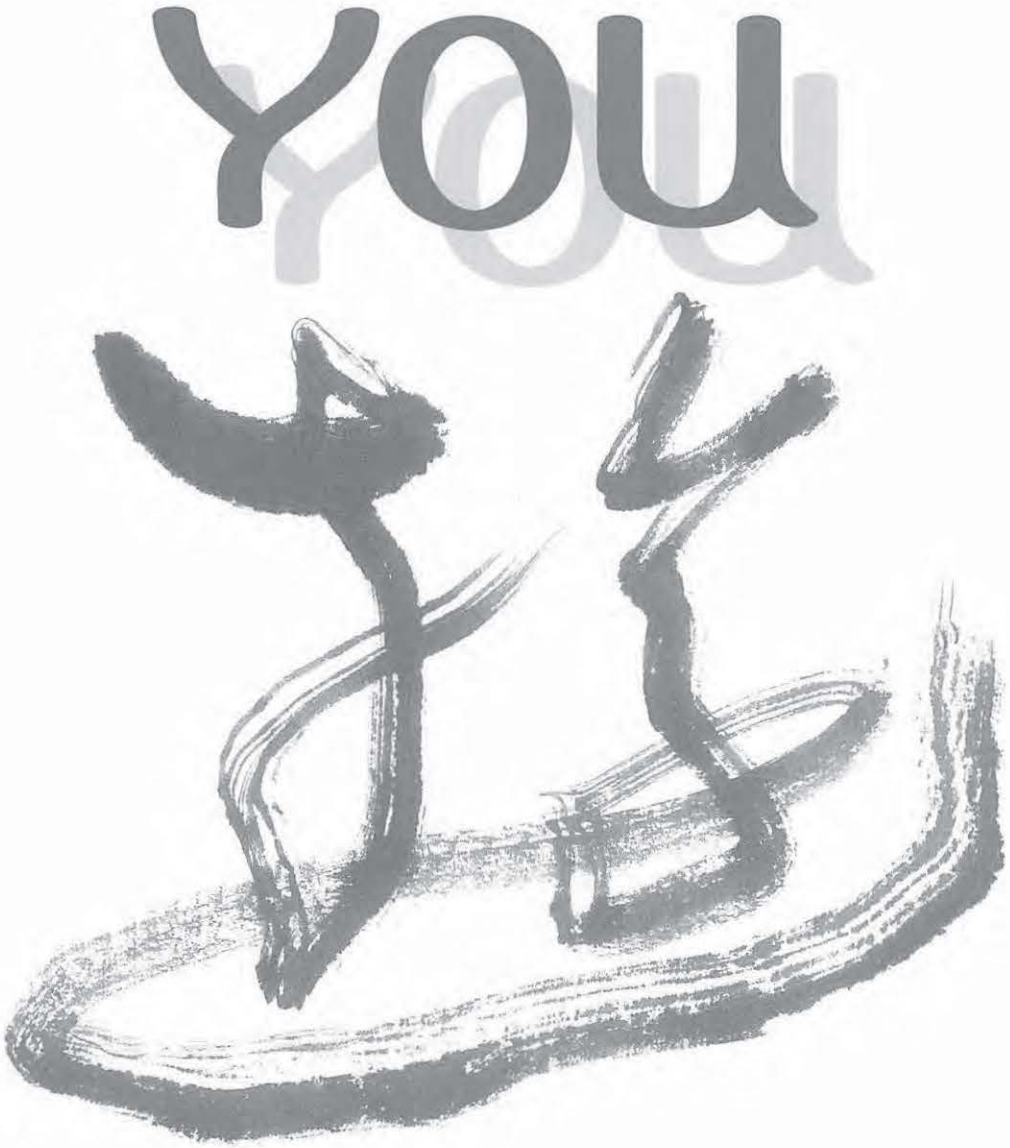
「信大YOU遊」18 年の教師教育学研究



2012 年（平成 24 年）2 月

信州大学教育学部

「信大YOU遊」18年の教師教育学研究



2012年（平成24年）2月

信州大学教育学部

ま え が き

信州大学教育学部長　**平野　吉直**

文部科学省のフレンドシップ事業の一環として平成6年度から始まった「信大YOUサタデー」（7年間）は、「信大YOU遊広場」（2年間）、そして「信大YOU遊世間」（9年間）へと進化し、本年度で18年目を迎えました。この18年間の総まとめとして、このたび『「信大YOU遊」18年の教師教育学研究』を刊行できますことをたいへん嬉しく思います。また、報告書の刊行に当たりましては、著名な学識経験者、本事業を支えていただいている地域の協力者、信州大学教育学部関係者、そしてこれまで本事業に携わってくれた教育学部卒業生など、多くの方々に本事業の評価等について執筆をお願いしたところ、お忙しい中にもかかわらず快くお引き受けいただきました。心から感謝申し上げます。

さて、今年度の「信大YOU遊世間」は、平成23年11月27日に信州大学教育学部キャンパスにおいて「第10回YOU遊フェスティバル」が、地域の子どもたち・保護者・学生あわせて862名もの参加者を迎え盛大に開催できたことをはじめ、すべての活動を無事に終了することができました。「信大YOU遊世間」は、「子ども」と「地域」をキーワードにしたいくつもの活動が、年間を通して学生の主体的な参画のもとで展開されています。これらの活動は、ご協力いただいている地域住民の方々、そして「長野市PTA連合会」「須坂市教育委員会」「青木村教育委員会」「麻績村教育委員会」「長野市大岡支所」「長野市立湯谷小学校保護者の会」「JAながの」など、多くの連携団体の皆さまのご支援によって成り立っていることは言うまでもありません。この場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、今後のさらなるご支援をお願いする次第です。

学校教員を目指す本学部の学生にとって、「信大YOU遊世間」の企画・運営を通じた地域の方々との交流、そして子どもたちとの直接的な触れ合いは、教師としての実践的指導力の基礎を養う貴重な経験となっています。学生たちは、地域と連携しながら子どもとともに成長し、そこで得た大きな学びと成果は、教員生活における社会力になるものと確信しています。

本年度は、幸いにも山沢信州大学長のご理解をいただき、平成23年度学内版GPのひとつである「就業力育成支援プログラム」に、教育学部から申請したこの『社会力を育む第18期「信大YOU遊世間」の実践』が選定されました。本報告書の刊行をはじめ、充実した取組みができましたことに対して感謝を申し上げる次第です。

最後になりますが、土井進教授は、「信大YOU遊サタデー・広場・世間」の指導教員として、長きにわたり、学生に主体的な体験学習の場を提供されるとともに、地域における教育課題等の解決に向けた信州大学教育学部の社会貢献活動を推進してこられました。そのご努力と継続力に、心から敬意を表します。

もくじ

まえがき　平野吉直　信州大学教育学部長　3
もくじ　4

Ⅰ　有識者の眼　5

1．齋藤　昭　教育学博士（教育哲学）
2．佐島群巳　（社会科教育学・環境教育）
3．加藤　章　（日本近世史・社会科教育学）
4．高倉　翔　（教育行政学）
5．門脇厚司　（教育社会学）
6．藤枝静正　教育学博士（教育制度学・教師教育学）
7．小泉秀夫　（教育方法・授業研究・教員養成）
8．濁川明男　（教育実地研究・珪藻分類学）
9．近森憲助　（国際教育協力）

Ⅱ　大学内・地域協力者の眼　15

1．小林　輝行　（教育学）
2．漆戸　邦夫　（有機化学）
3．藤澤謙一郎　（健康教育学）
4．林部　信造　農　業
5．豊田　　実　ＪＡながの
6．市川　祥介　麻績村教育委員会
7．小岩井　彰　長野県教育委員会
8．関川　光彦　日本数学会名誉会員
9．守時　公枝　特別支援教育士スーパーバイザー
10．中谷　隆秀　前「湯谷小子どもランド」保護者代表

Ⅲ　「信大 YOU 遊」創設と進展の 18 年【担当教員の実践報告と卒業生の省察】　27

〈「信大 YOU 遊サタデー」の 7 年間〉第 1 期～第 7 期　28
☆担当教員の実践報告★　☆卒業生 56 名の省察★
〈「信大 YOU 遊 広 場」の 2 年間〉第 8 期・第 9 期　64
☆担当教員の実践報告★　☆卒業生 20 名の省察★
〈「信大 YOU 遊 世 間」の 9 年間〉第 10 期～第 18 期　77
☆担当教員の実践報告★　☆卒業生 48 名の省察★
（⇒第 17 期・第 18 期（平成 22・23 年度）は、P. 144 参照）

Ⅳ　学術論文にみる「信大 YOU 遊サタデー・広場・世間」の教師教育学研究　108

1．教員養成学部における実践的指導力の養成　109
2．学校週五日制時代の地域教育力蘇生への教員養成学部の対応　114
3．「信大 YOU 遊サタデー」を通して学生が修得した実践的指導力の基礎の特質　120
4．1．「信大 YOU 遊サタデー」において“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観(1)　124
4．2．「信大 YOU 遊サタデー」において“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観(2)　126
5．信州大学学生による地域貢献活動とその評価　129
6．「信州教育」の美質の継承と発展 ―「信大 YOU 遊世間」の展望―　138

Ⅴ　現役信大生が「臨床経験」と「YOU 遊世間」から学んでいること　143

「信大 YOU 遊 世 間」の第 17 期：4 年生、第 18 期：3 年生・2 年生・1 年生　144
☆担当教員の実践報告★　☆現役信大生 63 名の学び★

資　料　164

1．「報告書〈第 1 集～第 18 集〉」の〈もくじ〉にみる「信大 YOU 遊」の歩み　164
2．「信大 YOU 遊」18 年の主な運営担当者一覧　168
3．「信大 YOU 遊」に関連する主な「報告書」「著書」「論文」一覧　170
4．教員養成の視点でみる「信大 YOU 遊」18 年の歩み　173
謝　辞　174
あとがき　175

I　有識者の眼

外部よりの評価として

教育学博士　**齋藤　昭**（教育哲学）

「信大YOU遊サタデー・広場・世間」が平成25年（2013）に20周年を迎えると言う。全国の教員養成大学の中で信州大学教育学部のこの事業が画期的な成果を挙げ今日に至ったことは、わが国の教育史に記録されるべき遺産であると同時に将来に継承発展させていかなければならない、真の人間教育・国民教育の原点である。これの創始・発展に全力を尽くしてこられた土井進教授の実践を中心にした研究と学生指導は21世紀教育の指針として高く評価されなければならないと思うと同時に、一身を賭された不動の信念と実践に対し心から敬意を表するものである。今日までの大学内部の事については同僚の教員諸氏、同窓生、学生諸君が記すであろう。土井教授を友人として啓発されつつ、同じく教員養成に関わってきた部外者として所感を述べ、責めを果たしたい。

私は三重大学定年退官後、縁あって岐阜教育大学（現、岐阜聖徳学園大学）に大学院設置のため招かれ、在職中約5年教育学部長として勤務した。教育学部と言っても学生数一学年約150名、教員約50名、教育設備に至っては高校のそれに毛の生えたくらいなもの、群小私大として教員採用も正に微々たるものであった。私の学部長としての仕事は如何に学生を教育し、教員採用率を挙げるかであった。教員諸氏の協力を願うと共に、学生にキャンパス内の学習の充実と共に、これを実践として生かす教育力の習得を如何にして行うかが当面の課題であった。このため教授会の議を経て、まず行ったのが「信大YOU遊サタデー」の活動であった。土井教授の許可を得て、教員を同大に派遣し、その実体の把握と独自の研究機関の設立であった。学長及び理事会の承認を経、平成12年（2001）に教育実践科学センターを設立、同時に機関誌も刊行し、地域小中学校や父母の同意を得て、土日を活動日として出発した。その結果、平成15年度教員採用率（文部科学省発表）で、信州大学以下国立48大学を抜いて岐阜聖徳学園大学が全国一位となった。現在も上位にランクされている。

要はこの事が何を意味しているかである。端的に言うならば、土井教授によって開発推進されてきた教員養成フレンドシップの事業が信州教育の宝であると同時に、それを越えた普遍的・国民教育として真に有効な教育の方法であるということである。しかもこれは単に日本国内にのみ通用する実践教育ではなく、世界に通用する内実をもつものと評価したい。

かつて信州教育は京都哲学を範とし、小学校教員による唯一の哲学会がある県であった。奈良、千葉と共に教育のメッカの地位にあった。しかし、敗戦の結果、それらは旧い教育として十把一絡的に過小評価されたことは否めない。しかし、信州教育は不滅である。その再生の一環として、動的相対主義の理論のもと静岡市立安東小学校で画期的な授業実践を確立した上田薫先生を、昭和35年（1960）信濃教育会教育研究所長に迎え、平成5年まで30数年新しい信濃教育に歩を進めたことは、その結末が不幸であっても、高く評価しなければならない。その中に無言の清掃を教育の土台におき、真の人間教育を推進しデモクラシーの実現を図り、全国的に絶大な貢献をした「自問教育」を提唱した竹内隆夫氏がいたことである。竹内氏の理論と実践は、土井教授の教育観と通底するものがあったことは、その後の両者の協力関係を見れば明らかである。特に小学校教諭として竹内理論を学校教育に生かし、その成果を著書で世に問うた平田治氏は特記されなければならない。氏は不退転の姿勢で信大大学院に進学し、現在土井教授指導の下で独自の理論を構築しつつあるからである。氏を中心に長野県下のみならず全国各地に「自問教育」が竹内氏の精神を継承して生きて働いている事実は、土井教育学と共に忘れてはならない。既にその活動は3代目である。

以上外部の者としての感想であり評価の一端である。承れば土井教授は平成26年3月定年退官の由。しかし、同教授の教育の思想と実践は21世紀から22世紀へと真の民主・人間教育として生きて続いて行くであろうと信ずる。

（三重大学名誉教授・岐阜聖徳学園大学名誉教授）

感性と知性を耕す

佐島群巳（社会科教育学・環境教育）

1．「YOU　遊　サタデー」の土着思想

私は、「信大　YOU　遊　サタデー」の創設当初から関心を持ち、その活動成果に期待をかけていた。毎年送られてくる報告書には、活動のつまづき、困難点、葛藤を乗り越え、年々学生の意識・認識が変容し、深化していく姿を窺い知ることができる。

私は、「YOU　遊」という言葉の意味について考え、その名のごとく、活動力を育むものであると直感した。つまり、「YOU」は、学習主体者の自分を含めた「あなたたち」「君たち」「仲間たち」という意味で、そして「遊」は、楽しく、のびのびと、個性豊かな創造的活動を期待したものであろう、と考えたのである。活動に参加された学生は、自ら問題意識を持ち、子どもたちの楽しい、のびのびと個性豊かな創造的活動のできる実践プログラムを衆智を集めて作成し、子どもたち、保護者、地域の方たち、他大学生などと共通意識で活動に取り組む学社融合システムであると考える。

この実践試行は、土井進教授が信州大学に就任する以前から抱き続けてきたものであろう。真の教師は、本物の自然・人間・文化環境との出会いとかかわりから学ぶ「本物の教師」「実践力をもった教師」でなければならない。これは、土井教授の土着思想であり実践的指導力を形成する論理である。

2．地域に根ざし、地域に学ぶ

「YOU　遊　世間」の実践プログラムは、活動課題ごとに学生主体に「企画立案」「実践」「活動評価」をする過程である。実践活動は、地域に根ざし、参加した仲間と課題を共有し、土を耕し・自然生態に出会い、自らの力で「価値ある体験」をすることである。

実践課題をもった参加者たちは、「農民」「地域の人々」「地域の伝統文化」との出会いから、刺激を受け、体験して感動し、共鳴・共感を深めるのである。これが土着思想である。これらの体験は、教室の中の与えられる授業と異なって、自らの課題を仲間たちと関わり合いながら「感性と知性」を獲得する『創造愛』の形成を可能にしているのである。

3．人間形成の「生きる場」

「YOU・遊・世間」プログラム策定・活動には、最初、不安・戸惑いの中で、仲間から、先生からの励ましと勇気をもらって「何を」「どのように」活動していくかを検討して、そして「目指すものは何か」を明確にして実践するのである。つまり、この活動は、「学ぶ事柄」「学び方」「学ぶ目的」を統一的に把握するのである。

しかも、「YOU　遊　世間」の活動は、農民から、自然から学びながら、仲間と高め合い、支え合い、分かち合うという組織過程であり、ものを生み出す労作過程であるといえる。

「YOU　遊　世間」での学生の活動は、自らの足で、目で、体全体で、心で、そして、仲間と汗し、努力して確実に、成果を収めているのである。この「YOU　遊　世間」を企画・運営し、実践活動に参加した学生は、他者とかかわり、個性的・創造的・全体的・体験的活動の素晴らしさを体得したはずである。ここで学んだ学生は、土井教育的人間学としての実践哲学を基礎に置いた教育的活動力を実践の場で、「子どもの感性と知性」を育む方法論を教育現場で活かしていくものと期待しているものである。

（東京学芸大学名誉教授）

『「信大 YOU 遊」18 年の教師教育学研究』の外部評価

加藤　章（日本近世史・社会科教育学）

Ⅰ「信大 YOU 遊」18 年の教育史的意義　2011 年の現在、教員養成関係者の間では、1994（平成 6）年スタートした「信大 YOU 遊サタデー」のその後に広く関心が集まっている。なぜならば教師の実践的指導力の養成に取り組む各大学はそれぞれ教員養成カリキュラムの充実に力を入れる中で、信大方式はいわゆる「臨床経験科目」などの単位制システムとは別に、「やりたい人が，やりたい時に、好きなようにやる」という自由度の高い学生主体の望ましい教育実践活動だからである。

出発当初は、果たして何時まで続くのだろうかと期待と不安から関心を寄せていたが、なんと「サタデー」から「広場」「世間」と出世魚のように名称をかえ内容を豊かなものに高めながらスパイラルな発展を遂げて 18 年目を迎えた。この信州大発の一種の教育運動が契機となって 1997（平成 9）年度から文部省が教員養成学部フレンドシップ事業として政策化し、チャレンジする大学が増えたことはよく知られている。しかし、それが国立大法人化で後退する中で「信大 YOU 遊世間」のみが、よくその初志を生かしながら、充実した活動を展開している。これは戦後教育史の中でも 21 世紀的な教師教育の一つの在り方として高く評価されるべきであろう。

Ⅱ「信大 YOU 遊世間」の特質　これまでの教員養成カリキュラムでは、教育実習は 3 年次や 4 年次におかれていた。「信大 YOU 遊世間」を発想した土井進教授は 20 世紀後半、高度経済成長以降の豊かな社会に育った世代の学生たちが、自然体験や社会体験が不足していることを考えれば、とくに教師を目指す学生こそ児童・生徒とそれらの体験を共にすることの重要性に着目した。そこから学生は自らの未熟さに気付き、学問への意欲も生まれるからである。このような具体的体験をカリキュラムに組み込み 1993（平成 5）年「教育実習事前・事後指導」を、さらに 10 年をかけて総合的な「臨床経験カリキュラム」を開発した。注目すべきは実習に臨んだ学生たちの多くがさらなる実践経験継続への意欲を示し、それに応えるべく積極的に構想されたプランが「信大 YOU 遊サタデー」であったことである。この動機付けが重要であり、活動する学生たちの報告を見ても、絶えず初発の動機を振り返り、実践活動の主体は学生にあり、自由な発想が認められていることに、成功や失敗を超えた彼らのプライドの存在を認めることができる。それは子どもの主体性を認め育むことに直結しているのである。それを支えてくれた各地域の社会人リーダーからの貴重なアドバイスと協力も大きかった。これまでの集大成である第 17 集を見ても、フエスティバルを含め 9 つのプラザが活動しその多様な実態は学生たちのレポートや感想に生々しく記されている。各プラザの運営は運営委員長のいう「子ども主体」「人とのつながり」（仲間・先生・子ども・地域の人々）の大切さを重視し、各種の企画は子どもに向かってアイデアを出し合い、積極的に挑戦し「子ども主体」「人とのつながり」という狙いの達成感を勝ち取っているところは見事である。

Ⅲ　終わりに　終わりに「信大 YOU 遊サタデー・広場・世間」を体験したリーダーたちへの調査についてである。当初は、住所、勤務先のわかった 175 名に発送し、回答がわずか 58 名であったという。（9 月 1 日現在）やや少ないと思うが、しかし、専門職として現場に飛び込んだ OB 教師たちにとって「信大 YOU 遊」は美しく懐かしい体験であったことは間違いない。しかし、現職の彼らが当面する現実は、学生時代のロマンチックな回顧に浸る余裕もないほど切実である。むしろそのギャップに思い悩んで回答ができなかった OB も多かったからに違いない。それにしても、多くの感想の中に学生たちを指導してきた土井進教授へのオマージュが多い。氏は間もなく定年を迎えるという。定年にあたって、是非ともこれまで全力をあげて作り上げてきた教師教育の優れたノウハウや、あるべき教師像、さらに自らの信念の拠り所を示すことによって、次の世代への「信大 YOU 遊世間」の継承がよりよく実現されることを願うものである。　（盛岡大学顧問・上越教育大学名誉教授）

「実践的指導力」育成と「教職科目」改革の《先駆的実践》

高倉　翔（教育行政学）

1．まず、「信大YOU遊サタデー」が導入（平成6年）された前後における国の教員養成制度改革に関する提言を概観しておきたい。

昭和62年8月の臨教審第4次（最終）「答申」直後、昭和62年12月の教育職員養成審議会（教養審）答申「教員の資質能力の向上方策について」は、「教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力が必要である」とし、初めて「実践的指導力」を公的に提言した。

続いて、教員養成カリキュラムの「構造転換」を含む現行の養成制度の≪根幹≫を提言した平成9年7月の教養審答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」は、①「いつの時代にも求められる資質能力」を「実践的指導力」に焦点を当てながら再度明確にした。同時に、②「今後特に教員に求められる具体的な資質能力」として、「地球的視野に立って行動する資質能力、変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力、教員の職務から必然的に求められる資質能力」を例示している。さらに、「構造転換により期待される効果」として、「大学の創意工夫によるカリキュラム編成」が提言された。

2．以上のように、当時、「実践的指導力」と「大学の創意工夫」に関連し、「今後特に求められる資質能力」として社会性、対人関係能力、コミュニケーション能力、ネットワーキング能力などが強調され始めた。さらに、「実践的指導力の基礎を強固にする」ための一方策として、「効果的な教育方法の導入」が提言され、これらの一環として福祉体験、ボランティア体験、自然体験等に係る体験的実習が重視された。

「効果的な教育方法の導入」などに関連して、当時、教養審においても「信大YOU遊サタデー」が紹介され、注目されていたのは事実である（筆者：当時、教養審委員）。

3．平成9年度から文部省は、体験活動を通した「実践的指導力」の育成を目的に、「教員養成フレンドシップ事業」を開始した。その3年前に発足した「信大YOU遊サタデー」は、国の事業の≪先導的試行≫ともいえる先駆的なものであった。第1に、このような『先駆性』を大きく評価したい。

「信大YOU遊サタデー」事業は、以後、「サタデー」から「広場（プラザ）」へ（平成13年）、さらに「世間（ワールド）」へ（平成15年）と呼称が変更され、その度に事業の充実をみた。また、事業計画・実績などが高く評価され、「教員養成GP」に採択されるなど、事業は18年間にわたって展開されており、その成果（参加学生や教育委員会などによる評価の結果）は、教職志望学生に対する「実践的指導力」の育成と大学が提供する教職科目（臨床経験科目、教職実践演習など）の開発に大きく貢献した。勿論、学内でも高い評価がなされ、平成21年には学長より「信州大学功労賞」を授与された。第2に、このような『実績』を高く評価したい。

4．最後に、この事業が継続され（「継続は力なり」）、その成果が更に積み重ねられ、積極的で建設的な『触発情報の発信』（すでに、「YOU遊」の実践報告書17集が発刊）によって、わが国の≪教員養成制度・実践の改革≫を先導し続けることを強く期待したい。

（日本高等教育評価機構副理事長・前明海大学学長）

「信大 YOU 遊」18 年の教師教育学研究の刊行に寄せて

門脇　厚司（教育社会学）

平成 6 年 6 月 6 日に産声をあげたとのことですが、信州大学で、土井進先生の発案と指導で「信大 YOU 遊サタデー」が開始されて間もなく 20 年になるとのこと、このような試みと実践が、信州大学教育学部の教員養成教育に新しい考え方とやり方を導入し活性化させることになったのみならず、わが国の教師教育に清新な風を取り込むことになったのは間違いありません。

毎週土曜日に、大学のキャンパスに子どもたちを招き入れ、学生たちと協働するという「YOU 遊サタデー」としてスタートした試みを、子どもたちにキャンパスに来てもらうというのではなく、学生たちが地域社会に出て子どもたちと活動を共にする「YOU 遊プラザ（広場）」へ、さらには、子どもたちだけでなく地域の大人たちとの協働に発展させ「YOU 遊ワールド（世間）」にしていったという、かたちと内容の変化の在り方もユニークなもので、こうした実践を発案し、苦労と試行を重ねつつ、多くの教師を育て教育界に送り続けてきた土井先生に心からの敬意を表するものです。

このような「YOU 遊」実践活動を体験し、長野県内外で教師になっている OBOG たちはすでに 550 人を超えるといいます。本冊子に収録されている彼ら彼女たちが寄せてくれた経験談を読むと、「YOU 遊」実践活動で学び取得したものが、教師としての良き教育実践を行う上で貴重な財産となり養分となっていることがよくわかります。特に、私には、この活動を通して、人とのつながりや支え合いや助け合いの大切さを身を以て知ったということにこの活動の意義を感じます。例えば次のような例です。

「YOU 遊は、人とのつながりを深めてくれた。決して一人ではできなかった。仲間がいたから、子どもがいてくれたから、先輩たちがいて下さったから、地域の方々がいたから、先生がいて下さったから、わたしはわたしらしく、活動することができた。（中略）教員になっても学生と同じです。一人では生きていけない社会だからこそ、出会った人たちとのつながりを大切にし、人との出会いから学びたい。」

「教職 9 年目の今、YOU 遊広場で経験しておいて良かったなと思うことがある。それはいろいろな立場の方との交流である。」

「私がフレンドシップ事業を行うことができたのは同じ志を持つ仲間たちと協力し合い、支え合い、励まし合いながら、楽しむことができたからであり、また、地域の方たちの温かいご協力があったからこそである。そのような人と人との関わりを今後も大切にしていかなければならないと思う。」

「YOU 遊」実践活動を通して、このように育つ資質能力を私は「社会力」と言ってきましたが、多くの教師が質の高い社会力をわがものとした時、日本の教育は明らかに変わると私は信じています。

（茨城県美浦（みほ）村教育長・筑波大学名誉教授）

教師教育における「信大YOU遊世間」実践の先駆性
～教師力の基底としての人間力へ着眼～

教育学博士　**藤枝静正**（教育制度学・教師教育学）

教師の実践的指導力の基礎を培うために、大学は学生にどのような学びを保障すべきか。

この課題について各大学はさまざまな創意工夫を試みている。信州大学教育学部の「信大YOU遊世間」事業もそのひとつである。その第一の特徴は、人間の教育に携わる教師にとって不可欠な「実践的指導力の基礎」の形成には、何よりも学生の「人間力」の育成・強化が必要であるとの明確な理念に立脚している点である。その際に重視するのは学生の自主的・主体的精神の尊重で、「やりたい人が、やりたいことを、やりたいようにやる」という「YOU遊」の精神に、それが端的に示されている。しかもこの実践は時代の要請に応じて、従来の教師教育にまつわる固定的なカリキュラムの枠を押し広げる試みでもある。

この信大の実践は、これまで18年の長期にわたって継続的に実施されている。平成9年度文部省フレンドシップ事業開始以前の「信大YOU遊サタデー」（平成6年）を嚆矢とし、その後「広場（プラザ）」そして「世間（ワールド）」へと脱皮を重ねて現在に至っている。

この間における実践を通じて、先輩から後輩へと引き継がれる活動の継続性、多種な事業の企画から実施、省察まで一貫している学生集団の主体性、こども・家庭・地域住民との濃密な交流によるさまざまな気づき・発見と理解、多様な人々との連携・協力のなかでの対人関係能力の発達と地域社会への貢献、そして何よりも学生の人間としての成長、具体的には学生自身の自己発見、教職への積極的な展望や自信の獲得が顕著に認められる。

この実践の教師教育における積極的意義について堀り下げて検討してみたい。この際、「教師の資質能力モデル（藤枝：2009）－1・レベル」「教師の資質能力モデル（藤枝：2009）－2・領域」＊との関連で吟味するのが有効であろう。このモデルの全体像はⅠ～Ⅶの7つの「レベル」と、A～Mの13の「領域」で構成されている。従来わが国の教師教育カリキュラムは主として、レベルⅠ．子どもへの関心と愛情、レベルⅡ．子どもの発見・理解とコミュニケーション能力、レベルⅢ．教師としてのプロフェッショナル・アイデンティティ形成能力、レベルⅣ．授業の計画・実施・評価能力の育成などに重点をおくものであった。

これに対して、レベルⅤ．有効な協力＝支援システム創出能力（領域：H．リーダーシップ・同僚と協働する能力、I．保護者・地域社会との関係保持能力）、レベルⅥ．変化の時代を生きる能力（領域：J．情報化社会への対応能力・創意工夫能力、K．国際化社会への対応能力・ボランティア精神）、レベルⅦ．ヒューマニズム・人間的諸価値の理解能力（領域：L．人類愛・倫理観・宗教観の確立、M．他者との共生・自然保護能力）などの分野への取り組みは漸く緒についたばかりである。

このレベルⅤ・Ⅵ・Ⅶは、いわば教師の資質能力モデル全体の根っこの部分であり、信大ではこれらを人間力として一掴みに捉え、全体の活性化につなげている。このように教師力（実践的指導力）の基底としての人間力に注目して展開されている「信大YOU遊世間」事業は、その計画の周到性と緻密性の点でも先駆的モデルとして評価できる。信大教育学部、特に中心的に推進された土井進教授の慧眼と熱情に敬意を表したい。（2011・10・20）

（埼玉大学名誉教授）

＊藤枝静正「教職大学院の積極的意義」（『全国教職大学院年鑑’08-09』2009、p.36-45参照）

私と信大フレンドシップ事業

小泉秀夫（教育方法・授業研究・教員養成）

私にとって、土井進先生とYOU遊サタデーとの出会いは、関東教育学会で土井先生の報告を聞いた時である。報告を聞き、即座に「これだ！」と思った。翌年、松本で開催されたYOU遊サタデーに二人の学生を連れて見学に伺った。平成8年ではなかったかと思う。

そこで学生諸君の活き活きとした活動や声に触れ、期待通りの活動をみることができたという満足感と、これから自分の所属していた横浜国立大学でも是非こうした活動を立ち上げたいという強い思いで帰途についた。

文部科学省が予算をつけて「フレンドシップ事業」を立ち上げたのはその直後であった。その発足に、信州大学のそうした取り組みが重要な役割と影響を及ぼしたといえる。

信州大学では同じ時期に、学生諸君が附属学校へ教育補助などの活動のために行くという「教育参加」も開始している。こちらも、現在のATなどの「学校ボランティア」の先駆けと位置づけることができる。

こうした活動の過程で出てきた課題として、子どもとの恒常的な関わりの機会、学生諸君の主体的活動、単位化の問題、学生諸君の負担、安全や責任の問題等を指摘できよう。

YOU遊サタデーは、子どもとの恒常的な関わりをもつ活動ではない。一方、企画・実施等々の段階での学生諸君の主体的な活動の面では大きな意味をもっている。それこそ、その中で、社会力、教材研究などの力が鍛えられることになる。一方、ATなどの教育ボランティアの場合は補助的な立場であり、学生自身の企画・実施などの要素は少なくなるだろう。多くの場合は、活動を二本立てにして、その問題に対処している。

そうした課題に対して、信大ではYOU遊サタデーから、YOU遊広場（プラザ）、YOU遊世間へと、過去にとらわれることなく脱皮と発展を続けてきた。その中で、一層活動の広がりと深さを増してきたといえよう。学校ボランティアについては、その後「教育臨床関連科目群」の一部になり、継続性を増し、教育臨床演習、教育実習などへとつながっていく。

『信大YOU遊世間報告書　第17集』を読むと、様々な立場の人との関わりや交流、企画と実行段階での学生同士の議論や切磋琢磨、教育観や子ども観の見直し、人への配慮、連帯感、視野の広さ、学び直しなどの姿が見えてくる。こうした活動を通して、「企画力、社会力、創造力、コミュニケーション力などの実践的指導力の基礎」が鍛えられている。

最後に、企画内容の質をどう高めるかという問題を考えてみたい。

私自身は、常に「本物の文化や科学」に触れることを念頭におくべきだろうと考える。単なるイベント、終わったらゴミ箱行きの「がらくたづくり」等にならないよう判断基準を磨いていくことが必要だと思う。もちろん遊びも文化である。しかし、文化的価値の高い遊びとそうでない遊びの違いはあるはずだ。例えば「紙飛行機づくり」をするとしよう。そこでは、より長時間飛ぶものをどう作るかが大切である。それは少し調べればわかることである。つくり方を知った子どもは、後で自分で作って遊ぶ時も上手に作って楽しむことができるだろう。講座に参加したことで子どもの遊びが豊かになるわけである。

子どもにとって楽しく意味のある体験になることは大切であるが、単に「楽しかったー」というだけでなく、「本物の文化や科学」に触れることになっているかどうか、互いに検討することがあってよい。勉強（教材研究）して、質の高い題材を探す努力をすることは、子どもに対する責任として必要なことといえる。

今後の信州大学の活動の発展と、我々、他大学との連携と協力を切に祈念したい。

（関東学院大学人間環境学部教授・横浜国立大学名誉教授）

「信大 YOU 遊」の歩みに寄せて ―第三者評価として―

濁川明男（教育実地研究・珪藻分類学）

平成 9 年（1997）、それは「信大 YOU 遊サタデー」が全国に先駆けて本格的にフレンドシップ事業の活動を開始した年である。当時はいじめによる自殺事件や不登校児童・生徒の増加、学級崩壊など、新聞紙上に載らない日はないほどに教育問題が深刻化していた。複雑化する家庭事情を背景に様々な課題をもって入学している子どもたち、軽度発達障害をもつ子どもたちの増加もあり、益々、教師の資質と能力が問われ始めてきた時でもある。学生の実態はというと、その生育過程における自然・勤労・生産的な活動経験に乏しく、対人的関係力の希薄さ、特に子どもと関わった経験に乏しい学生が年々増える傾向にあった。しかし、教員養成課程はというと、教育現場の実態と教員養成との間の乖離の指摘にも耳を傾けず、戦後の旧態然とした教員養成課程カリキュラムにしがみつき、抜本的なカリキュラム改革は行われてこなかった。正にこのような背景の中で、「信大 YOU 遊サタデー」が立ち上げられたのである。教員養成課程にある学生が、様々な活動を通して子どもたちとふれ合い、子どもの発達特性を理解しつつ、子どもたちと関わることに喜びを感じ、教師への確かな決意をもつことを目的に実施する学生の自主活動の立ち上げである。それまで教員養成系大学・学部においては、実践的、体験的な科目は経験主義とし、大学は学問が第一、実践的なことは現場に入ってからで十分という考えが支配的であり、教育実践的な科目を下に見る傾向がなきにしもあらずであった。その意味で、「信大 YOU 遊サタデー」の立ち上げは、おそらくは学部内部にも抵抗があり、軌道に乗せるまでに様々な苦労があったものと推測される。

「信大 YOU 遊サタデー」を手本に、上越教育大や横浜国大、熊本大、鳴門教育大、福島大と次々と全国にフレンドシップ事業が立ちあがっていった。また、平成 11 年には信州大学の呼びかけで、全国のフレンドシップ事業に取り組む学生たち、並びに指導に当たる教員たちが、一堂に会してのシンポジウムを通した交流会が開催された。この初回のシンポジウムで他大学の学生・教員たちは、信州大の実践にカルチャーショクともいえる強烈な刺激を受けた。それは学生たちの組織的、主体的なフレンドシップ事業への取組と情熱であった。それが引き金となって全国に事業を展開するための学生の自主組織が次々とできていった。卒業や入学によって学生組織は毎年変化するが、全国学生シンポジウムは各大学・学部での創意ある取組とその成果が語られることで、相互に刺激し合い全国のフレンドシップ事業を更に発展させる原動力となっていった。また、「信大 YOU 遊」では常に歩みを内省し、「サタデー」から「広場（プラザ）」、「世間（ワールド）」へとフィールドや活動内容を改善して取り組んでいる点は、他大学・学部が学ぶところとなった。指導に携わる各大学・学部の教員間の交流も大変意義あるものとなった。それぞれに大学・学部事情が異なるだけに事業の取組は様々であったが、「これからの教員養成課程にあっては、高度な専門性は当然ながら、理論と実践の統合、臨床の知、実践的指導力の基礎を具現化することが必要」という認識が共有化され、自校のカリキュラム改革に取り組む動機付けにもなった。

平成 25 年度（2013）には教員養成課程の出口チェックともいうべき「教職実践演習」が必修化される。多くの大学・学部では未だに対応に追われているという話も耳にする。しかし、これは正にフレンドシップ事業が目指してきたことであり、実践的指導力の基礎が大学の 4 年間でどこまで培われてきたかを自校でチェックする科目となる。フレンドシップ事業や実践的、体験的科目を導入してきた大学・学部では容易に対応ができるだけに、すでに先駆的に試行を始めているところもあると聞く。

フレンドシップ事業や実践的、体験的科目の導入などの動向は、教員養成課程で教師教育に携わる教師自身が、教育現場との乖離を何とかせねばならないと苦悩し、懸命に努力して事業や科目を立ち上げ、その成果を検証しつつ、周囲の理解と協働を生み出してきたボトムアップの歩みであるという点に大きな意味がある。そして、その胎動の中核に「信大 YOU 遊」があったことから、戦後の教員養成課程カリキュラムの在り方に一石を投じたという意味で、その先駆的な取組は極めて高く評価されよう。

（妙高市教育委員会教育長・前上越教育大学教授）

教員養成フレンドシップ事業について

近森憲助（国際教育協力）

教員養成フレンドシップ事業（以下「フレンドシップ事業」）は、土井進先生が教師教育者としての「思い」と「願い」を込め、信州大学の学生はもとより、子どもたちや地域の人々とともに18年間にわたり実践してきたものである。この「土井フレンドシップ事業」の実践で最も評価されるべきことは、教員養成を大学の教育課程の中での「自閉」から解き放ち、教員養成の「新たな地平」を開いたことにある。信州大学は当時の文部省が平成9年度（1997年度）に事業化する以前の1994年からフレンドシップ事業を立ち上げただけではなく、それ以降も常にフレンドシップ事業の先駆けとして、志を同じくする全国の教員養成系学部／大学の教員・学生に次々と新しい取り組みの姿や成果を呈示し続けてきた。フレンドシップ事業の中核をなすのは、子どもたち、地域の人々、自然などとの「触れあい」を中心とした体験活動である。教育行為は、「意図的で計画的な行為」であると言われるが、体験活動への参画を通して、学生が獲得する学びは、決して意図的・計画的なものとして生まれてくるものではない。私たちは、意図的、計画的に、その学びの内容や学びが獲得されるタイミングをコントロールすることはできない。なぜなら、それはまさに、一人ひとりの学生が活動の中での「他者」との出会いを通して絶えず変化する状況の下、創出・生成するものだからである。土井フレンドシップ事業は、このことを、実践を通して私たちに呈示し続けながら、教員養成の新たな地平を切り開いてきたのである。

今回お送りいただいた参考資料の中にもフレンドシップ事業を通した数多くの学びが、学生自身の言葉によってつづられている。その多くが「社会に出ることに憶病でしたが＜中略＞楽しみになりました」「自分の未熟さを思い知る機会が非常に多い」「具体的に動いてみることの大切さを教えてもらった」「自分の無力さや考えの甘さに気づかされました」など「自己変容」やその契機となるような記述を含んでいることは注目に値する。このような変容や変容の契機を、いわゆる大学の「授業」は学生にもたらすことができるだろうか。教員としては、悔しい限りであるが、答は「否」である。

では、なぜ、このような学びがフレンドシップ事業によりもたらされるのか。土井先生が教師教育学会での報告の中で述べられているように、フレンドシップ事業が「学生が自ら責任を担って、主体的に取り組む実践」だからなのである。また、「責任を担って主体的に取り組む」からこそ、学生一人ひとりに自己変容の契機を提供し、また変容を期待することが可能となり、さらに、それが広義の実践的指導力を培うことにもつながっていくのである。私が顧問をしている「ふれあいアクティビティ」（以下「ふれアク」）の卒業生5名を対象に以前実施したアンケート調査への回答の中でも「ふれアク活動と大学の授業の相違点は自分たちで企画・実施・評価する自主的で主体的な活動であること」とほぼ全員が回答していた。このことからもフレンドシップ事業の魂は「学生の自主的な活動である」ということが明らかに見て取れる。したがって、教員の責務は、フレンドシップ事業にかかわる人々や機関との関係調整あるいは学生への助言・指導の中で、学生の自主的活動をどのように担保・発展させるかということに尽きるのである。このとき、私たち教員の人間力もまた試され、また同時に鍛えられているのである。

土井先生は、ある学生に「人間力を鍛えなさい」と事業への参加を呼びかけられたそうである。土井フレンドシップ事業の実践が明らかに示しているように、この事業によって学生の人間力（広義の実践的指導力）は確実に鍛えられる。同時に、教員の人間力も鍛えられる。土井フレンドシップ事業は、まさに「師弟同行　師弟共育」という土井進先生の信条が具現化されたものなのである。

（平成23年10月22日）

（鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授）

II　大学内・地域協力者の眼

「反省的実践家」としての教師と「信大YOU遊サタデー・広場・世間」

小林輝行　（教育学）

平成6年に発足した「信大YOU遊サタデー」が、「信大YOU遊広場」、「信大YOU遊世間」と順調に発展して、本年18年目を迎えたという。先ず、土井教授をはじめ、関係各位に衷心より敬意とお祝いを申し上げる次第である。

筆者は、平成5年4月から平成9年4月まで学部長職に在り、その発足当初から「信大YOU遊サタデー」に関わってきた。こんな活動をしてみたいがという土井教授の話に、それは大変面白い試みで、教員養成学部のカリキュラム改革の契機となりうるので、学部として全面的にバックアップするから思う存分やってほしい旨の話をしたことが、つい昨日のことのように甦ってくる。あの時から18年、次から次へと湧き出る泉のように絶えることなく現在まで脈々と活動を続けてきている「信大YOU遊サタデー・広場・世間」のエネルギッシュな勇姿に感無量の思いである。

周知のように、1983年、D. ショーンは、「反省的実践家」（refrective practitioner）という新しい教職の専門家像を提唱した。日本では佐藤学氏らの紹介・研究によって広く知られるようになり、現在、教師論、教職論、学習指導論、授業論等の分野で、様々な研究が展開されている。「反省的実践家」論のキーワードは、「省察」（reflection）と「熟考」（deliberation）という二つの実践的思考能力であり、これらを欠いては体験・経験を「体験的知識」、「経験知」、「実践的見識」といわれる実践知にまで高めることは不可能である。これまでの「省察」に関する研究の知見によれば、主として（1）活動に内在する認識、（2）活動過程における反省的思考、（3）活動に関する反省的思考、（4）活動に向けた反省的思考という4つに整理されている。「熟考」に関しては、理論的な概念、原理を実践の文脈の中でとらえ直し、実践に適切に対応させる思考であり、実践的な問題解決にあたり不可欠なものとされている。

こうした「反省的実践家」としての教師が、現在求められている教職の専門家像であるとするならば、「信大YOU遊サタデー・広場・世間」の活動の中には、「省察」と「熟考」という二つの思考力を鍛え、身に付ける機会が至る所で提供される格好の活動である。そして、この活動に参加する学生たちが、こうした思考のシステムをしっかり認識して活動することにより、より大きな成果が期待されるのである。

土井教授をはじめ、関係各位のご尽力により年々着実にその成果を上げてきたことが、土井教授により年度ごとに刊行されているフレンドシップ事業報告書や、この度の土井教授の卒業生へのアンケート調査結果などからもよく看取される。

最後に、「信大YOU遊サタデー・広場・世間」の今後の益々のご発展を心から祈念する次第である。

（松本大学教授・信州大学名誉教授）

「信大 YOU 遊サタデー・広場・世間」と 学部改組の中核的理念「臨床の知」

漆戸邦夫（有機化学）

平成5年度から4年間、当時の附属教育実践研究指導センターに縁があり、センター長としてお世話になりました。その時幸運にも“もっと子どもたちとふれあう機会がほしい”という教育実習を終えた学生の純粋な願いが「信大 YOU 遊サタデー」として産声をあげた歴史的瞬間に立ち会うことができました。

その日の内に行われた反省会では、「講座の準備は苦労したけれど子どもたちの笑顔に疲れも吹き飛んだ」、「子どもたちとふれあう中で逆に教えてもらうことも多かった」、「初めて顔を合わせた学生同士が講座の準備に悪戦苦闘する内に仲間意識も高まり支えあう大切さを学んだ」など、喜びや感謝の言葉を次々と述べる学生たちの生き生きとした姿に接し深く感動しました。学生が自主的・主体的に参加し、企画し、教材を開発し、子どもたちと講座でふれあうこの実践活動は、本物だとそのとき感じました。

その後、「信大 YOU 遊サタデー」は7年間継続されました。その間、文部科学省の提唱により全国の教員養成系大学・学部においてフレンドシップ事業が開始され、「信大 YOU 遊サタデー」はその先駆けとなり、モデルとなりました。次いで「信大 YOU 遊広場（プラザ）」と改称して2年間、さらに「信大 YOU 遊世間（ワールド）」と改め9年目を迎えており、この間幾多の試練を乗り越え、脱皮しながら18年間もの長きにわたり成長を続けています[1),2)]。初めは大学キャンパスで1日限りの子どもたちとのイベント的ふれあいでありましたが、学生が子どもたちの住む地域社会に出かけることにより、年間を通して地域社会と連携した継続的な活動を可能にし、大学の教員、学生、子どもたち、農家先生など地域社会の指導者や団体の方々との間の相互交流が深まり信頼関係も築かれて行きました[2)]。

このように「信大 YOU 遊サタデー・広場・世間」は、平成11年（1999年）に21世紀を展望して行われた学部改組の中核的理念である「臨床の知」を、まさに先取りした形で始められ、学部改組の理念に沿って他者や事物とのいきいきとした関係や交流を保ちながら、模範的な実践活動が展開されてきました。その結果、現代社会から求められている資質の一つである、社会力や実践的指導力などの基礎を身につけた人材が多数養成されていると実感されます。

「信大 YOU 遊サタデー」の助産師さんの役目に始まり、永年にわたりこの一連の実践活動を見守り、一緒に走り、指導育成されてこられた、土井　進教授に敬意を表します。

（信州大学名誉教授）

1）　土井　進「信州大学学生による地域貢献活動とその評価―14年間にわたる「信大 YOU 遊世間」の事例研究―」『地域ブランド研究』第3号（2007）pp. 109-129

2）　土井　進編『「信大 YOU 遊世間」の教師教育学研究』第17集（2011）

「信大 YOU 遊世間」への期待

藤澤謙一郎（健康教育学）

「信大 YOU 遊世間」が 18 年を迎えるという。

近時、若い教師の社会人力の乏しさが云々されている。社会人力とは、「基礎学力」「専門知識」とともに、組織や地域の中で、多様な人々と共に、仕事をしていくうえで必要な基礎的能力といわれる。

教師に要請される多様な力を学部教育 4 年間で身につけることには無理があるが、さりとて、ただ手をこまねいていては何も始まらない。

土井進教授が始めた「信大 YOU 遊サタデー」の取組みは、ややもすれば理論に偏りがちなこれまでの教師教育に一石を投じようとするものであったが、開始当初は周囲からやや冷やかに受け止められていたように思う。

しかし、この実践を契機に、やがて信州大学教育学部の「臨床経験科目」の体系化が進められたことを考えると、いかに先見性に優れた教育実践であったかがわかる。

平成 23 年 9 月に福井大学で開催された日本教師教育学会第 21 回研究大会において、この事業の生みの親であり、育ての親である土井教授が、卒業生から寄せられた「私の教育実践と YOU 遊サタデー・広場・世間の経験」などの省察文を紹介している。

そこからは、社会人基礎力として大切といわれている「失敗しても粘り強く取り組む力」「疑問を持ち、十分に納得いくまで考え抜く力」、「チームで働く力」の必要性を、学生時代に切実に体験したことが、教師としての日々の実践に大きな糧となっていることが読み取れる。

これらは、体験活動を通じた試行錯誤から培われるものであり、臨床体験知である。

18 年間地道に取り組んで来られた土井教授と代々の学生スタッフの皆さんに、敬意を申し上げるとともに、この活動に参加し育った学生が教員となり教育実践を積み重ねて、やがて教育現場の核となり、教育界をリードしてくれるだろうと期待している。

（信州大学名誉教授・前信州大学理事・元教育学部長）

「信大茂菅ふるさと農場」の果たした役割と成果

農　業　**林部信造**

大学における教員養成の先駆的な役割を果たしてきた「信大YOU遊サタデー・広場・世間」が18年目を迎えました。大勢の皆さんがそれぞれのプラザに参加し、自らの教育者としての将来像を夢に描き、知識と実務を学び、絆を深め一年の喜びと反省を語り合う「YOU遊フェスティバル」には、毎年家内ともども参加させていただいています。熱気あふれる学生の皆さんのパワーに終始圧倒され、教育にかける皆さんの熱い思いに感動しています

振り返れば「信大茂菅ふるさと農場」は、数年来放置されていた休耕田の開墾、雑木の抜根等、学生の皆さんの手により見事に復元されて12年目となりました。私も縁あって今日までお手伝いさせていただいておりますが、これも土井教授の教育に対する情熱と理念、「人づくり」は「土づくり」という農と教育の原点への慧眼、そして先生の人柄に感銘を受け、今日まで楽しくお手伝いを続けてまいりました。この農場は、信大教育学部の学生による実体験農場として、農場の運営、管理、企画立案、実践は全て立候補により選出された農場長とそれに係る学生スタッフの皆さんにより執行されてきました。農業は机上の理論や計画通りには進まない自然界との共生であり、メニューにない予想も出来ない事が突然起きることがあります。これが農業であり、対応する判断力と決断力が従事者に求められます。この実践を通してはじめて農業の喜びを味わうことができます。

「信大茂菅ふるさと農場」には、水田4アールと畑8アールがあり、数多くの農作業体験ができる貴重な環境となっています。農場で学んだ先輩たちがそれぞれの社会で活躍されていますが、教職に就かれた皆さんからは農場で流した汗や多くの人々との出会いは何ものにも替え難い実体験であった、と振り返る次のような声が聞かれます。

① 教育の現場では予想も想像もしていない事が起こり、苦しみ、悩む。その時は農場での活動を思い出し、気持ちを切り換えて頑張る。

② 給食の時間に米づくりの話をしたら、子どもたちの眼の輝きが違った。

③ 初の家庭訪問に行った時、農場で多少なりともお父さん、お母さんたちと接していたことが自信になった。

④ 個性ある低学年の子どもたちと接する時、農場での子どもとのふれあい体験が役立った。

⑤ 青田、黄金色の稲穂、りんごの花、りんごの果実を見る時、今までは何の感動も生じなかったが、農作業体験をしてからは、それらを見て四季の変化を感じ、心が癒されるのを覚えるようになった。

⑥ 国際協力田で作ったお米を、食に苦しむ世界の子どもたちに救援米として送った話をしたら、静かに聞いてくれた。

⑦ 「信大茂菅ふるさと農場」のある地区では5世帯の農家が米を作っている。この水管理は田の上流にある大型揚水ポンプで裾花川から給水する。ポンプの操法は地区の役員から教わり、電源を朝6時にON、夕方6時にOFFにする。私たちは21日間の割り当てがあり責任をもって実施する。不励行の場合は地区の農家に多大な迷惑をかけるため、緊張感と責任感を感じて早起きした。米づくりに伴う水の大切さをつくづく思い知った。

平成22年11月9日に「信大茂菅ふるさと農場」の地域交流活動が大きく評価され、長野県農業協同組合中央会会長より「虹の架け橋賞」という大賞が授与されました。

さて、かくいう私は、家内ともども若さと健康を与えてくれる農と自然を愛し、さらに若い学生の皆さんのパワーをいただいて、いつまでも元気で過ごせることを願っています。

（長野市茂菅地区りんご農家）

人と自然と農業に触れ合う「信大茂菅ふるさと農場」

豊田　実（ＪＡながの）

今年、「信大YOU遊サタデー・広場・世間」が18年目を迎えます。来年には、「信大YOU遊サタデー・広場・世間」がスタートした年に生まれた子どもは、大学生として入学してくることになります。この活動がこんなにも長く継続して取り組まれていることは、土井進先生の熱意と多くの学生たちの情熱によるものだと、深く敬意と感謝を表します。

その中の「信大茂菅ふるさと農場」に、ＪＡながのは微力ながら協力しています。「茂菅農場」は学生自らが一年間の活動を企画し運営しています。年間の企画は学生が考えたアイディアを、土井進先生や農家の林部信造さんの助言を受けて形にし、作付や作業についてはＪＡとしてアドバイスします。現在は農家の子でも、自分の家の農作業をすることは少ない時代です。そのような中で、「茂菅農場」では１年間を通して農業に触れる機会を子どもたちに提供しており、とても有意義な取り組みであると考えます。

農作物を栽培するには土作りに始まり、多くの栽培管理をして収穫します。昔から、作物は農家が畑に運んだ足音を聞いた数だけ大きくなると言われています。まめに畑に通い、草を取り、肥料を施し、病害虫の予防や治療、作物の育ちやすい環境を整えることで、作物は大きく育ちます。「茂菅農場」では農家と同じ品質の作物を栽培することはできませんが、その分、作物の栽培の難しさや、大変さを知ることはできますし、収穫することの楽しさ、農場で採りたての作物を茹でたり、焼いたりして食べて味わうことができます。参加する子どもたちにとっては貴重な経験として幼少期の記憶に色濃く残るのではないでしょうか。

農業は人が生活していく上で必要な衣・食・住のひとつに位置づけされる「食」を生み出す産業です。しかし、現在の日本は食料自給率が40％ほどでしかありません、残りの60％は輸入です。このような中、10月末に世界の人口が70億人を超えました。西暦2050年には90億人に達することが予想されています。日本の輸入依存の食料調達では、今後、新興国の台頭などによる世界情勢の変化から、国民の食料確保が困難になることも心配されます。このため、日本の食料自給率を向上させることが必要です。

「茂菅農場」に参加する子どもたちや保護者の方、そして学生の皆さんが実際に農業に触れ合うことで、食料や農業について理解し、考える契機になればと思います。

末筆になりますが、土井進先生、学生の皆さん、農家の林部信造さん、そして「茂菅農場」に係わるすべての皆さんのご発展をお祈り申し上げます。「信大YOU遊」の活動20周年に向けて、鋭意みんなでがんばりましょう！

（代表理事組合長）

「信大YOU遊世間」の皆さんの活動に思う

麻績村教育委員会　**市川祥介**

子どもたちは、人・自然・文化との複合的な関わりの中で成長する。この中でも特に人格形成に大きく影響する人との関わりは、家族から始まって学校・地域の人々へと、成長とともに広がっていく。

最近、子どもたちと地域との関わりが希薄になってきているといわれる中で、幸いなことに麻績村の子どもたちは、多くの地域の方々に支えられて豊かな経験の場を与えられている。これは、学校図書館と公共図書館の両機能を備えた「おみ図書館」職員の尽力によるものと言っても過言ではない。

しかし、少子高齢化が進む麻績村にあって、関われる地域の方々も固定化傾向にあり、またその年齢層に偏りがあることは避けられない現実である。

このような背景の中で、土井進先生のご配慮をいただき平成17年度よりスタートした「信大YOU遊世間」の皆さんの麻績村での活動は、子どもたちが日頃接することの少ない年齢の学生の皆さんと触れ合うことができるなど、大変意義深いものがあり、誠にありがたいことである。

特に、学生の皆さんの取り組む姿勢に対しては、開始のときからずっと一緒に活動してきた「おみ図書館」の橋渡久美子司書や、今年から新たに開始された「おみっこ元気くらぶ」の小松小百合社会教育指導員をはじめ、関係した村の職員や地域の人々は、異口同音に以下のように述べている。

① 行動力があり、情熱を持って取り組む。体力も続くので、子どもと共に行動し、労惜しみしない。

② 企画力があり、年齢的にも子どもに近い柔軟な発想ができる。反省や批判は真摯に受け止める。

③ ハンディを持った子どもへもチームワークで適切に対応し、楽しく活動できるようにしている。

これらは期せずして、経済産業省の提起している社会人基礎力と共通する。即ち、「前に踏み出す力（Action)」「考え抜く力（Thinking)」「チームで働く力（Teamwork)」である。これらは、教師といえども社会人である以上、専門分野と共にきちんと身につけていて欲しい力である。そのためには、車の運転に例えるまでもなく、しかるべき直接体験を通さなければならない。

勿論、若い学生の皆さんは経験不足による課題も多々指摘される。しかし、「YOU遊世間」の活動を繰り返す中で確実に課題は解決され、望ましい基礎力は一層強化され成長しているのである。

従って、麻績村での通算7年間の「信大YOU遊世間」の活動に対して心より敬意と感謝を申し上げつつ、今後更に、まずは麻績村の子どものために、また望ましい教師の育成のために、そして学生の皆さんのために、この活動が継続され一層充実されることを切に希望しているところである。

（教育委員長）

共に学びの場を広げよう

長野県教育委員会　**小岩井　彰**

「一時期は人間関係や生活の余裕がなくなったことで本当に悩んで、もう青木から縁を切って逃げたいとまで思いましたが、それを乗り越えて得たものは本当に大きいと感じています。青木に関わる中では、自分の未熟さを思い知る機会が非常に多いですが、その分、成長できるきっかけになります。私は、両親が信州に来たときには是非、青木村に連れて行きたいと思っています。」

「今年一年を通して、青木村で人と人のつながりというものを学んだと思います。活動の中で具体的に動いてみることの大切さを教えてもらったと思います。」

「4月から半年間、青木村で活動してきて苦しいときもあった。本気で怒られ、正直、青木村に関わることをやめたいなと思うことさえあった。しかし、今考えると怒られたことは本気でぶつかってきてくれている証拠で、自分の糧になったと感じる。」

「社会に出ることに臆病でしたが、青木村で多くの人と出会い、共に活動することで、とても楽しみになりました。」

青木村で活動した皆さんから寄せられた感想文の一部です。

私は、平成16年から青木村の教育長として、また、平成20年からは長野市立大岡小学校長として、土井進先生の進められる「信大YOU遊世間」に参加する多くのみなさんと共に、村や学校の教育を「子どもを真ん中」に据えて取り組んできました。土井進先生のおかげで多くの若者との出会いがありました。感謝します。

腹の底からいっしょに笑ったこともありました。共に悩んだこともありました。怒鳴ってしかったこともありました。諭したこともありました。酒を酌み交わしたこともありました。ずいぶん乱暴だったと反省もしています。しかし、願いを具現する方向を共に汗をかきながら現場で具体的に確認してきたつもりです。「一人の子どもの後ろにある多くの願い」「ご縁とおかげさま」「地域に生きる」「酌の仕方」「おとりもちの心」等の世の中での当たり前の人間関係について具体的な行動をとおして伝えたいと考えてきました。

学生の皆さんの真摯な活動が、子どもたちはもちろん地域の大人たちの心もとらえ、地域や学校が活性化しましたし、学生のみなさんが自己変革していく過程もいくつも確認してきました。さらに、この活動が卒業後、教員として現場に立ったみなさんの大きな自信につながっている事実も確認することができました。

最後は「人」、人の「意気」だと思います。本音で語り、共に汗して行動することが互いの「社会力」を高める源だと思います。

「信大YOU遊サタデー・広場・世間」が、土井進先生のご尽力により18年間という長期間継続され大きな成果を挙げてこられたことに敬意と感謝を申し上げると共に、今後、この活動がさらに発展することを心よりお祈り申し上げます。　（東信教育事務所　生涯学習課長）

忍耐と涙と魂のふれ合い、連帯と人間的成長

関川光彦　日本数学会名誉会員

私は高校・大学を通し今日まで半世紀以上教員として、一方数学研究者として生きてきた。

ある偶然から土井進先生との出会いがあり、その情熱に感動し「信大YOU遊サタデー」→「広場（プラザ）」→「世間（ワールド）」と何らかの関わりを持ち続けてきた。毎週水曜日の昼に行われる全体会での「いい先生になるための話」を少々すること、「学生の報告を聞くこと」「少々の原稿を書くこと」「現場の見学」等である。この中で、学生が大変な困難を乗り越え地域の子どもと感動し合い、地域の大人の方々と連携し、人間として成長していく姿を見た。

「YOU遊」の活動は学生にとっては全く初めてで、総てに迷いと悩みがあった。しかし、議論を徹底的に尽くし行動に移し、失敗を重ね切磋琢磨して地域の子どもとふれ合い、感動を得る中で前進してきた。

「私は百姓になります！」と決意した土井進先生は、宮沢賢治の「吹雪や僅かの仕事のひまで泣きながら体に刻み込んでいく勉強」（稲作挿話）を根っこに、「人づくりは土づくりから」という哲学のもと、「信大茂菅ふるさと農場」を地域の方の協力で開始された。そこには学生・ＪＡ・林部信造氏との素晴らしい連携、激論と研究、涙と汗の連帯があった。

実践的指導力の向上は「実践者自身の主体的、自主的な理解や判断や決定を助長する働きや方向付けによって期待される」（高久清吉）ということを「YOU遊」の学生たちは見事に地域社会で行動により実証し、「臨床の知」を体得した。

学生たちは先輩と後輩が連帯し、地域の人たちと連携して様々な活動をすることによって、社会認識を深め、見事に事を成し遂げた。学生は、互いに敬い合い尊重し合うことによって真の連帯を生みだした。学生は、忍耐によって様々な違いや対立を乗り越えてきた。学生は弱者敗者に共感し、共に頑張り共に成長してきた。学生は行動を通して共感しあい、感動しあって相手の心情を深く洞察しあってきた。ばらばらな個人の勝手な欲望や行為を克服してきた。18年間にわたって継続してくる困難を強い連帯で克服してきた。

全体として、長年にわたって「YOU遊」の学生に接してきた私の胸に去来する想いは、学生諸君に道徳心が育成され、互いに尊重しあい、互いの個性が大切にされ、知性と感性が涵養され、調和のとれた人柄が養われるのに実効性があったということである。

(長野県農業大学校講師)

一人で悩まず、自分を追い込まないで

特別支援教育士スーパーバイザー　**守時公枝**

平成７年（1995）10月、信州大学に「いじめ研究会」が発足しました。私はこのことを関西の地方新聞で知り、まとめ役の土井助教授の考え方に共感を覚え、平成７年（1995）から平成９年（1997）まで21回、関西から信州の地に駆けつけました。この間、「信大YOU遊サタデー」の様子もつぶさに見学し、学生の皆さんと交流することもできました。

子どもたちが「学校は楽しいところ」と感じ「安心して生活するため」には、集団づくりという視点は欠かすことができません。これは学級担任になるとだれでもが最初にぶつかる問題ではないでしょうか。担任がリーダーシップを発揮することが求められるのはこの時です。リーダーシップには「指導」と「援助」という２つの側面があります。「援助」の側面はとても重要です。「何げないがんばりを認める」「子どもの興味や関心のある話題をとりあげる」「子どもと教師だけでなく、子ども同士のリレーションやゲーム、スポーツ大会」などを子どもといっしょに計画して、取り入れていくのも、いいことではないでしょうか」

「指導」の側面では、「厳しさ」という面も大切です。集団をまとめるためには、ルールやマナーは不可欠です。子どもたちが受け入れやすい方法でかかわっていくことで、ガミガミと細かく感情的に怒るのではなく、「どうしたの？」といった「質問形で聞く」とか、ルールやマナーを紙に書いて、帰りの会で振り返るなど、やり方を工夫していくことで定着していきます。教師はこの「指導」と「援助」の二つをバランスよく考えて、子どもたちに合った指導をする必要があります。

次に子どもとの信頼関係を築くためには、学校が子どもたちにとって学ぶ場である以上、「叱る」という教育的行為は必ず存在するでしょう。子どもたちは叱られることによって大切なことを学び、自分を向上させていくものです。この時に忘れてはならないことがあります。それは「叱る」という行為の中には子どもの成長を願う大人の愛情が込められています。「叱る」と「怒る」は違うんです。

若い教師やこれから教師を目指す皆さんに敢えて言いたいことは、「尻込み」しないでほしいということです。保護者への対応力は、教育者誰もが最初から持っている資質や能力ではありません。「子どもの様々な状況を把握できる力」「教育内容をきちんと丁寧にわかりやすく教える教育技術」を大切にしてください。もし何らかの不安をふっと感じたら遠慮なく周りの先生方に相談することです。教師が一人で抱え込んでしまわないことです。「一人で孤立しないで！」ということを強く訴えたいです。

（兵庫県臨床教育研究所所長）

「湯谷小子どもランド」の活動に10年間関わって思うこと

前保護者　**中谷隆秀**

1．「YOU遊」の役割　「湯谷小子どもランド」は20年間の歴史があり、その中には10年間の学生スタッフとの関わりがあり、8年間は学生スタッフ自身が企画と運営をしてきました。歴代のリーダーを良く覚えています。「藤岡恵美さん、松山博一君」が初期の時代。「鈴木春菜さん、清水亜美さん」が学生企画の確立時期、「田村将太君、笠井悠太君、鈴木梢さん」が発展期、そして進化の時期です。昨年のリーダーは高見澤誠君です。「YOU遊」と一緒に創ってきた「湯谷小子どもランド」の活動に私は10年間関わってきました。「YOU遊」の学生スタッフが関わり始めてからの内容の充実は飛躍的です。毎年が単なる継続ではなく、「活動への情熱」が積み重なって確実に進化しています。

2．20年間積み重ねてきたものは何か、「YOU遊」の成果　それは『愛』です。我が子への愛と学生スタッフの情熱です。毎月の企画を成功させてみんなに喜んで欲しい、そういう気持ちが毎回の子どもランドの企画には溢れています。保護者も運営者です。保護者は学生スタッフと一緒に夏キャンプを運営します。キャンプ中、我が子の生き生きした笑顔と学生スタッフの無償の献身的な活動、そして感動のフィナーレを一緒に体験して、親として子どもと全力で関わることの喜びや幸せを心から実感し、親としても成長させられるのです。毎年参加してくれる子どもたちは子どもランドが大好きです。学校に行けない時があっても子どもランドには通ってくれる子どもたち、そういう愛情いっぱいのスタッフが作り出す『愛の空間』の魅力を感じているのだと思います。

3．親の願いと子どもたちの未来、親（保護者）と共に作る「YOU遊」の活動の意味　親は我が子に無償の大きな愛情を注ぎます。「YOU遊」のスタッフも子ども達の笑顔の為に努力を惜しみません。だから、学生スタッフの「お兄さんやお姉さん」が大好きで、楽しくて子どもたちは毎回子どもランドの活動に参加しています。子ども達はその愛情が溢れる空間で、異年齢の集団での体験の中で将来のコミュニケーション能力を育てていくのです。また学生スタッフを支える保護者の協力が欠かせません。キャンプを共に運営した仲間として保護者と学生スタッフは密接な協力関係が生まれています。そういう愛情に包まれた場だからこそ、子どもたちは見えないものを敏感に感じ取り、この場が「楽しくて居心地の良い場所」になっているのだと思います。子どもたちが他人と交わり協力する「コミュニケーション能力」を身につけ、成長できるのは、集団の中でしかできません。

4．「YOU遊」のスタッフは子ども達の憧れ、そして保護者の仲間！　親と子どもの中間に、学生スタッフがいる。子どもにとっては、学生スタッフは大好きな先輩であり、自分の未来の姿でもある。それは憧れでもあり、目標でもある！私も子育て期間の10年間を学生スタッフと一緒に子ども達に関わり続けて、多くの仲間を得ることができた。学生スタッフが場を作り、そこに集まる保護者同士が横につながることができた。今の時代に横につながることができる場は子ども達のセイフティーネットにもなる。我が子が不登校になった。学習障害と診断された。保護者も悩み孤立してどんどん辛くなる。そんな時にも、一緒に関わり、信頼できる仲間がいることで親としても強くなり成長できる。

5．「湯谷小子どもランド」も「YOU遊」も、永遠に続いて欲しい。「湯谷小子どもランド」の活動の中で生まれた「感動」や「喜び」や「成長」は無限に広がっている。私はこの活動に10年間関わってきて、これほど純粋に子どもを中心に活動をして、またこれほどメンバー同士の信頼の強い場は他にはないのではないか？と思うほど惚れ込んでいます。またこの活動に全力を傾けて取り組んでいる学生スタッフのことが大好きで仕方がありません。素晴らしい人と出逢い感動し、「湯谷小子どもランド」に10年間関われたことに心から感謝します。この活動がこれからも永遠に続いてほしい、と心から願っています。

（前「湯谷小子どもランド」保護者代表）

Ⅲ　「信大 YOU 遊」創設と進展の 18 年

【担当教員の実践報告と卒業生の省察】

〈「信大 YOU 遊サタデー」の 7 年間〉

第 1 期：平成 6 年度（1994）～第 7 期：平成 12 年度（2000）

―― ☆担当教員の実践報告★ ――

1．第 1 期（平成 6 年度）：「信大 YOU 遊サタデー」始動

1．1　動　機

信州大学教育学部では、平成 5 年度から授業科目化された「教育実習事前・事後指導」（1 単位）を実践センターが必修科目として開設することになった。平成 5 年度の教育実習終了後の事後指導において、教育実習経験から修得したことを様々な角度からアンケート調査した。その中で、「相互参加実習の期間が短かったので、もう少し実習を続けたかった」という声が何人もあり、教育実践経験を積むことへの強い要望があることがわかった。しかし、残念ながら本学部には自分の出身校などで更に応用実習をして教育実践研究を深めるというようなカリキュラムはない。そこで、学生達のこのような力量形成への真摯な願いに応えるには、子ども達に教育学部キャンパスに来てもらえばよいのではないか。そして、ここで学校教育の枠にとらわれない、思い切った教育実践を展開し、これからの学校教育を創造的に担って行く気概を育んでもらいたいと考えたのである。

1．2　責任体制

学部に子ども達を迎えて教育活動をする以上、当然責任が生じてくる。センター会議ならびにセンター常任委員会で何度も検討していただいた上で、この企画の実施母体は実践センターであるので、機関としての責任はセンター長が負う。この企画の全体についての責任は、教育実践研究指導分野の専任教官が負う。また、学生が行う授業の内容については、学生が所属する研究室の指導教官の協力も得て指導案を見ていただくなど学部全体のご協力を得て実施する、ということになった。

1．3　目　的

ここまでの準備ができたところで、平成 6 年 5 月 18 日の「教育実習事前指導」において、次のような趣旨で体験的学習の指導を実践してみようではないかと呼びかけた。

① 信州大学教育学部の学生がもっている教育力を地域社会に開き、貢献することによって本学部と地域社会とのつながりを深める。

② 本学部には全校種、全教科に対応できる学生が学んでいる。その力量、持ち味を発揮し、子ども達を大学に迎えて公開授業を行うことによって、教育実践力の向上を図る。

③ 学生時代でなければできないようなユニークなアイディアによる“学び”や“遊び”の体験的学習の場を設定し、これからの学校五日制時代の教育について考える。

④ 実施月日

第 1 回	9 月 10 日（第 2 土曜日）	午前 8 時 40 分～午後 3 時 40 分
第 2 回	10 月 8 日（第 2 土曜日）	〃　　〃
第 3 回	11 月 12 日（第 2 土曜日）	午前 9 時 00 分～午後 3 時 20 分

これに対して、325 名の受講学生のうち予想をはるかに上回る 36 名から応募があり、これを聞いた 4 年生や大学院生からも参加したいという申し出があった。これに勇気を得て、早速実行に移す運びとなった。

１．４　実行委員会

山口直行君が実行委員長を買って出てくれて、平成６年６月６日に「信大 YOU 遊サタデー」実行委員会が発足した。この企画では子どもを直接指導する学生をキャプテンと呼び、キャプテンを助ける学生をスタッフと呼んでいる。これは学生達が教育実習における教師と生徒という関係を学部キャンパスに持ち込みたくない。学生という特質を十分に発揮して、お兄さん、お姉さんという立場で子ども達と関わり、子ども達の素顔にふれながら生きた教育実践を学びたいと考えたからである。キャプテンは、教育実習を終え子ども理解の基礎を修得した３年次生以上の学生がつとめることとし、スタッフには２年生も加わってもらうことにした。

１．５　教育実践研究への確かな一歩

「信大 YOU 遊サタデー」は、大学の名をもって社会に働きかける教育活動である以上、体験的学習の指導においても単なる遊びやお祭り騒ぎに終始するものであってはならない。研究的な姿勢をもって実践し、教育実践から得たことを学術的にまとめていく努力がなされなければならない。これが我々の立場であり、学生達にも常に語りかけてきたことであった。このような課題意識のもとに実践記録が編集された。

第２土曜日は大学生にとっても休日である。しかし、多くのレポートや試験が課されている上に、サークル活動や家庭教師等の様々な課題をかかえて、とても忙しい生活を送っているのが学生達の現実である。YOU 遊サタデーを担った学生達は、そのすべてをやりくりしながら、単位がもらえるわけでもなく、アルバイトになるわけでもないのに、指導案の構想に始まって、当日の悪戦苦闘、そして実践の考察に至るまで見事にやり遂げてくれた。この真摯な努力に対して、まずもって深く深く敬意を表したいと思う。

言うまでもなく学校の主人公は児童・生徒であり、大学の主人公は学生である。学生は現代の最先端を呼吸し、将来に想いを馳せながら鋭く問い、学び、そして悩みと格闘している。その心をどのように掴み、どのように関わって、未来を切り開いていくか。この一点に、我々は心を砕いていかなければならないのではなかろうか。「もっと子ども達と関わりたかった」という学生達の声が、一つの形となったのがこの YOU 遊サタデーである。学生達の実践に未熟さが伴うのはむしろ当然である。否、未熟さの故に真剣さと情熱が溢れている。学生達が実践を通して考察した行間から、教育実践に立ち向かう深い志が珠玉の輝きとなって伝わってくるように感ずるのは私一人ではあるまい。どの授業においても、初対面で、しかも、学年もまちまちな子どもたちをわずかな時間のうちに掌握し、飽きさせないように一人ひとりに対応しながら、わかるように何度も説明し、今日は来て良かったと喜んでもらえる授業になるように獅子奮迅の努力がなされていた。子ども達の喜びを我が喜びとするために全力投球している学生達の生き生きと輝いた姿によって、教育学部キャンパスが蘇生した。この他者の喜びを我が喜びとしていこうという深い志の中にこそ、教師としての実践力も豊かに創造されていくのではなかろうか。参加してくれた子ども達から寄せられた「楽しかった」という率直な声は、子ども達とキャプテン・スタッフの学生達が共に自分を忘れて体験学習に夢中になって取り組んだ証といえよう。この小さな経験を今後の教育実践研究への確かな一歩として、更に精進していただきたいと思う。

そもそも、この企画が実現したのは一に懸かって漆戸邦夫教授（センター長）のお蔭である。ここに厚く御礼申し上げるものである。

２．第２期（平成７年度）：先輩からの引き継ぎと発展

２．１　学生の自主的・自発的な教育実践

本学部での「教育実習」は、長野市と松本市にある附属学校園で、３年次に６週間実施されてい

る。YOU 遊サタデーは、この正規のカリキュラム外に応用教育実習としての意義を込めて実施されているものである。

この取り組みは、教育の道に志を立てて本学部に入学してきた学生たちの人生選択にも応え得る貴重な教育実践研究の場となっているので、私はこの取り組みを引き継ぎ、発展させる第2期の人材群が現れ出てくれることを堅く信じて待った。学生を募るには、YOU 遊サタデーを授業科目として学部カリキュラムに位置づけるのが一番簡単な方法である。実際に YOU 遊サタデーに取り組み、多大な努力をしている学生の姿を見ると、わずかでも単位として認定し、力量形成への努力を学部として認めてやりたいという気持ちに駆られる。しかし、YOU 遊サタデーを担っている学生たちは授業科目化、単位化を望まない。学生たちは、自主的・自発的な判断に基づいて実践するところに自らの力量形成が図られるのであり、YOU 遊サタデーの趣旨もそこに実現されると考えているからである。このような尊い志を抱いた学生たちによって、平成7年1月10日に第二期「信大 YOU 遊サタデー」実行委員会が発足した。

2．2　学生の取り組みの様子

2．2．1　名前を覚える　――人ひとりを大切に ―

「また来たい」と言ってもらえるような楽しい講座となる基本は、学生が参加する子どもたち一人ひとりの名前を覚える努力から始まる。そこで、受付名簿への名前の記入、名札の作成、傷害保険料・教材費・材料費の領収書への名前の記入、修了証への毛筆による名前の記入等の実務作業に丁寧に取り組むようにしている。

また、学生は YOU 遊サタデーは子どもの参加があって初めて成立するという事実に直面することによって、子どもが教育活動の主役であることを実感としてとらえる。この厳粛な事実に立って、学生たちは集ってきた子どもたちを正門に立って笑顔で迎え、そして、閉会式が終わったら正門まで出向いて、子どもたちを見送る。

2．2．2　無事故　― 0（ゼロ）災害言語 ―

参加した子どもたちどうしも初対面であり、学生ももちろん子どもとは初対面である。この出会いを喜びの場として創造していくためには、言葉かけが重要になってくる。不安な気持ちでいる子どもたちに、安心を与える明瞭で魅力ある言葉をかけてやりたい。そのような言葉を、私たちは0（ゼロ）災害言語と呼んでいる。鋭敏な子どもの心に傷を残さないように、そして、子どもの目線に合わせた姿勢をとるようにと戒めている。

また、阪神淡路大震災のボランティア活動に参加した学生の提案により、YOU 遊サタデーにおいても今年度からキャプテン、スタッフの学生は全員黄色い腕章をつけることにした。これによって子どもを預かった責任を深く自覚し、無事故を強く意識化しているのである。

2．2．3　先生としてではなく、お兄さん、お姉さんとして

教育実習においては、「先生」として子どもたちの前に立つが、YOU 遊サタデーでは「キャプテン」「スタッフ」という名称で、いわばお兄さん、お姉さんとしての立場で子どもと関わっていこうとしている。学生が自らの体験を教材化し、個性を発揮しながら、心の垣根を払って子どもと関わることによって、人間的力量が形成されるものと考えているのである。したがって、第二期から「指導案」という表現をやめて「遊学プラン」とし、これを3次案まで練る過程で、所属研究室の指導教官の指導協力を仰いでいる。自ら学びつつ、子どもに関わろうとしているのである。

2．3　学校五日制時代の地域社会への大学開放

1回の YOU 遊サタデーには300名ほどの参加者がある。これだけ多くの参加者を扱わなければならないので、安全面と経費面から考慮して、実施会場はこれまで教育学部キャンパス内だけに限定してきた。第7回目に初めて松本キャンパスに赴いて実施したのであるが、共通教育センターの第2講

義棟を使用してみて気付いたことは、調理室、木工室、被服室、化学実験室等の部屋が無く、講座内容も限定されざるを得なかった。その点教育学部キャンパスには全教科に対応できる部屋がある。この施設をこれからの学校五日制時代の生涯学習の場として提供することの意義は極めて大きいと考える。また、学生キャプテンの中に教官や地域社会人のキャプテンも迎えることによって、教師教育がより一層充実したものになるのではないかと考えている。

2．4　実践センターの経費による運営

YOU遊サタデーへの参加費は無料である。但し、教材費と傷害保険料を合わせた100円と材料費のかかる講座では実費（100～500円程度）を徴収している。この他の教材作成に係る経費は、実践センターの「公開教育実習費」と教育実践研究指導分野の「研究費」によって賄っている。今年度実施した4回のYOU遊サタデーにかかった総経費は、211,813円でその主な購入品目は次の通りである。

名札、更紙、画用紙、板目表紙、模造紙、賞状用紙、色画用紙、フイルム、乾電池、食用色素、フロッピーディスク、プラスティックコップ、液状のり、小麦粉、薄力粉、アルバム、ペイントマーカー、雑印、強力接着剤、磁石、TPフイルム、フイルム現像、郵便料、腕章、8ミリビデオテープ、ビデオカセットテープ（VHS）、電気釜など。

2．5　教育実践研究への一歩

学生は講座を企画し、実践し、それを記録としてまとめる労作業を経ることによって、はじめて自らの実践を真に自己のものとすることができる。キャプテンがスタッフとともに「遊学プラン」を練り、教材を媒介として、子どもたちと係わったことによって、何がわかったのか、次の課題としてどのようなことが見えてきたのか等々について自己省察を行うことは、次の新たな教育実践を切り開く力量形成となるものと考える。この観点から執筆に当たっては特別な注文は付けず、学生時代の率直な思いを書き残し、教育実践研究への一歩としてもらおうと考えた。

2．6　志から生まれる学生のやる気

10月の第2土曜日は、近くの城山公園で催された大がかりなイベントとYOU遊サタデーが重なったため、善光寺から丹波島橋まで5キロにわたって交通が渋滞した。教育学部正門から入った車には、図書館前で参加者を降ろし、東門から出るように誘導した。しかし、ここで再び渋滞の列に入れてもらわなければならなかった。駐車・誘導係の学生たちは、「割り込ませるな！」「入れるな！」という罵声を浴びながらも、必死に頭を下げ1台また1台と入れていただいた。また、教育関係者の中には学生に向かって、実際の学校現場はYOU遊サタデーのような楽しいところではない、と冷や水を浴びせかける人もあった。しかし、志を抱いた学生たちは負けなかった。今、青年の情熱を傾けてできないことが、いつの日にできるのだ。いかに困難な教育問題も、人間が解決していく以外にないではないか。やる気に燃えた学生たちは昼食も忘れて歯をくいしばって頑張った。

この学生たちは間もなく長野県をはじめとする全国各地の学校で教壇に立つ。またある者は信州大学、筑波大学、上越教育大学等の大学院で教育研究を続ける。また、アメリカやイギリスに留学する者もある。さらに教員採用試験に倦土重来を期する学生もある。それぞれの道でのご健闘を心からお祈りする。

2．7　ご協力いただいた方々

第二期の「信大YOU遊サタデー」も実に多くの方々のお力添えのお陰をもって、無事、無事故で終了する事ができた。とりわけ信州大学学長小川秋實先生は、第7回にご参加下さり、全講座を一つひとつ廻って学生ならびに参加者を勇気づけて下さった。教育学部長小林輝行先生は、学生たちが昼休みに実行委員会を開いているところに駆けつけて激励して下さった。評議員の滝澤貞夫先生は、(財) 長野県テクノハイランド開発機構の運営委員として初めての松本開催にご尽力下さった。ま

た、教育学部松本分室の吉澤文雄先生、上條厚先生は松本開催の責任者として全面的にご指導下さった。教育学部の先生方は学生の「遊学プラン」をご指導下さり、大学本部庶務部企画室ならびに教育学部事務部の皆様には会場や設備面で多大なご協力をいただいた。ここに記して厚く御礼申し上げるものである。

3．第3期（平成8年度）：21世紀への展望

3．1　女性実行委員長のリーダーシップによる全員参加型の運営

学生の全く自由な意思による、自発的な教育実践の場として運営されている、「信大YOU遊サタデー」を持続していく上で最大の課題は、如何にして後継のリーダーを見つけ、育てていくかということである。第二期も後半にさしかかる頃から、先輩たちの間では第三期を引き継いでくれそうな人が全く見当たらない、という悲観論がささやかれるようになった。しかし、来年のことは来年の人たちが考えることであるから、たとえ第二期でYOU遊サタデーが終わることになったとしても、それはそれでいいではないか。今の我々にできる精一杯の努力をして、今年を充実させることに専念しようと励まし合った。

こうして、未来展望のないまま平成8年の正月を迎えたのであったが、学生たちが正月帰省から長野キャンパスに戻って来るや異変が起こり始めた。すなわち、YOU遊サタデーがなくなってしまうことはとても残念だ。終わらせるわけには行かないと、YOUサタの将来を心配してくれる学生が、一人また一人と現れるようになった。このような学生たちの間から実行委員長の立候補者が2人も現れた。このため立ち会い演説会を開き、投票の結果女性実行委員長の誕生となった。

彼女は、これまでの2年間の運営を側面から見てきて、執行部の学生たちだけが忙しい思いをしているのではなく、スタッフをつとめてくれる学生たちにもオープンに様々な仕事を担当してもらい、全員参加の運営によって苦楽をともにするYOUサタを作ろうよ！と情熱を込めて訴えた。この開放性と平等性を基本とする全員参加型の考え方が圧倒的な支持を受けた。

この考え方は、女性のもつ細やかな気配りから生まれてきた発想であったと思われるが、これが具体的な作業の場面で実に大きな力となって発揮された。男子学生が女子学生にモノを言ったのではとても受け入れてもらえそうにないことも、明るい女性の声一つで女子学生が一致団結するだけでなく、男子学生も大いに本来のパワーを発揮したのである。

信大教育学部は女子学生が6割以上を占めている。やがて我が国の教育界も女性教師の細やかな気配りと深い教育愛、そして不屈の忍耐によって一歩一歩教育改革を成し遂げていく以外に道はない、と私は思っている。

3．2　「信大YOU遊サタデー」と授業科目「教育参加」の両立

今日のさまざまな教育問題は、教師の資質や実践的指導力の欠如と深く関わっていることが指摘されている。そのため教員養成学部においては、学生の実践的指導力の基礎を培うためのカリキュラム開発を行うことが重要な課題となっている。この課題に立ち向かうためには、学生にとって教育実習だけが子どもたちと触れ合うことのできる唯一のカリキュラムとなっている現状を改革し、今後、学校教育現場における教育実習のみを実践的指導力養成の場として捉えるのではなく、広くさまざまな教育機関での豊かな教育経験もカリキュラムに取り込んでいくことができる新しい授業の枠組みが必要となってくる。

このような現状認識と将来展望に立って、信州大学教育学部では、専門系科目の中に「教科に関する科目」「教職に関する科目」「卒業研究」と並ぶ新しい枠組みを設定することになった。そして、その新しい枠組みを平成7年度から「臨床経験」と名づけることになった。

平成7年度の臨床経験の授業科目としては、3年次に実施されている「教育実習」と「教育実習事

前・事後指導」が自動的に位置づけられた。これらに加えて、教育学部としての 4 年一貫カリキュラムを充実するために、平成 8 年度から 1 年次に臨床経験の授業科目を新設することについて教授会で検討されるようになった。こうした教育養成カリキュラムの改革という時代の要請の中から誕生したのが「教育参加」（1 単位、教育実習と同様に必修）であった。

YOU 遊サタデーのキーワードである「遊び」や「ふれあい」、そして「体験」をそのまま授業の柱とした「教育参加」のシラバスが、教授会において承認されたのは、2 年間に亘る「信大 YOU 遊サタデー」の実践の成果が評価されたからであると考えられる。「教育参加」のシラバスには、1 年生も YOU 遊サタデーに参加することが盛り込まれていた。授業の単位とは無関係に進められてきた YOU 遊サタデーを、敢えて必修科目の中に取り込んだのは、1 年生もお兄さん、お姉さんの立場で思う存分子どもたちと関わる体験をすることができるようなシラバスでなかったら、とても教職をめざして入学してきた学生たちのニーズに応えるものにはならないと思われたからである。

しかし、YOU 遊サタデーを授業科目の一部に取り入れることは、本来、学生の自由意思で実践され、単位もお金もいらないという基本的精神に抵触することになった。この点について学生たちと私の間で苦渋に満ちた議論が戦わされた。長い話し合いの末、「信大 YOU 遊サタデー」はあくまでも実行委員の学生たちの自主的な活動として実践していく。その活動に 1 年生の希望者を受け入れていくことは、1 年生にとっては授業という位置づけになるが、それはあくまでも「教育参加」の一部分に過ぎないので問題にはならない。このような理解のもとに「信大 YOU 遊サタデー」と「教育参加」の両立をめざす方針がうち立てられた。この方針に基づき 1 年生との関わりを全面的に担当し、結果的に 143 名という多くの 1 年生をリードしてくれたのは、実行委員の学生たちであった。夏休み中に松本キャンパスの 1 年生に何度も何度も電話をしたり、松本キャンパスで行われている「教育参加」の授業に一緒に参加して直接 1 年生に説明するなど、真剣に取り組んでくれたのである。私は心から感謝している。

3．3　YOU 遊サタデーの理論構築の場としての「教育実践学演習」

学生は一般には暇があると思われている。しかし、教員養成学部に学ぶ学生はピアノの練習あり、水泳、スキーの練習あり、専門教科の学問はもとより、学業を支えるアルバイトと実に忙しい毎日を過ごしている。YOU 遊サタデーに参加したいという学生たちが集まれる場も、わずかに 1 週間に 1 度、昼休みの 12 時 40 分から 13 時までの 20 分だけである。これまで 3 年間やってきてみて、この 20 分でやりくりできないことはやれないということがわかった。この 20 分も 30〜50 人がそろっての会合であるから、正味は 10 分〜15 分である。この時間を積み上げて約 100 名の学生が約 300 名の子どもたちと関わるプログラムを作り出さなければならないのである。人に集まってもらうためには、その前に資料を用意し段取りを決めておかなければならない。これを行う時間を放課後に作り出すことはできないことが経験的に明らかになった。

そこで平成 7 年度から通年の「教育実践学演習」（2 単位）の授業を木曜日の 1 コマ目に開講し、YOU 遊サタデーの実行委員をやってみたい学生には是非とも受講するように勧めてきた。この授業において教育実践の哲学を探究し理論構築を行ってきた。

3．4　21 世紀への展望　―「遊び隊」の出前―

長野県には 17 市 36 町 67 村、合わせて 120 の市町村（現在は、平成の大合併によって 80 市町村）がある。信大教育学部に学ぶ学生の約 4 割はここを故郷としている。それ以外の約 6 割の学生は北海道から沖縄まで、全国から集って来ている。まさに全国区の教員養成学部となっている。また、中国をはじめとする諸外国からの留学生も学んでいる。「古来山河の秀でたる国は偉人のあるならい」と詠われた信州の地より、教育、文化面に活躍する人物が現れたことは周知の通りである。

今、我が国においては、2003 年に学校週五日制を完全実施し、「学校」と「家庭」と「地域社会」

の連携による新たな教育の枠組みを作り出す教育改革が推し進められている。人間形成の本来の姿に立ち戻るべく「学校」をスリム化して「家庭」や「地域社会」と連携して、次代を担う子どもたちの人間形成に当たろうとしているのであるが、一歩「家庭」や「地域社会」に目を転ずるとき、そこにはかつての「家庭」や「地域社会」が有していた豊かな教育力は失われつつある。村で働く青年の姿は少なく、子どもたちが寺社の境内や田んぼで遊んでいる姿はほとんど見られなくなった。

信大教育学部を卒業してめでたく就職した「学校」において、青年教師たちは「家庭」や「地域社会」のおかれている厳しい現実に直面することになる。したがって、学生時代から「地域社会」の舞台で力量形成を図ることは、教育への広い視野を培うことになる。「学校」と「家庭」と「地域社会」を結ぶ上で、教師の果たす役割は大きい。その資質を学生時代に培っておくことは有意義なことと言わなければならない。

「大学内を見学させていただけることも意義がありますが、外へ出張していただけたら嬉しいです。例えば育成会や子ども会からの依頼に応えていただく等。是非お願いします。」「準備などが大変とは思いますが、いろいろな小学校や中学校の体育館や調理室など外に出てやっていただいても楽しいし、多くの人が参加できると思います。」

これは平成7年5月の第4回信大YOU遊サタデーに参加した母親から郵送されてきたアンケートに書かれていたものである。「家庭」や「地域社会」は、今、活力にあふれた学生パワーを求めている。120市町村を故郷とする学生と長野県以外の学生が「遊び隊」チームをつくって、それぞれの市町村から要請があれば夏休みなどに出前のYOU遊サタデーを実践することも検討していきたいものである。また、国立信州高遠少年自然の家や松本青年の家、松川青年の家、望月少年自然の家、小諸青年の家、須坂青年の家、阿南少年自然の家で行われる教育活動にも希望する学生が参加させていただき、子どもたちとふれあいながら学ぶことも検討していきたいものである。

さらに、教育実習を修了した4年生のうち希望者が、附属長野小学校、中学校、養護学校の教育活動に先生方のアシスタントとして参加し、児童・生徒とふれあう取り組みを平成9年4月から実施することになった。

これらのさまざまな体験活動を学生時代に経験することによって実践的指導力の基礎を培い、やがて学校に勤めても即戦力となって活躍できるような頼もしい教員を輩出できる信大教育学部でありたいと思う。

3．5　教職への厳しい道を切り拓く

信大教育学部の教員就職率は、平成6年度卒業生54.3%、平成7年度卒業生57.8%（全国第4位）となっており、平成8年度のデータはまだ示されていない。「信大YOU遊サタデー」は平成6年度から始まったが、これまでにYOUサタに関わった学生は、大学院進学者と2〜3人の民間企業就職者を除いて、ほとんどが教職に就いている。この結果からもYOUサタを担っている学生の教職への強い志と、自己の力量形成への真摯な願いを看守することができるのである。

YOUサタの目的の一つに「学生生活の充実」が掲げられているが、YOUサタでの苦楽を共にした切磋琢磨が学生の力量形成につながっているものと思われる。このような学生同士の深いつき合いと真剣な研鑽の輪がさらに一層発展することを願っている。

教員養成学部はこれから厳しい冬の時代を迎えるといわれている。たとえどんなに厳しい試練がやってこようとも、子どもがいる限り先生は絶対に必要なのである。問題は如何にして本当に必要とされる教師となっていくか、その力量を研鑽するかということではなかろうか。

3．6　学生の鍛えの場

古来、「石の上にも3年」といわれる。学生たちの自主的・自発的な取り組みとして始まった「信大YOU遊サタデー」も3年の節を刻み、合計10回の経験を積み重ねてくることができた。これも

ひとえに信州大学教育学部に学ぶ学生たちの教育への情熱と、その活動を温かく見護り応援して下さっている全教職員の皆様のご指導・ご鞭撻の賜物である。そしてまた、今年度もこのような実践記録をまとめることができたのは、大学当局の深いご理解とご支援のおかげである。ここに記して衷心より感謝を捧げたいと思う。

「信大 YOU 遊サタデー」とは、これからの我が国の学校教育を担って立つ志を抱いた学生たちが、自らに課した実践の場、鍛えの場である。平成 9 年度の第四期実行委員会も間もなく発足しようとしている。私も一人ひとりの学生と苦楽をともにしながら、教育の未来について大いに希望を語り合っていきたいと思っている。

4．第 4 期（平成 9 年度）：学生の自発・能動の取り組みによる力量形成

4．1　第四期実行委員会の発足

平成 9 年 3 月 13 日、卒業式を間近にしたこの時期に、実践センター 104 室には大学院生 2 名、4 年生 5 名、3 年生 9 名、2 年生 1 名による白熱した討議が行われていた。教育学部全体の視点に立って、YOU 遊サタデーの改善すべき点を話し合い、第四期実行委員会を発足させようという集いであった。

YOU 遊サタデーという一つの場をきっかけに集った先輩と後輩が、絨毯の上に車座になって語り合っていた。そこでは、YOU 遊サタデーは一般の学生にとっては閉鎖的な組織に見えること、YOU 遊サタデーに参加した学生どうしでも意外に話し合う機会が少ないこと、など様々な問題点が指摘されていた。一方、どんな問題でも語り合っていくことによってきっと乗り越えて行ける、仲間同志がスパークしあう建設的な話し合いこそが大事である、組織というものは有機的なつながりである以上閉鎖的な側面をもつが、実行委員長を中心にしっかりとした土台を作り、参加したいという学生には常にオープンな姿勢でいく、などプラス思考の意見もどんどん出された。そして、結局、YOU 遊サタデーというのは実はすごいことをやっているのだという自覚に達し、YOU サタを継続していくために第四期実行委員会を発足させようということで一座がまとまった。

中村典史君（社会 3 年）が「たぶん自分は個性的ではないので、みなさんの個性を発揮していただいて、第四期 YOU 遊サタデーをやっていきたいと思います」と立候補宣言すると、全員が賛同の大拍手をおくった。

4．2　長野県自然保護研究所での「山あそび」講座開設の経緯

飯綱高原にある長野県自然保護研究所（宮脇昭所長、平成 8 年 9 月 30 日開所）の陸斉氏（環境学習担当）が学校法人小山学園長野教育センター所長平沢信夫氏の案内で、平成 9 年 3 月 28 日に YOU 遊サタデー実行委員会の学生を訪ねてきて下さった。そして、同研究所を YOU 遊サタデーの会場として提供して下さるという有り難いご提案をいただいた。これまで野外活動の講座を開設したいという計画が何度も学生から出されたが、スタッフの手不足からくる安全面への不安と会場までの輸送経費が大きな壁となって、断念せざるを得なかった。しかし、今年度から文部省のフレンドシップ事業が始まり、信州大学では授業科目「教育参加」とともにこの YOU 遊サタデーもフレンドシップ事業の一環として認めていただいたので、飯綱高原までのバス貸し切りが可能となってきた。これに勢いを得て早速 4 月に学生 8 名とともに実踏し、陸斉氏の案内で山の中に入り、講座開設への夢をふくらませることができた。9 月 27 日に「山あそび」講座を長野県自然保護研究所と共同で実施することができたことは、第四期の特筆すべき出来事であった。

4．3　国立信州高遠少年自然の家での出張 YOU 遊サタデー開催の経緯

平成 8 年 12 月に漆戸邦夫・前センター長（現教育学部長）と上野登志男・教務係長と私の 3 人で国立信州高遠少年自然の家に松下倶子所長をお訪ねした。それは平成 8 年度から開設した「教育参

加」のメニューに同少年自然の家のご協力をお願いしたいと考えたからである。幸いご快諾を得たのであるが、その席で同所長からYOU遊サタデーの学生たちに高遠フェスティバルに参加してもらいたいとの要望が出された。これは学生に活躍の場を広げる上で大変有り難いご提案であったが、YOU遊サタデーは学生の自発的な取り組みとして実施されているものである以上、私一存では返答することができなかった。

平成9年4月に松下所長が漆戸学部長を訪ねてきてくださり、その折に松下所長に学生たちに会っていただいた。そして、5月31日（土）に高遠下見ツアーが計画され、参加した学生5名が藤沢センター長と私の車に分乗して高遠に向かった。4年生の学生たちは車中でも教員採用試験のための勉強に余念がなかった。百聞は一見に如かず、やはりすばらしい自然環境の中にくると学生たちの活動意欲、創造性が刺激される。是非、秋には高遠でのYOUサタを実現したいという決意が固まったようである。高遠町の春日多喜子さんのご案内で城下の見事な桜、高遠藩校・進徳館と伊澤修二の生家を見学して帰った。10月11日（土）に学生33名が参加して高遠での出張YOUサタが実現したのは、フレンドシップ事業ならびに長野県テクノハイランド開発機構のご支援があったからこそである。

4．4　小諸市文化センターでの出張YOU遊サタデー開催の経緯

平成9年6月に長野県教育委員会佐久教育事務所の上原美次指導主事がYOU遊サタデー実行委員会の学生を訪ねて来てくださった。父親の家庭教育参加を考えるフォーラム「乙女の森フェスタ・親子で遊ぼう、作ろう」にYOUサタの学生の参加をお願いしたいというものであった。現在信州大学教育学部に学んでいる学生の4割にあたる約500名は長野県出身であり、県内120市町村にまたがっている。それぞれの市町村ではこれらの学生がやがて地元に帰ってきて郷土の教育に骨を埋める覚悟で取り組んでくれることを強く願っておられる。養成段階である学生時代に、一度でもいいから自分の生まれ育ったところで、子どもだちと触れ合う体験をすることは、教育を地域社会という視点から考えていく上で重要である。このような考えに基づき、上原指導主事に佐久地方出身の学生に会っていただいた。教員採用試験、卒業論文、YOU遊サタデーと忙しいさ中ではあったが、学校現場では毎日が忙しさの連続であり、それに流されないで厳しく自己の力量形成を図っていくことが課題であることを聞き、この学生も発憤して小諸での出張YOUサタ（11月9日）に挑戦することになった。

4．5　学生の自発・能動の取り組みによってのみ成立するYOU遊サタデー

上述の出張YOU遊サタデーのほかに今年度は、長野県社会部が主催して更埴市の長野県立歴史館・科野の里歴史公園を会場に実施された「ちゃれんじ児プラザ21」（9月13日）にも参加することができた。どの活動においても学生が自ら判断し、自ら決定して参加しているところにYOU遊サタデーの最大の特色がある。ここが授業科目化された取り組みとは根本的に異なるところである。

学生たちが何故YOUサタをやるのか、不思議である。そこに人間形成にとって重要な何かが潜んでいるように思われる。それが何であるのか、本報告書に記述された学生の実践記録を熟読して把握するように努めたいと思う。

第四期のYOU遊サタデーが、学生たちの自発・能動の情熱によって見事に推進され、無事故で終了できたことに感謝の気持ちでいっぱいである。YOU遊サタデーに関わってくださったすべての皆様に心から御礼申し上げます。

4．6　自他ともの喜び

今、第18回長野冬季オリンピック競技大会の開会式が始まった。その模様をラジオで聞きながらこのあとがきを書いている。YOU遊サタデーを担った学生たちも、オリンピックボランティアとして、今それぞれの任務に参加している。オリンピックが始まる前にこの実践記録を完成しようと、学

生たちは原稿の執筆に日夜頑張った。

信大YOU遊サタデーは、児童生徒の新しい“荒れ”が始まったといわれる今日の教育界に、敢えて自分の道を求めようとしている学生たちによって推進されている。21世紀の我が国の教育を担っていくのは、間違いなくこの学生たちである。この青年たちの活躍に期待する以外にない。2年前にキャプテンをつとめた卒業生から、3度目の挑戦で教員採用試験に合格できたという報告を受けた時は、本当にうれしかった。どんなに状況が厳しかろうとあきらめないで、勝つまで努力を続ける、その心こそが未来を拓く鍵であると思う。

学生たちが、子どもたちと触れ合い、ともに喜べる場を共有したいと考え、そのための具体的な講座を準備して実践し、その結果、何が得られたのかを考察し、記録に残していくことは、教育実践研究に生きる教師を目指す者にとって不可欠の労作業である。学生の実践には未熟さがついてまわるが、それを凌駕して尊いのは、他者との関わりを求めて人間の中に飛び込み、自他ともの喜びを求めて実践活動に身を挺している、その事実である。

5．第5期（平成10年度）：「YOUサタ」5周年の蓄積

5．1　「信大YOU遊サタデー」5年目の年輪

「遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん、遊ぶ子供の聲（こゑ）きけば、
我が身さへこそ動（ゆる）がるれ。」　　（『梁塵秘抄』巻第二　岩波文庫 p. 66）

YOU遊サタデーという言葉の響きから浮かんできた歌である。YOU遊サタデーという響きには、何かしら楽しさ、うれしさが秘められているように感じられてならない。

さて、第5期「信大YOU遊サタデー」に参加してくださった全ての皆様のご努力によって、我々は「信大YOU遊サタデー」5年目の年輪を、これまでよりさらに一回り大きくして刻むことができた。心から感謝し、御礼を申し上げたい。

5年間という歳月は、平成6年の第1期に参加していた高校生が信大生となり、4年間にわたって直接、間接にYOU遊サタデーに係わりながら、卒業を迎えるという長い年月である。また、第4期までは第1期の開拓者が大学院生として学内に残っていたが、第5期からは草創期の人物は一人もいなくなってしまった。このような変化の中で、「信大YOU遊サタデー」が5周年の年輪を刻むことができた意義を深くかみしめたいと思う。

5．2　第5期実行委員会の発足

第5期実行委員会は平成10年3月3日に発足した。この日の会合には、筆者は熊本大学教育学部でのフレンドシップ事業シンポジウムに出席のため、出席することができなかった。しかし、熊大生の生き生きとした活動報告を聞いて、教員養成カリキュラムには学生が子どもたちと直接ふれあい、共に楽しみ、共に学ぶという体験活動が極めて重要であること、に確信を深めることができた。そして、熊本の地から第5期実行委員会が無事発足してくれることを祈ったのであった。

「信大YOU遊サタデー」は授業科目ではないので、一人立つ覚悟を決めて、実行委員長を引き受ける学生が現れてこなければ、そこで流れは止まってしまう。代々の実行委員長は、YOU遊サタデーの宿命ともいうべきこの厳しさを引き受けて一人立ち上がってきた。第5期実行委員長も例外ではない。YOU遊サタデーを引き継ぐ使命感に燃えて、一人立ち上がったのは登坂武人君であった。彼は2年生の時に一度「地図で旅行しよう」という講座のキャプテンを経験したのであるが、その後、教職への情熱を全く失いYOUサタからも遠ざかっていた。しかし、3年次の教育実習経験によって、次代を担う子どもたちと教師の間に生起する人間と人間との触発作用には、素晴らしい可能性が秘められていることを実感し、再び教職への情熱に火を灯したのであった。

5．3 「YOUサタ」5周年記念大会の意義を込めた「青少年のための科学の祭典」長野大会

平成9年7月初旬に、富山大学教育学部助教授・市ノ瀬和義氏が漆戸邦夫教育学部長を訪ねてきてくださり、科学技術庁からの1000万円規模の予算で実施されている「青少年のための科学の祭典」を、「信大YOU遊サタデー」が母体となって長野県で開催してはどうか、という提案をしてくださった。このような取り組みはめったにできるものではないので、「信大YOU遊サタデー」としては全力で取り組みたいと即座に申し上げた。これを受けて漆戸教育学部長から藤沢謙一郎・附属教育実践研究指導センター長に準備世話人代表の依頼が行われた。9月から12月まで5回にわたる準備世話人会を経て、平成10年1月10日に巽勇吉教授（物理学）を実行委員長とする「青少年のための科学の祭典」長野大会実行委員会が発足した。

長野市のビッグハットを会場に、8月15日・16日の2日間に延べ16,231名の参加者があった。この科学の祭典の事務局を担ったのが「信大YOU遊サタデー」である。大会当日の受付、会場整理、駐車場、弁当、会計補助などの裏方を献身的に務めてくれた80名は、これまでの5年間にYOU遊サタデーを実践してきた人たちであった。我々にとって科学の祭典は、5年間の総力を結集した「信大YOU遊サタデー」5周年記念大会でもあった。

5．4 教員養成カリキュラム開発への「信大YOU遊サタデー」の貢献

「信大YOU遊サタデー」は授業科目ではないので、学生側には何の拘束力もない。子どもたちとふれあう体験活動を求める学生と教官の阿吽の呼吸の上に成り立っている極めて不安定な取り組みである。しかし、ここには学生と教官の創意工夫を存分に発揮できる場がある。否、創意工夫を凝らして常に時代の課題に挑戦していく情熱を失っては、最早YOU遊サタデーは存在しない。このような真剣勝負の取り組みの中から、これまでに授業科目が2つ誕生した。

一つは平成8年度に発足した臨床経験の授業科目「教育参加」（1単位）である。平成11年度からは、これまでの内容に長野県松本盲学校、長野県松本ろう学校、長野県松本養護学校、長野県寿台養護学校、長野県安曇養護学校、長野県諏訪養護学校、長野県花田養護学校、長野県木曽養護学校で行う2日間の介護等の体験を追加して2単位とし、教育職員免許法施行規則第6条第二欄「教職の意義に関する科目」（(1) 教職の意義及び教員の役割、(2) 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、(3) 進路選択に資する各種の機会の提供等）として実施することになった。

二つ目は「教育実践学演習」（2単位）である。これは「信大YOU遊サタデー」が発足した翌年の平成7年度から開講している。応用教育実習としての意義を有する「信大YOU遊サタデー」の企画、運営の実質を担うとともに、教育実践を生み出す哲学、理論の考究に取り組んでいる。

次に授業科目ではないが、YOU遊サタデーに参加している学生たちの要望を踏まえて、平成10年12月から「現代教師学演習」を開講した。これは、月・水・金の午前8時から8時45分まで、武徳殿（長野県警察本部体育館、教育学部から徒歩5分）をお借りして、文武両道の人材育成をめざすものである。渡邉伸教授（運動学）、宮崎樹夫助教授（数学教育学）と筆者の3人が指導にあたっている。大正期に建築された風格のある武道場で、朝の雑巾がけをしながら修養に汗を流している。寒稽古のあとの晴れ晴れとしたさわやかさは最高である。

このように「信大YOU遊サタデー」は授業科目ではないが、教員養成カリキュラムを開発していく上で重要な貢献をしているといえよう。

5．5 人間性を磨く

「信大YOU遊サタデー」は、地域の子どもたちに、お父さん・お母さんたちにとって希望の存在となりつつある。人に喜んでいただくために、学生たちは陰で苦労を重ねている。その労苦が、間違いなく学生の力量形成につながり、人間性を磨くことに通じていると思われる。これから小・中・高校で始まろうとしている「総合的な学習の時間」は、教科書がない時間なので、各学校の力が試され

る場となる。それぞれの地域や学校の実態に応じた教材をつくらなければ実践できない。従って、教材を作る力、その教材を使って授業を計画する力、つまりカリキュラム開発力と子ども主体の学習を組み立てる指導法を開発し評価する力が益々重要になってくる。学生が「信大 YOU 遊サタデー」を通して培っている力量は、「総合的な学習の時間」を設計していくうえでも大いに発揮されるに違いないと思われる。

信州大学教育学部は平成 11 年 4 月から学校教育教員養成課程（210 名）、養護学校教員養成課程（20 名）、生涯スポーツ課程（30 名）、教育カウンセリング課程（20 名）に改組される。また、附属教育実践研究指導センターも「実践」分野、「情報」分野に加えて、新しく「人間」分野が増設されて、附属教育実践総合センターとして改組されることになった。21 世紀に向けた教育改革の真っ只中にあって、我々センター教官も心新たに微力を尽くして行く決意である。

6．第 6 期（平成 11 年度）：学生の集いから生まれる偉力

6．1　第 6 期「信大 YOU 遊サタデー」の特色

今期の特色は何といっても、信州大学創立 50 周年記念式典が行われた平成 11 年 11 月 13 日（土）に、全国 13 大学の学生・教官百余名が教育学部第一会議室に集まって、フレンドシップ事業全国学生シンポジウムを開催することができ、信大生が他大学の学生と親しく情報交換し、友情（フレンドシップ）を深めることができたことにあると思う。このシンポジウムが機縁となって、学生同士の交流の輪が着実に広がってきた。

12 月 11 日（土）の第 19 回「信大 YOU 遊サタデー」には、上越教育大学から 4 名の学生が参観に訪れた。また、12 月 18 日（土）に上越教育大学で行われたシンポジウムには信州大学から白井敬君（国語 4 年）を団長とする 9 名の学生が訪問し、6 つの分科会に分かれて討議に参加した。さらに、平成 12 年 3 月 4 日（土）の鳴門教育大学のシンポジウムに増野隆君（社会 4 年）が、3 月 6 日（月）の熊本大学のシンポジウムに長田雅子さん（教育実践科学 4 年）と小池悠介君（国語 2 年）が招かれて、それぞれ体験報告と学生によるパネル討論に討論者として参加することになっている。

若さと情熱にあふれた学生同士が、集まって、語り合うことによる触発は、計り知れない影響力をもつ。全国シンポジウムに参加した熊本大学の学生は、「全国各地から集まった大学の仲間たちとの出会いや、得ることができた喜びは、どれもが私にとってかけがえのないものとなりました。学生が集う時に生まれる力が、いかに大きく広いものであるかを身をもって感じることができました。」と述べている。

6．2　一人をたいせつに（第 17 回）

まだ寒さが残っていた 3 月 3 日に第 6 期の実行委員会が発足しました。その日以来、執行部を担当することになった学生の皆さんが一人またひとりと語りあうことによって、これまでに 110 名もの学生スタッフが集まりました。これは過去最大の人数です。

また、参加者を募集するために執行部の方々はキャプテンの皆さんの協力を得てチラシをつくり、新聞社を訪ねて記事掲載の依頼をし、さらに松本地区の小学校へチラシ配布に出向きました。こうした地道な努力の積み重ねによって、子どもたちの手で書かれた申込はがきが毎日届いています。

「信大 YOU 遊サタデー」は、学生の熱意を唯一の原動力として運営されています。キャプテンとスタッフの皆さんは勇気を出して講座を開こうと決め、子どもたちのために尽くしていこうと日夜準備に汗を流しています。この「行動」によって、私たちはもっと強い自分になっていくことができる。人間としての器をもっと大きくしていくことができるのだと私は思います。

第 17 回目の YOU 遊サタデーに参加されたすべての皆さんにとって、5 月 22 日が楽しく、有意義な一日となり、その後の学生生活の全てに勝利していく突破口となることをめざして、「一人をたい

せつに」を合い言葉にがんばりましょう。

6．3　地域貢献と国際貢献―21世紀の大航海への船出―（第18回）

第18回目の信大YOU遊サタデーが、教育学部創立50周年記念行事の一環として実施されることになりました。共に喜び合いたいと思います。キャプテン、スタッフの皆さんお一人おひとりのYOUサタへの取り組みが、そのまま50周年を寿ぐ行動となっていくわけです。当日は盛大に祝い、楽しみましょう。

第6期の皆さんによって、YOUサタは2000年を迎えます。新しい世紀、そして、新しい千年紀の開幕とともに、日本も世界も新たな秩序を求めて激動の時代に突入していくといわれています。教員養成学部がこの荒波に船出して、大航海を続けていくためには、「地域貢献」と「国際貢献」という2つの櫓をしっかりと握って、ひたすら前へ向かって漕いでいくことであると私は考えています。

10月30日に上信越道が全通しますが、信州の地は、中国、朝鮮、ロシア、モンゴルを結ぶ環日本海文化圏において重要な役割を果たしていく位置にあると見る人もいます。今回の講座には世代間交流、国際交流を図るプログラムも含まれています。私たちは視野を大きく広げ、目標を高く掲げて、思いっきり情熱をぶつけていきたいと思います。

11月13日の50周年記念学部祭には、第6期の皆さんが主催する「フレンドシップ事業全国学生シンポジウム」が、13の教員養成大学・学部の学生代表を招いて開催されます。学生同士思う存分語り合ってください。

なお、長野県教員採用試験の最終合格者は、現役生40名、過年度生30名という厳しさでした。この70名のうち、YOUサタに参加している学生と早朝の「現代教師学演習」に出ている学生を合わせると43名でした。

6．4　21世紀の教育改革は「信大YOU遊サタデー」から（第19回）

第6期の皆さん、いよいよ最終コーナーを回って直線コースに入りましたね。全力投球で有終の美を飾ってください。キャプテンとスタッフがしっかりと連携して、参加した子どもたちが秘めている素晴らしい宝を引き出し、共に喜びあえるYOU遊サタデーを創造していってください。

終わったらすぐに実践記録の執筆に取り組んで欲しいと思います。みなさんが先駆的に取り組んでいるこの実践は、全国の大学から、そして、教育委員会、学校から、大きな期待をもって待たれています。3月中に完成して配布できるようにお互いに頑張りましょう。

間もなく、新しい第3の千年が開幕します。21世紀の教育もまた、信州から狼煙が上がったと、後世の歴史家からいわれるような、時代を画する創造的な教育実践を担って起ちあがりましょう。

YOUサタの取り組みは、今はまだ濡れた藁の中に入れられた微々たる炭火に過ぎないかもしれません。しかし、そこから必ずや「教員養成カリキュラムの改善」という火が点き、やがて「新しい教員養成システムの確立」という炎となって燃え上る日の来ることを確信して、学生同士、学生と子ども、学生と地域社会の人々とのフレンドシップ（友情）を大事に育てながら、地道に前進していきましょう。

6．5　「教育参加」の第一期生

第六期のYOU遊サタデーを担った4年生は、1年次に松本キャンパスで始まった「教育参加」の第一期生であり、2年次に長野キャンパスで始まった「コンピュータ利用教育」の第一期生です。そして、3年次に4週間の「基礎教育実習」を行い、4年次に2週間の「応用教育実習」を行うという新しい積み上げ方式による教育実習を体験した第一期生でもあります。まさに信州大学教育学部において進められている教育改革の真っ只中を歩んできた人たちといえます。学生の手による本報告書の随所に、フレンドシップ事業の授業科目である「教育参加」の成果や「コンピュータ利用教育」の偉力が発揮されていることに、私たちは大きな喜びを感じています。第7期も学生の皆さんと二人三脚

で、大前進していきたいと願っています。

7．第 7 期（平成 12 年度）：初心忘れず、地域貢献の労作業へ！

7．1 「信大 YOU 遊サタデー」から「信大 YOU 遊広場（プラザ）」へ

20 世紀から 21 世紀へ、時代は大きく変化している。7 年前は学校週五日制に教員養成学部としてどのように対応するか、ということが大きな課題であった。また、教育実習以外に学生たちが子どもと直にふれあうカリキュラムがないことも、教員養成学部の大きな問題であった。しかし、この 7 年間で本学部は、「臨床の知」の理念を核とする教育体制に改組を成し遂げ、カリキュラムにも臨床経験の授業科目が大幅に導入された。「信大 YOU 遊サタデー」は 20 世紀とともに幕を閉じ、21 世紀は新たな人材で、新たな考えによって、新たに出発するのが良いと考えた。そこで、第 7 期実行委員のメンバーと相談し、熟考したうえで閉幕とする決断をした。

平成 12 年 12 月 12 日から平成 13 年 2 月 5 日まで、7 回にわたって新しいプロジェクトの立ち上げについての話し合いが行われた。参加した学生は約 70 名、教官 12 名であった。この 2 ヶ月にわたる検討を通して、新しいプロジェクトの名称が「信大 YOU 遊広場（プラザ）」と決まった。また、具体的な活動場所として「牟礼ふるさと農場」「茂菅ふるさと農場」「キャンパス教育の森」「キャンパスプレイパーク（冒険遊び場）」「里山ふれあいキャンプ」「お出かけ YOU 遊プラザ」、そして不登校の子どもや障害をもった子どもとふれあっていく「鉄腕アトム」の 7 つが決まり、それぞれの責任者も立候補制によって決まった。これらの活動を通して、学生は次の 3 つの力量形成をめざす。

①「自然」との共生による人間力の向上
②「地域社会」との共生による社会力の向上
③学問と自発的な体験の結合による実践的指導力の向上

これまで 4 年生が務めてきた実行委員長は、「信大 YOU 遊広場（プラザ）」では 3 年生に移行する。教員採用試験の厳しさに対処したいと考えているからである。また、「信大 YOU 遊サタデー」には「単位」の認定はなかったが、「信大 YOU 遊広場」は「社会体験実習」（2 単位）という授業科目の活動内容となり、「教育参加」とともに平成 13 年度のフレンドシップ事業として申請した。

新しい活動が軌道に乗るまでには様々な困難が待ち受けていることと思われるが、初心を忘れず、地域貢献の労作業に汗を流していきたいと念願している。

7．2 切磋琢磨（平成 12 年 5 月 27 日開催の第 20 回 YOU サタへの寄稿）

中村祐介実行委員長を中心とする第 7 期信大 YOU 遊サタデー実行委員会に集った 100 名をこえる学生の皆さん！皆さんの真摯な心意気と勇気ある実践に心から敬意を表します。附属教育実践総合センターも全力で皆さんの活動を応援してまいります。

さて、第 20 回目の YOU サタを 2000 年 5 月に松本キャンパスで開催できる運びとなりました。松本での開催に温かいご理解とご協力をいただいた学生部、学生サークル協議会、そして、長野県テクノハイランド開発機構の皆様に心から御礼申し上げます。モンゴルの諺に「一本の木だけでは燃料にならない。一人の人間だけでは家庭をつくれない。」とあります。YOU サタも 100 名の学生が力を合わせなければ実現できません。学生の輪の中に入り、語り合い、ぶつかり合い、励まし合い、切磋琢磨し合ってこそ、人間としての成長があるのだと思います。YOU サタの実践を通して、人間のなかでもまれ、自らを鍛え、学び、強くなっていっていただきたいと思います。また、苦楽を共にすることによって友情を深めていっていただきたいと思います。さらに、学生の勇気ある実践は、地域社会の希望であり、未来を切り開く原動力であることを体得していただきたいと思います。お互いに日本一の教育学部を建設すべく、今年一年、苦楽を共にしながら、大勝利していきましょう。

7．3 「信大YOU遊サタデー」閉幕宣言（平成12年11月11日開催第21回YOUサタへの寄稿）

「信大YOU遊サタデー」は7期21回、出張13回をもって閉幕とすることを提案します。皆さんでよく話し合い、今後のことを検討していただきたいと思います。21世紀も心機一転、信大生の情熱と知恵によって、新しいプロジェクトを立ち挙げていただきたいと思います。もちろん、私も皆さんとスクラムを組み、先頭に立って走ります。この7年間でYOUサタの使命は終わったと考える理由は次のとおりです。

① 学校週五日制への貢献　休業日となった土曜日の子どもたちの受け皿として、この7年間に約4,000人の子どもたちが参加してくれました。

② 「教育参加」の開設　YOUサタが母体となって生まれた「教育参加」が臨床経験の授業科目となり、1年生段階から子どもたちに直接ふれあうことができるようになりました。

③ 教育学部改組への貢献　平成11年度に信大教育学部は「臨床の知」の理念を核とした新しい教育体制に生まれ変わりました。この変革にもYOUサタの地域貢献が大きく寄与しました。

これらの過去の功績に甘んずることなく、21世紀の日本の教育改革にさらに貢献できる教育学部の建設をめざして、新たな第一歩を踏み出していきましょう。

ありがとう！さようなら！YOUサタ！

7．4 師弟同行、師弟共育

YOUサタ最終回となった平成12年11月11日、第1期から第7期までの実行委員長が勢揃いし、閉会式で高らかに万歳を三唱した。引き続き生協食堂で開かれた夕食会の席で、第7期実行委員会のみなさんから大きな包みのプレゼントをいただいた。開けてびっくり！紺色のつなぎの作業服であった。平成13年2月24日、ホテル信濃路に1期から7期まで活躍した学生が全国から44名集った。その席でも思いがけないプレゼントをいただいた。それは紺色の蒸れない雨合羽であった。

私は、これらの学生からの贈り物を身につけて、土づくりと人づくりをめざす新たなプロジェクトに向かって、学生と共に精進していきたいと決意している。

7．5 最も困難な「人づくり」の道

「信大YOU遊サタデー」は今期をもって閉幕することになりました。7年間の長きにわたってご協力を賜りました皆様方に心から御礼申し上げます。参加者約4,000名、参加学生約1,800名が無事故で終了の日を迎えることができましたことに、万感の思いを込めて感謝申し上げます。

YOUサタは終わりましたが、その魂を継承した「土づくり・人づくり信大YOU遊広場（プラザ）」が2年生を中心に新規に立ち上がろうとしています。「教育」という最も困難で、地味な、そして根気のいる道に志す学生たちがいる限り、教員養成学部の未来は明るい、希望があると確信しています。

―― ☆卒業生56名の省察★ ――

1．第1期（平成6年度）：「信大YOU遊サタデー」始動　―卒業生9名の省察―

1．1 YOUサタは、なぜ継続しているのか ―――――――――――――― 山口直行

平成6年6月6日に産声を上げた「信大YOU遊サタデー」が、時代に合わせて形を変えながらこんなに息長く続くとは、実行委員長をしていた当時の私は全く想像もしていませんでした。この活動を立ち上げた当初は、この活動の理念をどのようにして周りの方々に理解していただくか、そしてどうしたら地域の子どもたちがたくさん集まってくれるのか、そうした現実的課題を1つずつクリアしていくことで精一杯の毎日でした。まったく何もないところから、YOUサタの基礎をつくっていった一年であったわけです。そうした努力のかいもあっ

て、おかげさまで地域の子どもたちがたくさん集まり、当初の理念が達成されました。私が卒業した次の年以降については、あとに続く後輩たちが、改めて理念や活動目的を考えていただいて、必要があれば続けてくれればいいかなと考えていました。「前年度までやっていたから…」といった考えでは、負担だけが引き継がれていってしまいます。ですから、いつこの活動が終了してもいいように、あまり後輩たちに負担をかけてはいけないなという想いをもちながら、私は信大を卒業しました。しかしながら、この活動を「負担」ととらえるのではなく、この空間だからこそ生まれるドラマや感動をまた味わってみたいと仲間が仲間を呼び込んでいく雰囲気があったのでしょう。18年の長きに渡りこうして引き継がれていったことに、私は感慨深いものを感じずにはいられません。教師になって10年ほどたった頃です。信大教育学部出身の若い先生方に「YOUサタ、知ってる？」と聞けば、「私関わっていました」という先生方が、次々に異動してくるのです。これは本当に驚きでした。それと同時にうれしさもこみ上げてきました。決して同じ時に活動をしていたわけではない後輩たちですが、なぜか固い絆で結ばれているような感覚になっていくのです。この活動は、学生の情熱や力だけでは決して継続してできなかったと今更ながらに私は思います。ひとえに土井先生の情熱あふれるご指導があって、私たちはこうして貴重な経験を積ませていただきました。「感謝」という一言だけでは、到底その意を語り尽くすことができません。今後もこの活動が益々発展されますよう御祈念申し上げます。また、土井先生の益々のご活躍を御祈念申し上げます。そして、これからも私たちにご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げる次第です。(松本市立丸ノ内中学校)

1．2　私にとっての「教育の原風景」　林　向達

土井進先生と第1期実行委員長である山口君に声を掛けられてYOU遊サタデーの準備を始めてから長い月日が経ったようです。物事の始まりは概して気楽なもので、二つ返事で引き受けた事務局長の仕事は、声を掛けてきた2人の熱い議論や相談を聞きながら、こんな感じ？あんな感じ？と茶々入れするように進められました。今なら「ワークショップ」といった言葉で行われている活動に近い取組みです。しかし、当時の私たちはそんな洒落た言葉も概念も手にしておらず、ひねり出した言葉が「応用教育実習」。いかにも教育学部生が考えた冴えないイベントという感じのネーミングですが、私たちはこの活動に様々な想いを込めて生み出し、そして育て始めたのでした。そこで得た知見は、物事を多面的に考慮することの重要性と優先順位決定の必要性ということ。大人数の活動を進めていくには、様々な意見に耳を傾ける一方で明確な指針というものを打ち出さないと、一人ひとりの動きがバラバラになってしまい、目標達成ができないだけでなく、仲間や参加者を事故に巻き込んでしまう可能性もあるのです。そんなことをあれこれと考えながら、あっという間に終わりを迎えた第1期でした。あれから18年。私の今の仕事は教育を論じることですが、そこで浮かべる教育の原風景の一つがYOU遊サタデーの活動であることは確かです。(徳島文理大学)

1．3　「あの頃の私」と「今の私」　渡辺一博

当時私は、実際の子どもが見えない机上の講義に物足りなさを感じることがありました。そんな折に土井先生にお声をかけていただき、私は『YOU遊サタデー』第1期の立ち上げに関わることとなりました。第2期には実行委員長も務めさせていただき、仲間とたくさん話し合ったり、議論を交わしたりしたことは今でも忘れられない思い出です。特に、田中清一氏は「『楽しい』を科学する」「理論と実践は車の両輪」など、数々の持論を語ってくれました。そんな背景もあり、私たちの指導案チェックは結構厳しかったと思います。「YOUサタ」に来てくれた一期一会の子どもたちが最高の思い出をお土産にできるようにと願い、遠慮なく朱を入れさせていただきました。そして、今私は現任校で研究主任という責任をいただいていま

す。確かに「あの頃の私」が、「今の私」に繋がっていると思うのです。

（安曇野市立穂高西中学校）

1．4　「YOU遊サタデー」で得たもの　――――――――――――　森村（田中）　忍

教育実習を終えた頃です。「もっと子どもたちと触れ合いたい」、「実践的なことを学び、卒業後はもっと自信を持って教壇に立ちたい」、そう感じていた私に「YOU遊サタデー」の立ち上げをと、声を掛けてくださったのが土井先生でした。試行錯誤をしながら教材をさがし、授業をつくりました。子どもたちに分かりやすいようにと、摸造紙に作り方を書いて掲示し、プリントを用意しました。子どもたちへの支援の仕方を、スタッフのメンバーと相談しました。会場の準備や設営、受付等の仕事もみんなで考え、運営しました。これらの活動は、現在毎日行っている教育活動全てにつながるものでした。また、この時講座に参加してくれた子たちが私にくれた「笑顔」、「先生！」という声は、私に「教師になりたい」との思いを一層強くしてくれました。後輩達がこの活動を引き継ぎ、大きくしていったことをとても嬉しく思います。また、自分がこの活動に関われたことを誇りに思います。今後形が変わっても、学生が子どもたちと直接関わりながら実践的なことを学べる場があってほしいと願います。

（辰野町立辰野西小学校）

1．5　真剣に向き合うことを思い出させてくれる　――――――――――――　奥原克水

思い返せば、学生時代の僕らが抱いていた願いは、教育実習以外にも「子どもたちと真剣にかかわる時間がほしい」というものだった。そして、実践的な「授業」としての「講座」を計画することから生まれたのが「YOU遊サタデー」であった。その子どもたちへ向けた「真剣な思い」こそが、自分の活動の原点であり、教師になりたいという情熱そのものだった。それから18年もの月日が流れ、教師としてもそれなりに経験は積んできたつもりだった。しかし、「YOU遊サタデー」を思い出した時、自分の原点に立ち返った時、あの時に持っていた子どもへの真剣な思いを失っていなかったか？向き合っている子どもに、それだけの情熱をもって関わっているか？自分に問い直した。…子ども一人ひとりにもっと真剣に向き合う必要がある。これは大いに反省すべきことになった。忘れてはならない、原点。子どもと真剣に向かい合うことを思い出させてくれる「YOU遊サタデー」に感謝。胸に刻み込んで、これからも教師の道を真剣に歩いて行こう。

（駒ヶ根市立赤穂東小学校）

1．6　大学時代はダシ取りの時代であった！　――――――――――――　小倉　敬

私が大学時代に学校で学んだことは、現場での仕事に直接役に立っているのか？と問われれば、答えはNOである。では、大学時代の学びは無駄なのか？と問われれば、それもNOである。では何なのか？私が考えるに，大学時代はダシ取りの時代だったと感じている。ダシだけでは料理にならないが，しかし自分という料理の味を決める上で重要な要素だと思う。大学時代の一経験の「量」は、ダシのコクに、経験の「質」は、ダシの味に、経験の「長さ」は、ダシの濃さになっているだろう。そういう意味で，YOU遊サタデーを経験したことは、私の人生のコクと味に影響を与えてくれている。YOU遊サタデーは単位も関係ないし、もうけもない。しかし、「今だけ、自分だけ、お金だけ」といった価値観から離れて、人のために活動できたことは、私という人間作りに役に立っているだろう。この機会を与えていただいた土井先生はじめ他のスタッフの皆さんに心から感謝したい。

（上田市立西小学校）

1．7　「信大YOU遊サタデー」の設立に関わって　――――――――――――　宮澤弘至

土井先生が信大に赴任され間もない頃、私は大学院生として先生のゼミに参加し、教育実践について学ばせていただきました。先生の教育実践への熱い思いは今でも忘れることはありませんが、当時、確か先生は大学と教育現場をつなぐ試みを考えておられたと思います。また、

週休2日制が現場に導入される等の要因から「信大YOU遊サタデー」を構想されました。院生だった私に「高校生を対象とした講座を開きたい」との要請がありました。そして、教員を志望する高校生対象に教育学部を紹介する講座を担当しました。北信地区の高校に出向き講座への参加を呼びかけましたが、参加者は2〜3名位だったと思います。その後、この講座に参加された方が教育学部目指して勉学に励んでいるという話を聞き、たいへんうれしくなりました（教育学部に入学したかもしれません。記憶が確かではありません）。現在この講座はなくなってしまいましたが、「信大YOU遊サタデー」が発展されていったことは喜ばしい限りです。多くの学生が学問と現場とをつなぐ場として学び経験されたことと思います。そして、先生の礎である『人間愛』の大切さを理解できたのではないかと思っています。もちろん、私も教育実践の現場で大切にしていることです。先生には多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。感謝しております。今後も先生が益々のご発展をされることを願っております。　（小諸市立小諸東中学校）

1．8　私の中に生き続ける「信大YOU遊サタデー」教育実践 ―――――― 山﨑重幸

教員になって早16年。様々な学校に赴任し、様々な子ども達と出会った。共に笑い、共に泣き、共に歌い、共に駆けた。私は教師という仕事が心から好きである。元々教師を目指して教育学部に進んだ訳ではあるが、この仕事に就くことを明確に意識した一つのきっかけが『信大YOU遊サタデー』であった。当時大学3年だった私は、サークル活動で行動を共にしていた渡辺一博先輩に誘われ、土井先生が考案された新企画『信大YOU遊サタデー』の詳細を伺いに行った。地域の子ども達をキャンパスに呼んで行う新しい教育実践企画。教育実習とは違い、自分の得意とする分野で自由に子どもと向き合いながら、その分野の楽しさや良さを伝えるという内容に胸が躍った。私は第一回目に「これで君も名カメラマン〜上手に格好良い写真を撮ろう〜」という講座を企画した。集まってくれた小学生と共に、教育学部のキャンパスを巡りながら様々な花や虫、校舎や車等を撮影していった。その際、写真撮影の大事な知識である絞り・シャッター速度・アングル等について資料を見せたり、実際にファインダーを覗いて比較させたりしながら写真撮影の楽しさを味わってもらった。「絶対格好良く撮れてると思う!!」と目を輝かせながら帰って行った子ども達の姿が今も目に焼き付いている。後日、現像した画像をそれぞれの子ども達に郵送したが、それを見た子ども達はいったいどんな顔をしただろう。それぞれの親とどんな話をしただろう。まだフィルムカメラ全盛の時代、現像されたプリントをわくわくしながら開いていた頃の講座である。第二回目には「アルミを使ってオリジナルネームプレートを作ろう」という講座を企画した。子ども達に発泡スチロール板でネームプレートを作ってもらい、持参したアルミ缶を溶かして流し込み、自分だけのアルミネームプレートを作るというものだった。子ども達は夢中で発泡スチロール工作に取り組み、可愛い花やキャラクター等を切り抜いたり、飾りを付けたりしながら作品のベースを作り上げた。それにアルミを流し込む場面では、私が釜でアルミ缶を溶かす様子を見ながら、「すごい！アルミ缶ってこんな風に溶けるんだ!!」「缶が銀色の液体になった!!」等、皆驚愕の声を上げた。できあがったネームプレートを手に取った時の彼らの表情・歓声。その弾けるような笑顔と声もまた私の目や耳に焼き付き、今も鮮明に覚えている。信大YOU遊サタデーの講座を企画・実践させていただき、私は子どもにものを教えることの楽しさや喜びを強く実感した。この時、絶対教師になろうという思いを更に強くした訳である。そして教師になった現在も、この時の経験が「総合的な学習の時間」を構想する際のベースになっていると感じる。子どもは何に興味を抱くか、どのような場面を設定すると材にのめり込んでいくか、どんな場面でどう待つことで子どもの意見を吸い上げ、活かすことができるか。前任校である伊那市立伊

那小学校に勤務していた際、総合的な学習の時間に関する研究を深めてきたが、そこでもYOU遊サタデー実践の際に考えたことを何度も振り返りながら考えた。自分は子どものどのような姿を求めているのだろうか。子どもが自ら動き出すために必要なものは何だろうか。教鞭を執る者の永遠のテーマとも言えるだろうが、そのヒントを学生時代に得ていたことが何より嬉しく思える。この素晴らしい機会を与えてくださった土井進先生に心から感謝したい。学生が自分の頭で授業（講座）内容を企画し、展開を考え、実際に子ども達とふれ合いながらその子達の学びを実感していく。これは学生にとって本当に貴重な学びの場である。いくら企画が素晴らしくても、頭脳をフル回転させて指導案を作っても、子どもが輝かなければ良い授業（講座）にはならない。教師になる前に、諸学校の教壇に立つ前に、是非全ての教育学部生に体感して欲しい教育実践である。私が鋳造して作り上げた銅製の『YOU遊サタデー初代印』、その予備用複製は今も私の机上に鎮座している。印鑑の把手として取り付けた魚は、いつも穏やかに私の教育実践を見つめている。失敗も成功も全てありのまま、つぶらな瞳を輝かせながら。

（伊那市立長谷小学校）

1．9 「YOU遊サタデー」と出会って

坂本真哉

YOU遊サタデーの創設からかかわらせていただき、そして多くのことを学ばせていただき本当にありがとうございました。私がYOU遊サタデーに出会ったのは大学2年生のときでした。大学に入った頃の私は、教育学部には入学したものの子ども達と関わったことがなく、子ども達にどのように関わっていけばいいか、何を話しかければいいかということさえ分かりませんでした。そんな時に遊びにいった土井先生の研究室でYOU遊サタデーの話をきき、私はすぐに参加を決めました。別に何ができるというものがあるわけでもないですが、子ども達に関わることが自分の糧になるような気がしたからです。私が担当させてもらったのは「小麦粉粘土」の講座でした。小麦粉に水を入れて粘土状にして、感触を楽しんだり、形を作ったりします。特に形を作ったり、何かを学んだりするのではなく、時間いっぱい子ども達と粘土をこねて遊びました。そこで学んだことの一つは保育園や小学校低学年の子ども達の指導の難しさであり、二つ目に3〜7歳の子ども達を指導する楽しさでした。その後、私は幼児教育や保育のことを学んでいくことになるのですが、この小麦粉粘土の経験もそのきっかけの一つになったと思います。

今、私のクラスには信州大学教育学部の1年生の学生さんが授業の一環として時々きてくれています。もちろん、普段の学校生活の中にきてもらうので、子ども達が楽しく活動している場面を見るだけではなく、時には私が子ども達に厳しく接している姿も見ることになります。それでも教師になることに意欲的な姿を見ていると、現場に出て実践を知ることは大切だなと感じるとともに、YOU遊サタデーなどで培ってきた「学生のうちから子ども達と接する機会をもち、子ども達から学ぶ」ことが息づいているなと感じます。私は、教師を目指す人には多くの実践を見て、様々な子ども達と関わる機会をもってもらいたいと思っています。その中で、いろいろなタイプの子ども達がいて、いろいろな関わり方があることを知ってもらいたいと思います。私自身もYOU遊サタデーを通じて、多くの子ども達に関わる機会をもらいました。講座での一人一人の子ども達との思い出は、今でも大切な宝物であり、今の教育実践につながっていると思います。最後になりましたが、このような教育実践の場を作ってくださった土井先生に本当に感謝です。これからも教育学部で学ぶ後輩達に実践の大切さを伝えていただきたいと思います。そして、現場に立つ私たち卒業生にもご指導をいただければありがたいです。よろしくお願いします。

（松本市立岡田小学校）

2．第2期（平成7年度）：先輩からの引き継ぎと発展　－卒業生10名の省察－

2．1　YOU遊サタデーでの実践から得たこと　――――――――　内山(加納)文香

信州大学では、恵まれた環境の中で、たくさんの経験を積むことができた。その中でも、YOU遊サタデーは、私にとって、物事を決定するときに必要な、自分の判断基準の引き出しをたくさん作ることができた場であった。私がYOU遊サタデーの門をたたいたわけは、「子どもたちと接してみたい。何かできないかな。」という、漠然とした思いからだった。同じ思いの仲間たちと企画運営することは、とても楽しくやりがいのあるものだった。天候の問題、安全面の対策、スタッフの役割分担、一日の流れなど、どうしたら良いのか迷った時、仲間と話し合い、共に活動することで、活動の目的や大切にしなければならないことが分かり、具体的な行動を起こすことができたことを思い出す。目の前に子どもたちがいる、という恵まれた環境の中で、仲間と共に実践することを通して、物事を判断する時にどのようなことを大切にしたらよいのか、ということを考え始めた場であった。現在も、あの頃と同じように、試行錯誤して様々なことを判断し決断しながら実践を重ねている。YOU遊サタデーでは、たくさんのお力のある方にお会いすることができたことも大きな財産である。土井先生を始め、多くの先生方が、前向きで行動力があり、温かかった。地域の方々、先輩や後輩、たくさんの皆さんのおかげで今の自分があると心から思う。これからも、教えていただいたことを大切にしながら、成長していきたい。

（愛知県名古屋市立平和が丘小学校）

2．2　今日は昨日の未来，今日は明日の原点・・・　――――――――　丸山和利

この活動に参加した動機は、私の場合、多くの方と違うのであろう。教育実習を終え、次なる目標として、教育学部の大学祭である「まほろば祭」を運営する側になり、多くの学部生を巻き込んで盛り上げたいと考えていた。発足してわずか1年ほどで実績と認知度を上げ、多くの学生が参加していた「信大YOU遊サタデー」に自らが参加すれば、運営における組織作り等を内部から学べ、また、そこで知り合う学生に宣伝ができるのではないかと考え、仲間に入れていただいた。入口はこんな私だが、実際に加わってみて、学ぶことの多い活動であったので、積極的に参加したい気持ちが強まり、4年生のときには副実行委員長を務めさせていただいた。集まってきた子どもたちには、楽しく安全に、そして「やって良かった」という満足感をもって終えられるようにするのだが、この目標を達成するためには、自分が任されたことにベストを尽くし取り組むのは当然である。それに加えて、周りを見て全体が円滑に進んでいくにはと考えながら、担当以外のところにもどんどん加わって支えていく姿勢が、この活動にはあった。大学卒業後からの11年間の中学校勤務では、自分の教科、学級、部活、生徒、進路の各指導と校務分掌で精一杯の状態であった。その後、年齢的にも中堅とよばれる頃に小学校で専科となり、ようやく周りが見えるようになった。学校では組織で仕事をしているのだから、職員間のチームワークが絶対必要である。この活動で感じたことが学校現場ではまさに必要だとつくづく感じるようになった。子どもへの関わり方や職員同士の連携は、今の現場での基盤になっている。（松本市立梓川小学校）

2．3　たかが「笹」、されど・・・　――――――――　新井清規

15年以上前に実践センター前で、土井先生から「何かやってみましょう。何かあったら、ぼくが責任をとりますから」と少し甲高い声で誘われ、第2回「信大YOU遊サタデー」で笹舟つくりをさせていただきました。講座をしていた当時は学生だったこと、夢中だったこともあり、当時は、たかが「笹」と感じていました。振り返ってみるとその時の経験が今では大きな実践となり、されど「笹」になっています。いつの間にか地域教材から、どんな学習活

動ができるのかを学校現場で実践し、地域教材について現職教員派遣という研究をさせていただいております。「縁」とは不思議なものです。実践センター前で声をかけられていなかったら、きっと、地域教材にも出会っていなかったと思いますし、地域教材についての研究もしていないと思っています。YOU遊サタデーに参加をさせていただき、そして現職派遣として受け入れていただいた土井先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

（信州大学大学院教育学研究科）

2．4　YOUサタの魅力：ほんの1回参加すれば　――――――――　鈴木（小林）理英

YOUサタの活動に誘われ、「ほんの1回参加すれば」ぐらいの感覚だったのが、「炊き出し部隊」を始めることになり、自分で講座を開いたり、書記局の仕事をやったりすることになり…予想とは違う展開になっていきました。「なぜ、YOUサタに関わっていたのかな」と考えますと、先輩たちの考え方、そして、何と言っても、土井先生のお人柄に引っ張られていったのだろうと強く思います。先輩たちは、「自分たちが教えるべき側に立つ経験が大事。学ぶことがたくさんある」との考えを持っている方たちでした。まじめくさってやっている訳でもなく、普段の会話にさらっと出てきて、次々にいろんな講座を開く人が集まることに、驚きました。そして私は、自分が教師になったときのことを意識して大学生活を過ごすことになりました。YOUサタへの参加は、土井先生からのお誘いでした。いつも優しい言葉で接してくださり、どんな形でも何か経験すると、そのことを恥ずかしくなるくらい褒めてくださいました。そして力強く、「あなたの力になったのですよ」と、自信を持たせてくれました。無責任なことや、相手に失礼な行為をしたことがあったときには、本気で怒り間違っていることを教える姿も見ることがありました。今のわたしが教師として大事にしているのは、土井先生の姿そのものです。現在の私の土台となっているものは、YOUサタで経験したことだと、改めて感じています。　（佐久市立切原小学校）

2．5　「信大YOU遊サタデー」が教えてくれたこと　――――――――　角田正和

私は第2期信大YOU遊サタデーに参加し、主に事務方のメンバーとして参加者の受付やアンケートの作成・集計などの活動を担当しました。私たち教育実習を終えた学生の「教育実習後も児童・生徒と関わり、教育実践を積む場がほしい」との願いに応えるべく、土井進先生のご尽力により実現したYOU遊サタデーですが、立ち上げ当初は学内外の理解・協力を得るため、大変なご苦労をされていた様子は端から見ても伝わってきました。そのような中でも、土井先生は多方面に頭を下げ、調整を図られ、幾多の困難を乗り越え、私たち学生の願いを叶えてくださいました。まさに、「優れた教育実践の陰には、その人の努力はもちろんのこと、多くの人々の理解と協力がなければ実現しない」ということを、背中で教えていただいたと思っています。中堅教員となった今、この文章を書きながら、YOU遊サタデーが教えてくれたことを再確認するとともに、自分の今後の役割を改めて考えることができました。

（岡山県倉敷市立西中学校）

2．6　YOU遊サタデーの思い出と教育現場　――――――――　宮沢　元

スライムを作っている時の子どもたちの目の輝きは、貴重な宝物です。あの当時、子どもと関わる機会は教育実習しかありませんでした。子どもと関わる機会を持ちたいと思い参加したYOU遊サタデー。実際に子どもと関わってスライム作りをしてみると、子どもたちの年齢差や個人差があって、満足してもらうには工夫が必要なことがわかりました。スライムの作り方を簡単にするにはどんな道具を使ったらよいかを考えて教材研究したり、時間配分など講座運営の仕方を考えたりしました。私が試行錯誤を繰り返した企画を、子どもたちがとても楽しそうに目を輝かせてくれた時の充実感は今でも忘れられません。YOU遊サタデーと教育現場を

重ね合わせてみると、私は今でも同じことを追求しているのだと思います。授業の中で子どもたちが目を輝かせて取り組んでいけることを目指して、試行錯誤を繰り返している毎日です。

（長野市立鍋屋田小学校）

2．7　教員としての出発点の「YOU 遊サタデー」　吉澤正彦

「YOU 遊サタデー」というものが始まるということを聞いたのは、私が 3 年生で教育実習に行く直前でした。教育実習だけでも不安があり、興味はあったもののその年は参加しないままで終わってしまいました。4 年生になった年に同じ学科の友人から、「竹とんぼで講座を開いてみたらどう？」と誘ってもらい、小学生とふれあう機会ができました。大勢の友人がスタッフとして参加してくれ、当日来た子どもたちも竹とんぼを完成させて満足してくれ、講座を成功させることができました。子どもたちの前に立つということで緊張しましたが、やはり子どもたちと一緒に活動することは楽しく、学生時代にこのような機会があったことはとてもありがたかったです。そして、「YOU 遊サタデー」という機会を与えてくださった土井先生、土井先生の研究室で全体の調整をしてくれていた運営委員、そして、一緒に竹とんぼをやってくれた講座のスタッフという大勢の方のおかげでできたことに感謝です。今思うと、これは学校の職員間の関係も同じで、現任校でも大勢の方のおかげで自分のやりたい活動が子どもたちと一緒にできていることを感じます。多くのことを学ぶことができた「YOU 遊サタデー」に感謝です。　（大町市立大町南小学校）

2．8　他学部の仲間たちと命名秘話　小谷将紀

①他学部の仲間たち：私は、信大 YOU 遊サタデー発足 2 年目に、「君こそスターだ」という講座を開かせてもらった。参加した子どもたちと共に、歌や踊りを練習し、自分でステージ衣装を作り、最後にはみんなの前で発表しようという、スターになりたい子どもたちと私の希望をともにかなえる夢のような企画であった。さて内容はともかく、この講座開設には私のもう一つの狙いがあった。それは、日頃子どもたちと関わることの少ない他学部の仲間を巻き込もうというものであった。格闘技を通じて知り合った仲間であるが、この日ばかりは優しい表情で子どもに接していたことが私にとってうれしいことのひとつだった。子どもと関わる喜びを皆で分かち合う経験は、今の学校現場での私のやりがいにもつながっている。私も感じた YOU 遊プロジェクトでのこうした経験が、教師を目指す学生の原動力になっていることは間違いない。

②命名秘話：私は、信大 YOU 遊サタデー発足には参加することができなかったが、命名された瞬間には幸運にも立ち会うことができた。それは、善光寺仁王門近く桜枝町の焼肉店での出来事だった。なぜそうなったのかは覚えていないが、おそらく土井先生に御馳走してもらえるということで、初代実行委員長山口氏の誘いにホイホイついて行ったのだろうと思う。3 人は当時話題の週休 2 日制での土曜日の過ごし方について話しながら、おいしい肉をいただいていた。お肉のパワーを借りながら、その席で YOU 遊サタデーの卵は産まれた。それでは、名前はどうするかということで、高山村にある温泉施設の名前をお借りして「YOU 遊」、土曜日を強調するために「サタデー」を合体させたと記憶している。他に候補として、「サタデー・モーニング・フィーバー」「どきどきどうしようび」と、どれもどこかからいただいたようなものであった。土井先生には大変失礼ではあるが、命名はこのように思いつきに近いものであったのは真実である。しかしながら、18 年もの間続くビッグプロジェクトに発展したのは、ひとえに土井先生のお人柄の賜物であることは間違いない。　（山形村立山形小学校）

2．9　信大 YOU 遊サタデー実践の経験から学ぶ　松永泰幸

①　私が最初考えた「子供と一緒にサイクリングに行く」という講座は、残念ながら安全面

からできず、それに代わるものとして「自転車のメンテナンス講座」を設けたのですが、たしか、人が集まらずにできなかったような…。ですが、当日1人きてくれたのか、他の講座が終わった子の中にやってみようという子がいてくれたのか、記憶が定かではありませんが、その子の自転車のチェーンに油を差したり、パンク修理のやり方を一緒にしたのを覚えています。自分が好きなこと、やってみたいことで子どもと一緒に遊べたり関われたらとても楽しいと思います。しかし、そのためにはいろいろな工夫や準備をしなくてはいけません。自転車メンテナンスの講座では、私の工夫も準備も、とても不足していたと今感じます。今、学校の現場でしている教科指導も学級経営も、部活や行事などの活動も、みんな同じだと思います。自分の好きなことで子どもとふれあう実践を通して、学校現場の活動に通じている大切なことを学べる貴重な活動だったのだなぁと今振り返れば感じています。

② 今、振り返ってみると大学時代、教育学部なのに現場に出て通用する実践的な技能を学べないことに対してとても不満を持っていたのをよく覚えています。体系的に学問として学ぶことも大切だということもわかるのですが。なので、つまらなかったのであまり学校に行っていませんでした。現場に出てみると、やはり生徒や保護者と向き合って働くときに、教科指導も学級経営も部活指導も何もかも技能が不足していると思いました。もっと学んでおきたかったと感じました。しかし、現場に出てから、不足していた技能を身につけるためにしてきた努力を今振り返ってみると、教科指導や学級経営、部活指導や行事などすべてで共通していたのは、あのときのYOU遊サタデーでやろうとしてできなかった「自分の好きなことの楽しさを伝えるためにどうやったらいいか」というための工夫をし準備をすること、そのための仕事の段取りの手順を考えること、だったと思います。大学の講義の内容が変わったとしても、教科指導、学級経営、部活指導、行事の計画など実践ですぐに使える技能を身につけられるわけではありません。だから、自分に足りない力を身につけていくためのやり方を身につけておくことが大事だったと思います。それを学べる機会がYOU遊サタデーだったと思います。子どもとふれあえる機会が大学では教育実習以外では無かった当時、自分の好きなこと、やってみたいことでふれあえる機会があるなんて素敵なことだったと思います。サイクリングができなくても、自転車メンテナンス講座でもっと真剣にやっとけばと思いました。だから、結局大学の講義のせいではなく、そういう努力を当時の自分がいろいろな場面でしていなかったのだと思います。学ぶ意欲のあった人は、サークルなど大学以外の活動でもやっていました。子どもとふれあう実践を通して学ぶということは、教師を目指すものにとってはとても意義があると思います。良い結果にしろ悪い結果にしろ、経験があれば、振り返って学ぶことができます。とても貴重なチャンスをいただいていたのだと思います。ありがとうございました。

(安曇野市立穂高東中学校)

2.10 今、思うこと ―― 小坂 和

私が、信大YOU遊サタデーに参加したのが、2期(平成7年度)。当時、友だちに勧められ、松本キャンパスで初めて行ったときに講座を開かせていただいた。この活動の趣旨からいって、子どもたちを募っての講座が主流であったかと思うが、私は、あえて「親子でバトミントン」という講座を開いた。さまざまな事情から、休みの日ですら、なかなか親子で過ごす時間がとれなくなってきているのではと、当時考えていたことを思い出す。休みの日にスポーツや趣味を親子で共有できる時間を提案し、小さなことかもしれないが、この講座をきっかけに親子で過ごす時間を大切にしてほしいという願いを込めていた。そのころから、もうかれこれ15年以上過ぎた。子どもたちが安心して学校生活をおくるためにも、親子で過ごす時間を大切にしてほしいという思いは変わらない。しかし、自分が親となった今、自分自身

が親子の時間を大切にしているかというと…。実践していない自分に、今回は反省の機会を与えていただいたように思う。

（木曽郡大桑村立大桑小学校）

3．第3期（平成8年度）：21 世紀への展望　― 卒業生 8 名の省察 ―

3．1　教育の土台となった YOU 遊サタデー　―――― 浅沼康理

今、思い起こせば 10 年以上も前の話になるが、教育学部でありながらなかなか子どもたちとの関わりの機会というのはそんなになかった。その中で、学生の自主活動の場であり、子どもたちとの関わりの場となっている「YOU 遊サタデー」のとの出会いがあった。最初は子どもたちの関わりを求めて参加した YOU サタであったが、やっていくうちに志を同じくする仲間とともに活動することの喜びを感じるようになっていった。やがてこういった活動の裏側には組織の運営や膨大な準備があって成り立っているということが見えてきた。私自身も情報管理・運営という仕事を任され、大変さそのものよりも充実感にあふれる日々を送らせていただいた。それも、私以上に情熱を注ぐ仲間がおり、そういった仲間とともに活動できたからこそである。この経験が、今の現場でも役立っている。私にとっては貴重なひと時であった。こういう場を与えて下さり、そしていつまでも見守ってくださった土井先生、情報機器について教えてくださった東原先生には感謝の想いでいっぱいである。　（佐久穂町立八千穂中学校）

3．2　反省を繰り返しながら作り上げた YOU 遊サタデー　―――― 小木曽雄亮

私は 1 年生の時から YOU サタに参加していましたが、2 年生になって運営に関わるようになって驚いたことがありました。それは、受け付けはもちろん安全面やけがのことなどについて、こと細かく参加者のことを考えた仕事を学生が考えてやっていたことです。子どもたちが来れば、駐車場から受付まで連れ添って案内し、一日が終わって保護者の下に帰るまで、子どもが安心して遊べるように様々な配慮を行っていたことにとても驚いたのです。一回一回終わるたびに反省会を行い、十分な計画だと思っていたことの中に足らなかったことがあったことを振り返り、次の回には新たな視点を配慮事項として取り入れていったことが、学生としての研修だったのだと思います。教員になって、日々の教育活動の中で様々な配慮をしながら子どもたちの指導をしている中でも、うまくいかないことは多くあります。そんな時、どうしたらうまくいくだろうかと自分自身の指導を反省することができているのは、YOU サタのおかげだと思います。自信をもって言えることは、子どもたちが笑顔で学校に来られるために、子どもが一人で悩まないように気をつかって毎日の指導をしていることです。

（飯田市立浜井場小学校）

3．3　YOU 遊サタデーから学んだこと　―――― 登坂（佐々木）美恵

「こんなことを、子どもたちと一緒にやってみたい」と、楽しいアイディアは、様々に浮かんできた。ただ、肝心なのはそれからだった。スタッフで、「これは、子どもたちにとって難しいのではないか。危険があるのではないか」などの話し合いを行い、細部にわたりよりよく改善していく。例えば、開会式、閉会式ひとつをとってみても、「まわりで見ているスタッフが立っていたのでは、子どもたちに圧迫感を与えるのではないか。子どもたちと一緒に座って見よう」と決めたりした。そんな子どもたちの目線に立った過程を経験できたことが、今の私の財産だと感じる。これからも，常に子どもたちの目線に立てる教師でありたいと思う。

（長野市立信州新町中学校）

3．4　今 YOU 遊サタデーを振り返って　―――― 塚原（土屋）淳子

土井先生からいただいたお手紙＆お電話、久しぶりにあの頃を思い出しました。YOU 遊サタデーを引退して早 15 年が過ぎ、いつのまにか我が子を「YOU 遊世間」に送る世代になっ

ていました。YOUサタではステンシル講座のスタッフ長、また、事務局の仕事や開閉会式などもやらせていただきました。遅くまで仕事をしたり、時にはお酒を飲みながら先輩方の熱い思いをお聞きしたり…充実した日々は今となっても楽しい思い出です。卒業後、私は小学校に新規採用され、初めての担任が4年生でした。右も左もわからない中、明日の授業の準備を必死にした数ヶ月。教育実習のような睡眠時間でした。学生時代もっと先のことを考えて勉強しておけばよかった、授業に役立つ実践や教材作りをしておけばよかった。引き出しが何もない自分が恨めしい…後悔の日々でした。しかしそんな中、担当となった「ステンシルクラブ」は、自分の特技が生かせるちょっと安心できる場でした。また、実践記録が役立ち、「How to サタデー」を見ながらスライムやアイスクリーム作りを行ったりしました。YOUサタの経験が生かせたなと思って生活していたことを思い出します。さてしかし、今振り返って思うことは、YOUサタを通して学んだこと、それはそんなテクニック的なことではなく、教師としてのあり方〜子どもと向き合う姿勢（それは目線を合わせるように腰を低くしてというテクニック的なことでなく）、人間関係、同僚とのチームワーク、人として恥じない生き方をすることなど等…〜だったのかなと思っています。当時、土井先生に連れて行っていただいた食堂で「魚をきれいに食べる人と結婚しなさい。そういうのは生き方に出るから…」、「食事は『食う』ものでなくて『いただく』もの」と、先生がお話されていたことがありました。今思えば、先生の生き方が表れた深い言葉だったのだと思います。土井先生と出会えたこと、そして、教育に対し熱い思いや深い考えを持った先輩や同僚と朝まで語り合ったこと…が、YOUサタの経験で得た何よりも貴重な財産なのかもしれません。日々のバタバタの中、こんなふうに考えたこともまた遠い記憶の奥底に眠ってしまうのかもしれませんが、忘れた頃に思い返し、また、みなさんのご活躍されている姿を想像しつつ、私も自分を磨いていけたらと思っています。拙い文章で充分に伝わらなかったと思いますが、ご一読ありがとうございました。

（中野市立南宮中学校）

3．5　YOU遊サタデーの「記憶」　――――――――――――　中村典史

私がYOUサタに関わってから13年経った。当時の出来事はほとんどが記憶の遥か彼方に消えつつある。しかし教員として基本的な考え方を形成したいくつかの経験は、今も脈々と私の中に息づいている。その中で最も意識されているのは、「子どもに機会を作る」ということである。私自身、土井先生に様々な機会を作っていただき、後押ししていただくことで、通常ではできない経験を積むことができた。この記憶は、教員になっても子どもたちに様々な経験をする機会を作りたいという思いとなり、今も息づいている。YOUサタの企画・運営で学んだことも、大いに活用されている。子どもたちと行事を考えるたびに、「シミュレーションやろうか」と言いながら、当日の動きのチェックをしている。その時思い出すのは、土井研究室に集まってみんなでワイワイシミュレーションしていた風景である。YOUサタの「記憶」は確かに私の中に根付き、力となって今の仕事を支えてくれているのである。

（愛知県名古屋市立楠小学校）

3．6　土井先生　熱き心に　ありがとう　――――――――――――　竹下雅道

「学生時代」――

〈友集う　心ひとつに　YOUサタへ〉

学生時代にYOUサタとの出会いは、偶然でした。子どもと関わる違うサークルに入っていて、YOUサタの活動には、少し反抗的な態度をとってしまっていたと思います。今思うと、恥ずかしくなってしまいます。しかし、YOUサタで出会った仲間たちの志『子どもが好き』は皆同じでした。

「山留指導員⇒教員時代」――

〈若き日も　子どもの前では　一人間〉

元々社会教育の道を目指した私は、大学卒業

後、育てる会の山村留学の指導員となりました。子どもたちと寝食を共にし、子どもたちと真に向き合った日々は、本当にかけがえない4年間でした。退職後、3度目の採用試験でようやく合格し、今、子どもたちの前に立っています。YOUサタで開いた「こまの講座」は、子どもたちの前に立つ原点であったように思います。こうして教員になるまでに、支えて来て下さった人たちへ本当に感謝です。そして、何よりも土井先生に出会えたことに心から感謝します。心からありがとう。（大町市立美麻小学校）

3．7　「信大YOU遊サタデー」を通して学んだこと ―――――――― 知野真里子

月日が経つのは早いもので、教師になって16年が経とうとしています。実際に教育現場に身を置いてみると、仕事で要求されることは、大学の講義の学問的な内容は勿論のこと、保護者への対応、地域との関わり等、多岐にわたっていました。新卒当時、戸惑うこともあった中、「YOU遊サタデー」で培った経験は実際に役立ち、そこで出会った仲間達との交流は心の支えとなりました。その経験は、今の私の一部でもあります。一度削減された指導時数も増加し「ゆとり教育」が転換されようとしている今、土曜開校している学校もあります。土井先生の立ち上げてくださった「YOU遊サタデー」は、そのネーミングセンスの良さもさることながら、先を見通した素晴らしい事業だったことが分かります。20年近い長きにわたる功績と土井先生のお人柄による良い影響は、甚大なものだと思います。土井先生、本当にありがとうございました。（長野市立西部中学校）

3．8　YOU遊サタデーにおける経験とチャレンジスクールにおける実践 ――― 北島茂樹

「YOU遊サタデー」での経験が、自身の教育実践に特に活かされたと感じたのは、私が高校で教諭をしていたときです。私の前任校は、都立大江戸高校という「チャレンジスクール」でした。チャレンジスクールとは、東京都が新設した三部制（昼夜間定時制）の単位制高校で、不登校経験者・他校中退者などを主なターゲットとする総合学科の高校です。私が担任していたクラスでは、中学校生活をきちんと経験したことのある生徒は1人だけでしたし、中には小学校から学校に通っていない生徒もいました（中退者の中には成人もいました）。そうした生徒ひとりひとりに、どうやって居場所を作っていったらよいのか、人と人との触れあいをどのように経験させていったらよいのか、毎日が試行錯誤の連続でした。クラスの生徒の中には、後に皆勤賞をとった者もいましたし、大学に進学した生徒もいます。そうした試行錯誤の中にもYOUサタでの経験が息づいていたのだと思います。（筑波大学附属中学校）

4．第4期（平成9年度）：学生の自発・能動の取り組みによる力量形成
―卒業生9名の省察―

4．1　YOU遊サタデーから得た財産 ―――――――――――――――― 登坂武人

YOU遊サタデーが始まって5年目。私は実行委員長をさせていただいた。この時の経験が私の財産である。YOUサタ運営の根幹に関わることができたことは、私にとって非常に大きかった。スタッフ会議を開きYOU遊プランを練り上げたり、教材研究をキャプテンと共にしたり、情宣活動でマスコミの方と関わったり、参加受付の対応で保護者の方と関わったり、開閉会式ですべての参加者と関わったりと。当日は本部テントに詰めていることがほとんどだったが、当日を迎えるまでの様々なことは、運営の中心に関わっていないとなかなか経験できないことばかりである。そして、何よりこの段取り部分で失敗したことや試行錯誤したことが、今の学級経営や行事計画の礎になっているように思えてならない。土井先生をはじめ多くの仲間に出会えたことも財産であることは言うまでもない。（伊那市立西箕輪中学校）

4．2　自分と子どもたちとのかかわりを振り返って（Kさんの姿から）　――――　眞島紀章

教員になり、早いもので十数年が経つ。現在は毎日のように子どもたちとかかわる日々であるが、学生時代は、YOUサタや教育実習以外に子どもたちとかかわる機会はなかった。現在、信州大学教育学部では一年次から子どもたちとかかわる場がカリキュラムに位置づけられているという。大変意義あることであると思う。教員を志すにあたっては、子どもたちと接する中でさまざまな経験を積むことは大切であり、そういった中で、子どもたちの見方やかかわり方を学ぶことができるのではないかと考える。自分も、教師になるにあたり何かプラスになることがあるだろうという考えで、YOUサタにかかわるようになった。さて、これまでにYOUサタ、教育実習、そして教員になり、小学校、中学校で子どもたちとかかわってきているが、最近になり、これまで子どもの思いや願いを本当に理解しようとしてきたかと思うようになった。児童生徒理解が大事ということは、学生時代から聞いていることであるが、本当に子どもたちのことを分かっていただろうか、子どもたちの思いや願いを大事にしてきただろうかと反省する。現在、わたしの学級にKさんという男子生徒がいる。Kさんは、人とかかわることが好きな生徒で、中学部に入学したころは、着替えのために更衣室に行くときなど、常にわたしと腕を組みながら歩くことが多かった。そのKさんも、二学期の終わりくらいになると更衣室まで一人で歩いていくようになった。中学部2年生になり、一人で更衣室まで歩いていく姿は続いているが、さらに、着替えのかごから運動着を取り出し、着ていた制服を脱ぎ、運動着を自分から着始め、着替えをした後には、自分で制服を畳みかごに入れ、上履きをはいて教室へと戻っていくといった姿が見られるようになった。以前は、「Kさん着替えるよ」と声を掛けたり、運動着を手渡したりなど、わたしの働き掛けも多々あったので、そういったKさんの姿を微笑ましく見守っていた。しかし、これまで長い間余計なことをしてきてしまったのかもしれないと感じることもある。Kさんは、こちらが声掛けをしたり、物を差し出して提案したりしたことを受け入れて活動する姿が多い生徒である。もしかしたら、Kさんが自分で着替えを進めようとしていたのを、わたしの都合やペースを優先させ声を掛けたり運動着を差し出したりしたことで、Kさんの自分でやろうとしていることを邪魔していたのかもしれない。これまで、自分の都合を優先させた指導や支援をしてきたことが多々あった気がする。児童生徒の願いや思いを大事に考え、伸びているものを邪魔しないような指導・支援、自分の都合に走らない指導・支援を心掛けたい。　（信州大学教育学部附属特別支援学校）

4．3　YOU遊サタデーで培われたもの　――――――――――――――――　森下房枝

本校は、平成21年入学生より学科再編し、農業・工業・商業・家庭に関する専門学科を有する県内初の総合産業高校となりました。本校では生産から流通・消費まで産業構造全体を見通した産業人を育成するため、1年次に各専門学科の基礎科目を必履修させ、さらには学科間の連携を推進し、学科の枠を超えた教育活動の展開が期待されています。この学科間連携の取り組みは各学科の教員が広い視野を持ち、自学科の学習内容と他学科の学習内容との接点を探り、横断的なつながりを深めつつ、自学科の発展を目指す学科経営が求められるようになります。私はこの3年間、農・工・商・家の4学科が連携した、特色ある教育活動について研究及び授業実践し、総合産業高校らしい授業づくりを展開してきました。その一例を紹介します。

①校内圃場の作物を利用した弁当献立作成と調理～究極の地産地消の推進を目指して
②地域の特産物「かんぴょう」を利用した学校ブランド「櫻笑（サクラサク）クッキーの開発・販売
③規格外作物の活用～農作物の大量廃棄と消費者の意識との関連性を探る
④校内剪定材を利用した紬の草木染と手織り実習～地域伝統工芸への理解を深める

これらの活動は、校内だけでなく商工会議所など地域の方々との連携・協力をいただきながら進めてきました。YOU遊サタデーは、他学科の学生や先輩、地域の方々からの協力を得な

がら、講座を企画・実践する活動であったと考えます。学生一人ひとりが持っている知識・技術などを有機的に結び付けて子ども（生徒）たちに講座を提供するというコーディネート力が現在に生かされているものと思われます。どのような子どもたちに＝対象、何を伝えたいか＝題材、そしてどのような方法で伝えるか＝教材、それに必要なものは何か＝教具、を考えることは、魅力的な授業展開には欠かすことができません。YOU 遊サタデーでは、これらの一連の作業段階を経て講座を展開しなければならないことから、この経験が魅力的な授業を考える力＝発想力を養うことにつながるものと考えます。様々な子どもたちと関わる学生時代の経験は、人とかかわる喜びを知り、子どもたちが持つ力を信じ、期待し、伸ばしたいと思う、教師には不可欠な教育的愛情の魅力（魔力？）を経験することにもなるものと思われます。現在の私の教育活動の原点ともいえる YOU 遊サタデーに参加できたこと、また学生の活動にご理解ご協力いただいた大学・地域関係の皆様に、御礼申し上げます。また、学生の皆様にとって、YOU 遊の活動が今後の教育活動に有意義なものとなるよう願っております。

（栃木県立小山北桜高等学校）

4．4　YOU 遊サタデーで学んだ「段取りの大切さ」　太子（澤田）奈奈

大学を卒業し中学校の教員になって 10 年以上がたちました。YOU 遊サタデーで得た事で、現場で役に立っていると感じた事は、段取りの大切さです。もともとは先輩が開設した「籐かご作り」のスタッフとして参加し、翌年にリーダーを引き継いだのですが、初めは何から手をつけたらよいかわかりませんでした。そこで先輩のアドバイスから、まずは当日の流れを先にイメージしてから、そのために必要な材料や道具、スタッフに必要なスキルなどを考えることにしました。一度スタッフとして参加した経験から、よかった点や改善すべき点がわかり、未経験の事に比べるとイメージしやすかったと思います。籐材の買付け、道具の準備、編み方の説明書づくりや、スタッフ向けの講習会など、講座を進めるための段取りを全て考えて実行していくことは、大変でしたがやりがいもありました。念入りに準備したおかげで、講座の当日はすっかり先生の気分で、楽しみながら子どもたちに教えることができたのでした。このような力はまさに日々の授業を組み立てることと同じでした。事前に実験をして経験しておかなければ、必要な道具やスキルもイメージできず、授業がうまくいきません。経験をもとにしていかに当日をイメージできるかが、授業にとても必要なことなのだということを、身を持って学びました。この経験があったからこそ、教えることに対して自信がつき、教員になることにも自信がついたのだと思います。さらに忘れられないのは、あのときの先輩や仲間たちの熱意ある姿です。この活動は強制的ではなく、自ら志をもって参加しようという「有志」による活動でありました。私も最初は先輩にすすめられて、なんとなくやってみようかと、安易な考えで始めたものでしたが、仲間のやる気のある姿に刺激され、一緒に頑張ることができたのだと思います。良い仲間に巡り合えたことも、YOU 遊サタデーで得たかけがえのない経験でした。そして、誰よりも熱意に満ちあふれ、いつも熱心にアドバイスしてくださり、温かく励まし続けてくださった土井進先生に、心から感謝しています。ありがとうございました。

（須坂市立墨坂中学校）

4．5　教材研究の原点　藤原（小倉）佐知子

私は、原料から物を作り上げることが好きで、出来上がったときの感動をできるだけ多くの人と共感できる講座を、との願いから開講した講座はいくつもあります。そんな中でも「こんにゃく作り」の講座を開くにあたっては、長野市冨竹にお住まいの吉澤さんに大変お世話になりました。「講座長がこんにゃく芋のでき方を知らないわけにいかない」と、ご自身の畑で育てていらっしゃった「こんにゃく玉（2 年物）」を譲って下さったので、当時住んでいた

アパートのベランダに発泡スチロールのミニ畑を作り育てた体験が、後のこんにゃく作りに大変役に立ちました。教員として育休を頂戴していた時には、育児サークルのボランティアとして、こんにゃく作りを多くの母親世代にも伝えることができました。現在の世の中、ネットを駆使したり、また、お金を払ったりすれば非常に多くの情報や素材が簡単に手に入ります。しかし、このようにして簡単に手に入れたものこそ、簡単に自分の頭から離れていくような気がします。自分の足と手を使い、納得いくまで試行錯誤を繰り返す、考えを分かりやすく伝えるにはどんな話し方がよいか仲間に聞いてもらう。このように、「地味」でありながらも「着実」な活動が「YOUサタ」にはあったと思います。まさに、現在の教員生活の「教材研究の原点」が「YOUサタ」にあったように思います。

（木曽町立福島中学校）

4．6　YOU遊サタデーとわたし　――――――――　武井（斉藤）聖子

「教師になりたい」という願いを持って入学した教育学部。そこで、私は「YOU遊サタデー」と出会いました。子どもたちと直接触れ合いたいと、活動に参加しました。今思うと、その時教師としての姿勢の基本を学んだように思います。まず、事前準備の大切さです。決められた時間の中で、子どもたちがどれだけ多くの活動ができるかを考えたり、年齢に応じてできる活動を見極めたりしてきたことです。当時は、それほど深く考えていませんでしたが、今、小学校一年生の担任をしていて、45分の授業を組み立てるときに当たり前のように考えていることです。次に、子どもたちと接する時の視線です。個別に対応する時、立って物を言っても子どもたちは聞いてくれません。子どもの視線に合わせて話をすると、子どもも私の目を見て聞いてくれました。そして、最後に子どもたちが楽しむためには自分も楽しむことが大事ということです。自分が楽しめない活動では子どもたちものってきません。教育現場に立つと、やらなければならないことが山積みで、時に大学時代の思いを忘れてしまうことがあります。でも、三年間の活動の経験は大きく、時々「YOU遊サタデー」での活動を思い出し、初心に帰ることができます。教師になってよかったなぁと思う瞬間は、準備してきた授業に子どもたちが目を輝かせて取り組んでいる姿や、何かに夢中になっている姿を見たときです。これからも、初心を忘れずに過ごしていきたいと思っています。土井進先生をはじめ、「YOU遊サタデー」を立ち上げてくださった諸先輩方に感謝申し上げます。　（千曲市立八幡小学校）

4．7　YOU遊サタデーの活動から学んだこと　――――――――　中條　悟

私は、平成8・9年度のYOU遊サタデーに参加し、主に専門の理科を生かした化学実験の講座を行った。最初は友人に誘われて参加し、スライム作りやシャボン玉の講座を手伝っていたが、4年生となった平成9年には、自分で講座を企画した。このときには、金属の化学特性を生かして銀鏡反応で鏡を作り、また昔の科学者たちが熱中した錬金術の実験の再現などを行った。この講座では反応を鮮やかに起こさせるため、使用する薬品の濃度や温度を細かく調整し、器具の洗浄にも大変気を使った。スタッフとして参加してくれた友人や後輩との事前の打ち合わせや予備実験も何回も行い、特に鏡作りの講座では前日の夜10時までかかって準備を行った。その中でスタッフには大変助けられ、教育活動の中で互いに支え合って協力していくことの大切さを実感した。また、この講座を通して、化学実験の際に配慮すべきこと（事前の準備、薬品の調整や管理の仕方、反応を鮮やかに起こさせるための工夫、事故を防ぐための安全管理など）を数多く学ぶことができた。何より、理科実験を成功させるためには、入念な準備が必要であることを経験を通して学んだことは大きかった。このとき身につけたものが、教員になってからも、そして今も日々の教材研究に生きている。（辰野町立辰野西小学校）

4．8　病院や地域で障害者・高齢者に運動を指導しています　――――――　太田（佐野）美佳

私がYOUサタに参加したのは大学4年、就職に悩んでいたときのことです。「学校だけで

なく、もっといろいろな人たちに運動の効果や体を動かす楽しさを伝えたい、でも今の自分は何ができるのだろうか？」。悩むならまずは行動してみようと思いたち、YOUサタで実践してみることにしたのです。やってみた感想は、私が楽しいだろう、と思っていたことと、参加した子どもたちが楽しく感じることが違っていたことです。指導者の押しつけではなく、参加する人たちが何を求めているのか見極めることが大切だと反省しました。現在は病院や地域で、障害者や、高齢者の運動指導を行っています。自分の思うようには身体を動かせなかったり、心身機能が低下し自信をなくしている方たちに、既存のスポーツを提供するだけでなく、その人に合わせたスポーツや身体活動を考えたり、道具やルールを工夫する。そんな視点をもてるようになったのもYOUサタに参加したことが始まりだったかもしれません。

(長野県厚生連 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院)

4．9　YOU遊サタデーを振り返って　――――――――――――　池田(日詰)清香

学校で仕事をしている中で具体的にYOU遊サタデーの経験が生きていると意識してみたことはありませんでしたが、今回改めて振り返ってみますといくつかの点が今につながっている気がします。学生でしたから、現場で今一番欲しい時間がたくさんありました。いかにしたら来てくれた子どもたちに楽しんでもらえるかを仲間と十分に時間をかけて、試行錯誤することができました。その過程は現場においてもかけられる時間の差こそあれ、日々繰り返されることです。また、教育実習以外で子どもたちとふれあえる、貴重な場であったと思います。現場では正直なところ、たくさん聞いた講義の内容より、目の前にいる子どもたちの反応を予想できることの方がはるかに重要であり、学生時代にその経験が多いほど財産になると思います。友だちに誘われ、その手伝いならという気持ちで参加したYOU遊サタデーでしたが、違う学科や学年の人と知り合えたり、仲間と協力して作り上げる楽しさを味わえたりできた素敵な経験ができました。　(小布施町立栗ガ丘小学校)

5．第5期（平成10年度）：「YOUサタ」5周年の蓄積　―卒業生9名の省察―

5．1　YOUサタが育ててくれたもの　――――――――――――　白井　敬

YOUサタが育ててくれたもの。それは「感謝の心」です。私は、第6期YOU遊サタデーの実行委員長を務めさせていただきました。しかし、経験も知識も少なかった私は、まさに手探り状態。実行委員長などできる力はありませんでした。そんな私が何とか一年間続けることができたのは、先生方、仲間、先輩、後輩、参加者の皆さんなど、多くの人に助けていただいたお陰でした。無力な実行委員長として常に考えていたことは、「どうしたらこの感謝の気持ちを伝えることができるか」でした。お世話になった人に感謝の気持ちを具体的な行動で表すこと。私にできることは、これしか無かったのです。「感謝の心」を持つこと、そして、それを行動で表すこと。これは、教員として働く今も変わることはありません。無力な自分が人の前に立たせてもらっている。「先生」と呼んでもらっている。それに対して自分ができることは何なのか、考え行動する毎日です。

(川上村立川上第二小学校)

5．2　YOUサタで得たもの、学生時代に見ていたもの　――――――――――――　尾沼直也

どうやったら、子どもが楽しめるか、どうやったら、分かりやすく子どもに講座の内容が伝わるか。講座内容は決まっているのに、子どもたちができる姿、楽しむ姿が想像できない。この講座の工作は、子どもたちには無理なのでは。子どもができるようになる工夫はないか。簡単に作ることができ、家に持ち帰っても楽しく遊べる工作の講座を仲間同士で一生懸命考えていたことを思い出す。今振り返れば、教材研究だったのである。YOUサタのあり方をめぐって、役員が集まって、話し合いをした思い出がある。熱く、純粋だった。子どもと楽しみ

たい、子どもの近くにいたい、子どもの笑顔を見たいという気持ちで、YOUサタに参加していた。現場では、その気持ちだけではやっていけないが、YOUサタをやっていた時の気持ちやYOUサタに出会った時の喜びは、今のように子どものそばで活動できる現場にいると、つい忘れてしまう大事なものだと思う。当時の子どもたちに向けていた気持ちが、何年たっても、教員としてのあり方を考えるための指標となっている。　（東京都公立小学校）

5．3　YOU遊サタデーで得たものは「人間力」　佐藤宏樹

YOU遊サタデーを振り返ってみると、子どもとふれあう機会を得たこと、そして、シンポジウムを実施するために様々な準備をする経験ができたこと。この2点が大きかったと感じている。教育実習はあるものの、大学では子どもとふれあう機会が少なく、4月から教職について子どもと向き合えるのか。そんな不安を抱えていた。しかし年数回とはいえ、YOU遊サタデーは子どもとふれあい、そんな不安を払拭することができた。また、シンポジウムを開催するため仲間と協力し準備することで、企画立案の楽しさや大変さ、ノウハウを身につけることができた。また、全国の同じような活動をしている仲間と交流できたことも、自分の人生において大きな経験であった。このシンポジウムの準備中、仲間と話し合う中でこんな話があった。「教師としての力や技術は、現場に出てからいくらでもつけることができるが、この活動をすることは、そういう力とは別の、自分の器を大きくするようなもので、ここで、その器を大きくしておかないと、現場に出て力をつけようとしても、コップから水が漏れるように、教師の力がつかないんじゃないか。」今、教職に就く中で、この話を振り返ってみると「人間力」という言葉につながると思う。当時の自分は「モチベーション」という言葉のイメージを抱いていた。日々教育実践をする中で、もちろん、あのときの楽しい思い出や経験が自分を支えてくれているという実感もあると同時に、人間として大きな成長をした場であったように思える。このような場を用意していただいた土井先生には「感謝」の言葉しか浮かばない。にぼしおいしかったです。　（松本市立旭町小学校）

5．4　実　杉山雅幸

これは、とあるひとつの樹の話。はじめはただの小さな樹でした。だけど毎年必ず“希望”という葉をつけ、“情熱”という太陽の光を受け続けていました。そしてその葉は土へと変わり、新たにつける次の葉の“支え”という栄養となってくれました。それを繰り返しながら、いつしか“仲間”という枝が広がり、“絆”という実をつけたのでした。やがてその実は自分の意志をもち、新たな土地で種を蒔いています。“未来”という種を…。こうして大きく成長した樹の下には、数え切れないほどの人々が集うようになりました。そしてこの樹には集う人達よりも多くの思いが込められています。不安や迷い、悩み、勇気、応援、衝突、信頼、期待、確信、自信、感動、感謝…。それらの思いがどれだけの年月を紡いできたのでしょう。ふりかえれば、心はその樹に通じています。ここで出会った全ての人と…。『YOU遊』の樹の下で待っています。

（NPO法人しずおか環境教育研究所）

5．5　信大YOU遊サタデーから始まる私の教育実践　田中　崇

教育実習後、子どもとのふれあいの機会を得たいと参加した、第5期信大YOU遊サタデー。そこで私は“ペットボトルロケットを飛ばそう！”講座のキャプテンを務めさせていただきました。炭酸飲料のペットボトルと椅子のゴム脚、画用紙とセロテープ、そして空気ポンプ。限られた材料の中で、「どうしたら遠くまで飛ぶのか」と、ホームセンターをまわり、色々な形・材質・大きさの椅子のゴム脚を買い歩き、学校の校庭でロケットを飛ばす実験を繰り返しました。自分自身が納得いくまで実験したのは、後にも先にもこの1回だったのでは？と言えるほど、講座開設直前までの時間を費やしました。YOUサタ当日、曇り空の下でした

が、笑顔でロケットを飛ばす子どもたちの笑顔を今でも覚えています。教員生活も12年目。仕事に追われ、教材研究に時間を費やすことも減ってしまいましたが、学習カードや教具を作っている時、自信を持って子どもたちの前に立てるように、と、あの時の体験を胸に準備をしている自分がいます。（立科町立立科小学校）

5．6　信大YOU遊サタデーの出会い　　那須良寛

私の中のYOUサタの原点は、「フィルムロケット」が飛んだ瞬間の子どもの喜びの表情を間近で見たことだ。今でもあの小さな笑顔を忘れない。そして、講座や活動にかける先輩学生方の情熱とパワー、これも圧巻だった。とにかく「子どもの笑顔が見たい」、そんな自分になりたいための力試しだったように思う。YOUサタは、じかに子ども達とふれ合う活動であり、関わりがうまくいかず悩んだりもしたが、自分の活動を振り返って、仲間達に支えられながら、それを乗り越えることで自分の中での成長を感じられたと思う。教員として教壇に立つ前に、子どもと接する機会が教育実習しかなかったが、これらの活動は、私たちにとって現場での教育を充実させる為の糧となっている。また、学生達の経験幅の拡大に一役買っていることを大変誇りに思う。豊かな創造力と子どもとともに楽しむという思いを受け継いでいって欲しい。　（宮崎県延岡市立恒富小学校教諭）

5．7　子どもたちの笑顔のために　　平野（山田）理恵

大学時代、土井先生に出会い、YOU遊サタデーへ参加させていただいた経験は、私にとって今までの自分を変えていくきっかけになりました。昔から人に臆病になったり、やっていることに自信が持てなかったりしていた私の気持ちを前向きにしてくれました。そして、同じ道を目指している仲間と一生懸命取り組んできた日々は、今教員をやっている土台になっています。副実行委員長をやり、企画、運営、実践と進めることの大変さ、楽しさを体験させていただきました。何より、YOUサタに来た子どもたちの笑顔が忘れられません。現在教員7年目、間に産育休を4年半とりました。毎日、子育てに仕事に正直辛いことも多いです。でも仕事を辞めようとは思いません。自分のパワーの源は、子どもたちの笑顔にあるからです。学校の子どもたち、そして我が子どもたち。こんなに幸せなことはないと思います。そして、素敵な笑顔になれる子どもたちの成長を少しでも手伝っていけたらと思います。すべては、大学時代の経験からの出発。原点に立ち戻りながらこれからも頑張りたいと思います。「子どもたちの笑顔のために」。　（諏訪市立城南小学校）

5．8　活動から学んだこと　　武田昌之

大学時代、依頼を受け、一度だけ経験した「信大YOU遊サタデー」。活動を通し、企画立案することの大変さを学んだ。私が、同じ専攻の友人と企画したのは、保護者向けの講座だった。わが子を他の企画に参加させている間、時間の空く保護者ができる活動をと言うことで知恵を絞ったことを覚えている。まだ学生でありながら、自分より年上の大人に向けて何ができるのか、どんなことをしたら喜んでもらえるのか、当時どんな活動をしたかは最早覚えてはいないが、とにかくなかなか内容がまとまらずに、友人と悩んだことを覚えている。また当日は、友人の他、アドバイザーに入っていただいた講師の方にも協力をいただきながら取り組んだ。協力していただいた方に感謝しつつ、ただ必死だったことだけよく覚えている。苦しい活動であったが、そんな中でもやりきることができ、自信にもなった。「困難は、乗りこえるためにある」そんなことを学ばせていただいたと思う。　（茅野市立玉川小学校）

5．9　YOU遊サタデーの経験が原点　　川口（井戸）陽子

「信大YOU遊サタデー・広場・世間」の活動が多様に幅広く、そしてこのように長く続いていることに、学生時代に携わった一人として大変嬉しく思います。YOU遊が土の活動を始

めた時、丁度私はキャプテンを勤め、当時の教育学部実践センターの前の庭に「きれいなチューリップを咲かせよう」という講座を開くことになりました。土に触れることなど学生時代にはなかったので、スタッフと汗を流し事前準備を丁寧に行ったことを覚えています。その後、土と関わる活動は茂菅の田んぼ作りへと発展していきました。現在教師となり、学級、児童会、委員会活動などで花や野菜を育てていると、YOUサタで仲間たちと鍬で土を耕したことや、「土作りは人づくり」と当時JAの方からお聞きした話などをふと思い出します。YOUサタで土と関わったことが今でも活きている、原点になったと思います。これまでにYOU遊で学ばれた方は、「これが原点だ」というものをそれぞれがもって卒業していったことでしょう。これからの学生さんも今、そして今後携わる活動が原点となるかもしれません。その時、その時を一生懸命に取り組んで20周年を目指し活躍されることを心より応援しています。　（諏訪市立四賀小学校）

6．第6期（平成11年度）：学生の集いから生まれる偉力　―卒業生5名の省察―

6．1　YOUサタに参加して学んだこと　―　中村祐介

大学を卒業してから、ちょうど十年が経ちました。私は、第7期YOU遊サタデーの実行委員長を務めさせていただきました。そもそもなぜ、YOUサタに参加しようと思ったのかというと、当時、教育学部では3年次と4年次に教育実習がありましたが、それ以外でも子どもたちと関わりたいと思ったからです。1年次から参加し、講座も何回も開かせていただきました。4年次には、実行委員長も経験させていただき、講座を企画・運営する力や大きな集団をまとめていく力が養われたと感じています。その経験が教職についた今でも役に立っていると強く感じます。たくさんの仲間と語り合い、時には深く議論を交わしたこともとても良い思い出として残っています。これからも子どもたちのために、教職を目指す若い人たちのために、フレンドシップ事業が継続していくことを強く願っています。　（飯田市立緑ヶ丘中学校）

6．2　これからも変わらず、大切にしていきたいもの　―　中谷弥哲

心が動く時とはどんな時なのかと考えていて、私の頭の中に浮かんできたのは、子どもと一緒になって、笑い、喜び、そして苦しみ、悩む…そんな自分の姿と、その時の子ども達の姿でした。私のこのような姿の出発点となったのは、YOU遊サタデーとの出会いにありました。思い出すのは、まず私自身が「こんなこともできるんだ！」と講座そのものを楽しみ、そしてその楽しみを講座に参加してくれた子ども達と味わっていたことです。子ども達より少し長く生き、知識をもった人として接するのではなく、その時その時を子ども達と同じ想いで過ごすことで、子ども達から多くのことを教えられました。今、私の心の中にこれまで出会った子ども達との宝物がある喜びを感じられるのも、子どもと共に歩み続ける大切さをYOUサタで学ばせていただいたからです。これからも子ども達と共に歩んでいきたいと思います。土井先生をはじめ、YOUサタでお世話になった先輩方、そして一緒に活動することができた仲間に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。　（伊那市立伊那小学校）

6．3　信州の根っこを創る夢実現活動を未来へ　―　両角孝之

YOU遊の活動は、「素敵な先生を育てる為」はもちろんのこと、それ以上に「素敵な大学生を育てる為」の活動であり、大学生の社会貢献の場である。子どもたち、地域、家庭、学校をつなげることができる人材が集まる場所。それは大学ではないだろうか。時間、やる気、柔軟な発想力、そして何より夢を持っている学生が、これらを結びつけられる唯一の存在だと考える。失敗を恐れず泥にまみれて活動できる素晴らしさがそこにある。前任校の麻績小は、YOU遊の活動場所の一つだった。私もそこで、できる限り学生のサポートを行うことがで

きた。YOU遊OBが中堅教員となってきた今、OBと現役生がつながり、お互い刺激を受けながら活動を展開するチャンスがこれからやってくる。YOU遊は信州の宝であり、根っこの部分を育てる活動だ。この活動を未来へつなげ、信州中、日本中の子どもたちを元気にする、素晴らしい活動としていって欲しいと願う。大きな夢を持った大学生と共に、志を同じくする仲間として最大限の協力をしていきたい。

（塩尻市立塩尻西部中学校）

6．4　自分自身のアップデート　　林　一真

平成23年度より、新学習指導要領が小学校でスタートし、教育の情報化に関しても学校で積極的な取り組みが求められている。その流れに沿い、自らも学習活動におけるICT機器の利活用について研究を進めている。第6期信大YOU遊サタデーの頃、当時の活動の様子をHTML言語を使ってWEB化し、発信する役を任された。当時では、小さな団体が活動内容をWEBにして発信すること自体珍しいことであったため、周りの方々から称賛の声をよくいただいたものである。しかし，時が過ぎ，現在ではCMSにより学校WEBはブログ化され、文字さえ打てれば誰でもWEB化できる時代となった。昔の力が今では必要とされないよい例だ。昔得た力で満足することなく、常に最新の動向に身を寄せ、時代にあった教育活動を進めていくべきである。セキュリティの面でPCのアップデートをするがごとく、自分自身のアップデートにも心掛けなくてはならない。

（愛知県名古屋市立天白小学校）

6．5　土井先生へ　　髙橋　歩

土井先生、ご無沙汰しております。髙橋です。覚えていて下さいますでしょうか。YOU遊サタデーではお世話になりました。先生におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。僕も今年で教員十年目です。お手紙頂戴しまして懐かしく、また同時に何を書くべきか悩みました。見ると題は全くの自由であるとのこと。この十年間のダイジェストか、趣味のことか、はたまたYOUサタの想い出か、今年の夏の奮闘記か、それとも今年の冬からの新企画か、いやいや、まじめに説教くさいことを書いてやろうか…。結局、先生へのお手紙ということにしました。さて、教員になり十年たちまして、先生に教えていただいたことの意味が少し理解できてきたような気がしています。（もちろん、これから先も自分の年や立場の変化に伴い、この理解の程度も変化していくのでしょうが…。）文字数がないので、結論だけ言えば、最終的に「自分のやりたいことを、やりたいように、おもいきりやってみろ。そこに成長がある」ということではないかと…。ご自愛下さい。またお会いできる日を楽しみにしています。

（長野県寿台養護学校）

7．第7期（平成12年度）：初心忘れず、地域貢献の労作業へ！　―卒業生6名の省察―

7．1　フレンドシップ事業から学んだこと　　西澤俊輔

フレンドシップ事業に参加してきた中で、自分に大きな影響を与えてくれたのは次の3つのことだと考えている。①ゼロ災害言語　②学校現場に出てからでは学べないことを、学生のうちに経験できた　③たくさんの仲間を得ることができた、である。ある低学年の女の子に対して、私が何気なく冗談のつもりで言った言葉が、「YUO遊プラザの活動に行きたくない」と思わせてしまうほど、その子の心に大きな傷を負わせてしまった。子どもたちはとても純粋でまっすぐな心を持っている。そんな子どもたちが安心して活動できる場を提供するためにも自分が発する言葉のもつ「意味」や相手に与える「影響」をしっかり考えなくてはいけないのだと思った。それは活動の中だけではなく、教育現場や家庭、地域の中でも同じだと思う。また、生活科や総合的な学習の授業では、農作業を行うことがよくある。しかし、学校現場に出てからではなかなか農作業を学習することはできない。そのことを学生のうちから地域の林部

さんに教えていただいていたことは、とてもありがたかった。多くの失敗もふくめ、分からないことだらけだった私が、フレンドシップ事業を行うことができたのは同じ志を持つ仲間たちと協力しあい、支えあい、励ましあいながら、楽しむことができたからであり、また、地域の方たちの温かいご協力、土井先生はじめ多くの先生方のご指導があったからこそである。そのような、人と人との関わりを今後も大切にしていかなければいけないと思う。最後に、20年に亘りフレンドシップ事業を見守り、たくさんの学生を支え、ご指導してくださった土井進先生、本当にありがとうございました。

（小諸市立美南ガ丘小学校）

7．2　支え合いの大切さ　　中山（清水）美香

教職に就いてからこれまでに、たくさんの子どもたちと、たくさんの先生方と出会ってきました。微力ではありますが、目の前の子どもたちと一緒に自分に何ができるかと考え、日々子どもたちと向かい合っています。私にとってその原点はYOU遊サタデー、広場だと思っています。「これをしたらどんな反応がくるだろうか」「子どもたちに一体何を伝えたいのだろうか」「どんな手順で何をすればよいだろうか」。現場では常に考えていなければならないことを、学生の頃、仲間たちと共に考えていたのだと、今になって感じています。自分には思いつかないようなアイディアを出してくれる人、みんなが気づかない所で様々な配慮をしてくれている人、それぞれが得意なことを生かして、支え合って活動していました。私も自分のできることを精一杯やることで、その一員になれた気がします。そして、この支え合いこそが現場では必要であるのだと思います。先生たちが支え合って団結している学校は、子どもが生き生きしています。これからも自分らしさを発揮しながら、自分ができることを精一杯やっていこうと思います。

（松本市立梓川小学校）

7．3　人間力を育てるYOU遊　　町田竜太

学生時代に土井先生から「人間力を高めなさい」と言われていたが、当時の自分には、その言葉の意味を理解することができなかった。教師になって8年が過ぎ、私の勤務地である千葉県は教師不足が問題になっている。教員採用試験の倍率は2倍程度で、希望を持って採用された初任者の多くは、「こんなに大変だとは思わなかった」と声をこぼす。中には辞めてしまう人も少なくない。そんな過酷な教育現場の中で、これから教職を目指す学生には、「人間力」を高め、希望に満ちた生活を4年間送ってもらいたい。その方法は1つではないが、私自身は「YOU遊プラザ」でたくさんの子どもや学生、地域の方々に出会い、刺激を受け、ほんの少しだけ人と違う経験をしたり、新しい発見をしたりしたことが、今思えば自分の人間力を高めてくれているように思えるし、その経験が今も自分の自信につながっている。私はこのような活動が信州大学教育学部にあることをこれからも誇りに思う。願わくば千葉県にもこのような活動が広がっていってほしい。

（千葉県習志野市立屋敷小学校）

7．4　地域の方に支えられてできた栽培活動　　小池（花村）尚美

学生時代の「茂菅農場」で、機械を使わないで田植えや稲刈りをすることを久しぶりに体験し、土の温もりを感じた。また先輩方が刃物やけが等、子ども達の安全対策を考えているのを見て、子ども第一、子ども目線で考えることの大切さを学んだ。さらに林部さん、JA大内さんはじめ地域の方と話したり活動したりしている中で、農業に携わる方の知恵を教わった。そしてどの場でも、来て下さった方に対する土井先生の「迎え三歩に送り七歩」の姿勢を見習った。教師になって5学年の児童とのもち米作り。苗植え、稲刈り等は経験を生かして行うことができたが、学生時代には地域の方がやってくださっていた水の管理や肥料、病害対策等は、協力いただいていた地域のMさんに教わりながら行った。日光の当たり具合や気候等から、肥料の量や病害のことをいち早く学校に連絡しに来てくださり、被害が大きくなる前に手

を打つことができ、おかげでもち米をたくさん収穫することができた。クラスの野菜づくりでは、トラクターをお持ちの保護者の方にお願いして耕していただいた。また畑のすぐ横にあるお宅のYさんは、児童が水やりをし易いように川の側溝に加工をしたり、畦道の草刈りをしたりと大変気を遣ってくださり助けていただいた。たくさんの方のご協力と、児童の汗水流した成果で野菜もたくさん収穫でき、児童は農作業の苦労も忘れて喜んでいた。学生時代の農業体験は、私の心の中に興味や楽しさの種を播いてくれたように思う。しかしその後の現場での児童を通しての保護者や地域の方とのふれあいは、種が発芽した後の、除草や追肥、支柱のように感じ、感謝の気持ちでいっぱいである。

(飯田市立山本小学校)

7.5 茂菅ふるさと農場 開拓よもやま話 ―― 海沼正典

第58期内地留学生としての私は、研究テーマであった、「学校における農業の在り方」に関して、茂菅ふるさと農場を学生の皆さんとともに開墾する機会に恵まれました。耕作されず、雑木まで生える荒れ地になっていた今のふるさと農場の土地に土井先生が着目して、農耕具を揃え、開墾を本格的に始めたときでした。当時、作物の植え付け時期に間に合うのか心配だった私は、土井先生に、機械を持ち込んで耕してはどうかと進言したこともあったのですが、先生は「土地を開墾して耕すことから、学生にぜひ体験させたい」と、これを丁寧に断られたのでした。軽薄に農耕機に頼ろうとした自分の考えの浅はかさを露呈してしまった気まずさもあって、よく覚えているエピソードです。とかく、楽しい面や目立つところだけ、児童生徒に体験させようとする傾向の強い今日の教育現場において、土井先生の「土台作りから地道に体験させなければ人は育たない」という強い信念は、長野県教育に警鐘を鳴らすものでもあると思います。

(長野県飯山養護学校)

7.6 つながりが育んでくれたもの ―― 安達仁美

信州大学教育学部を卒業してから6年後に、教員として母校へと戻ってきた。在学当時に取り組んだ「信大YOU遊サタデー」は、「信大YOU遊世間」と名を変え、形を変え、そして変わらず、学生たちの生きた学びの場を形成していた。現在は教員の立場で、学生時代の自分と重ね合わせながら、YOU遊を通して成長する学生たちの姿を見ている。学生時代は無自覚だった価値に、今、改めて学生の姿を通して気付かされることがある。熱心にYOU遊の活動に取り組んでいた私の研究室の学生が、「YOU遊の活動を通して、仲間や地域の人とつながることができた。そのつながりが、私を成長させてくれたと思う」と語ってくれた。そして、「これが私の大学時代の集大成になる様な気がする」と、卒業研究では、自発的な活動によるアイデンティティの形成過程を追究することになった。一緒に活動をした仲間へのインタビュー調査を通して、自分の成長の軌跡を辿るように、答えを探している。自己探索は青年期の大切な発達課題である。社会へ出る準備期間中の学生たちは、YOU遊で結ばれた「つながり」の中で互いに支え合い守り合いながら、責任感や忍耐力や感謝の気持ちを育み、時に他者と比べ自己を見つめ直しながら、自己効力感を高めていくのである。このように、「つながり」が学生たちを育み、そして大学と地域との「つながり」、先輩から後輩への「つながり」が、YOU遊の活動を18年間支え続けてきたのだろう。YOU遊を通して得た学びが、学生たちの今後のキャリア形成に生かされていくことに期待している。そして、この先も「つながり」が途絶えることなく、結ばれていくことを願っている。

(信州大学教育学部)

〈「信大 YOU 遊広場(プラザ)」の 2 年間〉

第 8 期：平成 13 年度（2001）・第 9 期：平成 14 年度（2002）

―― ☆担当教員の実践報告★ ――

8．第 8 期（平成 13 年度）：「信大 YOU 遊広場」の精神と実践的指導力の養成

8．1　附属小学校北校舎に「信大 YOU 遊広場」の活動拠点

平成 12 年 10 月 1 日付けで筆者は附属教育実践総合センターから教育科学講座に移籍したものの、引越し先の研究室が定まらないまま年を越した。平成 13 年 2 月 15 日付けで総務・予算委員会の粟津原宏子委員長から、「1．東校舎 E301 および E302 をスポーツ科学教育講座が使用する。2．旧附属小学校北校舎 104 および 105 を教育科学講座が使用する」ことを了承した旨の回答が届いた。ここにようやく総合生活科教育分野の研究室と演習室が定まることになった。

附属長野小学校が平成 9 年度に長野市南堀の地に移転して 5 年目に、縁あって、かつて子どもたちの学びの場であった「竹」と名づけられた教室に引越すことができた。農作業に長靴や農具は欠かせない。泥のついた長靴や鍬ときれいな建物の 3 階は、どうしても似合わない。胡桃、無花果、杏、梅、枇杷などの実のなる木があり、四季折々に小鳥がさえずり、春には桜が満開になり、シシ沢川には蛍が舞う、旧附属小跡地こそ生活科や総合的な学習にはふさわしい。何としてもここに研究室を定め「信大 YOU 遊広場」の活動拠点として、新たな実践研究に取り組みたいと願った。この微意を諒とされ、全面的に協力してくださったスポーツ科学教育講座の皆様に心から感謝している。

8．2　長野師範附属小における杉崎瑢・淀川茂重らの「研究学級」

児童の歓声が聞こえなくなってから 5 年、物置き場となっていたかつての旧附属小北校舎 1 階の「竹」の教室に入った。重い鉄の戸は容易には開かず、両手でやっと開けることができた。天井からは蜘蛛の糸が下がり、使い古された黒板は表面がガサガサになり、水道をひねると錆びた水が流れ出る。壁面も積年の埃で煤けている。

「竹」の部屋の前にあるプレハブの一室も、附属長野小学校のご了解を得て「信大 YOU 遊広場」の物品庫として使用させていただくことになった。5 年前の移転時に廃棄処分された書類がダンボール箱に詰められ、うずたかく積み上げられていた。これを学部の軽トラックを借りて長野市清掃工場へ 4 往復して搬出した。

平成 13 年 3 月末に内地留学生の海沼正典教諭と総合生活科教育分野の学生の協力によって、附属教育実践総合センターの研究室にあった物品と倉庫に保管されていた「信大 YOU 遊サタデー」関係の物品一切の引越しを完了することができた。「竹」の部屋に心身ともに活動拠点を移したとき、ふと 1918（大正 7）年にこの地で、杉崎瑢主事や淀川茂重訓導によって実践された「研究学級」のことが思い浮かんだ。20 世紀の初頭の教育思潮や、J．デューイの「実験室学校」などに学びながら、「研究学級」というそれまでの日本の教育界では使われたことのない教育研究のための新しい学級がこの地に増設されたのであった。遠く 83 年前の清新な息吹に思いを馳せながら、今再びこの地から 21 世紀の新しい教育実践研究を創造していくことを深く心に期したのであった。

8．3　「臨床の知」をどのように受け止めたか

信州大学教育学部は平成 11 年度の改組において、学部教育の理念を「臨床の知」を探究することに設定した。そして、「臨床の知」をこれからの教員に求められる「学校、家庭および地域社会の諸問題に主体的にコミットし、他者や事物とのいきいきとした関係や交流を保つ」ことができる智慧であるととらえた。臨床という言葉はこれまで医学用語として多く使われてきたので、教員養成にはな

じまないのではないかという意見も根強いものがあった。しかし、筆者は臨床医師と同じく教師も人間そのものを対象とし、一人ひとりの子どもの全人格にふれながら、臨機に対応していくことが求められている点において、「臨床の知」に裏打ちされた実践的指導力が求められているのであり、教員養成学部に要請されているこの課題に真正面から取り組んでいくには、「臨床の知」という新たな概念を教育理念に掲げ、時間をかけて理念の具現化を図る努力を積み重ねるなかで、新たな教員養成システム開発の突破口を開いていくことが建設的な受け止め方であると思った。

「臨床の知」の概念についての考察はここではひとまずおき、とりあえずこれを英語訳するとどうなるか、ということが本報告書のタイトルを表記するのに必要になってきた。様々な訳語が検討されたが、学部の教育目標と具体的カリキュラムの関連という観点から、渡邉時夫教授による“Experience-based Teacher Education”を採用することになった。「臨床の知」すなわち、実践に裏打ちされた智慧や指導力の養成をめざして、本学部では目下、臨床経験カリキュラムの体系化と充実発展に鋭意取り組んでいるのである。

8．4　実践的指導力の 3 要素

今後の教員に求められる資質能力を考えるにあたって、教育職員養成審議会は 1987（昭和 62）年 12 月の答申「教員の資質能力の向上方策について」において、「実践的指導力」が必要であるとして次のように述べている。

「学校教育の直接の担い手である教員の活動は、人間の心身の発達にかかわるものであり、幼児・児童・生徒の人格形成に大きな影響を及ぼすものである。このような専門職としての教員の職責にかんがみ、教員については、教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力が必要である。」

この記述をもとに 1998（平成 9）年 7 月の教育職員養成審議会第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」においては、養成段階で習得すべき最小限必要な資質能力は「採用当初から学級や教科を担任しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力」であると示している。

これらの記述をもとに、実践的指導力とは何か。教員の養成段階である大学において学生が習得しなければならない実践的指導力の基礎とは何か、について考察することにしたい。先に引用した教養審答申の文脈からも明らかなように、実践的指導力とは深い人間観、専門的知識、幅広い教養、そして使命感に根ざした教育的愛情などを基盤として発揮される教師としての本領を示す資質能力である。今後の教員に求められる実践的指導力を構成する 3 要素として筆者は、授業を構成する 3 要素といわれている「子ども」「教材」「教師」に対比させて、①子どもに寄り添う「人間力」、②子どもの学びを引き出す「教材開発力」、③子どもと教材を結んで学びを成立させる「授業組織力」、の三つを考えている。

「信大 YOU 遊広場」や「教育実習」を通して、学生はどのような実践的指導力の基礎を習得しているのであろうか。改組された本学部の第 1 期生である平成 11 年度入学の T さんを事例として考察したい。

8．5　先生になりたい　―「信大 YOU 遊広場」の実践―

T さんは故郷の先生になることを夢に描いて信州大学教育学部に入学した。実践の場で早く子どもとふれあいたいと思い、1 年次は松本キャンパスから長野へ通ってきて「信大 YOU 遊サタデー」に参加し、2 年次には茂菅のふるさと農場に参加し、3 年次には「信大 YOU 遊広場」の創設に参画し、プラザ長に立候補して積極的に活動を推進してきた。

T さんは平成 13 年 8 月 21 日から 9 月 18 日まで、信州大学教育学部附属長野小学校で基礎教育実

習（3年次）に取り組んだ。平成13年9月14日（金）に最後の授業を終えたTさんは、教育実習前の子どもを見る眼はお姉さんとしての立場からの見方であったが、教育実習を経験することによって教師としての子どもを見る眼が備わってきていることを実感することができたという。「私は大学に入ってからたくさんの子どもとふれあうために「信大YOU遊広場」のプラザ長に立候補して積極的に活動してきた。だから自分では子どもと活動していくのは好きだし、うまくやっていけるものと思っていた。でも実際に授業をやって、子どもと向き合ってみると何かが違う。YOU遊プラザの活動では、お姉さんお兄さんの立場であるから、子どもと同じ方を向いていればよくて、一緒に楽しむことができた。でも、授業となるとそのような一つの方向だけでは足りない。子どもと同じものを見ながら、もう一方で見ている子どもたちを観る眼っていうものも必要だと思った。」と述べ、これまで3年間の子どもとのふれあい活動からは得られなかった体験を「教育実習」を経て学んだことを吐露している。そして、長くて、短くて、辛くて、楽しかった教育実習も終わりを迎えた9月17日（月）の実習記録には、Tさんが全人格をぶつけて教師としての仕事に取り組んだ経験のうえから教師観について次のように記述している。

「この4週間を振り返って、教師とは何かを考えてみた。私は教育実習前は、子どもの姿を見て環境を整えたり、学習を促すのが教師の役目だと思っていた。だから外から客観的に見ている監視役みたいなものが教師の立場だと思っていた。しかし、実際に授業を通して子どもとふれあってみて、それでは何も見えてこない。なぜ笑っているのか、なぜつまらなさそうにしているのか、今どんな感情なのかも分からない。これが分かるようになる、分かろうとするには、客観的な見方ではだめだ。内側から見つめていく眼、言い換えれば、もう一人の子ども自身になることが必要だと思う。子どもと教師が同じ環境のもとで、同じ人間としての立場にたって、同じ方向を向いて考える。そういうふうに師弟が同一化してこそ見えてくるものがあると思う。4週間たっての私の考える教師とは『もう一人のその子自身』の立場になってあげることであるような気がする。」

8．6　教育実習生の学びに教師道の原点

筆者は24年前、30歳でようやく教員採用試験に合格し教壇に立つことになった。その時、元東京都文京区立第五中学校長、戸畑忠政先生から励ましの言葉を原稿用紙の裏に筆でしたためていただいた。それを今も研究室に掲げ座右の銘としている。戸畑先生は次のように揮毫してくださった。

「悉有仏性　師弟同行　師弟共育」

「坐る」という字をよく見ると、「土の上に人が二人いる」という形になっている。一人は、「今ある自分」で、もう一人は「もう一人の自分」、「永遠の自分」であるという。誠実に、そして、真摯に、未来からの使者である子どもたちの前に、教育実習生として黒板を背にして立ったTさんの実習記録から、私たちが襟を正して学ばなければならない真実が潜んでいるように思われてならない。自分の顔は自分では見えないように出来ている。だから「子どもは親の鏡である」ととらえる見方が教師にも要求される。教師にとって児童・生徒は教師の姿を映し出す鏡なのである。また、「渋柿の　しぶがそのまま　甘さかな」といわれるように、児童・生徒の欠点こそは、一皮むいて太陽に当てることによって、甘味この上ない干し柿になるのである。子どもの欠点に同苦しながら、真人間になるために一皮むく試練の道を共に歩んでゆく（同行）存在こそ、教師ではなかろうか。また、水の性質を称えた言葉に、「花の美しさ　緑のあざやかさ　水は自らその姿を消し　この世の命となる」とある。児童・生徒と共に学び、共に成長していく（共育）教師の姿を象徴しているともいえよう。Tさんが四週間の実践を通して感得した、「教師とは『もう一人のその子自身』の立場になってあげること」という気づきは、「悉有仏性、師弟同行、師弟共育」の本質を余すところなく感知したが故にほとばしり出た言葉であるように筆者には思われてならない。

8．7　実践的指導力の源は「ずく（尽）」、菩薩の「誓願」

今後の教員に求められる実践的指導力の三要素として「人間力」「教材開発力」「授業組織力」を取り上げて考察してきた。それではこれらの三つの力の根源は何であるのか。この問いへの一つの答えとしてふと思い浮かんだ言葉がある。それは長野県において今日でもよく使われている方言である「ずく（尽）」という言葉である。「ずく（尽）」とは『日本方言大辞典』（小学館）によれば、①強い精神力。がまん強く続ける気力。②骨惜しみせず、精を出して働くこととある。したがって「ずくがある」とは、その人の精神的な骨格がしっかりとしており、精を出して立ち働く性根を持っている、というような意味合いになる。これこそ実践的指導力の根源をなすものであると筆者は考えている。また、「ずく（尽）」という字は、一切の仏菩薩が発するといわれる四弘誓願の精神をも想起させる。すなわち四弘誓願とは、「衆生無辺誓願度　煩悩無量誓願断　法門無尽誓願学　仏道無上誓願成」である。子どもたちの成長をひたすら願い、自己の至らなさを常に省みて研鑽に精進し、子どもの喜びをわが悦びとして、共に学び共に成長していこうとする教育者の生きざまこそ、菩薩道であると言っても過言ではなかろう。

8．8　「信大YOU遊広場」の精神

信州大学学生が、「やりたいと思ったことを、やりたいと思っている仲間とともに、やりたいようにやる」というのが「信大YOU遊広場」の根本精神である。従って、初めに「信大YOU遊広場」という組織があって、そこに学生が入って何がしかの役割を担うというのではなく、何事かをやりたいと思った学生が寄り集まって、自然発生的に組織が築かれていくのがこの活動の特色である。やりたいことを課題として1年間持ちつづけてやり抜く「ずく」から自ずから「臨床の知」が生まれ、発現した「臨床の知」に裏打ちされて実践的指導力の基礎が身についていく。ここに教員養成の鍵が秘められているように思う。

参考文献：中野光『中野光教育著作選集第1巻「教育空間としての学校」』株式会社EXP 2000年。佐々木将人『何かある　それが人生』神明塾2001年。土井進「教育実習による学生の成長」日本教師教育学会編『講座教師教育学第2巻「教師をめざす―教員養成・採用の道筋をさぐる―」』学文社2002年。

8．9　なぜ「広場（プラザ）」へと脱皮を図ったのか

「信大YOU遊広場（プラザ）」とこれまでの「信大YOU遊サタデー」は一体どう違うのか、同じではないのかという疑問が、この1年間信州大学内外の学生から寄せられた。プラザが船出して無事1年経った今、この疑問への私見を述べご理解願いたいと思う。

信州大学教育学部は平成11年度に、“臨床の知”を教育理念とする学校教育教員養成課程（210名）、養護学校教員養成課程（20名）、生涯スポーツ課程（30名）、教育カウンセリング課程（20名）に改組された。この学部改組と連動して附属教育実践研究指導センター（専任教官2名）も附属教育実践総合センター（専任教官4名、客員教授1名）に改組された。「信大YOU遊サタデー」は、附属教育実践研究指導センターが開設母体となっている「教育実習事前事後指導」の授業における学生の声がもとになって、平成6年6月6日に誕生した。同センターの専任教官であった筆者は文字通り「サタデー」と共に7年間歩んできた。しかし、学内人事により平成12年10月1日付けで教育科学講座に移籍し、生活科指導法と総合的学習の担当教官となった。この急激な変化のなかで「サタデー」を担っている学生たちが、さらに勇気をもって進んでいける道を模索しなければならなくなった。実践センターを活動拠点とした「サタデー」から、総合生活科教育分野を活動拠点とした「プラザ」へと脱皮する必要に迫られた。

これより先、平成12年4月に学部改組第1期生が意気揚揚と松本キャンパスから長野キャンパスに進学してきた。生活科・総合学習分野にも18名の学生が希望届を出した。「サタデー」のイベント的な活動は、早晩行き詰まりがくることが予想されていた。そこで平成11年12月にJA長野中央会

に学生とともに出向き、「人づくりのための土づくり」を実践できる荒廃農地を借り受けたいとお願いした。農場において地域の子どもたちと継続的な体験活動を展開したいと考えたのである。JA長野中央会、JAながのとの折衝の先頭に立ってくださったのが本学部の初代生活科教授を務められた和田清教授であった。和田教授は授業科目に位置付けられていない「サタデー」の活動の内、農作業体験を「自然体験研究特講・演習」の授業科目に位置付け、フレンドシップ事業として発展させていく道を勧めてくださった。このような準備作業と多くの方々の支えによって、学生の任意活動に過ぎなかった7年間の「サタデー」が、平成13年度からフレンドシップ事業としての「プラザ」(授業科目名「社会体験実習」)へと方向転換を図ることができたのである。

平成14年2月15日に図書館2階の大講義室において、和田清教授の最終講義が行われた。「私が自慢に思うこと」という講演のなかで和田教授は、附属志賀自然教育研究施設が昭和41年に教員養成大学・学部初の研究施設として文部省から認可された活力は何だったのか。「それはまぎれもなく、奮闘努力された当時の信大教育学部の学生諸君と卒業してからも応援に駆けつけてくれた延べ500名にものぼる若い力の結集」であったと力説された。そして、「信大YOU遊広場」の学生たちにこれからの教育学部づくりへの熱い期待を寄せてくださった。筆者は志賀施設建設に込められた師弟同行の精神を、「信大YOU遊広場」においてもしっかりと受け継いでいきたいと決意を新たにした。

9．第9期（平成14年度）：どうして信大生は涙を流すことができるんですか？

9．1　「信大YOU遊」の十年一剣、それはFriendship（友情）

平成15年12月6日（土）、信州大学教育学部におけるフレンドシップ事業10周年を記念する「第3回YOU遊フェスティバル」と「学生シンポジウム」が開催された。これには学生170名、子ども120名、講師（本学卒業生）35名、講師（地域協力者）18名、長野県教育委員会関係者6名、学部教職員18名、合計367名がご参加くださり、無事終了することができた。ご協力を賜りました皆様に衷心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

生協で行われた懇親会には、藤沢謙一郎副学長、赤羽貞幸学部長、漆戸邦夫教授をはじめ100名を超える皆様が参加してくださり、学生たちの熱のこもった感動的な発言に耳を傾けてくださった。その席で、10年前草創期の責任者をお努めくださった漆戸教授が、「“YOU遊”の真価は、この懇親会での学生の生の声を聞かないと分からないんですよ！」とおっしゃった。私も全く同感であった。「YOU遊」が10年も続いてきた秘密はどこにあるのか。その答えは懇親会の席での学生の腹の底からの声と感涙に余すところなく表現されている、と私は確信している。その声とは「スタッフの皆さんのおかげです！こんな私にやり遂げることができるだろうかと、とても心配でした。でも思い切ってやってみて本当によかったです。皆さんのご協力のおかげです！」と発言するや否や腹の底からこみあげてくる感動を如何とも抑えることができないのである。感涙に咽ぶ友の姿を皆が拍手で称えあう。ここに私は、人間が第二の誕生を果たすために不可欠な、友情の紛れもない姿を如実に観るのである。文部科学省がフレンドシップ事業と命名された卓見に脱帽である。

9．2　学生の学生による学生への感謝

「信大YOU遊広場（プラザ）」から「信大YOU遊世間（ワールド）」への、組織の脱皮を図ることは容易なことではなかった。「YOU遊」はもう9年でおしまいか、10年の坂はとても登れそうもないと思われる状況が数ヶ月も続いた。去っていく学生も続出した。その苦しみに耐えながらリーダーシップを発揮し、第1期「信大YOU遊世間」の両横綱となったのが運営委員長の丸山大輔君と実行委員長の前崎伸周君であった。今年度の活動の一切が無事終了した12月13日（土）に、2人はYOU遊世間の事務局となっている「竹」の部屋の黒板に次のように書いた。

――「感謝」この一言に尽きると思っています。将来への希望、夢を持てず、元気のないこの日本に喝を入れ、子どもたちの未来を照らす教師になろうと志した学生が全国から信州大学に結集したことによって、大成功につながったのだと確信しています。我々の小さな一歩が、国家百年の計といわれる「教育」につながっていくために、「信大 YOU 遊世間」は学生、地域、そして日本のための活動になるよう、足場をさらに堅固なものに築いていかなければなりません。皆さん、さらなる発展を目指していきましょう。（丸ちゃん、丸山大輔）――

――みなさん、本当にお疲れ様でした。つらいときもありました。悩んだ時もありました。数々の試練を乗り越えてこられたのも、支えてくれた 170 名の仲間がいたからです。本当に感謝しています。12 月 6 日のフェスティバルに参加してくれた 120 名の子どもたちとその親御さんの笑顔を見たとき、「信大 YOU 遊世間」で 1 年間やってきたことに間違いはなかったと確信しました。シンポジウムでは 1 年生から 4 年生まで、200 名をこえる学生の生の体験が話され、耳を傾けることができました。このシンポジウムの全体司会を努め、図書館 2 階の大教室の前に立ちながら、私はこの仲間たちの熱い思いが、間違いなく今後の信州大学の新たなスタートに大きく貢献しているのだ！と実感することができました。みなさん、本当にありがとうございました。（金ちゃん、前崎伸周）

9．3　信大生はどうして涙を流すことができるんですか？

感動の一夜が明けた平成 15 年 12 月 7 日（日）、しなのき会館に宿泊した 13 名の講師（本学卒業生）が朝食に舌鼓をうった。この食事を用意したクッキング隊の学生は、「信大茂菅ふるさと農場」でとれた新米で先輩をもてなしたいと考えた。ご飯とお味噌汁という粗食ではあったが、学生たちの心に先輩たちの心は温まった。

この朝食の席で先輩から次のような声が飛び出した。それは、全国フレンドシップ活動などを通して他大学の学生や教官と話をすると、よく「どうして信大生は涙を流すことができるんですか？」と聞かれるそうである。これを聞いて私は間髪を入れず、「あなたはそれにどう答えてきたの？」と問い返した。これに対する岡部桂子さん（上田養護学校教諭、第一期「信大 YOU 遊広場」でのプレーパーク長：当時）の回答は、次のとおりであった。

――やはり、わたしたちには泣き虫が多いです。素直に人の前で涙が流せる人間関係がそこに生まれているのではないでしょうか。YOU フェスや、キャンプなどのイベントの後の反省会で私が流した涙は、喜びの涙です。そういう大きなイベントがあるとき、私達の学生生活の中心はプラザのことになります。本番の何週間も前から、どうやって子ども達を楽しませようか。どういう仕事をすればよいか、で頭がいっぱいになります。みんなで楽しい企画を考え、大盛り上がりのときもありますが、一人で仕事を負ってしまい、何でこんなに大変なんだろうと悩むこともありました。スタッフ同士で意見がぶつかり合い、喧嘩になることもあります。夜遅くまでみんなで準備を続けることもあります。しかし、それを乗り越え、みんなで活動を作ってきて、子ども達の笑顔を見られたとき、それまでのがんばりが全て喜びにかわります。やってよかった!!涙の一つの理由は、やはりこの達成感です。そしてもう一つは、感謝の気持ちです。反省会で一番聞かれるのが、「スタッフのみんながんばってくれたから…」という言葉と、「キャプテンが引っ張ってくれたから…」という言葉だと思います。YOU 遊のみんなは、本当に素直に人に感謝を表します。私にはこんなに素敵な仲間がいる。みんなに出逢えてよかった！ありがとう!!一緒にがんばってきた仲間の顔を見て、うれしくて涙が込み上げてきました。私はこんな想いだったと思います。YOU 遊広場で、仲間と一緒にがんばり、共に涙を流したことは、私の一生の宝になると思います。YOU 遊広場を支えてくださり、本当にありがとうございました。今後も私の後輩達のために、どうぞよろしくお願いします。――

筆者は、この感涙の中にこそ、教育者の魂ともいうべき、「悉有仏性、師弟同行、師弟共育」の精神が脈打っているのではないかと考えている。いざ！第 2 の十年のチョモランマへ!!

9．4　教員養成の電源地

「信大YOU遊」の活動を始めた時は、10年経ったら国立大学としての信州大学が終焉を迎えることになろうとは、夢にも思いませんでした。しかし、今、来年4月からの法人化した信州大学の出発にむけてあらゆる努力が重ねられています。この時に信州大学におけるフレンドシップ事業10周年を記念する「第3回YOU遊フェスティバル」と「学生シンポジウム」を開催できましたことは、感慨無量です。

さらに欣喜雀躍したことは、この原稿を書いているところに、「教員就職　信大1位69.87%」というニュースが舞い込んできたことです。平成11年度に改組され、「臨床の知」を教員養成の理念として掲げて出発した第1期生が、平成15年3月に巣立っていきました。彼らとともに信州大学教育学部が日本一の金字塔を打ち立てることができ、「信大YOU遊」もその一翼を担うことができ、本当にうれしく思います。皆様に衷心より御礼申し上げます。

いよいよ、これからの10年こそが勝負です。日本アルプスの霊峰を仰ぎ、日本一の長流千曲川（信濃川）や木曽川、天竜川の清流に包まれた、この信濃の地こそ、21世紀の日本の教員養成の電源地でありたいと念願します。この大願、使命感に燃えて、お互いにさらに一層の精進を誓い合おうではありませんか。

―― ☆卒業生20名の省察★ ――

8．第8期（平成13年度）：「信大YOU遊広場」の精神と実践的指導力の養成

― 卒業生12名の省察 ―

8．1　信大YOU遊広場の活動を振り返って ―――――――――――――― 白井克典

平成13年度の信大YOU遊フェスティバルで「しめ縄づくり」の講座長を務めました。林部さんを講師としてお招きし、しめ縄づくりに挑戦しました。どうすれば、縒り方を理解してもらえるのか夜遅くまでみんなで考えました。試行錯誤の末、わらに三色の毛糸を混ぜ、縒り方を説明することにしました。当日、縒り方を説明した時の子どもたちの「おー」という歓声、出来上がったしめ縄を嬉しそうに持ち帰る子どもたちの笑顔が今でも心に残っています。

今、振り返ってみると「理解してほしい」「しめ縄を完成させてほしい」という思いが、教材研究の原動力になっていたと思います。

教職の道につき7年目になりました。生徒に学力をつけるためにどんな資料を用意し、学習問題を設定するのか、そしてどんな手だてを準備するのか。「しめ縄づくり」の時のように考える毎日です。忙しく、慌ただしい毎日で、投げ出してしまいたい時もありますが、あの時と同じように「生徒に力をつけさせたい」、「分かった、できた」と感じて欲しいという思いが、私の原動力となっています。10年前も今も変わらない子ども（生徒）への思いを大切にし、これからも精進していきたいと思っています。　（岡谷市立岡谷東部中学校）

8．2　私の中のYOU遊サタデー・広場・世間・全フレ ―――――――― 寺坂（岡部）桂子

教員9年目になりました。初任のころ、「大好きなYOU遊の活動が仕事になった」と感じたのを思い出します。「子どもたちとできるだけ楽しいことをしたい」という思いは、今も学生時代と変わりません。そして、YOU遊をやっていたからこそできたと思う、私の実践がいくつもあります。

【YOU遊サタデーより】 仮装ハロウィンパーティー、教室一面のダンボール工作、巨大ペットボトル船作り、南中ソーラン、きずりんご料理、人形劇、サツマイモ料理

【キャンパスプレーパークより】 たき火、焼き芋、木工作、本気の缶けり

【茂菅・牟礼農場・竹の部屋より】 サツマイモ栽培、トマト栽培、干し柿作り

YOU遊や全国フレンドシップ活動で出会った仲間とは、今も頻繁に連絡を取り合っています。仲間の実践を聞いて学んだり、自分も負けずにがんばろうと元気をもらったり…これからもずっと、共にがんばっていきたいと思います。

（千葉県柏市立南部小学校）

8．3　協力してもらうことの大切さ　――　大石（富山）裕子

教職九年目の今、YOU遊広場で経験しておいて良かったなと思うことがある。それは、「いろいろな立場の方との交流」である。YOU遊広場の活動では、自分の願いを実行に移す中で、農業や福祉、教育などに携わる方から協力をしてもらう場面がたくさんあった。協力を得るには、自分の思いを伝えたり、相手の立場を考えたり、深くかかわり合うことが必要だった。その中で、気付いたことは、「どんな立場の人も『子どもの育ち』を願っている」ことである。その根っこが同じだからこそ、多くの方が学生であった私に惜しみない協力をしてくださったのだと思う。教師として子どもの前に立った今も、その気付きが生きている。教育は一人ではできない。大勢の方からそれぞれの専門を生かして、子どもたちとかかわってもらっている。「どんな立場の人も根っこは同じ。私の子どもに対する思いをしっかりと伝えることができれば、みんなが心強い味方になってくれる」そう考え、いろいろな立場の方に協力を得ながらの毎日である。

（新潟県湯沢町立土樽小学校）

8．4　楽しく生きる力　――　小黒あかり

YOU遊で、私は「プレーパーク」という活動をしてきました。「プレーパーク」は、「自分の責任で自由に遊ぶ」というモットーのもと、子どもも大人も様々な年代の人が集って楽しむ公園です。そこでは、様々な遊びが展開されます。どろんこ遊び、木登り、野外炊飯、火を囲んでギターを弾いたり、語り合ったり…。プレーリーダーもいて、その環境づくりや人と人との橋渡しなどをしています。「プレーパーク」に関わった時間は、私にとってかけがえのないものでした。中でも、そこで出会った方々との繋がりは、私の人生の軸になっているように感じます。「プレーパーク」に関わっていた子どもたち、その子のご両親、地域の方々、一緒に活動する仲間などとの関係は、「共に生きる素敵な仲間として繋がり、必要な時には協力し合う」という関係でした。今、私は私立の小学校に勤めています。「子どもと大人が対等」というモットーもある、私にとっては「プレーパーク」の延長線上にある学校です。仕事なので、役割や責任は多少違いますが、学校に関わっている全ての方々と「先生と○○」ではなく、「共に生きる仲間」として繋がっていたいと思いながら日々を過ごしています。「YOU遊の活動は、大学生にとっての総合学習だね。」私たちが活動していたころ内地留学にいらしていた先生がおっしゃっていました。本当にその通りでした。「何かをしたい！と思ったときに実現していく力」つまりは、「楽しく生きる力」をつけられる環境を作っていただいたと、土井先生はじめ、先輩方、協力してくださった全ての方々に本当に感謝しています。これからも、素敵な「総合学習」を経験し、「楽しく生きる力」を身につけた大学生が、社会に飛び出していくことを心から願っています。

（私立グリーン・ヒルズ小学校）

8．5　自分自身を見つめ直す時間となった「YOU遊」　――　森川（鹿子木）愛

私は大学卒業後、小学校に6年間勤め、現在は育休で現場を離れて3年目になる。「信大YOU遊サタデー・広場・世間」での経験が、教師となってからどんな役に立っていたのか、正直よくわからない。でも、ここでの経験は、自分自身を見つめ直すための大切な時間だったと思う。自分たちで活動を企画し、実践し、ふり返る。その中で、悩み、考え、仲間と話し合う。自分の気持ちと向き合うことで、自分の良い面も悪い面もみえてきて、自分のことがよくわかってきた。学生時代にそういう時間をもてたことは、教師としてスタートするための自信にもなった。そして、親となった今、「信大YOU遊サタデー・広場・世間」のような活動

に我が子を参加させたいと思う。少し年の離れたお兄さんお姉さんと継続的に接することは、子どもにとってとても良い刺激になることを感じているからだ。教師を目指す学生と、参加する子どもたちの両方にメリットのあるこのような活動が、もっともっと全国に広がってくれたらなと思う。　（愛知県扶桑町立扶桑東小学校）

8．6　私の教育実践とYOU遊広場と後輩達へ　小林　則雄

昨年63歳で定年退職し今は時間たっぷりの自由人の世界にいる。52歳で社会人入学し7年間小学校の担任として子供達と素晴らしい時間を持つことができた。教員免許を取得するには、教育実習が必須であるが経験からいえば随分と形骸・陳腐化しているように思える。YOU遊広場での体験は、この教育実習よりも、より実践的で大いに役立った。企業で中間管理職の端くれとして苦労もしたが学級担任は、学級経営を卒業と同時に試用期間なしで担わなければならない。過酷な現実である。教員免許状の紙切れは何の意味も権威もない。あるのは目前にいるつぶらな瞳の子供達とその後ろにいる保護者達である。この重責を担うには、真剣な練習航海が必須である。7年間に随分と失敗もし辛い思いもした。YOU遊広場の体験とその仲間がどれだけ支え励ましてくれたか計り知れない。「汗を流して覚えたものは、一生忘れない」である。教師を目指す後輩達、ぜひYOU遊広場のより実践に近い練習航海で汗を流し、実り多い教師生活をスタートして欲しいと願っている。　（元長野市立南部小学校）

8．7　勉強になったのはわたしたち　―「国際協力田運動」での米作りを実践して―　志村昌之

平成13年度に内地留学生として土井進先生にお世話になり、「信大YOU遊広場」で学生の皆さんと一緒に活動させていただきました。学校現場に戻り、茂菅の農場で経験した「国際協力田運動での米作り」の活動に取り組みました。それまでの米作りは、自分たちで作って食べて満足することで終わってしまい、何か物足りなさを感じていたので、「自分たちで作ったお米をマリ共和国に送ろう。」という目的意識を位置付けて活動を始めました。社会科、国語科、図工科などの教科学習と関連させ、保護者や地域の農家、JAの方々との連携もはかったりしました。子どもたちは、「マリの人たちにおいしいお米を食べてほしい。」と、がんばりました。そして、お米を送った後、多くの子どもたちから、「『マリの人たちのために！』と、がんばって活動したけど、よく考えてみたら、わたしたちも大事なことをたくさん勉強できた。マリ共和国のことがわかり、協力、感謝、振り返りなどの大切さに気づいた。こうしたことをこれからの生活に生かしていきたい。」という言葉が出てきました。単に、自分たちのためだけでなく、マリ共和国の人たちのためにがんばったことが、自分の学びや成長につながったことに気づいてくれた子どもたちでした。こうした充実した実践のきっかけを与えてくださった「信大YOU遊広場」に心より感謝しています。　（安曇野市立豊科南小学校）

8．8　教師の力量が学校を変える　大澤安貴子

平成14年3月24日（日）～27日（水）、菅平高原で実施された不登校児童を対象とした「ふきのとうキャンプ」（「YOU遊」が主催）に参加した。現在、上田市で不登校児童・生徒の支援の仕事に就いて9年になる。職務は、登校しにくい児童・生徒への直接的な相談等の支援や、保護者と学校の教師で行う支援に外部の支援者として出席することである。この仕事を始めた頃は、支援会議を開くまでの有効性が定着しておらず、家庭訪問と学校訪問を繰り返し、両者を調整する支援を延々と行っていた。今も両者の間に立ち、登校へ繋がる方向を模索していることに変わりはないが、支援会議で保護者と教師が直接話をすることで、問題の実態に即した支援が早期に見つかり易くなった。それにしても、教師の力量が優れている場合は、問題が即座に改善するから感動する。とりわけ不登校生には、いかにして「信頼」と「安心」を提供できるかが鍵となる。自らの実践を反省し、子どもに寄り添うことに邁進できる教師の力量

は、子どもだけでなく学校を変える原動力になると確信している。

（上田市教育委員会教育相談所 指導主事）

8．9 「YOU 遊広場」にかかわる学生の姿に学んだこと ―――― 塩原孝茂

今から十年前、十数年間に及ぶ学校教育現場から離れ、信州大学大学院での長期研修の機会を与えていただきました。その際、土井先生にご指導いただきながらほんのわずかですが、「YOU 遊広場」とかかわらせていただきました。田んぼのこと、プレーパークのこと…、そのことやそこに集まる子どもたちのことについて研究室で語る学生たちの姿に当時あることを感じ、今では当時よりもそのことが「より確かなことであった」と思っています。それは、教師にとって“感じる”ということがいかに大切であるかということです。学生が「今日は暑くて大変だったよ」「あの場所の草が気持よかったよ」と語るそのことは、子どもたちが感じていることそのものなのかもしれません。よく「子ども理解」と言われますが、それは“教師自身の感じる体”があってからこそのように思います。「YOU 遊広場」は、そんなことを私自身の中に確かなものとして与えてくれたのです。ありがとうございました。

（長野市立戸隠小学校）

8．10 「子どもと一緒に楽しもう！」信大 YOU 遊広場が教えてくれたこと ―――― 角 直子

信大 YOU 遊広場で、試行錯誤して自分の講座を開いてから早 10 年。短いながら教員生活を経て思うのは、私なりの教育のもとにあるのは「子どもと一緒になって活動する」ということ。そしてその思いの原点が、この YOU 遊広場での講座長の経験です。当時の私はまだまだ未熟な大学生でした。しかし環境に恵まれ、周囲の教員志望の熱心な友人たちに刺激されて、自分にも何かできるかもしれないと「ガムで消しゴムをつくろう」講座を開くことを決めました。一から情報を集め、実験を重ね、友人たちと協力してやっとの思いで開いた講座で、つくる楽しさ、できた喜びを子どもたちと一緒に味わったあの感動は、今でも胸に残っています。子どもが伸びる舞台を設定したら、それを子どもと一緒に体験して楽しみ、子どもの成長を間近に感じとる。私が感じている最大の教員の魅力です。それを教えてくれた YOU 遊広場との出会いに心から感謝しています。これからも、学生が子どもたちと素晴らしい経験を重ねていける場であり続けますよう願っています。

（石川県河北郡内灘町立西荒屋小学校）

8．11 教師としての原点 ―――― 西 絢平

信大の YOU 遊プラザの活動に参加したのは、今から 10 年ほど前になる。今でも心に残っているのは、ウインナー作りの講座にリーダーとして活動したことだ。子どもたちが楽しみにしている。失敗があってはならない状況だった。遅くまで仲間と一緒にウインナーの作り方を研究した。無い用具や材料は必死に探した。当日の役割分担や流し方などを入念に話し合った。大小はあれ、授業と言う 1 時間の真剣勝負に臨む準備も同じだ。職場の仲間と教材研究をし、必要な教具は作るなどして用意する。発問や板書計画を入念に考える。どれだけ準備をしたところで失敗はあるが、今後につながるのであれば、それも楽しいし、少しでも子どもたちの目がいつもと違っていれば、教師冥利に尽きる。思えばウインナー作りは失敗があった。だが、子どもたちが本当に楽しそうに活動していたこと、そして、仲間と協力して活動をやり遂げたということが 10 年経った今でも心に残っている理由だと思う。

（石川県白山市立石川小学校）

8．12 教員という仕事のやりがい ～最高のプレゼントをありがとう!!「YOU 遊プラザ」～ ―――― 北原（原山）美樹

「YOU 遊プラザ」では、大学 3 年生の時、不登校の児童・生徒と関わる「興譲館」の長を務めました。大学生の仲間とともに、子どもとの関わり方や活動の創り方などに悩み、自分の

中には反省ばかりが残ったのですが、大学を卒業した次の年、講師として勤めていた私は「興譲館」に通ってきてくれたＡさんから、思わぬプレゼントをもらったのです。それは、『「興譲館」で毎日やった計算のお陰で、高校の数学の計算も少し分かる気がするよ』という言葉でした。この言葉をもらった時、何とも味わったことのない嬉しさがこみ上げてくると同時に、“今”は悩みながらやっていても“後”になって最高のプレゼントがもらえる、それが教員という仕事のやりがいだと感じました。その年、採用試験に合格することができ、その後小学校１校、中学校１校を経ました。勤めている最中は初めての連続で、児童生徒との接し方や授業作りに悩んだことも多くありました。しかし、その学校が終わってみると、何ともいえない充実感に満ち、微力ながらも、もらうことのできた最高のプレゼント「先生、あの時のこの活動が役に立っているよ」が重なり、子どもたちとの出会いに感謝するとともに、また次の学校でも頑張ろうという気持ちになります。私にとって、教員という仕事のやりがいに最初に気づかせてくれた「興譲館」の生徒に感謝するとともに、一緒に悩みながらもともに励んだ仲間達、土井先生に感謝しています。「YOU遊プラザ」本当にありがとうございました。

（茅野市立東部中学校）

９．第９期（平成14年度）：どうして信大生は涙を流すことができるんですか？
― 卒業生８名の省察 ―

９．１　私とYOU遊との出会い　―――　丸山大輔

教職を夢見て、大学に入ったものの、授業に対してそれほど意欲も意味合いも感じる事が出来なかった１年のころ。無駄に時間だけが流れ、時間をもてあました私が、２年次にYOU遊の活動で興味を持ったのが、「興譲館」の活動でした。見学に行くと、先輩方が子どもたちのことについて熱く語り合っていました。まるでケンカのような白熱した話し合いは、夜まで続きました。その中で私は、自分の中に熱いものがこみ上げてくるのに気がつきました。この活動に参加したい、この先輩方と一緒にやってみたいと感じたこの瞬間がすべての始まりでした。もしあの時、勇気を出して興譲館の門をくぐっていなかったら、先輩方、子どもたちと出会っていなければ、今の自分はありません。そんな場を与えてくださった土井先生を始め、すべての方々に感謝しています。ありがとうございました。

（岡谷市立長地小学校）

９．２　「お守り」　―――　山際（増田）美和

YOU遊での経験が、教員としての実践にまっすぐイコールでつながったこと…まだありません。こんな書き出しは、怒られてしまうでしょうか。でも、例えばちょっと畑での作業をやったからと言って、学級園を素晴らしく作れるわけがないし、私もそんなことを求めて活動をしていたわけではないので、＝でつながらないのは当然で、それでいいと思っています。ただ、YOU遊での経験に助けられているなと感じることは多々あります。それは具体的な活動というよりは、みんなと一生懸命準備をした活動で、子どもたちがいっぱい笑ってくれた時は嬉しかったな、ということや、YOUプラの仲間ならもっとアイディアを出して「ずく」も出してやるだろうな、よし、私ももう少し！…というようなことで、ちょっとへこたれそうな時は特にそこへ戻っていく気がします。「教育実践」などと偉そうなことは全くできていない私ですが、YOU遊で感じた喜びや仲間の姿をお守りに、これからも子どもたちと過ごしていきたいと思っています。

（佐久穂町立佐久西小学校）

９．３　YOU遊広場、世間の活動から学んだこと　―――　山口（石関）千絵

私がYOU遊広場の活動に初めて参加した頃、驚いたのは活動の前後に先輩たちが集まって活動の計画を立てたり、振り返りをしたりして、自分達のやりたいことを形にしていったこ

とです。たくさんの人と意見交換し、議論を戦わせ、計画を立て、協力して実行する。そうして企画した活動が、参加した子ども達を生き生きとさせる。それは、とても魅力のあることだと感じました。小学校のクラス担任になると、日々の授業など、責任をもって考え、作り上げていくこともあります。しかし、教員、保護者、地域の方などが集まって話し合い、必要な情報を共有し、協力して取り組むことが子ども達にとってよりよい教育になると考えています。YOU 遊広場、世間の活動では、学生でありながら様々な立場の人と出会い、交流することができました。その経験が今の私に生きているのではないかと思います。

（愛知県名古屋市立南陵小学校）

９．４　靴をそろえること　　山本真望

子どもたちが学校に来て一番初めにすることは、靴を脱いで上履きに履き替えることです。そして、履いてきた靴を下駄箱に入れて教室に向かいます。靴の入れ方を見ると、左右が逆になっていたり、上履きを入れるほうに入っていたり、下駄箱に靴が入っていないこともあり、朝の下駄箱を見ると、子どもたちの心の様子がよくわかります。下駄箱を見るのが私の朝の日課となりました。１年生の担任をしているときは、最初に下駄箱の使い方を教えます。その時、土井先生が言われた言葉「ふり返って靴をそろえると気持ちもそろう」を、思い出します。YOU 遊の活動の拠点であった土井研究室の玄関では、みんなが振り返って靴をそろえていました。そうして気持ちを合わせ、仲間とともに活動してきたんだなと改めて感じています。泣いたり笑ったりしながら、子どもたちのために一生懸命考えて活動できる環境があったことにとても感謝しています。現在私は育児休暇中ですが、２歳の息子も玄関で靴をそろえようと頑張っている姿を見てとても嬉しく思います（その靴を１歳の息子がぐちゃぐちゃにしてしまうのですが…）。　（岡谷市立岡谷小学校）

９．５　YOU 遊広場での経験を振り返って　　高橋和之

今でもニュースや新聞の記事で、子どもたちが田植えや収穫などをしている姿を見るたびに「自分もやったなあ」という想いが湧きます。それだけ「YOU 遊広場」の経験は中身の濃い充実したものであったのだと思います。この執筆の機会を頂いた後、当時のノートやレポートに目を通しました。すると「コミュニケーション」・「仲間と力を合わせる」といったキーワードがありました。これらのキーワードは私が８年間の教育現場に携わって最も大事だと感じたことと重なります。コミュニケーションを積極的にとることで、お互いに気持ちの折り合いがついた関係で日々を生活することができます。また仲間と力を合わせることで一人ではできないこともすることができます。子どもたち、仲間、保護者・地域の方、みんなでできるだけ気持ちのいい中で力を合わせていくことで子どもたちに力をつけることができるようになると思います。これらのことを「YOU 遊広場」で学んできたのだと改めて思いました。これからもこの学んできたことを生かして教育現場で子どもたちと頑張っていきたいと思います。

（南木曽町立南木曽中学校）

９．６　土づくりは人づくり　　那須紋子

２年間浪人をして、それまでの自信をすべて失った状態で入学した信州大学教育学部。教員採用もかなり厳しい時代だったということもあり、「こんな自分が教師になれるのだろうか」という不安がずっとありました。その中で、私にもう一度息を吹き込んでくれたのが「YOU 遊広場」です。YOU 遊広場は、大学生による究極の総合学習の場だと思います。YOU 遊広場で私は本当にやりたいことをおもいきりやらせていただき、頼りになる先生や仲間、農家や地域の方々に支えられ、YOU 遊広場でこそ私は「生きている」という感じがしていました。YOU 遊広場は私に、恩師、恩人、仲間という一生の宝物をくれました。そして、教師として

の「人生」をくれました。今の私があるのは、まちがいなくYOU遊広場のおかげであり、私という人間をつくってくれたYOU遊広場に心から感謝し、敬意をはらいたいです。そして、これからもずっと続いてくれることを願っています。　（長野市立緑ヶ丘小学校）

9．7　まなざしの出発点　　西川（小島）　澄

子どもたちの笑顔が見たくて仲間と共にかけまわりながらつくっていった「信大YOU遊広場」の活動が懐かしく思い出される。卒業して教員になり、学生の頃の何倍も悩み、考えながら目の前の子どもたちと向き合う日々が始まった。子どもとのかかわりの中で、学生時代に似たような経験をしたからうまくいく…そんな事は全くなかった。子どもたちは一人ひとりみんな違う。だから、「確かなかかわり」というものがあるのだとしたら、それは、その子と出会って、一緒に笑って一緒に泣いて、たくさん悩んで考えて、やっと見えてくるものなのだと思う。「信大YOU遊広場」での経験を振り返ると、企画・運営面では至らないところも多かったように思う。しかし、子どもたちのことを想い、悩み、時にはぶつかりながら試行錯誤した経験は、私にとって、子どもへのまなざしの出発点となった。今、改めて当時出会った子どもたちや一緒に活動してきた仲間に感謝しながら、これからの出会いを楽しみに過ごしていきたいと思っている。　（松本市立芳川小学校）

9．8　プレパでの経験から学んだこと　　浅川（蓼沼）夏子

大学を卒業し、中学校での教員生活も8年目を迎えました。この執筆にあたり、YOU遊プラザでの写真などを見返し、とても懐かしく思いました。元々は、子どもと関わることが怖いと感じていた私でしたが、プレパという場所で、すてきな仲間に出会い、成長していくことができました。今、目の前にいる子どもたちは中学生ですが、何かの活動を体験したということだけでなく、人とのかかわりに関する経験や心の動きに関する経験がないために分からないことが多く、そのことが様々なトラブルにつながっていることも少なくありません。プレパでの経験から、生徒に考えさせて気付かせたり、体験させたりすることは、価値あることだと思っています。しかし、現場には、発達障害の子どもや甘ったれでわがままな生徒、教師の指導を冷ややかに見ている生徒もいます。“理想と現実は違う”けれども、その気持ちを忘れずに持ち続けることが大切なのだと考えています。　（栃木県岩舟町立岩舟中学校）

〈「信大 YOU 遊世間(ワールド)」の 9 年間〉

第 10 期：平成 15 年度（2003）～第 18 期：平成 23 年度（2011）

―― ☆担当教員の実践報告★ ―― （第 17 期・第 18 期は P. 144 参照）

10. 第 10 期（平成 15 年度）：「信大 YOU 遊」9 年目にして初めて生まれた成果

10. 1 「YOU 遊」の卒論と修論

「臨床の知」と言われる智慧は、我々が人間と人間、人間と自然との関わりあいの真只中において、一つひとつ体験的に身につけていく以外に修得の方法はない。また、実践的指導力と言われる実践力も、我々は実践の真只中において、汗と涙とともに一つひとつ体験的に修得していく以外に身につかないものである、と私は考えている。このような智慧や実践力を錬磨し、教師となるための資質能力の向上を目ざしているのが「信大 YOU 遊」の活動である。

今年度の活動が皆様のお力によって無事終了し、子どもたちの輝く笑顔と達成感と充実感に満ちた学生の皆さんの明るい表情に接することができたことは、私にとってこの上ない喜びである。一年間、本当にご苦労様でしたと申し上げたい。また、陰に陽にご支援を賜った皆様に、心から感謝申し上げたい。

さて、発足当初から「信大 YOU 遊」に関わってきた教官の一人として、私は継続のもつ重みを、今ひしひしとかみしめている。9 年間の積み重ねがあったからこそ生まれてきたと考えられる 2 つの成果について、次に述べたいと思う。

まず第一は、「信大 YOU 遊」での教育実践をもとにした卒業論文と修士論文が、初めて誕生したことである。これらの論文の概要は、本報告書に掲載されているのでご参照願いたい。これまでの 8 年間、「体験」や「イベント」や「実践」はたくさん生まれたが、それを「学術論文」として残してくることはできなかった。この壁を打ち破ってくれたのが、平成 11 年度の学部改組による「臨床の知」の理念のもとに 4 年間学んできた学生たちであった。彼らは、「信大 YOU 遊サタデー」を閉幕し、21 世紀の幕開けとともに「信大 YOU 遊広場」を実践してきた学生・院生であった。教育実践を単なる「教育実践」として看過せず、そこに「教育実践学」の光をあて、忍耐強く理論化していくことは極めて重要である。「信大 YOU 遊」9 年目にして初めて産み出された 4 本の卒業論文と 1 本の修士論文を嚆矢として、今後、優れた教育実践科学研究を創造していくことは、信州大学教育学部における臨床経験カリキュラムの充実発展にとって、貴重な貢献となるに違いない。

第二の成果は、「信大 YOU 遊」によって発信された Friendship（友情）の波が、全国を超えて中国にも及び始めたことである。まず国内では、平成 15 年 3 月 6 日～10 日、国立妙高少年自然の家において、信州大学と上越教育大学の学生が中心となって、7 大学が連携した第 3 回全国フレンドシップ活動「妙高ゆきんこフェスティバル」が開催された。この事業を担ったのは次の 9 名の学生であった。岡部桂子・那須良寛・西澤俊輔・蓼沼夏子・那須紋子・藤岡恵美・山本真望・石関千絵・岩堀耕平。

また、平成 15 年 3 月 2 日～4 日の熊本大学のフレンドシップ事業シンポジウムには、信州大学から増田美和・小川敦嗣の 2 名が出席して、実践報告を行った。一方、平成 15 年 2 月 18 日～21 日には、愛媛大学の 3 年生、植田幸司・濱田有里の 2 名が信大の活動状況を視察された。

第 1 回目の「信大 YOU 遊広場」訪中団は、平成 15 年 2 月 28 日～3 月 4 日、中国四川省成都市の小学校・中学校を訪問し、子どもたちと交流することができた。今回の訪中が実現したのは、「信大牟礼ふるさと農場」の活動に、中国からの留学生張薇さんが参加しており、「土づくり」による「人づくり」の重要性を日中両国において確認したいと願ったからである。参加者は次の 12 名であっ

た。山崎保寿教授、岡野雅子教授、張薇・高橋朋子・山本公三・那須紋子・原山美樹・藤岡恵美・佐志田英和・田中千尋・北村萌・宇良知子。

10. 2　汗と涙の学生

9年目の「信大YOU遊」の活動は、皆様のお力によって無事、大成功で終了することができました。汗と涙を流してがんばった学生の皆さん、参加してくれた子どもたち、そして、いつも陰で支えてくださった教職員の皆様に心から御礼申し上げます。この1年間に学んだ貴重な体験を、10年目の活動に生かしていきたいと思います。

私事にわたり恐縮ですが、私は急病の手術のため平成14年12月26日～平成15年1月22日まで入院しておりました。その後も2月14日まで自宅療養させていただき、編集委員の皆様をはじめ多くの皆様に多大なご迷惑をおかけしました。ここに深くおわび申し上げます。これからは健康の有難さと職場に復帰できましたことに感謝し、微力ではありますが、「信大YOU遊世間（ワールド）」の発展のために精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

11. 第11期（平成16年度）：「信大YOU遊世間」による地域貢献の教員養成

今年度から国立大学の法人化がスタートし、様々な制度改革が進められている。平成9年度から文部科学省によって全国の教員養成大学・学部で推進されてきたフレンドシップ事業は7年間で終結することになり、今年度からは各大学の判断で実施されることになった。幸い信州大学本部の温かいご理解とご支援によって、今年度も学生の主体的な教育実践活動である「信大YOU遊世間」を実施し、その実践記録を第11集として発行することができた。ここに衷心より感謝申し上げたい。

さて、平成16年度を振り返り、これからの「信大YOU遊世間」の充実発展を図る観点から、以下の4点（11.1～11.4）について考察しておきたい。

11. 1　実践的指導力・社会力・地域貢献

この活動によって学生が目指す目標は次の通りである。

① 学生が世の中に出て、具体的活動の企画・運営・振り返りなどの実践を通して様々な人々と切磋琢磨し、臨床の知を開発し、実践的指導力の基礎を陶冶する。

② 学生が世の中に出て、子ども・保護者・高齢者など様々な世代の人々と交流することによって、人間力、社会力を陶冶する。

③ 学生が世の中に出て、地域社会の人々と連携し、地域の教育の発展に貢献する。

学生が自主的、主体的にこの活動に参画することによって、教師に求められる実践的指導力の基礎を陶冶することは、11年間一貫して変わらぬ目標となっている。また、大学の地域社会への貢献という視点も一貫している。自らの力量形成と地域貢献を両輪として「信大YOU遊世間」は運営されている。

11. 2　臨床経験科目の体系化と実践的指導力の基礎の修得

教育学部の今年度の重要な課題の一つは、これまでの10年間に様々な契機によって開設されてきた臨床経験科目の体系化を図る運営組織をつくり、体系化のための作業を開始することであった。平成15年7月2日の教授会で設置された臨床経験科目体系化のためのワーキンググループにおいて審議が重ねられ、平成17年2月2日の教授会において臨床教育推進室を設置し、本学部の臨床経験科目を体系的に実施していくことが決定された。具体的な授業科目名は1年次の「教育臨床基礎」（2単位）、2年次の「教育臨床演習」（2単位）、3年次の「教育実習事前事後指導」（1単位）、「基礎教育実習」（4単位）、そして4年次の「応用教育実習」（2単位）である。また、生涯学習施設でのボランティア体験や松本市の小中学校での放課後チュータ等を内容とする「地域教育演習Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）が選択科目として新設され、臨床経験科目に位置づけられた。

教職を志す現代の学生には、10 年前の学生には想像すらできなかった、4 年間にわたって附属学校園や公立学校、ならびに生涯学習施設、その他の教育機関での実習を積み重ねることができるカリキュラム環境が整ったのである。学生はこれらの臨床経験科目に主体的に取り組み、人間的資質の錬磨に裏打ちされた実践的指導力の基礎をしっかりと身につけることが重要である。このような力量こそ「臨床の知」を理念とする本学部が目標としているものであるといえよう。

11. 3 「信大 YOU 遊世間」の自発・能動の精神と地域貢献の役割

実践的指導力の基礎を陶冶することをめざす「信大 YOU 遊世間」の取り組みは、臨床経験科目に位置づけることも十分考えられる。しかし、上記の体系化の枠の中に位置づけないのはなぜであろうか。これには二つの理由があると私は捉えている。

一つは 11 年前に発足した「信大 YOU 遊サタデー」に対して、授業科目化しないでほしいという学生からの強い要望があった。自分たちは単位を求めてこの活動に取り組むのではない。教育実習を通して学んだことを基礎に、さらに子どもたちとふれあって教職への志を深めたい。それには大学によって準備されたカリキュラムに乗った実践ではなく、自分たちで一から作り上げていく実践をしたいというのが彼らの真情であった。このような情熱と気迫こそは教育者としての使命感や教育的愛情を涵養する原動力であると考えられるので、私も全く賛同した。この自発・能動の精神が「信大 YOU 遊世間」が 11 年間も継続している最大の要因であると考えられる。8 年目からは諸般の事情によって授業科目化されたが、「信大 YOU 遊広場」や「信大 YOU 遊世間」においてもこの精神は全く変わっていないといってよい。「信大 YOU 遊世間」は、取り組むべき活動内容や研究内容が教員によって準備されているのではなく、課題意識をもった学生たちがより集まって、教員とともに語り合いながら、自らの研究課題を設定し一年間責任をもって実践し、その成果を報告書にまとめるという取り組みなのである。いわば大学における「総合的な学習の時間」の実践ともいうべきカリキュラムなのである。ここに体系化された臨床経験科目ではなく総合生活科教育分野の「社会体験実習」という授業の一環として「信大 YOU 遊世間」が位置づけられている理由がある。

もう一つの理由は、法人化した信州大学にとって地域社会と連携し、地域に貢献することが益々重要になってきている。少子高齢社会を迎えた我が国において、学生という若者集団を擁している大学の果たすべき役割と責任は大きい。今年度は須坂市、山形村、そして岡谷市で出前講座を実施することができた。今後学生たちには、地域社会の中で子どもたちと高齢者を結ぶ役割を果たしていくことが期待されてくるであろう。このような新たなニーズを開発し対応していくためには、「信大 YOU 遊世間」のような柔軟性と行動力に富んだ学生組織が望ましい。そこで独法化の 1 年前に「世の中に出て、地域の人々の中で学ぼう」という意義を込めて「信大 YOU 遊世間（ワールド）」と改称したのである。

11. 4 N 館に活動拠点を移し「社会教育演習」としての授業開発へ

「信大 YOU 遊サタデー」は、「教育実習事前事後指導」の授業から派生して生まれ、学生たちは 7 年間にわたって附属教育実践総合センターを拠点として活動した。次の 4 年間は学生たちの活動拠点が旧附属小学校校舎の「竹」の部屋に移った。ここでの初めの 2 年間は「信大 YOU 遊広場（プラザ）」という名称で取り組み、その後「信大 YOU 遊世間」と改称して今日に至っている。

「信大 YOU 遊広場」においては、旧附属小学校校舎の「松」の部屋を活用して、不登校生を受け入れる興譲館を開設した。2 年間に延べ 91 日開館し、10 名の中学生が通ってきて人と人がつながる力、社会力を回復し現在は高校生として勉学に励んでいる。この旧附属小学校校舎が信州大学大学院教育学研究科心理教育相談室として整備充実されることになり、「信大 YOU 遊世間」の活動拠点は、平成 16 年 10 月 1 日から N 館の 308 室へと移動した。12 年目の「信大 YOU 遊世間」は N 館を活動拠点とし、実践的指導力の一環として環境マインドの育成を基本理念に位置づけていきたい。そ

して、資質の高い教員養成を目指す高度・実践的な取り組みとなるように運営方法も革新していきたいと考えている。特に平成17年度からはこれまでの「社会体験実習」という授業科目としてだけでなく、社会教育主事資格取得の必修科目である「社会教育演習」の一環としても「信大YOU遊世間」を組み込み、市町村教育委員会や公民館等と連携した授業として研究開発に取り組むことになった。今年度の信州大学の出前講座のテーマとして、「地域社会への“信大YOU遊世間”の出前」を掲げたところ、東筑摩郡山形小学校PTAから要望があり、信州大学の出前講座としては初めて学生が主役となる出前講座を実現することができた。平成17年度も信州大学の出前講座として地域社会の要望に応じて出向き、少子高齢社会となっている「村」の教育の活性化に貢献する道を研究開発していきたいと念願している。

11. 5　地域社会との連携

今年度は天候不順で、夏の大雨、秋遅くまでの台風、そして地震に冬の大雪と大変厳しい試練の一年でした。茂菅のお米の収穫も昨年の9割どまりでしたが、平成17年1月19日には60キログラムをマリ共和国へ送ることができました。また、研究室と「信大YOU遊世間」事務局を旧附属小校舎からN館3階に引っ越す作業もありました。「信大YOU遊世間」も独法化の中で大きな試練に直面していますが、学生たちの熱と力で無事乗り越えこの報告書をまとめることができました。今年度は13のプラザが立ち上がりましたが、全て地域社会との連携によって成り立っています。温かいご理解とご協力を賜りましたJAながの・長野市茂菅地区・NPO法人XYサタデースクールネットワーク・湯谷小学校保護者・長野養護学校保護者・長野商業高校定時制・城山中間教室・附属長野中学校・長野市立安茂里小学校PTA・附属松本小学校PTA・信州須坂町並み保存会・東筑摩郡山形小学校PTA・岡谷市教育委員会生涯学習活動センターの皆様に厚く御礼申し上げます。

12. 第12期（平成17年度）：「臨床の知」を10の資質能力に分類

12. 1　目標『わ』

「信大YOU遊世間」とは、「社会体験実習」「社会教育演習」という授業科目の内容となっている学生主体の教育活動の総称である。学生が地域社会において教育活動を展開するに当たっては、自ら課題を見つけ、その解決のために自ら研究し実践することによって、地域活性化に貢献すると同時に、教師となるための実践的指導力の基礎を錬磨しようとする取組である。したがって、「信大YOU遊世間」という組織を自ら担い、地域社会において広場（プラザ）を開いてみたいと考える学生が現れてこなければ、この活動は成立しない。このような特殊な性格をもった授業であるにもかかわらず、志の高い学生集団が現れ、平成17年3月18日に赤羽学部長、池田副学部長のご出席のもと、しなのき会館において第12期の発足式を挙行することができた。誠に有り難いことである。

前崎全洋運営委員長（理3）を中心に、副運営委員長に松井泉樹さん（生3）、大塚一哉君（理3）、末松辰規君（理3）が就任し、第12期の執行部が立ち上がった。この執行部が中心となって2か月にわたる討議を経てまとめられた目標は、次のようなひらがな一文字であった。12年間で初めての最も短い目標となった。

『わ』：―「ふれあい」（友情）・「つながり」（連携）・「たすけあい」（共生）―

この『わ』を具現化するために、次の3項目が1年間の具体的目標として設定された。

① 「土づくり」と「人づくり」の『わ』による環境マインドの育成

② 「人」と「人」の『わ』による社会力の向上

③ 「心」と「身体」の『わ』による実践力（臨床の知）の陶冶

12. 2　実践的指導力の内実

地域社会における様々な「体験」を通して学生はどのような実践的指導力の基礎を養成しているの

であろうか。このことを学術的に究明していくことが、教育実践を単なる「体験」のしっ放しに終わらせないで、教育実践科学として構築していく上で不可欠である。このことを強く念願しつつもこれまでの 11 年間は、暗中模索の域を脱することができなかった。ところが、平成 17・18 年度の文部科学省の「大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成 GP）」に本学から申請したプロジェクト、『「臨床の知」の実現―蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成―』が採択されたことが大きな契機となって、本学部における教育実践研究、教師教育研究が大きく進展した。第 12 集においては、学生が修得した実践的指導力や「臨床の知」を次の 10 の資質能力に分類して記述することにした。この 10 の資質能力は藤枝静正著「教員養成カリキュラムの基本問題―「資質能力モデル」の検討―」（関東教育学会紀要第 21 号、1994 年）から示唆を得て、「信大 YOU 遊世間」の実態に即して開発したものである。

A．子どもへの興味・関心（子どもっておもしろいな！子どもの成長発達はすごいな！）
B．子どもが秘めているパワーへの共感的理解（子どもの力はすごいな！新発見！）
C．子どもとのコミュニケーション（子どもと話ができるようになった）
D．広く豊かな人間力・社会力（もっと自分を磨かないと。もっと世の中に出ていく力を）
E．大学における学問力（もっと勉強したいという向学心）
F．広場（プラザ）や講座の企画力（構想力、アイディア）
G．わかりやすい授業力、楽しくなる実践力（分かったという子どもの笑顔）
H．学生どうしの協働力（いっしょになって活動を成し遂げる力）
I．保護者、地域社会の人々との人間関係構築力
J．その他

12. 3 「教員養成 GP」による省察（リフレクション）の導入

平成 17 年度は文部科学省に申請した「教員養成 GP」が採択され、その経費の補助を受けて 12 月 10 日に第 4 回 YOU 遊フェスティバルと学生シンポジウムを開催することができました。この出来事は、信州大学教育学部において臨床経験科目を体系的に実施してきていることによってどのような学生が育っているのか、学生はどのような実践的指導力の基礎を培ってきているのかを如実に示す機会になったと言えましょう。本学部の「教員養成 GP」の実施によって、今後、教育学部と附属学校園の全教職員による協力体制のもとで臨床経験科目の「省察」（リフレクション）が実施されていきます。このことは、本学部が新たなシステムによる 21 世紀の新たな教員養成モデルを提示しようとするものであると言えましょう。この大事業が結実するまで、さらに一層努力していきたいと念願しています。如何なる教員養成計画もそれを実行してみて、確かな実証を示すことができなければ、それは科学的、普遍的な教師教育実践であるとは言えません。「信大 YOU 遊世間」の実践による教員養成が確かな教師教育実践となることを願って、第 12 集からタイトルを『「信大 YOU 遊世間」の教師教育学研究』とすることにしました。書名に恥じない学術的な目的内容・方法・成果・評価がきちんとした報告書になるように改善充実を図っていくことを今後の研究課題としたいと思います。

なお、本報告書の英文タイトルは、北澤勝親先生にお世話になり、レベッカ・アン・マーク先生に見ていただきました。記して御礼申上げます。

13. 第 13 期（平成 18 年度）：豊かな人間性を磨く ―明るく・仲良く・楽しく―

13. 1 第 13 期の大成功への感謝

第 13 期の「信大 YOU 遊世間」の活動を無事大成功で為し遂げられた学生の皆さん！本当におめでとうございます。みなさんが地域社会の子どもたちの成長を願って、真心をこめて取り組んだ、数々の尊い実践に対し、私は心から敬意を表します。本当にご苦労さまでした。

皆さんの地域貢献の活動を一年間にわたって見守り、陰で支えて下さったJAながの、青木村教育委員会、麻績村教育委員会、須坂市教育委員会、長野市立湯谷小学校保護者、長野県長野養護学校保護者をはじめ、応援して下さった全ての皆様に心から御礼申し上げます。

13. 2　第13期の特色―「自立」した学びの展開

今期の活動の際立った特色は、学生のみなさんがしっかりと「絆」を強め、将来の「大樹」を目指して「自立」した学びを展開したところにあると思います。例を挙げれば、3月に第13期運営委員会が発足するや直ぐに5月に外部団体による第34回こどもまつりへの参加が決められました。これには、松橋彰行運営委員長を中心に41名もの学生が自主的に参加し、ペットボトル工作とチャレンジランキングを実施しました。また、YOU遊世間の一年間の総まとめとして第5回YOU遊フェスティバルを12月に実施することを決め、7月に実行委員会を立ち上げ、一歩一歩着実に準備を積み重ね、当日は170名もの子どもたちと喜びを共有することができました。これらの積極的な取り組みを通して、私は「大樹」を目指した「自立」的な、学びであったと思います。このような特色はYOU遊世間の精神である「やりたい人が、やりたい事を、やりたいようにやる」という自発・能動の姿勢そのものであったと言えましょう。

13. 3　明るく・仲良く・楽しく

第13期の活動が全部終了した時点で、私は学生に聞いてみました。「一年間にわたって活動に取り組んでみて、一体YOU遊世間にはやる価値がありましたか」と。この問に対して学生から返ってきた言葉は、「学生がやわらかくなった。仲間がいるという実感をもてるようになった。一人ひとりが連帯することによって大きな力が発揮されることがわかった」というすばらしい内容でありました。

学生たちは地域の諸団体と連携し、子どもたちの成長のために労を惜しまずに活動に取り組みました。この活動の中で学生同士の心と心が響きあい、仲間意識が深まったものと言えましょう。自分たちのためにではなく、地域社会の子どもたちのためにという高い目的感があるところに「喜び」がわいてくる。この他者の「喜び」を我が「喜び」としていくところに豊かな人間性が磨かれる。「信大YOU遊世間」の活動が13年間も続いてきた背景には、学生たちの心に「子どもたちのために尽くすことによって自らの人間性を磨きたい」という真摯な情熱があり、先輩から後輩へと受け継がれてきたからであると私は信じています。「学生の顔がやわらかくなった」と語ってくれた学生の言葉からは「明るさ」と「楽しさ」が伝わってきます。仏典には「衆生所遊楽」と説かれています。「遊」も「楽」も一緒に含まれているのが「信大YOU遊世間」の大きな特色であると言えましょう。

13. 4　教師を目指す学生に求められる実践的指導力

教師に求められる実践的指導力の三要素は、①使命感・愛情（人間力・教師力）、②専門的知識（子どもの成長・発達に関わる理解）（教材開発力）、③広く豊かな教養（授業組織力）です。YOU遊世間を実践する学生の皆さんがこれらの資質・能力を修得されることを私は強く念じています。

14. 第14期（平成19年度）：社会力の視点からみた「信大YOU遊世間」の意義

14. 1　目標『共鳴』

第14期は、目標として『共鳴』～共に感じ共に学ぶ響き合いの輪～を掲げ、次の運営組織のもとで1年間にわたって活動が展開された。

運営委員長　　春原圭佑（教育実践科学専攻3年）

副運営委員長　須貝和之（社会科学教育専攻3年）・石井絵理子（社会科学教育専攻3年）

今期の活動が無事、大成功で終了することが出来たのは、一重に学生の皆さんの真剣さと情熱の賜であると思う。また、それを支えて下さった地域社会の皆様の温かいご理解とご協力のお陰である。ここに衷心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。今年で14年目を迎えた「信

大YOU遊世間」は、参加学生の人数においても参加児童の人数においてもこれまでにない大規模なものとなった。

「信大YOU遊世間」の活動は、月曜日の昼休みに開催される運営委員会（正副運営委員長3名と11の正副プラザ長、計25名で構成）において、水曜日の昼休みに開催される全体会（参加者58名）に向けての打ち合わせを行う。全体会は通年で27回開催され、各プラザから活動計画が発表され、参加学生を募るというやり方で推進されてきた。

「信大YOU遊世間」は「社会体験実習」という授業科目の一部分となっており、授業においては門脇厚司著『子どもの社会力』を教科書として、社会力の視点から「信大YOU遊世間」の意義について考察した。次に4名の学生の考察を紹介する。

14. 2　学生自身の社会力育成の場

「YOU遊世間」では企画から運営・実行の中に子どもたちや学生の相互行為が多く見られる。門脇先生の著書にもあるように、人の社会力を育てるには他者との相互行為が極めて重要である。相互行為と社会力は密接につながっているのだ。したがって、「YOU遊世間」の活動は社会力を育む場といえると考える。参加する子どもに相互行為の場を提供しよう、社会力をつけさせようと考え企画し、運営・実行する学生も無意識のうちに相互行為を行い、社会力を身につける過程を踏んでいるのだ。「YOU遊世間」は、子どもたちにとっても学生にとっても、その活動に参加する地域の方々にとっても貴重な相互行為の場であり社会力を身につけるための場であるのだ。」　（小西　舞）

「私たちは「YOU遊」を子どもたちのためになる場にしたいと願いながら活動しているが、実は子どものためを思って活動していることが、結局は自分の社会性や社会力を育てる場となっている。つまり、「信大YOU遊世間」の意義は、子どもの社会力をつけさせようと学生スタッフが頑張ることで、子どもにも社会力がつき、学生にも社会力がつくという意義があると私は考える。」　（五味沙織）

「私は「YOU遊フェスティバル」実行委員会という社会をつくり、その社会を運営し、今までにない「YOU遊フェスティバル」をつくるために、実行委員会のメンバーと企画している。実行委員会のメンバーのことも考え運営しようとしたり、参加してくれる全ての人それぞれの気持ちを考えながら企画したりすることは、簡単なことではなく、悩む毎日である。しかし、その相手の気持ちや相手の状況・立場を考え、相手を知るということは、門脇先生が述べている「社会力」の基盤となっている能力であると私は思う。このように私たちは「YOU遊世間」を運営していく中で、社会力を培うために必要な力を身につけていると言うことに気づく、ゆえに、この「YOU遊世間」は、社会力を培うために必要なものであるということになる。」　（常盤千明）

「私は社会力の観点で「YOU遊」を見たときに、学生こそ一番社会力がつくのだと考えている。そもそも「YOU遊」に参加している人たちというのは何かしら意思がある人たちである。そもそもそれ自体が社会力なのではないだろうか。そんな人たちが集まって、一つのものをつくりあげるために協力することが余儀なくされる。そこに相互行為がかならず発生する。この相互行為は必要感があるものであるため、自然に人との交流が深まっていく。そんなことを通して、社会力を持った人間同士が相互行為を繰り返すのである。私は社会力のある人間でしか、人の社会力は育てられないのだと考えている。その点で、学生間で行われる相互行為が非常に重要であり、社会力の向上につがっていると言える。」　（春原圭佑）

「信大YOU遊世間」の実践には学生同士の切磋琢磨が漲っており、深い友情が育まれている。この良き伝統を踏まえ更なる発展へと精進してゆきたいと思う。

14. 3　「善き友」を持つ場

今年度は学生一人ひとりの感想を並列的に配置した従来の報告書という形態から脱皮するために、各プラザ長が自分のプラザに関わってくれた学生の原稿をとりまとめて、どのような学びがあったのかを分類、整理して、プラザごとに1本の論文として執筆することにしました。地域社会の子どもたちや保護者の皆様との1年間にわたる活動を通してどのような学びを得たのか、しっかりと省察して

記録に残し、次へのステップとしていきたいと思います。

「信大YOU遊世間」の実践はフレンドシップ事業と名付けられているように、活動を通して学生同士が切磋琢磨し、肝胆相照らす仲へと友情を深めていくことが大きな目標の一つとなっています。この点においては、学生は苦労を共にすることによってお互いに「善き友」となり、強い絆を結んでいます。「YOU遊世間」の全体会に見られる明るさ、元気良さ、積極性は、この強い絆の現れと言えましょう。「善き友」を得ることの大切さを説いた釈尊の次のような話があります。ある時、釈尊に、弟子の阿難が尋ねた。「善き友を持てば、仏道を半ば成就したことになると思いますが、いかがでしょうか？」。すると釈尊は答えた。「それは違う。善き友を持つことは、仏道の半ばではなく、仏道のすべてなのだ」と。1年間にわたる「YOU遊」の活動を通して尊い友情の絆を結ばれた皆さんに心からの祝福を贈りたいと思います。

15. 第15期(平成20年度)：「信大YOU遊世間」の魂は、自発・能動の「一人立つ精神」

15. 1　学生の皆さんの高い志と熱い情熱に感謝

15年目の「信大YOU遊世間」もお陰様で、無事・無事故で終了することができた。これは一重に高い志と篤い情熱をもった学生の皆さんの日夜の努力の賜である。皆さんと一体となって活動を推進してくることができて、私はこの上ない喜びと充実感で一杯である。先ず以て1年間にわたって陰の苦労に徹してきた学生の皆さんに心からの感謝を捧げたい。

第15期「信大YOU遊世間」は、目標として『つながり』『感謝』『リフレクション』を掲げた。そして次のような運営組織を編成し、平成20年4月5日に図書館2階で発足式を行った。

第15期　運営委員長　　原　　耕平（理数科学教育専攻3年）
　　副運営委員長　宮川はるな（言語教育専攻3年）・高池　亮輔（保健体育専攻3年）
第7回YOU遊フェスティバル実行委員長　高池亮輔（保健体育専攻3年）
第9回全国フレンドシップ活動in信州　　実行委員長　笠井悠太（理数科学教育専攻3年）

15. 2　「信大NOW」(54号)の特集記事

2008（平成20）年11月27日に信州大学広報・情報室から発行された「信大NOW」54号に、「遊ぶ！働く！話す！YOU遊世間－YOU遊世間と脳のカンケイ－」と題された5ページに及ぶ特集記事が掲載された。この中の学生インタビューで、YOU遊世間の活動で得られることって一体何ですか？と問われて、学生たちは次のように応えている。

「ぼくは、K君のこと。K君は学校では問題児といわれていました。でもK君は、友だち思いでとても気遣いのできる子、ぼくは仲がよかったんです。でも子どもを見る立場なのに、K君のことをとても悪く言う人がいてショックでした。ぼくは、子どもが悪さをしてしまうことがあっても、その中でその子が何を思っているのか、見てあげなければと思います。ぼくも、今までうわべだけで人を避けたようなところがあったから、この頃はいろいろと話しかけるようにしています。話すと、思ったより気の合う人がいるんです。実践しつつあるというところかな。」　　（原　耕平）

「（青木村の）通学合宿で、子どもに賞状を渡す場面があり、取りに来てもらって渡すのですが、一人の男の子がイスにすわったまま手を出して、そのまま渡してしまいました。先輩がその子に“せっかく、あなたに渡そうと準備してきたのに、どうしてそういう受け取り方するの”と言ってたしなめたんです。それを聞いて、自分が嫌われても、真剣に叱らなきゃいけないときがあると思いました。教育実習の時には、子どもたちの組体操の取り組みがいい加減だったことに対して、真剣に話すことができました。」
（高池亮輔）

「ぼくは、無茶をするタイプで、全国フレンドシップのホスト役をやるといって、みんなの承諾を得ずに話を持ってきました。最初は、できるわけないよって、反対されていたんですが、結局実行委員メンバーとして、協力してくれるようになって。何かでみんなとつながっているなと感じました。自分はみん

なに支えられている、それが得たものだと思います。」 （笠井悠太）

「昨年、第 6 回 YOU 遊フェスの実行委員会をやり始めた時、私は先輩に圧倒されて、上っ面な意見しか言えなかったんです。だけど、自分でやりたいと思っているのに、このままではやっている意味がないと思って、がんばって思っていることをいってみました。そしたら先輩もちゃんと応えてくれて、意見を言うのがしだいに楽しくなりました。茂菅農場でも意見の違いから対立を避けて黙っていたら、相手も何も言わない。そのまま企画を子どもに持っていくのは申し訳ないと思って言うようにしました。私にとっては、話し合えるようになったのが、この活動で得たものです。この活動を続けてきて、何が魅力で、何が原動力でやっているのかというと“人は人を動かす”ということ。先輩たちに自分が動かされてきてここまできたように、引っ張る人のやる気が伝わってくる。そういうふうにつながっているのって、楽しいなと思うんです。」 （宮川はるな）

このような発言からも伺われるように、「信大 YOU 遊世間」という地域貢献の活動は、「やりたいと思う学生が」、「やりたいことを」、「やりたいように」、思いっきりやってみることができる場である。したがって、この活動を貫いている唯一の行動原理は、自発・能動の「一人立つ精神」である。一人の学生として、一青年として、地域社会の中に入り、青少年と高齢者を繋ぐ役割を全力で担い、大きな成果を生み出している。実に尊い地域貢献の姿ではなかろうか。

未熟な実践にもかかわらず学生たちの活動を励まし、支えて下さっている地域社会の連携団体・協力者の皆様に衷心より御礼を申し上げる次第である。本当にありがとうございます。

15. 3 「信大 YOU 遊サタデー」の精神を受け継ぐ「第 7 回 YOU 遊フェスティバル」

「第 1 回 YOU 遊フェスティバル」が開催されたのは、2001（平成 13）年 12 月 8 日であった。1994（平成 6）年から 2000（平成 12）年まで 7 年間実施された「信大 YOU 遊サタデー」が廃止され、新しく 2001 年から「信大 YOU 遊広場（プラザ）」が開設されることになった。大学キャンパスに子どもたちを招く活動から、学生が地域社会の中にでていく活動へと脱皮をはかったのである。この変化のなかで考え出されたのが年に 1 回だけ、「YOU サタ」のように大学キャンパスに子どもたちを招いてにぎやかに楽しもうという企画であった。これが「YOU フェス」の発祥であった。第 1 回目の「YOU フェス」を発案し、実行委員長となったのが清水美香さん（当時、教育実践科学 3 年）であった。その後、2004（平成 16）年には諸事情により開催されないことがあったが、「YOU 遊」発足の精神を脈々と伝える「YOU 遊フェスティバル」が先輩から後輩へと受け継がれて 7 回目を迎えることができた。

今回の参加者は子どもが約 360 名に対して、学生スタッフが何と全国 8 大学から約 320 名も集まり、これに保護者も加えると約 860 名という過去最高の参加者で教育学部キャンパスは大にぎわいであった。この大成功を支えたのは、高池亮輔実行委員長が 1,000 名達成を悲願として必死に準備に取り組み、歩きに歩き、頼みに頼み、祈りに祈った努力の賜以外の何者でもない。2008（平成 20）年 11 月 30 日（日）図書館 2 階で行われた後夜祭で、壇上に立った高池実行委員長に対して、約 300 名の学生から惜しみない大拍手が鳴りやまず、これに応える高池実行委員長の両眼からは感涙があふれてやまなかった。

15. 4 「全国フレンドシップ活動」の発祥

1994（平成 6）年に「第 1 期信大 YOU 遊サタデー」が発足した。これが直接的契機となって文部科学省（当時、文部省）が教員養成政策として 1997（平成 9）年から「教員養成フレンドシップ事業」を開始した。これは、学生が教育実習以外に直接児童生徒とふれあうことができる内容であること、県教育委員会等と連携すること、大学の授業科目化することの 3 点が要件とされた。これを受けて平成 9 年度からは全国の教員養成大学・学部においてフレンドシップ事業が展開された。

このような全国的な動向を受けて、1999（平成 11）年 11 月 13 日（土）に信州大学教育学部第 1 会議室において、教育学部創立 50 周年記念学部祭の一環として、「教員養成学部全国学生シンポジウ

ム」を開催した。そのテーマは「生き生きとした未来へ－今、学生が求めるフレンドシップ事業とは－」であった。このシンポジウムに参加し、実践報告した大学は次の13大学であった。

広島大学・愛媛大学・熊本大学・秋田大学・福島大学・大分大学・琉球大学・高知大学・愛知教育大学・鳴門教育大学・横浜国立大学・上越教育大学・信州大学

つづいて、2000（平成12）年12月9日（土）に信州大学教育学部図書館2階で、「第2回フレンドシップ事業全国学生シンポジウム」が開催された。そのテーマは「21世紀の実践に向けて－フレンドシップ事業の課題と発展－」であった。これに参加し実践報告を行った大学は、横浜国立大学・上越教育大学・鳴門教育大学・熊本大学・信州大学の5大学であった。このシンポジウムでは記念講演として、佐島群巳氏（帝京短期大学教授・東京学芸大学名誉教授）による「フレンドシップ事業と総合的な学習」があった。このシンポジウムが終わった後、宿舎のしなのき会館に会場を移して、5大学の学生による熱い討論が続いた。その会話の中からひょいと生まれ出たのが、「信州は山国で海がない」「鳴門には素晴らしい海があるよ」「いっそのこと5大学のみんなで、鳴門へ行って地引き網を引こうか」「そこに子どもたちが参加すれば、全国フレンドシップだ！」。

こうして誕生したのが、「全国フレンドシップ活動」である。ここに5大学の固い絆がうまれ、深い友情が生まれて今日にいたり、参加する大学の輪を広げてきている。これまでの全国フレンドシップ活動の開催大学は次の通りである。

回	開催年	開催大学
1	2001(平成13)年	鳴門教育大学
2	2002(平成14)年	熊本大学
3	2003(平成15)年	横浜国立大学
4	2004(平成16)年	上越教育大学・信州大学
5	2005(平成17)年	広島大学
6	2006(平成18)年	福井大学

回	開催年	開催大学
7	2007(平成19)年	横浜国立大学
8	2008(平成20)年	上越教育大学
9	2009(平成21)年	信州大学
10	2010(平成22)年	横浜国立大学
11	2011(平成23)年	広島大学
12	2012(平成24)年	岐阜聖徳学園大学

15.5 「第9回全国フレンドシップ活動 in 信州」の要綱

1．目標：「気づき」×「築き」

・「気づき」…他から学び、他を知り、各大学の活動につなげる。

・「築き」…感謝の気持ち、仲間意識をもって活動を築き上げる。

私たち学生が、フレンドシップ事業の活動を通じて学ぶことができるのは、各大学、ならびに地域の方々のご協力のおかげである。また、ともに協力し、企画をする仲間がいるからである。たくさんの協力の下にフレンドシップ活動は成り立っている。学生が成長するためには、活動を通じて気づき、学び、感じることが重要である。フレンドシップ活動による学生の成長には、これらのどれ一つが欠けても成り立たちません。このことから「気づき」×「築き」という目標にしました。

2．平成19（2007）年度の参加大学：茨城大学・横浜国立大学・上越教育大学・岐阜聖徳大学・福井大学・広島大学・鳴門教育大学・熊本大学・信州大学（計9大学）

3．活動内容（6日間）

3月4日(水)…アイスブレイク、大学紹介、各大学の活動報告、前夜祭

3月5日(木)…講演会　小岩井彰先生（長野市立大岡小学校長、前青木村教育委員会教育長）

…信州の子どもと関わる活動の企画①、大学生交流会

3月6日(金)…信州の子どもと関わる活動の企画②、地域の方との交流会

3月7日(土)…信州の子どもと関わる活動の実施、活動の振り返り①

3月8日(日)…活動の振り返り②、分科会、全体報告会、後夜祭

3月9日(月)…フィナーレ

4．会　計（収　入）・参加費　1人20,000円×100人＝2,000,000円

・繰越金　60,000円　合計2,060,000円

（支　出）	・食　費	1 日 1,850 円×5 日×100＝925,000 円
	・シーツ	380 円×100＝38,000 円
	・活動費（物品等）	30,000 円×7 班＝210,000 円
	・消耗品（おやつ・ファイル・物品等）	751,000 円
	・貸し切りバス	136,000 円　合計 2,060,000 円

15. 6 「教職実践演習」の先駆としての「信大 YOU 遊世間」の意義

2010（平成 22）年度の入学生が 4 年次生になる 2013（平成 25）年度の後期に開設される必修科目が「教職実践演習」（2 単位）である。現在、教職に関する科目（小学校・中学校・高等学校・幼稚園）の第 5 欄には「総合演習」、第 6 欄には「教育実習」が位置づけられている。これが変更され第 5 欄に「教育実習」が移り、第 6 欄に新しく「教職実践演習」が位置づけられることになっている。そして、「総合演習」は必修科目から外されることとなった。

文部科学省からの指示によると、「教職実践演習」の教育内容として盛り込まなければならない事項として、次の 4 項目が掲げられている。

①使命感や責任感・教育的愛情等に関する事項　②社会性や対人関係能力に関する事項
③幼児児童生徒理解に関する事項　④教科等の指導力に関する事項

ここに掲げられた 4 つの事項をよくよく検討してみるとき、「信大 YOU 遊世間」の活動を通して学生が修練している資質能力は、正に①②③の事項であるといっても過言ではあるまい。ただ④に関してはとても十分とは言えないことを自覚しておかなければならない。この点について筆者は「教材学研究」第 16 巻 pp. 211－214（2005 年、日本教材学会）に掲載した論文「“信大 YOU 遊サタデー”を通して学生が修得した実践的指導力の基礎の特質」において、次のように論じた。

――「教育者としての使命感や教育的愛情、子ども理解などの資質能力こそは学生時代にしっかりと身につけなければならない基礎であるといえよう。“信大 YOU 遊サタデー”においてこのような重要な資質能力を涵養することができた最大の要因は、大学教員が学生の自主的、主体的な取り組みを尊重し、学生と共に師弟同行・師弟共育の精神で実践したところにあると受け止めている。高久清吉が広義の実践的指導力は「主体的、自主的な理解や判断に基づいた実践から生まれる指導力」（高久清吉『教育実践学―教師の力量形成の道―』p. 3、1990 年、教育出版）であると指摘しているように、教育者としての使命感や教育的愛情というものは、学生が自ら責任を担って、主体的に取り組む実践の中から自ずと醸成されていくものと考えられる。“信大 YOU 遊サタデー”は、教師に求められる自選的指導力の根幹の陶冶に深く関わり、貢献しているところにその特質があると考える。――

15. 7 教育者としての根源的な思索

本学部においては、教育の理論と実践を統合する「臨床の知」を教員養成カリキュラムの根本哲学としています。YOU 遊を実践している学生は、一人残らず 1 年次からの臨床経験科目を一歩一歩、一年一年と積み重ねながら、4 年間の歳月をかけて着実に、人間としての、教育者としての学びを鍛え上げてきています。未来の大教育者として大成されることを心から念願しています。

本書の実践記録に込められている一人ひとりの貴重な学びは、教育者として、生活者としての生涯を貫く根源的な思索であると思います。YOU 遊を平成 6 年度に立ち上げた山口直行氏（当時、数学科 4 年、現在、松本市立丸ノ内中学校教諭）は、信濃毎日新聞 1 ページ大の広告「信大 NOW 全県拡大版 vol. 2」（平成 21 年 1 月 24 日付）において、次のように述べています。

「私は、今年 16 年目を迎えた「信大 YOU 遊世間」の第 1 期（当時は YOU 遊サタデー）実行委員長を務めました。学生スタッフとともに大学キャンパスで子どもたちの輝く笑顔を見たい、という一心で講座内容を何度も検討し入念な準備をしたことが、今の私の教育実践の原点のような気がします。」

YOU 遊の活動は文部科学省によってフレンドシップ事業と命名されました。学生の皆さんが地域貢献の活動を通して培ったフレンドシップ（友情）を生涯にわたって大事にして、お互いに研鑽に励んでいただきたいと思います。皆さんの前途のご活躍をお祈りしています。

16. 第 16 期（平成 21 年度）：信州大学創立 60 周年記念事業、信州大学功労賞の受賞

16. 1　音楽分野専攻の運営委員長

16 年目の「信大 YOU 遊世間」を無事、大成功で成し遂げた学生の皆さん！本当にごくろうさまでした。様々な困難な場面を皆さんは連帯して乗り越え、友情を深めるとともに、教職への使命感を深めることができたことと思います。本当におめでとうございます。

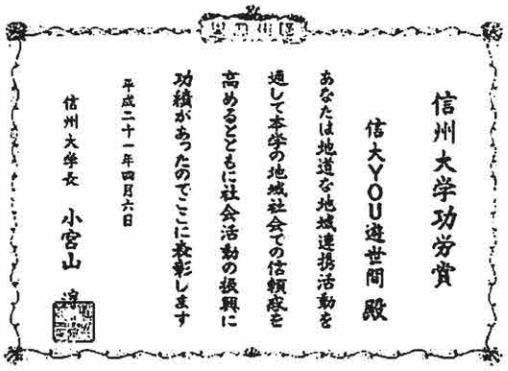
第 16 期の運営は、次の学生たちによって実施されました。

運営委員長　　東野千尋（芸術教育専攻 3 年）
副運営委員長　市川香織（教育実践科学専攻 3 年）・早川和宏（理数科学教育専攻 3 年）
　　宮尾　亘（教育実践科学専攻 3 年）

今期の特色の一つに、音楽教育分野 3 年の東野千尋さんが勇気を出して運営委員長の大役を担って立ち上がってくれたことがあげられます。芸術教育専攻の学生は、例年、土曜日や日曜日には発表会や練習があります。そのため、これまでは「YOU 遊世間」の活動に参加する学生は極めて小数でした。しかし、16 年目にして東野さんがこの流れを変えて、運営委員長として立候補してくれた意義はとても大きいと思います。

16. 2　今期の主な出来事 5 点

①「信州大学功労賞」の受賞　平成 21 年度入学式の折りに、15 期運営委員長の原耕平君が、表彰を受けました。「信大 YOU 遊世間」が長年にわたって地域連携活動を積み重ねてきたことを評価していただき、「信州大学功労賞」を受賞することができました。皆様とともに喜び、感謝したいと思います。16 年間の「YOU 遊」の活動は、次のように名称が変わってきています。私は、学生の皆さんの主体的な地域連携活動がこれからも継続されるように、今後とも陰の力になりたいと思います。


信州大学功労賞

信大YOU遊世間 殿

あなたは地道な地域連携活動を通して本学の地域社会での信頼度を高めるとともに社会活動の振興に功績があったのでここに表彰します

平成二十一年四月六日

信州大学長　小宮山 淳

平成 6 年 4 月から 7 年間 「信大 YOU 遊サタデー」	平成 13 年 4 月から 2 年間 「信大 YOU 遊広場」	平成 15 年 4 月から 7 年間 「信大 YOU 遊世間」

②　教育学部ホームページに掲載　教育学部の広報部会から要望があり、学部のホームページの「特色ある実践」のコーナーに、「信大 YOU 遊世間」が紹介されることになりました。運営委員長や各プラザ長が記事を更新しています。

③　地域連携フォーラムでの実践報告　工学部を会場として開催された「地域連携フォーラム (2009)」（平成 21 年 11 月 24 日）のパネルディスカッション「地域連携による研究教育活動の現状と地域貢献への課題」に、パネリストとして学生 6 名と筆者が参加しました。パワーポイントによって、各プラザの活動状況を提示しました。元気よく自信をもって発表した学生諸君の取り組みに、高い評価が寄せられました。

④　信州大学創立 60 周年記念教育学部事業　平成 21 年 11 月 21 日、22 日に、「第 8 回 YOU 遊フェスティバル」が教育学部キャンパスで開催されました。この取り組みは信州大学創立 60 周年記念教育学部事業の一環として実施されたもので、創立 50 周年の折りにキャンパスに植樹した 1,700 本の

苗木が大きく育ち、間伐が必要になってきました。この間伐作業に、約 200 名の学生が参加しました。

⑤ **「信大茂菅ふるさと農場」10 周年記念祝賀会** 「茂菅ふるさと農場」は 10 年目を迎えることができました。この間、ご支援を賜ってきた地主さん、茂菅地区農家の方々、JA ながの営農指導部の方々などに感謝を捧げる機会となりました。これまでの 10 年間の卒業生、在校生が約 70 名出席して下さり、林部信造氏が「信大茂菅ふるさと農場と私」という演題で講演してくださいました。林部氏は歴代農場長について、「明るく朗らかである」「チャレンジ精神がある」「困難を乗り越える情熱を持っている」「喜び悲しみを感じることができる人である」と評価して下さいました。

また、林部氏から農場 10 周年を記念して「信大 YOU 遊世間」にテント一式が寄贈されました。

⑥ **第 10 回全国フレンドシップ活動** 今年度の全国フレンドシップは、横浜国立大学を会場として 3 月 3 日～8 日に開催されます。本学部からは 9 名が参加します。10 大学 70 名の学生の皆さんの参加による「第 9 回全国フレンドシップ活動 in 信州」を、無事、大成功で終了することができました。参加された 70 名の皆さんの 5 泊 6 日にわたる激闘とご活躍による大成功に対し、私は心からおめでとう、そして、ありがとうと申しあげます。

私も青木村文化会館で 5 泊し、麻績村体育館、長野市檀田地区センターの 3 か所で実施された皆さんの活動を楽しく参観させていただきました。どの場所においても皆さんと地域の子どもたちとの間に、まさに一期一会のフレンドシップ（友情）が形成されているのを感じました。また、70 名の学生同士のフレンドシップの形成は、平成 21 年 3 月 4 日（水）の長野駅へのお出迎えから始まり、3 月 9 日（月）の記念植樹を終えたあとの感動のお見送りまで続きました。

ここに、フレンドシップ事業の本質と、全国の学生が集い合って切磋琢磨しあう意義がある、と認識を新たにしました。第 9 回を本学で無事実施できましたことに、関係各大学の皆様のご理解とご協力に対し、心から感謝申しあげます。

16. 3 信州大学創立 60 周年記念事業

信州大学教育学部から貴重な学部長裁量経費をいただき、また信州大学創立 60 周年記念事業実施委員会から尊い補助費をいただき、ここに『「信大 YOU 遊世間」の教師教育学研究 第 16 集』を発行することができました。ここに衷心より御礼申しあげます。誠にありがとうございました。

「信州大学創立 60 周年記念事業」は、次のように行われました。

1．事業内容： ① 50 周年記念事業として植樹した樹木の間伐作業 信州大学創立 50 周年記念事業として、教育学部キャンパスに植樹した木の間伐作業を学生 240 名の参加で実施した。

② 第 8 回信大 YOU 遊フェスティバル 第 8 回目のフェスティバルを教育学部キャンパスで開催。12 講座に学生 240 名、小学生 130 名と保護者、合計約 500 名が参加した。また、学生参加者は、以下のとおりだった。

教育学部 1 年～4 年、工学部、人文学部、経済学部、理学部、医学部。農学部、繊維学部、長野県短期大学、清泉女学院短期大学、飯田女子短期大学、松本大学、上越教育大学、横浜国立大学、文教大学、岐阜聖徳学園大学、武蔵野大学。

2．参加者：小学生と保護者、学生、地域住民、来賓、信州大学教員 参加人数 505 人

3．実施日・会 場：平成 21 年 11 月 21 日(土)～22 日(日)・信州大学教育学部

☆第 17 期・第 18 期（平成 22 年度・23 年度）については、
〈現役信大生が「臨床経験」と「YOU 遊世間」から学んでいること〉p. 144 参照〉☆

10. 第 10 期（平成 15 年度）：「信大 YOU 遊」9 年目にして初めて生まれた成果

―卒業生 5 名の省察―

10. 1　YOU 遊世間で学んだこと　―――　藤田優子

私の大学生活を振り返ると、その多くの思い出が YOU 遊世間の仲間やそこで出会った方々と過ごしたことだと改めて気づく。初めは、教師になりたいという思いから活動に参加していた。しかし、実際に教育現場で働いていると、大学時代の YOU 遊世間の活動で学んだことは、教師になるためだけのものではなかったと実感している。それは、人とのコミュニケーションである。教師は、子どもの教育に携わる仕事であるが、関わるのは子どもだけではない。一緒に働く同僚の先生方、管理職の先生、保護者との関わりや地域の方との交流も子どもの心身の育成には大切なものである。世代や職業を超えて、あらゆる方と関わる機会がある。よく考えると、YOU 遊世間の活動でも世代や職業を超えた人との関わりがあった。いろいろな人と出会うことで、様々な人生観や価値観があることに気づいた。私は、その頃自然に身に着いたコミュニケーション能力が今とても役に立っていると思う。そしてこれからは、私が関わる子どもたちにも「人との出会い」や周りの人とのコミュニケーションの大切さを伝えていけたらと思う。　（徳島県阿波市立林小学校）

10. 2　YOU 遊世間こそ、教員生活の第一歩　―――　前崎伸周

「こんにちは！」…。活動の打ち合わせをするために竹の部屋（土井研究室）へ行くと、土井先生の大きなあいさつが聞こえてくる。それに負けじと、私も「こんにちは！」…。YOU 遊世間の学生たちはあいさつがとてもよくできる。だから、いろんな活動に出かけて、初めて会う人ともあいさつ一つですぐに心が通い合う。当たり前だけど、すごく大切なことを教えてくれた。また、私は「牟礼ふるさと農場」の農場長、「第 3 回 YOU 遊フェスティバル」の実行委員長をさせていただいた。YOU 遊世間の大きな魅力は、継続して子どもたちと関わることができること。そして、同じ志を持つ仲間たちと、活動について考え、悩み、励まし、助け合って、一つのことを成し遂げることができることであると思う。そうした経験があったからこそ、教員生活が始まってからも周りの先生と積極的に関わり、多くのことを学ばせていただいたり、サポートしたりして、「協力」して子どもたちの教育活動を進めることを大切にすることができているのだと思う。

（愛知県新城市立庭野小学校）

10. 3　今に生きる「段取り力」と「対話力」　―――　北川伸尚

私は大学三年生の時に、茂菅ふるさと農場の農場長として活動をさせていただきました。その活動を通して培われたこと、それは「段取り力」と「対話力」だと思います。いつ、どこで、どのような活動をするのか、準備には何が必要で、いつまでに行わなければならないのか、そうしたことを必然的に考え、実行する機会になりました（段取り力）。また、計画や実践の過程において、農家の林部さんをはじめ先生方、学生の皆とも情報を共有し、意見を交換する場面がたくさんあり、それが円滑な活動を支えることにもなりました（対話力）。現在、教育の現場で日々子どもたちと接し、授業を展開し、行事を進める際に、この二つの力は生きた知恵として、私の糧となっています。すべてが学生の時にできたわけではありません。今でも失敗は沢山あります。ただ、学生の時のように、子どもや保護者を想いに寄り添い、よりよいものを追求する姿勢は、いつまでも持ち続けていきたいです。貴重な経験を支えて下さった全ての人たちへ、いつまでも感謝を忘れず、今後も日々の実践に、真摯に向き合いたいと思います。

（学校法人武蔵野東学園 武蔵野東教育センター）

10.4　原点は茂菅での林部さんの温かさ　――――――――――――――――　宇良知子

1年生の松本での講義で、「これから先も求められることはコミュニケーション力」「コミュニケーション力をつけたかったら子どもと接しなさい、子どもは正直に反応するから、子どもとうまくコミュニケーションをとれるようになればいい」と、そのような話をしてくださった教授の言葉が私の胸にずっと離れずにありました。それからは私にとって「コミュニケーション力」と「子ども」がセットになったものとしてありました。1年生の冬、「YOU遊フェスティバル」の説明に松本キャンパスに来てくださった先輩の話を聞いたとき、子どもと接することができるチャンス、私も一緒に活動してみたいという気持ちでいっぱいになりました。2年生になり、「YOU遊広場」の説明会に足を運ぶと、生き生きと話す先輩の姿がとても魅力的でした。それから「茂菅ふるさと農場」の米作りの活動に取り組めたことは、私にとって自分を成長させるきっかけになりました。活動の中では、地域の子どもたちと保護者の方、同じ思いを持った学生たちとの出会いがありました。茂菅の活動において子どもの反応を想像し活動内容を考えたことは簡単ではなかったですが、仲間と協力してできたこと、一つひとつの活動が私を成長させるものになっていたように思います。そして、最後の活動で子どもと涙で別れたことは強く心に残っています。子どもたちのことを考え今まで活動してきてよかったと心から嬉しかったです。また、私にとって林部信造さんとの出会いは大きく、支えてくれる林部さんの姿から、人の愛情や心の温かさを学ぶことができました。（安曇野市立穂高北小学校）

10.5　子どもたちの「笑顔」にかこまれた教員になるために　――――――――　前崎全洋

私は今、愛知県の小学校で教員になって5年目になる。たった5年だが、実際の学校現場から学んだことはたくさんあり、未だに日々勉強の毎日で、教員という仕事に生きがいと楽しさを感じながら仕事に励んでいる。そんな私が本気で教員を目指し始めたのは、YOU遊世間を通して多くの子どもと出会い、多くの笑顔に触れ、多くの喜びを得られたからである。今でも、学生時代に感じた子どもたちの輝いた笑顔のもつ力を追い求めて、いかにして笑顔の花をたくさん咲かせていくかが、私の学級経営や授業内容を考える基盤になっている。

〈YOU遊世間での学びを活かして〉　①子どもとの距離感：私が教員として一番大切にしていることは、「子どもたちとの距離感」である。私は、子どもたちとの心の距離を近くし、お互いの信頼関係を深めていくためには、「一緒に遊ぶ」ことが一番だと考えている。YOU遊世間の活動で様々な年齢や境遇の子どもとたくさん遊ぶ機会があった。どんな子どもでも、一緒に遊んだ後はよく話をしてくれたり、こちらの言葉に耳を傾けてくれたりして、心の距離が近づいていくことを実感できたからだ。一緒に遊ぶことは、一緒に学ぶことであると思う。子どもたちは一緒に遊ぶことで私自身のことを少しずつ理解してくれているように感じるし、私たちはどういったことに興味があるのか、友だちとどんな付き合い方をしているのかを知ることができる。少しでも多くの時間を子どもたちと共有し、心の距離を縮めていけるように、休み時間には子どもたちと一緒に遊ぶことを今でも毎日続けている。②地域とのかかわり：YOU遊世間で様々な活動にかかわらせていただく中で、子どもたちのことを本気で考える多くの大人とも出会った。そして、子どもたちの笑顔を増やしていくためには必ず大人の力が必要で、地域と学校が協力して子どもたちをサポートしていくことが大切だと強く感じた。私が今勤めている福岡小学校には、「福岡おやじの会」という地域の活動がある。おやじの会では、本校在籍児童のお父さんが中心となって、もち米の田植え、稲刈り、はざかけ、脱穀、もちつきといった年間を通して農作物と関わっていく活動や、学校のグラウンドでのキャンプファイヤー、体育館でのお泊り会、トイレ掃除の会など様々な活動が行われている。私は学生の頃に感じた「学校と地域とのかかわりの大切さ」を思い出し、初任の時からずっとおやじの会の活

動に参加させていただいている。教員だけの力ではなかなか実行できないような様々な活動を通してたくさんの笑顔に出会い、机上の勉強だけでは分からないようなことも実際の体験から学ばせてもらうことができた。そして、地域と学校が協力する⇒子どもたちの興味をひくような活動を考える⇒参加した子どもたちに笑顔が増える⇒次の活動に参加する子どもの数が増える⇒学校全体に活気が生まれる⇒学校が楽しくなる⇒親子の会話が増える⇒子どもたちの笑顔が増えるといった、とても良い相乗効果があることを実感した。

〈YOU遊は体験型学び〉 YOU遊世間がどれほど偉大な活動であるかは正直想像がつかないが、YOU遊世間での経験が今の私の基になっていることは間違いない。実際の学校現場で働いてみて、机上の勉強も大切だが、多くの子どもや大人とかかわる中で大切なことを学んでいけるYOU遊世間のような「体験型の学び」はもっと大切であると感じている。

（愛知県豊橋市立福岡小学校）

11. 第11期（平成16年度）：「信大YOU遊世間」による地域貢献の教員養成 ―卒業生2名の省察―

11.1 「YOU遊世間」で学んだこと ―― 松山博一

私は今、塾講師をしています。大学を卒業して5年ほど経ちますが、子どもたちと接する上で「YOU遊」の活動で学んだことが、一つ一つ生かされているように思います。近年の少子化の流れを受けてか、塾に入ってくる子どもの学力の差が激しく、受験生でも（−3+5）といった計算ができない生徒もいます。上を目指している生徒もいる中でこのような開きをどう埋めていくのか、どう一緒に学ぶ環境をつくればいいのか、難しいところなのですが、本気になったときの子どものパワーは素晴らしいものがあるので、いつか大きな花を咲かせてくれるよう期待しながら指導しています。そのような意味で、「YOU遊世間」の活動を通してたくさんの子どもたちと関わる中で、子どもの無限の可能性にふれることができたことが自分の財産ですし、子どもたちの力を伸ばせるように、今後も精進していきたいと思っています。

（塾講師）

11.2 YOU遊世間での経験はすべて生きる ―― 矢野 智

私がYOU世間の活動に参加したのは、大学3年生の時でした。まだ教育実習も迎える前で、子供たちとの接し方も分からず、不安が多い時期だったので、YOU世間での活動はとても貴重な経験になりました。具体的には、須坂市の中心市街地の空き店舗を利用し、スライム作りのブースを開き子供たちと交流したり、松代文化ホールで青少年の非行防止を考えるシンポジウムでパネラーなどを務め、大勢の人の前で自分の意見を話すなどの体験をしました。この学生時代の経験が実際に学校現場に出てからも、大勢の子供たちを前にして話をする場面や授業を計画し実行する際にかなり役立ったという感じがしています。やはり学生でも現場の教師でも、子供たちに愛情を持って接することや、学ぶ意欲を引き出す企画を考え続けるという点では全く一緒なので、すべての経験は無駄にならないということを実感しています。現在は自分の専門性を高めるために大学院で学んでいますが、ここでの経験もこれから子供たちと接する際に必ず役立てていきたいと思っています。

（信州大学大学院教育学研究科）

12. 第12期（平成17年度）：「臨床の知」を10の資質能力に分類 ―卒業生8名の省察―

12.1 YOU遊世間に学んだこと ―― 末松辰規

私は、学生時代YOU遊世間の活動に様々な立場で参加させていただきました。二年の時には、先輩の活動について行き、子ども達と農作業や遊びを通して一緒に笑い、たくさん楽しま

せていただきました。「子ども達とともに活動し喜びを共有する」という教育の原点を教わりました。三年の時には、「青木村えがおクラブ」プラザ長として企画運営し、活動の「全体をみる視点」を身につけることができました。また、通学合宿など新しいものを仲間とともに造りあげる喜びも得られました。四年の時には、後輩の企画した活動に参加させてもらい、たくさんの活動を省察することができました。活動を振り返ることで、次に活かす力を養うことができました。現在私は、長野県の中学校教諭として勤務させていただいています。うまくいかないことや大変なこともありますが、毎日充実した生活を送っています。YOU遊世間の活動を通して学んだ事は、私にとってとても大きな収穫でした。今でも活動を通じて出会ったすべての方々に感謝しています。

（飯田市立高陵中学校）

12.2 「一貫性」～自分に胸を張れるように～ 大塚一哉

「やらないって言ったのに」。YOU遊世間では数々の活動に参加してきたが、この一言だけは今でも忘れられません。その日は、麻績村で鬼ごっこの企画をやっていたのですが、天候などから指示が二転三転するということがありました。「もう一度鬼ごっこをしよう」と私が言うと、先ほどの言葉が返ってきたのです。ほんの数秒の些細な場面でしたが、当時の私は衝撃を受けました。まるで子どもの気持ちを裏切ってしまったように感じたのです。それ以来、私は「一貫性」という言葉をいつも意識するようになりました。現在、諏訪市の小学校で6年生の担任をしていますが、今もなお「一貫性」を大切に思っています。なぜなら、私は「28人の担任」だからです。子どもたちは一人一人違います。考え方も感じ方も、学校に求めるものも家庭での過ごし方も。それらに合わせることももちろんありますが、私はむしろひとつの方針を貫くことの方が大切ではないかと思っています。考え方の違った人間がひとつの集団（学級）を作っていくのですから、担任の私はひとつのものを貫く必要があると思うのです。そんな私もまだまだ未熟者です。少しずつついてきた自信も、ふとしたときに崩れたりします。YOU遊世間でも学校現場でも、目の前には、いつも本気の子どもたちがいます。だからこそ、今の自分が真に信じることを貫きたいと思います。

（諏訪市立城南小学校）

12.3 社会でも活かされるYOU遊世間での活動 小林由紀

私は教育学部を卒業し、現在サービス業の仕事をしています。教員という仕事に就いていない私にとっても、YOU遊世間での経験は今の私を支えています。YOU遊世間での活動は、私にとって大きな社会経験の場でした。特に、ほうれんそう（報告・連絡・相談）の大切さはYOU遊での活動を通して学んだことですが、現在の仕事においても重要で日々行っていることです。また、コミュニケーションの大切さを学ぶことができたのも大きな経験です。学生同士、地域の方々、そして何よりも子どもたちと向き合うこと。悩んだり迷ったりすることも多かったですが、コミュニケーションの大切さを身をもって学ぶことができたのは、今の私にとって大きな糧になっています。それは就職活動の際にも活かされました。コミュニケーション能力が社会で求められている今日、それを経験できるYOU遊世間というのは貴重な場だと実感しています。YOU遊世間で活動できたことは、私の人生の中でも大切な時間でした。そして、何よりもYOU遊世間で大切な仲間や多くの人たちと出会えたことに感謝しています。

（ハイランドリゾート㈱）

12.4 ずっと大切にしたいこと 川端智子

「小さな成長も逃さず見つけて子どもとともに喜ぶ」こと。これは、私がずっと大切にしたいと思っていることです。きっかけはYOU遊です。4つのプラザを運営する立場を経験でき、私は毎回、運営の仕方から子ども達のほんの小さな成長や小さな表情の変化まで、親御さんからの気づきをたっぷり聞かせてもらうことができました。ある時の「ぺんぎん（水泳）ク

ラブ」の活動では、A君を泳げるようにしてあげられなかったと思いながら私は練習を終えました。その思いから練習中にもA君に対して誉めたり笑顔を見せたりできなかった私に、練習後、「Aは前より浮くことを怖がらなくなったね」と、声をかけてくれたお母さんがいました。どきっとしたのを覚えています。小さな成長に気づくことができていれば、もっと褒めることも、笑顔で喜んであげることも、さらなるステップにつながる練習もできたはずでした。気づけるか気づけないかの差は大きいと思いました。現在、小学校教員になり5年目です。水泳シーズンでは、7月に10mしか泳げなかったG君が粘り強く練習した結果、8月の終わりには100m泳げるようになる瞬間に出会うなど、日々小さな成長に気づき、声をかけ喜び合うことの積み重ねの大切さを今も感じています。

（富山県富山市立萩浦小学校）

12.5　今の生活に活きる「YOU遊世間」での活動　丸山晃男

教員になり、早や4年。教育課程などの研究授業の機会をいただいたり、元気いっぱいの子どもたちと毎日過ごしたりしながら、少しずつ「教師」という存在になりつつあるかと手ごたえを得ながら生活をしています。私は「YOU遊世間」の活動を振り返った時、今の生活に活きていると感じる点が2つあります。1つ目は、「協働」の考えです。現在でもYOU遊の活動を一人で行うことは不可能であると思います。学校現場であっても、子どもに対する悩みや、日々の事務仕事、授業研究等、個人のステレオタイプな考えでは限界があります。お互いの創意工夫とやる気が合わさることで活気のある現場が実現できるのではないかと思います。2つ目は、「子どもたちのために尽くす」ことです。大学の時も今もそうですが、目の前の子どもたちのために、今、自分は何ができるのか。そこに妥協はないか。本当に子どもたちのためになるのかなど、いろんな考えが自己の価値をも高めてくれるのではないかと思います。この2点をいつも心の中心に置き、これからも全力で子どもたちと向かい合いたいと思います。

（駒ヶ根市立赤穂小学校）

12.6　財　産　平林照世

YOU遊世間で得た私の財産はご縁である。共に活動した仲間とのご縁。そして、茂菅の林部ご夫妻をはじめ、青木村、麻績村、湯谷小等の支えてくださった多くの方々とのご縁である。地域には、子ども達の未来を本気で考えてくれる多くの大人がいる。子ども達を地域や社会で活躍できるように育てるためには、教師が地域との窓口になって出会いをサポートしていけばいい。私一人が持っている力や知識など、たかがしれている。人に力を借りること、教わることは恥ずかしいことではなく、一つの大切な能力なのだ。人とつながれることが生きていく上でいかに重要かを実感として学んだ大学3年間であった。そして社会人となった今、この経験のおかげで、授業で地域へ出て行くこと、授業へ講師をお呼びすることに抵抗がない。子ども達には多くの「本物」との出会いを経験させたい。私も、共に学んでいきたいと思っている。また、YOU遊世間、同じ目標に向かって高めあった仲間達の存在は、大学を卒業した今も、私に勇気を与えてくれている。このご縁に感謝である。

（安曇野市立堀金中学校）

12.7　行事の肝～企画運営力～　髙坂優希

私は在学中、2年にわたってYOU遊世間の活動に参加させていただきました。その中でとくに学ばせていただいたのは、企画運営力の大切さでした。私は現場に出て2年目になりますが、学校は行事の連続です。毎月何かしらの行事があり、すべてに企画と運営が付き物です。企画は「何をするか」を決めるだけでなく、どのように係分担をして準備を進めるかまで考えなければなりません。一人がすべての仕事を抱えてしまうと負担が大きくなるだけでなく、その行事に関する情報もすべてその人しか持っていないことになり、横の連携が図れません。児童生徒に対しても、また教職員に対しても的確な係分担をすることが行事の成功につながると

実感しています。その企画運営力の基礎を学ばせていただいたのは、YOU遊世間であったと、改めて感謝しています。

（木曽町立開田中学校）

12.8　YOU遊世間での活動と教員生活　――――――――――――　肥留間淳也

現在、県内の公立高校で教師をしています。その中でなるべく多くの時間を生徒と一緒に過ごすことを大切にしています。これは主に部活動の話ですが、可能な限り練習に顔を出し、生徒と一緒にいるようにしています。なぜ一緒にいることを大切にしているかというと、生徒にとって身近で自分たちのために時間をかけてくれる信頼できる存在になるためであり、今後生徒が進学したり就職したりしてからも信頼関係を築くことの大切さを実感として理解できるようになってもらいたいからです。これは、当時青木村で教育長をされていた小岩井先生の『何に取り組んでいる場合でも、最後頼りになるのは人』という言葉と、YOU遊世間での子ども達や保護者の方、学生との関わりがもとになっているのだと思いますが、現在社会人となり、ますます信頼関係の大切さを強く感じています。そのことに気付けるための下地となったYOU遊世間の活動に感謝しています。

（長野県箕輪進修高等学校）

13.　第13期（平成18年度）：豊かな人間性を磨く ―明るく・仲良く・楽しく―
―卒業生7名の省察―

13.1　地域の中で生きるということ　――――――――――――　稲玉恵美

学校現場で働かせていただけるようになり強く感じていることは、「どのようにして地域の人に、子どものことを知っていただくのか」、「どのような場を設定したら、子どもと地域の人が触れ合えるのか」ということである。担任する子のことを、もっと地域の方に知ってもらいたい。学校では教えられないことを地域の方から教えていただきたいと考えているが、実際はなかなかうまくいかず、悩むことが多い。しかし、これから先、子どもと共に学習してきたものを地域の中で活かせるような場を設定することが、今の私の願いである。そう考えられるようになったのも、YOU遊の様々なプラザで活動させていただいたからだと考えている。春は子どもたちと出会い、田んぼに苗を植えた。夏は花火を楽しみ、夜は同じ布団で眠った。秋はハロウィーンパーティーで盛り上がり、野菜の収穫を喜んだ。そして、冬はどんど焼きを行い一年の無事を祈った。ここには記しきれないそのどれもが、とてもいい経験になっている。つまり、学生が地域に出向き、そこの子どもや地域の方と触れあった時間があったからこそ、日頃の授業において地域との連携を考えることができるのだと思う。学生時代にお世話になった全ての方へ、この感謝の気持ちを、いつか何らかの形でかえせたら…と思っている。本当に素敵な時間が過ごせたことが、今の私の財産である。YOU遊をやっていて、本当によかった!!

（諏訪市立高島小学校）

13.2　私の実践と「YOU遊」で学んだこと　――――――――――――　川辺裕作

〈一緒に体を動かす中での人間関係づくり〉　児童数が少ない学級での実践。まず考えたことは、固まった人間関係を崩すことだった。教室内での活動で良い結果を得られなかった私は、学級農園をつくることにした。「信大茂菅ふるさと農場」で、農作業を通して良好な人間関係がつくられていたことを思い出したからだ。学級農園では、児童が個々の良い面を発揮し、それをお互いが認め合う関係をつくれていたように思う。もちろん、いつも農園ができる場所があるとは限らないし、季節も限定される。教室で良好な人間関係を築く実践にも取り組みたい。〈「自分たちで活動をつくっている！」という感覚をもてるように〉　高学年の学級。運動会での表現、移動教室、卒業に向けての取り組みでの実践。これらの活動を行う際、児童の中でリーダーを決めるとともに、一人一人に役割をつくった。つくられた活動に参加するのと、

児童自身が活動をつくるのとでは、モチベーションが全く違う。活動後に味わえる達成感にも大きな違いがあると考えたからだ。このことは、特に「青木村えがおクラブ」での「通学合宿」を通して学んだ。合宿が終わった後の達成感は今でも忘れられないし、村の教育の一大行事を「学生に任せる」という形をとってくださった青木村の方々には感謝してもしきれない。どこまで児童に任せるのか、低中学年の時はどうするのか等の課題はあるが、子供が主役の教育活動を目指して、今後も取り組んでいきたい。　（東京都東久留米市立第四小学校）

13. 3　「私」と「青木村」　仲吉咲香

青木村で学んだことを書こうと思いましたが、学んだことがあまりにも沢山あり過ぎて400字では書ききることができなかったので、私の中に強く刻まれている皆様への感謝の気持ちをつづらせて下さい。私を鍛え、沢山の感動と「嫌われる勇気」を与えてくれた青木村の子どもたち、青木村で共に汗を流した学生の仲間たち、学生を温かく迎え入れ、活動を支えて下さった青木村の方々、そして誰よりも大変な苦労をしながら私たち学生の活動を見守り、導き、愛情を注いで下さった青木村の小岩井彰先生、授業で小岩井先生との出会いの場を与えて下さった土井進先生に、心より感謝申し上げます。「ありがとう」と何度言っても足りないほど感謝しています。現在は高校生物の教員として働いています。失敗することも多く大変ですが、私にとってこんなに楽しい仕事は他にありません。皆様への感謝の気持ちは、これから関わる子どもたちに返していきます。本当に、ありがとうございました。（沖縄県立知念高等学校）

13. 4　YOU遊世間で得たもの　堀端優也

私がYOU遊世間で得たことは大きく分けると2つある。教育者としての学びと、たくさんの友だ。この2つは、教師をする上で、いや人生を送る上で私の欠かせない物となっている。教育者として大学で学んでおくことは、授業方法、教育実践などの理論、そして、子どもとふれ合ったり、学んだり、叱ったりする経験であると考える。授業で学ぶ理論も大切だが、それを学ぶだけでは教師として足りない。実際に子どもと接し、どんな言葉で叱り、どんな姿勢で向き合うか、様々な場面を経験しておかなければならない。YOU遊世間ではたくさんの子どもたちと接し、楽しんだり、叱ったりと様々な場面に出会った。教育現場では毎日、そんな場面の連続だ。子どもとの接し方は悩んだり、失敗したりすることもある。しかし、それでも前へ進もう、次はどうすべきかと考えるのはYOU遊の力が大きい。また、YOU世間ではたくさんの仲間、先輩、後輩に恵まれた。ともに喜び、ともに泣き、ともに学んだ。そして、熱く言い合ったりもした。その仲間たちは遠く離れても、ともに応援しあい、語りあう。私のかけがえのない存在だ。仲間のおかげで、どんなに辛いことがあっても、壁を乗り越えられ、楽しいことは2倍にも3倍にもなる。YOU遊はそんな仲間たちを私に出会わせてくれた。ここまで述べたとおり、YOU遊世間は私の大学生活、教師生活に多大な影響を与えている。人間的にも、教師としても成長の場になったことは間違いない。YOU遊にもらった2つのことは、これからの人生に生き続ける。「YOU遊世間」という宝物をつくってくれた土井進先生、先輩方、そして、今も頑張っている後輩たちに心から感謝したい。　（和歌山県日高町立内原小学校）

13. 5　学生のときも教員になっても変わらずに大切にしたいもの　落合静香

YOU遊は、人とのつながりを深めてくれた。決して一人ではできなかった。参加に背中を押してくれた仲間がいたから、活動に参加してくれた子どもたちがいてくれたから、温かく迎えてくれた先輩がいてくださったから、一緒に子どもたちやスタッフのことを思い活動を考えてくれた仲間がいてくれたから、家族のように接してくださった地域の方々がいたから、活動を支えてくださった先生がいてくださったから、わたしはわたしらしく、活動することができた。地域の方々に学ぶ楽しさを教わり、それを子どもたちやスタッフに伝える難しさも感じ

つつ、やり遂げた後の達成感を仲間とともに感じさせてくれたYOU遊。教員として責任の重さにつらくなることもあります。一人でやらなければならないこともたくさんあります。全てを一人でなんてできるわけもないのですが、できないときに落ち込むこともあります。でも、「図工だったら、○○先生に聞くといいよ」とアドバイスをしていただくように、同じ職場の先生や臨任でお世話になった職場の先生方に色々と教えていただきながら学ぶ毎日を送っています。教員になっても学生の頃と同じです。一人では生きていけない社会だからこそ、出会った人とのつながりを大切にし、人との出会いから学びたい。自分がすばらしいと思ったからこそ、子どもたちにもそのすばらしさが伝わっていく。大きな心と視野を持って、これからも自らの手や足、目、体の全てを動かして学ぶ毎日を送っていきたい。

（埼玉県坂戸市立三芳野小学校）

13. 6　人に語れること　　常盤千明

自分を語れる人がどれくらいいるのだろう。いざ社会で働きだすと、自分の考えや自分の理念などを語る機会は大学生の頃より減った気がする。いや、私たちは、大学生の頃にYOU遊世間を通して語りすぎたのかもしれない。YOU遊世間で活動していた時は、遅い時は夜中の1時や2時まで仲間同士で話し合いをした。自分たちで新しいものを創っていくことが本当に楽しかったし、自分の考えをどうしても相手に伝えたくて、何度もぶつかり話し合った。何度も何度も話し合いを重ね、活動を形にしていった。先輩とか後輩とか関係なく、伝えたいことは伝えたかったのだ。今思うと「人に語れること」は、とても幸せなことだ。なぜなら、人はその一瞬一瞬を大事にしている時こそ、色々なことを考え強い想いを抱き、それを周りに伝えたいと思うからだ。たとえ、その伝えたいことが間違っていてもいい。語れることに意味があるのだ。私たちがお互いに語り合った時間は忘れられないものだし、今の私をつくっている。これからも私はYOU遊世間で学んだように、自分を語れる人生を歩んでいきたい。

（小谷村立小谷中学校）

13. 7　茂菅ふるさと農場での経験と出会い　　洞出直美

私は奈良県出身ですが、現在、長野市の小学校で勤務しています。そんな私が「茂菅ふるさと農場」と深く関わることができたのは大学3年の時であり、その農場に集まった仲間との出会いは大学生活を大きく変え、今、現場で子どもたちと過ごす上でのパワーの源となっています。落花生を作って子どもたちに実のできる不思議を体験してもらおう、カブトエビを田んぼに放して生き物と一緒にある農場を見てもらおう…いろいろな企画を立てて始まった農場は、幼稚園の子どもから中学生までが集まって無事活動することができました。けれど、私一人がやろうと立ち上がったのではできません。これはYOU遊に関わるすべての学生が感じることだと思います。協力してくださる地域の方、同じようにやろうという仲間の存在が根底にありました。だからこそ、今ではこの農場での経験と、出会った子どもたちや地域の方の存在が、「長野で頑張ろう」のパワーの源になっています。農場で出会った地域の方からは、どの市に行っても応援しているというエールをたくさんいただきつつ、同じ長野市になったことを大変喜んでもらったことをついこの間のように思い出します。農場では多くの作物をたくさんの人と一緒に育てました。同じ目的をもつ仲間と同じ場所ですごせることは、学校現場でも同じことだと私は感じています。得意なこと、苦手なこと、子どもたちは一人ひとり違う集団ですが、同じ教室で学び同じものを見て同じ時間を過ごしています。そして、一つのものを見ても一人で見るのと、たくさんで見るのとでは感じる気持ちの大きさが違うことは一人暮らしで身をもって感じてきました。「きれいだね」「おいしいね」。感じたことを共感してもらえることの喜びは、とても大きいものです。同じ空間の中で共に笑ったり、共に悩んだりする中で、子

どもたち自身の心が育てられるような教員をめざし、また私自身が農場という場で出会った多くの人とのつながりをこれからも大切に、教員生活を送っていきたいと思います。

（長野市立塩崎小学校）

14. 第14期（平成19年度）：社会力の視点からみた「信大YOU遊世間」の意義 ―卒業生12名の省察―

14.1 結局は人間関係 ―― 春原圭佑

現在、私は青年海外協力隊としてスリランカで子ども達にバレーボールを教えている。私の他にもスリランカには40人程の日本人ボランティアが入っているのだが、その活動は医療・福祉・教育など多岐に及んでいる。そして、その様々な職種の人達と話をする際に皆が口をそろえて言うのは「結局は人間関係」という言葉である。海外での活動において成果を出すためには言語力や専門的知識が最も重要だと思いがちだが、それ以上に人間関係をうまく築けるかどうかが鍵だというのである。それは海を越えても、どんな仕事であっても変わらないようだ。思えば私はその能力の大切さをYOU遊世間で学んだ気がする。周りの仲間達と一緒に話し合って一つのものを作り上げていくという作業は確実に人間関係を築く能力を養う。こうやって海外という特殊な環境で指導に当たっていても、子どもと親、そして他の教師達との人間関係を築くことがいかに大切なことかを身に沁みて感じている。スリランカは学歴社会であるため、保護者は子どもがスポーツに打ち込むことに対していい顔をしてくれない。学校の教師もそうである。そのため、私の場合も保護者や教師との関係を良好に保つことが、そのまま成果の向上につながるのである。YOU遊世間はそんな「人とのつながり」の大切さを理論的に私に教えてくれた最初の場だったと感じている。

（青年海外協力隊・在スリランカ）

14.2 今の体験に照らして、「YOU遊ワールド」で学んだこと ―― 須貝和之

「YOU遊ワールド」は、今の私には、特に次の2つのことが大きく関わっています。①子どもと遊ぶことの楽しさを感じることができたこと：「YOU遊」の名の通り、いろいろな活動を通して、本当に子どもと遊ぶことは楽しいと実感すること出来ました。現場に出て、中休み、昼休みの時間に子どもたちが元気よく遊ぶ姿をみますが、教員が外に出て遊ぶ姿はあまりみません。やはり、丸つけ、授業の準備、校務など忙しいことが多く、遊ぶ機会がつくりづらいことが大きな原因だと思います。しかし、少しの時間でも子どもたちと遊ぶことで、授業の様子とはちがう子どもたちの顔をみることができたり、交友関係をみることできたりと良い点がたくさんあります。また、子どもたちも大人と遊ぶことをとても喜んでいるように感じます。また、「何となく言われたから外に出て遊ぶか」ではなく、本当に子どもたちと一緒に体を動かすことは楽しいなという気持ちをもつことで接する態度も違います。②仲間と協力することの大切さ：私は学生の頃、「YOU遊の中心になって活躍して周りから注目されたいな」という気持ちが少なからずありました。そのため、計画をたてたり準備をしたりするときに、「一人でなんとかしてやろう」という気持ちがありました。しかし、今、振り返ると、結局一人では子どもたちに最善の案を出すことはできないと感じました。仲間と話し合い、悩み、協力することで、より良い案になると思います。仲間と協力することは本当に大切です。それを、「YOU遊」から学びました。そして、教育に携わる者にとっては、自分が主役ではなく、本当の主役は子どもということを忘れてはいけないと感じました。（島根県雲南市立田井小学校）

14.3 人と人が関わり合う場所の大切さ ―― 野口洋憲

私はYOU遊世間で活動する中で、子どもに子ども同士が関わりあう場を作ることの大切さを学んだ。私は湯谷小子どもランドを中心に参加していたが、4月は初めて顔を合わせる子が

いることもあり、前からいる子どうしは仲良く初めから遊んでいるが、初めてきた子はなかなか輪に入れずにいる姿を見た。しかし、遊ぶ回数を重ねたり、子どもの間に学生が入ることを通して、子どもたちも少しずつ輪に入って友達を増やしていく。特に、輪に入ることを躊躇っていた子が自分から輪に入っていく姿を見たときは、とても嬉しかった。子どもが新しく友達を作れたのは、「子どもランド」という場所があったから、私自身もYOU遊世間という場を通して、たくさん「仲間」をつくることができた。今、自分の学級経営で大切にしていることの一つに「学級遊び」がある。小学校2年生の担任をしているが、2年生の段階で遊ぶ友達は固定的になっていて、その輪の中に自分から入っていけない子が何人かいる。そのため、週に3回、子どもたちに学級でどんな遊びをするか決めさせて、学級全員で遊ぶ日を作っている。子ども同士が関わる機会を増やし、人と関わる力を身につけさせていきたい。

（岐阜県恵那市立山岡小学校）

14.4　ミンソプくんとYOU遊世間

布山奈津美

今年の夏、深夜、携帯の着信音が鳴った。着信画面には何ケタもの数字。国際電話だと直感。出ると、「ナッチャン、ワカル？」独特なイントネーション。ミンソプくんだ。「ミンソプくん？元気？」と言うと、「ゲンキ。ナッチャンワ？」「元気だよ。」「アノネ、グンタイオワッテ、ニホンノコトオモイダシタカラ、デンワシタ」。たどたどしいが、2年前に別れたときと変わっていない。あのミンソプくんだった。大学4年の秋のこと。いつものように私は善光寺の宿坊のバイトへ向かった。その日は、新しく入る人を連れて行くために、仁王門の下で朝6時にその人と待ち合わせた。国籍も性別も会うまで知らなかった。若い男性が立っていた。「もしかして、宿坊のバイトの？」そう話しかけると、「ハイ。」自己紹介を済ませ宿坊へと向かった。韓国男性23歳、信州大学留学生。バイトの空き時間に韓流ドラマや韓国料理の話、ミンソプくんが大好きだという日本のアニメ、エヴァンゲリオンの話…をした。私は聞いてみた。「日本での生活は楽しい？」すると彼の表情が曇った。大学で友達があまりいないとのこと。日本に来て半年。「ニホンジンワ、ヤサシイ。デモ、イソガシイ、ンーナントイウカワカラナイ。ハハ。」翌年には韓国に戻り、軍隊生活をするという。日本滞在も長くはないことを知り、「このままでは、日本での楽しい思い出がほとんど残らないまま終わってしまう…」と考えて、「子どもたちと遊ぶボランティアしてみませんか？」「ヤッテミタイ。」即答だった。突然の誘いにもかかわらず、うんと言ってくれたのが嬉しかった。そして、ミンソプくんは、ゆうゆうフェスティバルの「劇的ビフォーアフター」のスタッフに加わった。すんなり入れてくれた、かとぅと石井ちゃんに感謝した。活動の準備は夜や休日になることもあった。それでも、ミンソプくんは毎回手伝いに来てくれた。いつのまにか、ミンソプくんの周りに人が集まるようになっていた。友達の輪が広がり、「ミンミン」というあだなまでついていた。初めのうちは私としか話せず、周りとは一切関わりを持てなかった彼からは想像がつかなかった。言葉を多く交わしたわけではない。絵をかいたり、スライムをつくったり、紙を貼ったり切ったり…。「YOU遊は、言葉の壁を超える」のだと思った。共に活動する中で通じあえた何かがあったのだろう。フェスティバルも大成功に終わり、彼もとても嬉しそうだった。その後、青木村での活動にも参加をした。そして3月。ミンソプくんの帰国前日、彼を囲んで食事会を開くことになった。「ナッチャンアリガトウ。ニホンジンスキ。ミンナヤサシイ。ユウユウニサソッテクレテ、アリガトウ」。別れ際、また日本に来たいと彼は言っていた。現在私は、中学校で2学年の副担任をしている。登山や職場体験学習などさまざまな行事を終えて、今は文化祭に向けてのまとめをしている。代表の11名の生徒とともに、寸劇のシナリオの作成、稽古、パワーポイントの作成、ビデオ作成に奮闘する毎日だ。まるでYOU遊世間の

ようにチームを組んで活動しているような感じである。最近は、ますます結束力が高まってきた。「体験」をすることで人は大きく成長する。私がYOU遊世間で与えてもらった数々の経験が、今の自分を支えてくれていると強く感じる。コミュニケーションが苦手だった自分、人と協力するのが下手だった自分を変えてくれたのは、YOU遊の活動と仲間との出会いだったと思う。教師として、これからますます子どもたちにたくさんの体験の場を作っていきたいと思う。

(高森町立高森中学校)

14.5 YOU遊と出会って　上田雄介

「YOUフェスの講座長をしてみないか」という誘い。これが始まりでした。それまでの私の大学生活には、「これや！」と言えるようなものがありませんでした。家から大学まで行き、授業を受け、友人と遊んだり、アルバイトをしたり。そんな日々の中、何気なくやってみたYOU遊フェスティバルの講座長。最初のうちは、正直、厄介なこと引き受けてしまったと思っていました。しかし、準備を進めていくなかで、YOU遊に関わる人の真剣さや考え方を知りました。YOUフェスが終わった後は、大学生になってから感じたことのない充実感がありました。そして、次にかかった声が「茂菅ふるさと農場副農場長」。参加してくれる子ども達や保護者の方々、農場を支えてくださった林部さんご夫妻。そして、活動をともに支えたスタッフ。茂菅ふるさと農場は本当にすばらしい出会いの場でした。現在は奈良県で小学校教諭をしています。教室で子どもたちに見せている姿は、まさに「YOU遊」の中で築き上げられてきた姿です。子どもたちには、「これから多くの出会いがあり、出会った仲間とともに努力することで、自分をひとまわりもふたまわりも大きく成長させてくれる」という話をしています。私を成長させてくれたYOU遊に、仲間に感謝しています。ありがとうございました！

(奈良県生駒市立あすか野小学校)

14.6 現場に活きるYOU遊　土田恵久

私が大学を卒業して、数年が経ちますが、学生時代の思い出は今でも色あせることなく輝いています。さて、今の私は小学校に勤務しています。日々仕事をする中で、YOU遊でやっていたことが活きているなと感じる場面が多々あります。大きく分けると直接的な事と間接的な事の2つに分けられると思います。まず、直接的な事に、行事を企画・準備・運営することがあります。YOU遊では土日の活動のために、企画し、準備し、運営するということが日常でした。それが学校教育の中にもあるのです。例えば、今私は児童会を担当しているのですが、児童会で考えた行事を企画する力、それを準備し実行にまで移す力は間違いなくYOU遊で身につけた力だと思います。次に間接的な事です。こちらは少し抽象的な話になるかもしれませんが、子どもの成長を長い目で見る習慣がついていることです。それには学生時代先生から学んだり、友人と語り合ったりした社会力を育むという点が大きく影響していると思います。子どもを目の前にした時、目先の行動にばかり目がいってしまいます。しかし、ふと冷静になった時「子どもたちにどんな人に成長してもらいたいか」とか、「そのためにはどんな経験をさせてあげたらいいか」などをブレずに考えられるのもYOU遊のおかげだと思っています。YOU遊と出合っていなかったらどんな人生になっていたか想像できません。それほど、学生時代に学んだことが今の私を形作っています。上にも書きましたが、日々の中でYOU遊でやっていたことと似たことやっているなと感じることは多々あります。でも、大きく足りないものもあります。それは仲間。教材研究や行事の準備で資料などを作る際、学生時代だったら何人かでワイワイ楽しく作っていたことが、今は同じようなことをやっていても一人だったりします。そんな時、無性に寂しくなりますが、あの頃と同じように職場をどんどん巻き込んでチームとして行事を作っていくことが今の私の課題だと思います。これからも、YOU遊

を理想としてどんどん周りを巻き込み、楽しく教育していきたいと思います。

（和歌山県橋本市立高野口小学校）

14.7　多くの同志と秘密の部屋　――――――――――――――――　青木智博

幼稚園、小さな食堂、学生が住むアパート、その中に信州大学はある。信州大学の中でも教育学部は地理的には観光名所の善光寺と並ぶが、観光客はそれが大学だとは気づかないような小さなキャンパスである。その中でも一際目立たない教室N 308に、YOU遊世間という世間が長野中に広がっている。そのYOU遊世間の魅力は、私たちがすることは私たち自身で決めそれをやりたい人がやる場であることにある。そして、それが重要である。私はYOU遊フェスティバルで講座をさせてもらった。そこではまさにやりたいことだけの机上の空論から始まる。だがそんなことも、多くの同志がいたらもっと良い形で実行へと移せる。本当にやりたいと思う人が集まり、信頼し合い、言い合い、そして高め合えば、その集団には莫大なエネルギーが発生する。後はそれをやりたいと思うことに注げば良い。これが、私がYOU遊世間から学んだことである。そしてこれからはこの学んだことを生かすことが課題であるが、いつかまた同志たちとすばらしい経験をすることができると信じている。

（兵庫県西宮市民）

14.8　初めての音楽療法～YOU遊世間での実践～　――――――――――――　大家恵梨子

私は「わらの会」という、障害児に音楽療法を通して言語・身体訓練を行う講座の担当でした。初めて参加した時は右往左往するばかりで、訳もわからず言われるままに動いていました。しかし、活動の中でAさんの言った一言が忘れられません。とても印象的でした。それは、ハンドベルを使って身体機能を高める療法です。初めてハンドベルを持ったAさんは戸惑いながらも手に汗をかくくらい強く握って緊張しているのが分かりました。最初は速さについていけず悔しそうな表情をしていましたが、出来るようになると「楽しい」と小声で言いました。その言葉を聞いて、できることが楽しいという感情を共有できて幸せだなと思いました。Aさんと同じ気持ちになれることがとても嬉しかったです。このような小さなことの繰り返しですが、Aさんらとともに過ごせたことで小さなことが大きなことに変わっていく喜びを実感できたと思います。この感覚を今後の教師生活でも大切にしていきたいと思います。

（白馬村立白馬北小学校）

14.9　私を支えてくれたYOU遊世間　――――――――――――――――　青木みなみ

上田養護学校に勤め始めて今年で3年目になります。今、しみじみと感じていることは、学生時代にいろいろな子どもたちと出会ってきたことが今の私の支えとなっているということです。学生時代、YOU遊世間の活動を通して、特別支援学校の子どもたちと遊んだり出かけたりする機会、中学部を持たせてもらってきたのですが、今でもその時の経験や思い出を大切にしています。本当にいろいろな子どもたちがいて、みんなが楽しめる活動を工夫したり保護者の方々と連携をとりながら企画したりする上で時には大変なこともありましたが、「楽しかった」「ありがとう」という子どもたちや保護者の方の笑顔は最高でした。教師としての生活が始まったばかりの頃は社会人としての決まりや学校の仕組みなど、未熟者の私にとってはわからないことばかりでした。そんな中、自分なりに自信をもつことができたのは、子どもたちとの向き合い方でした。もちろんうまくいくことばかりではなく、すれ違ったり時間がかかったりすることもたくさんありました。それでも、いろいろな方法を試したり、じっと待ったりすることで子どもたちと心が通う瞬間が必ずくるということは、YOU遊世間での活動を通して経験してきたことでした。そういった気持ちでいられたことは、本当に私にとっては助けとなりました。YOU遊世間でいろいろな子どもたちに出会ってきたこと、子どもたちのために頑張る先輩や友だちの姿を見てきたことは、教師として子どもたちと向き合っていく上でとても

大切なことだと思います。そういった機会をもつことができたことに本当に感謝しています。

（長野県上田養護学校）

14.10　YOU遊世間からの学び　藤岡泰裕

信州すざか農業小学校に2年間携わり、子ども・保護者・農家先生・教育委員会の方との関わりの中で、前に進むことの大切さを学んだ。プラザとしてスタートして日が浅く、互いの意思疎通に少なからず壁があった。大学生として、子ども達と農家先生をどう近づけていけばいいのかを悩むことがしばしばあった。そんな時、学生同士で話し合い、説明するのが難しい地域のお祭りを調べてまとめたり、作物をクイズ形式で紹介したりして、農業や文化をわかりやすく紹介しようと努力した。また、活動当日の朝に農家先生から農作業の内容や作物の植え方等を事前に確認し、農家先生の説明とは別に、個別に子ども達に教えながら一緒に農作業をしたりした。自分達のやるべきことを無我夢中で探していくことで、学生だけでなく農家の方や保護者ともコミュニケーションをとるようになり、それぞれの願いや思いを聞くことができた。そして、そこから改善を重ねて次の活動に活かすという流れを作ることができた。また、見通しが持てずに諦めそうになった時、何でもいいから前に進もうという気持ちを持つことができるようになった。今現在もこの時の経験を活かし、授業や生徒指導などで考えてもわからないときは、とにかく行動しようと気持ちを切り替えて動くようにしている。

（安曇野市立穂高北小学校）

14.11　YOU遊世間の経験と私の教育実践　細田有希

私は学生時代、「信州すざか農業小学校」の活動に関わりました。その活動でさつまいもの苗を植えた時、あるお子さんが土の中から虫を見つけました。周りにいた子どもたちも大喜びで集まり虫を大切そうに可愛がっていました。この活動から子どもたちは土とふれあうのがとても大好きだということを学びました。私は毎年、畑での野菜作りを大切にしてきました。今年は大豆を作っています。夏休み前に久しぶりに大豆畑へ草取りに行きました。子どもは元気いっぱいに、「もう、お豆さんができているよ」とつぶやき、大豆の成長を実感している様子でした。野菜づくりは、考えれば考えるほどいろいろな活動に広げることができるということをこの3年間を通して学びました。子どもたちは、一人ひとり願いを持って野菜と関わっているということも知ることがでました。これからも土に関わる活動を大切にしていきたいと思います。

（千曲市立八幡小学校）

14.12　土井進先生の後ろ姿　鈴木亮子

私は土井先生の後ろ姿に初めて出会って衝撃を受けた。それは、茂菅の農場に使う堆肥を作るために、生協の生ごみを一輪車で運搬しておられる姿であった。私はこういうことをしている大学教授がおられることを知って本当に驚いた。それから私は、大地と関わることにこんなに熱心で、誠実に学生に接してくださる土井先生のもとで学びたいと心から思い、「YOU遊世間」の活動に積極的に取り組んだ。また、卒業前の3月に青木村文化会館で開催された第9回「全国フレンドシップ活動」in信州にも参加した。土井先生から学んだことは、周りにいる人が幸せになるためにはどうしたらよいのか、そして自分自身が幸せになるということであった。また、志を高く持つことや言葉の持つ力の大きさなどたくさんのことを学んだ。学生のことを思って、学生のために尽くす先生だと心から感じた。私は今、千葉県八街市立実住小学校の5年生を担任している。教員3年目だ。学生時代に学んだ土地を離れても、空をしっかり見上げて頑張ることができるのは、学生時代にともに学んだ「YOU遊」の友が全国各地にいるからだ。そして、土井先生が長野にいらっしゃるからである。学生が実体験を通して学べる「YOU遊世間」を支えてくださっている土井先生に本当に感謝している。（千葉県八街市立実住小学校）

15. 第 15 期（平成 20 年度）：「信大 YOU 遊世間」の魂は、自発・能動の「一人立つ精神」
― 卒業生 7 名の省察 ―

15. 1　YOU 遊世間で学んだこと　―――　原　耕平

私が YOU 遊世間で学ばせていただいた一番のことは、「人との出会い」です。茂菅ふるさと農場の林部さんや、湯谷小子どもランドの保護者の方々、様々な活動場所での子どもたち、一緒に悩みながら企画をした学生の仲間など、数え切れないくらいの人々に出会ってきました。その一つひとつの出会いが、私の考え方を改めさせてくれたり、苦しいときの支えとなっています。その人たちとのつながりを、私は今でも大切に思っています。大学を卒業し、私は教師と言う道を選ばず地方公務員の職を選びました。青木村通学合宿が成功し大きなものとなってきたのは、大学生だけではなく教育委員会の方々のご尽力があったからです。大学生に限らず小学生、中学生、そしてご年配の方々にまで、たくさんの出会いの場を提供できる立場として、この職を選びました。この職場の中でたくさんの人と出会い、体験しながら成長していきたいと思います。私が数え切れないくらいの人々と出会えたように、もっとたくさんの人がたくさんの人と出会える場を提供できるような仕事をしていこうと決意しています。

（茅野市役所都市建設部水道課）

15. 2　YOU 遊世間で得たもの　―――　宮川はるな

友人とご飯を食べに行く時、どこかに出かける時など、これまでの私は、特に自分の意見を述べることなく、相手の行きたいところに行くことが多かった。実際、本当に何でもいいという時が大半であったが、悪く言えば、相手の反応をうかがっていたということになる。自分の意見を言った時、相手に何か思われるのではないだろうかと、消極的に考えてしまっていたのである。他人の考えに同調すれば、その場がまるく収まると考えていたのも事実である。そんな私が大学時代、YOU 遊世間に出会い、そこで活動をしていくうちに変わっていった。そこには、自分の意見を持ち、仲間と熱く語り合う人たちがたくさんいた。圧倒された。衝撃を受けた。「こうなりたい」と強く思った…。私は、YOU 遊世間での仲間との出会いを通して、「自分を持つ」ことの大切さ・楽しさ・魅力を感じたのである。自分の道は、自分の意思で切り拓く…。YOU 遊世間でのこの学びが、現在の私の生活を実のあるものにしてくれている。自分の生き方を方向付けてくれた“出逢い”に、ただただ“感謝”である。

（飯縄町立飯綱中学校）

15. 3　教師の役割～茂菅ふるさと農場での実践から～　―――　中川　茜

今年の 8 月、久しぶりに農場の活動に参加しました。保護者・学生・色んな年齢の子どもたちが入り混じって活動する姿をみて、ここが私の原点であると強く感じました。中学校に勤務し感じるのは、受け身で、人と関わりながら生きるのが苦手な子どもが多いということです。人生自分から学んでいかないといけないし、生涯人と関わって生きていかなければなりません。それが上手くできないと、引きこもりや犯罪行為、その子が大人になった時の子どもへの虐待へとつながっていくかもしれません。そのためにも、学級経営で私が大切にしたいのは、子どもたちが意欲を持ち、主体的に生活を作り出していける環境、人とぶつかり合いながら集団生活を送っていける環境を持つことです。この考えは茂菅での活動から来ています。茂菅には、蝶々が飛んでいたり、去年のじゃがいもが転がっていたり、土管の中にカエルがいたり、ふれあったことのない学生や他の子の保護者が傍にいてくれたりする入り組んだ環境です。そんな中で、子どもたちは自分で学ぶものを選択し極め、自然を通して色んな人と何気なく関っていく機会が持てます。茂菅での実践から、教師の役割で重要なのは、子どもが主体で学べる

環境を、いかに適切に設置できるかということにあると思いました。茂菅ふるさと農場、YOU遊ワールドがこれからも続いていきますように。今回このように学びを伝える場をいただけたことを大変光栄に思います。土井先生ありがとうございました。

（石川県金沢市立兼六中学校）

15.4 仲　間　　飯島理沙

もし大学時代YOU遊世間で活動できなかったとしたら、今の私の幸せはないと断言できる。夢だった教師という職について半年。初めてのことばかりで不安でうまくいかなくて、というときに支えてくれたのは、YOU遊で共に活動した同学年の友だち・先輩・後輩・先生・地域の方々という「仲間」だった。共に活動したからわかる私のクセや性格を理解し、全てを包んで話を聞いてくれた。そんな仲間がいるから子どもたちと笑ったり泣いたり共に成長していける日々を送れているのだと思う。学校の外だけでなく、同教科の先生や学年の先生をはじめ、学校中の先生と協力し協働し、仲間意識を持ち助けてもらっている。私がYOU遊世間で学んだことの一つは、仲間の大切さである。仲間に大切にしてもらっているから、仲間を大切にすることができるから、今の私がくじけないで倒れないでいられるのだと思う。これからも、何かの活動を共にした仲間を大切に、子どもたちと成長したいと思う。

（上田市立塩田中学校）

15.5 YOU遊世間に感謝　　鈴木祐香

私は信州大学教育学部を卒業し、教員生活を半年終えたところである。YOU遊での経験を振り返ってみると、人としてはもちろん、教師として大切なことをたくさん教えていただいたということに気付かされた。たくさんある中で、一番強く感じるのが人とのつながりの大切さである。YOU遊での活動は、一つひとつを仲間と一緒に考え、一緒になって悩み、一緒になって成功の喜びを味わってきた。仲間という存在が、悩みを小さくもしてくれた。先輩や先生、地域の方も一緒になって考え、悩み支えてくれた。人のつながりに支えられ、成功の喜びを何倍にもしてくれた。それがYOU遊の魅力であると感じる。教師になった今、同じ学年の先生方に助けられてばかりであるが、時には一緒に悩み、一緒に汗をかき、一緒に笑い、一緒に子どもを見守っている。一人の子どもの成長をみんなで喜ぶ。YOU遊という場がみんなで手をつないでつながって存在しているように、学校という現場も教員同士が共に手を取り合ってつながっているのかもしれない。「一人じゃ何もできない。しかし、私は決して一人じゃない」。そんな風に思えるのは、YOU遊世間での経験のおかげであると心から感謝する。

（愛知県公立小学校）

15.6 「どっこい☆ソーラン節」講座と運動会　　渋谷美奈子

先週の土曜日に、小学校に赴任して初めての運動会がありました。そこで3・4年生が踊ったソーラン節を見て、「子どもたちはよく頑張った！今までで一番いい踊りだった！」という思いの反面、「私に指導力があれば、もっともっと子どもたちの力が発揮されたのでは…」という思いもありました。特別支援学級の担任になった私が、運動会で踊る「ソーラン節」を教えることになってから2週間と少し、頭の中はソーラン節でいっぱいでした。YOU遊フェスティバルで講座長をしたのは、大学2年生の冬。YOU遊フェスティバルで、毎年ソーラン節の講座のスタッフをしましたが、子どもたちにどうやって踊りを教えたらいいのか…うまく教えることのできない自分にはがゆくなったことが多くありました。その経験を現場で活かすチャンスがこんなにも早くめぐってきたことをとても幸せに感じました。「ソーラン節、楽しい！」といって休み時間にも、踊りの練習をしていた子どもたちの姿は忘れられません。またいつか運動会でソーラン節を教えることになったら、今までの経験を駆使してもっともっと子

どもたちの力を引き出せるように頑張っていきたいです。　（中川村立中川西小学校）

15. 7　信大YOU遊世間での活動で私が得たもの　藤田裕介

私が最も多くかかわっていた「信大茂菅ふるさと農場」での活動は、子ども、大人、学生たちの笑顔で満ち溢れていました。活動に参加していく中で、自分も笑顔の溢れる茂菅を作っていきたい、運営側として携わっていきたいと思う気持ちが強くなっていき、三年時に副農場長を務めさせていただきました。その他にも多くのプラザの活動や企画に運営側として、一参加者としてかかわっていく中で、私は、人と人がかかわり合いお互いの想いをぶつけ合いながら一つの活動、プラザを築き上げていく楽しさと喜びを知りました。また、時には自分自身の考えの甘さを教えてくれる愉快で素晴らしい多くの仲間と出会うことができ、どの活動においても多くの人たちによって支えられているということを深く自覚することができました。私の大学生活において、「信大YOU遊世間」での活動や出会いは最も誇ることのできるものであり、これからの人生においての大きな糧となっていくものであります。

（波田学院児童自立支援嘱託員）

16. 第16期（平成21年度）：信州大学創立60周年記念事業、信州大学功労賞の受賞
― 卒業生7名の省察 ―

16. 1　共に育ってきた3年間　東野千尋

私が信大YOU遊世間という活動に参加したのは、友人の紹介からでした。その頃は子どもどころか他専攻の学生とすら関わることがなく、活動に参加しても自分は何もできないだろうし、上手く子どもと関わることができなかったらどうしようかと、不安な気持ちでいっぱいでした。そんな不安の中参加した茂菅ふるさと農場の活動は、活動前に感じていた「上手く子どもと関わらなくちゃ」というプレッシャーが嘘のように、楽しく進んでいきました。それは、初対面なのに積極的に寄ってきて話をしてくれる子どもたちや、優しく見守ってくれている先輩方のおかげでした。それからは茂菅以外の活動場所にも参加するようになり、3年生の時には優しく見守ってくれた先輩方に近づきたいという思いから、YOU遊世間の全体長もやらせていただきました。さまざまな活動の中で、地域・保護者・学校など、たくさんの方の協力で活動が成り立っていることを感じました。私は今、石川県の中学校で働いています。YOU遊世間での3年間がなかったら、今のように楽しく仕事ができなかったと思います。全ての出会いに感謝しながら、これからも頑張っていきます。　（石川県宝達志水町立志雄中学校）

16. 2　人として、教師として、最も支えになっている言葉　市川香織

学生時代の一番の思い出は、「YOU遊世間」で過ごした日々である。仲間と徹夜で議論を交わしたこと、愛おしくなり子どもをぎゅっと抱きしめたこと、他大学に友だちができたことなど、楽しかった日々がよみがえる。どれも「私一人」では得られなかった思い出ばかりだ。「YOU遊世間」は、まさに「人と人との出会いの場」であった。なかでも小岩井先生との出会いは、私の人生のターニングポイントである。小岩井先生のおかげで今の私がある、といっても過言ではない。なぜなら、人として教師として生きていく上で、最も大切なことを教えてくださったからである。それは、「おかげさまの気持ち」だ。先生と出会う前の私を振り返ると、YOU遊世間の活動においても、その中心はどこか自分にあったと思う。なぜなら、活動が終ると、自身の達成感や充実感でいっぱいだったからだ。その傲慢な気持ちが言動にあらわれていたのだろう。小岩井先生に「活動をやらせていただいている、大事な子どもたちに関わらせていただいているという＜おかげさまの気持ち＞を忘れるな」と叱っていただく度に、私は自分の未熟さに気づかされた。先生と出会ってからは、保護者・子ども・地域の方と

の接し方が変わったと思う。簡単に表現すると、「素直」になったのだ。現在お世話になっている学校でも数人の先生に、「市川先生は素直。そこがいい！」とほめていただいたことがある。そんな風に変われたのは、小岩井先生のおかげだ。素直の根底には、「おかげさまの気持ち」がある、ということを私は確信している。授業がうまくいかない、子どもの気持ちに寄り添えない、やる気が起きないなど、自分は教師に向いていない、教師をやっていてよいのだろうかと、疑問を持つ日も少なくない。そんな時はいつも、「教師をやらせていただいている、親や地域にとって宝のような子どもたちを、あずからせていただいている」という「おかげさまの気持ち」に立ち返る。すると、困難も乗り越えることができる。これから先、常におかげさまの気持ちで、どこまででも進める気がする。良いことも悪いことも、この気持ちがあれば、すべて前向きに受け止められ、自分をどこまででも成長させていけると信じている。小岩井先生との出会いを与えてくれたYOU遊世間に、そしてYOU遊世間を18年間支え牽引してくださった土井先生に、感謝の気持ちでいっぱいである。

（千曲市立東小学校）

16.3 「YOU遊世間」に想いをよせて ―― 宮尾　亘

一人の子どもについて、一つの企画に対して話し合えた仲間。仲間がいたから、信頼して任せることができた。仲間がいたから、自分の心に余裕を持っていろいろなことにつき進むことができた。そんな環境を、私たちにくれたのが「YOU遊世間」でした。土井先生や地域の方たちに温かく見守ってもらえるような環境があり、子どもについて真剣に考えられる一つの場であったからこそ、私たちは挑戦をすることができました。そして、子どもをみんなで育てていく大切さを学びました。今、職場では一人で学級を持っているため、学生時代ほど話し合うことはありません。しかし、そんな中でも、地域の人や家庭、他の先生と協力しながらできることを探り、少しでも「みんなで子どもを育てていく」ことができればと思っています。最後になりましたが、土井先生、小岩井先生はじめ多くの方からいろいろ教えていただきました。この「YOU遊世間」のご縁に心より感謝しております。ありがとうございました。

（上田市立西小学校）

16.4 YOU遊世間の学び ―― 阿部由季

YOU遊世間の活動は人と人とのつながりだと感じています。YOU遊世間では、子どもをはじめ、保護者、JA、農家、教員、学生など、世代も職業もバラバラの人たちが一緒になって活動を行っています。私が活動に参加した理由は、コミュニケーションが苦手だったからでした。活動を重ねYOU遊世間に関わる人たちのあたたかさに触れていく中で、少しずつ苦手意識がなくなり、コミュニケーションの楽しさを感じるようになりました。積極的に話しかけたり、行動できるようになったことで、充実した大学生活を送ることができたと思っています。大学では、なかなか機会のない「実践を行うことができる」ということが素晴らしかったです。いざ実践してみると、私はうまくいかないことが多かったのですが、そこから反省し次に繋げていくことで力が身に付いたと感じています。一緒に活動する学生たちの姿から学ぶことができるということも、YOU遊世間の素晴らしさの一つだと思います。

（信州大学教育学部研究生）

16.5 「子どもってすごいよ」という言葉 ―― 鈴木　梢

この言葉を何度も言う先輩がいた。私はその言葉の意味がわからなかった。私の中では、子どもは大人に教えられて生きているものであると思っていたからである。子どもが好きと簡単に言う人の言葉もしっくりこなかった。YOU遊世間での3年間は、私にとってこの答えを見つける3年間であったように思う。活動に参加したり、自分で企画をするうちに、段々その答えが見えてきた。自分の考えをいとも簡単に超えられるほどのこの言葉のその力の大きさに圧

倒された。そして、全国のフレンドシップ活動をしている仲間たちと一緒に企画をしたときに、本当に子どものために頑張る仲間の表情に出会った。そのときに、自分はこの気持ちを持った仲間と一緒に頑張りたいと思い、初めて教師になることを決めた。大きく自分が変化した3年間であった。自分からやってみようという気持ち、それを寛大に受け入れてくれたYOU遊世間に心から感謝している。

（信州大学教育学部附属幼稚園）

16.6　原点　YOU遊世間　　中村恵理

大学時代に「YOU遊」に携わることがなければ、私の今はありませんでした。「教育に興味を持っていなかった」とは言えませんが、人と関わることに少なからず抵抗を感じていた私にとって、自分が教員として働くことは想像の域を越えていました。最初は誘われて、なんとなく参加したYOU遊の活動。しかし、そこでの出逢いがそれまでの不安な気持ちを吹き飛ばしてくれました。本気でぶつかって、本気で楽しむことを教えてくれた子どもたち、ひとつの活動にかけるひたむきさを教えてくれた学生の仲間、見ず知らずの学生を「ありがとう」「よろしく」と迎え入れる温かさ・寛容さを教えてくれた地域の方々…。「人と話すこと、人と交わることってなんだかいいな」、そんな思いがいつのまにか私の心の中にありました。今、教員として働くことができ、とても幸せです。子どもたちと悩み、考え、喜び、そして子どもたちを愛しいと思える毎日が私の宝物です。

（長野市立裾花小学校）

16.7　「気づき×築き」　　園田　泉

第9回全国フレンドシップを信州大学で開催した際、実行委員を務めました。その当時は「YOU遊世間」の振り返りをする機会、そして今後の活動の発展につながる機会となりました。その時に気づいた他大学との大きなちがいは、地域との連携です。地域の方々の協力がなければ信州大学のフレンドシップは成り立たず、そして旬の環境を提供してくださらなければ継続されていなかったように感じます。現在私は教員として、小学校の教壇に立たせていただいています。この場では地域の方々と関わる機会が少なく、生活科・総合的な学習の中でしか交流できません。しかし、ここの地域では「子どもいきいきクラブ」というYOU遊世間に似た活動がされています。学生主体の活動ではないですが、子どもにとってはすばらしい環境になっているのではないかと思います。私自身が直接関わっているわけではないですが、「このような環境が如何に必要か、重要か」ということを、YOU遊世間・全国フレンドシップを通して気づけるようになったと思っています。そのため、もしこのような場が必要になったときは自分から築くことができるよう、日々精進していきたいと思います。

（木曽町立福島小学校）

☆第17期・第18期（平成22年度・23年度）については、
〈現役信大生が「臨床経験」と「YOU遊世間」から学んでいること〉p. 144参照〉☆

Ⅳ　学術論文にみる「信大 YOU 遊 サタデー・広場・世間」の教師教育学研究

1．教員養成学部における実践的指導力の養成
――「信大 YOU 遊サタデー」での体験的学習の指導を通して――

1．本稿の意図

我が国の教育界は、今、いじめや不登校、学業不振等の難問を抱えている。このような教育課題にも対応していくことの出来る実践的指導力を備えた教員を養成することが教員養成大学・学部に強く養成されている。国立大学協会教員養成制度特別委員会は、1995 年（平成 7）年 7 月に「大学における教員養成への提言－教員の需給関係の変化に伴う教員養成のあり方について－」を発表した。この中で、今日の教育学部改革の中心的課題は「自ら教職を選択し教職の専門職性を研鑽して教員となっていこうとする者に、教育学部がどのように応えていくか」[1]ということであり、「今日の教育学部は、これらの学生の人生選択に応え得るものとしてより充実した教育研究を展開する責任がある」[2]と述べている。すなわち、大学の主人公である学生の教育にどう立ち向かうかということである。本稿は、このような教員養成大学・学部に課せられた責務である学生の実践的指導力の基礎を如何にして養成するかという課題意識のもとに、平成 6 年度から取り組んでいる「信大 YOU 遊サタデー」（以下 YOU 遊サタデーと略す）の実践について報告するものである。

2．「信大 YOU 遊サタデー」とは何か

2．1．四つのねらいとネーミングの工夫

YOU 遊サタデーは、平成 6 年 5 月 18 日に 3 年次生対象の「教育実習前指導」において、次のような趣旨による教育のボランティア活動を始めませんか、と呼びかけたことに端を発する。

① 信州大学教育学部の学生が、自分の得意とする分野で教育実践のボランティア活動を行うことによって、学生生活の活性化を図る。（学生生活の充実）

② 教育学部教官や学生の持っているすぐれた教育力を地域社会に開き、貢献することによって教育学部と地域社会とのつながりを深める。（大学開放）

③ 学校週五日制に対する地域社会や家庭の取り組みがまだ試行錯誤の状況にある現在、教育学部が率先して子どもたちに遊びや学びの場を提供することによって、学校週五日制時代の地域教育力の回復に努める。（学校週五日制）

④ 教育学部には幼・小・中・高・特殊の各学校の園児・児童・生徒に対応できる学生が学んでいる。この学生たちが自己の持ち味を発揮して子どもたちとかかわることによって、教師となるための実践的指導力の基礎を身につける。（実践的指導力）

この呼びかけに対して 325 名中 36 名から応募があった。また、このことを聞きつけた 4 年生や大学院生からも参加申し込みがあり、約 50 名の賛同を得て平成 6 年 6 月 6 日に第 1 回実行委員会が開かれ、4 年生が積極的に実行委員長を買って出た。教育への志を抱いたこの学生たちの集まりにおいて、学校が休日となった第 2、第 4 土曜日に、地域の子どもたちを大学キャンパスに迎えて遊びや学びの体験的学習の講座を開き、学生と参加した子どもたちが共に思いっきり楽しんで、心の触れ合いを図ろうということが熱っぽく語り合われた。そして、上記の 4 つのねらいを踏まえて第 2 回実行委員会において、この企画全体を「信大 YOU 遊サタデー」と命名することが決定された。今、YOU 遊サタデーは 3 年目を迎え、インターネットを通じて全国に発信されるようになった。また、本学部から諸外国の大学に留学する学生が年々増加し、今年度からアメリカのユタ大学との学術交流も開始された。この時に当たり YOU 遊サタデーの英語表記として、“ShinDai FunShare Saturday” が新しく誕生した。

2．2．体験的学習の内容と参加者数

YOU遊サタデーは平成6年9月から8年5月までに8回、延べ123講座が開設され、その運営に携わった学生は述べ557名となった。また、YOU遊サタデーに参加した人は幼稚園児から小・中・高校生、一般成人まで合わせて述べ1,745名を数えるに至った。内容は次の通りである。

＜もの作り講座＞「お弁当の袋づくり」「ポストカードづくり」「がりがり竹とんぼづくり」「しめ縄を作ろう」「やさしい木工教室」「和紙のブローチづくり」「フェルトで作ろう　アニマルマスコット」「草木染めのハンカチづくり」「お手玉を作って遊ぼう」「自然と遊ぼう　笹舟づくり」「自分のはんこを作ろうか」等。

＜交流体験講座＞「けん玉で遊ぼう」「教育学部ってどんなところ」「外国人と世界の遊びで楽しもう」「たのしい英語クラブ」「お父さん、地域で講座を開きませんか」等。

＜表現講座＞「小麦粉ねんど」「みんなで楽しい紙しばいを作ろうぜ！」「ギターをやろうジャーン」「かこう・書こう・描こう」「秋のどんぐりアート」「リズムで楽しく遊ぼう」「みんなで書道をやろうか」「自分の音楽をつくろう」「楽しく上手に写真を撮ろう」「ビデオカメラに挑戦」等。

＜料理講座＞「おいしい月見だんごを作ろう」「おからでクッキーづくり」「かんかんアイスクリームづくり」「そば作り名人になろう」「スイートポテトを作ろう」等。

＜実験講座＞「宇宙生物スライムを作ろう」「刃物研ぎ方教室」「自転車大分解」「不思議な化学実験をやってみよう」「金属の組織を見てみよう」「学校では教えてくれない化学実験」「はりがね工房」等。

＜運動講座＞「ソフトボール天国」「大縄跳び」「トランポリン」「親子でバドミントン」「アニマルダンス」「磁石で探検しよう」等。

2．3．学生がつかんだ手応え

学生たちは「先生」と呼ばれることを避けるために、自分たちのことを「キャプテン」（講座の責任者）「スタッフ」（キャプテンとともにティームティーチングを行う）と呼んでもらうことにした。なぜなら教育実習の時のような「教師」としての立場ではなく「お兄さん」「お姉さん」としての立場で、普段着の子どもたちとかかわりたいと願ったからである。どの体験的学習の会場も、キャプテンやスタッフとの触れ合いから生まれた子どもたちの笑顔と歓声で満ちあふれていた。学生たちは、初対面でしかも学年がまちまちな子どもたちをわずかな時間の内に掌握しようと真剣である。学生たちは、講座が3時間という長丁場なので子どもたちが飽きないように、また最後には「今日は来て良かった」と喜んでもらえるように、一人ひとりの子どもに応答しながらキャンパスを走った。このような真剣で生き生きとした学生たちによって、信州大学教育学部キャンパスは真の教員養成学部に蘇生したように感じられた。

100人近い学生を組織して第一期の実行委員長を務めた学生は、「われわれの取り組みが地域社会の人々に受け入れられ、喜んでいただけたことはとてもうれしいことでした。この体験を通して、ただ与えられるだけの受け身の学生生活に安住していたのではとても得られない充実感が、地域社会に貢献することによって得られることが分かりました」[3]と述べている。また、第二期の実行委員長も「YOU遊サタデーでは多くの学生の自主的、献身的な助け合いが見られます。誰かの足りないところを別の人が補い、人知れず縁の下の力持ちとなってくれる人々がいます。・・・学生には本当にバイタリティと情熱があります。以前はそれを発揮する場がごく限られていましたが、今は違います。私たちにはYOU遊サタデーがあるからです。YOU遊サタデーに参加している学生は水を得た魚のように生き生きとしています」[4]と述べている。

3．本稿と先行論文等との関連

YOU遊サタデーについて考察した先行論文等には、次の7編がある。

(1) 土井進編『平成6年度「信大YOU遊サタデー」の実践』信州大学教育学部附属教育実践研究指導

センター　全114頁　1995

(2) 土井進編『平成7年度第2期「信大YOU遊サタデー」の実践』同上センター　全248頁　1996

(3) 土井進編・山口直行・渡辺一博「信大YOU遊サタデーの概要」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第4号　pp. 176-183　1996

(4) 土井進「信大YOU遊サタデーのもつ応用教育実習としての意義」『同上』第3号　pp. 109-118　1995

(5) 土井進「信大YOU遊サタデーにおいて“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観」『日本教材学会年報』第7巻　pp. 193-195　1996

(6) 土井進　「信大YOU遊サタデーを通して修得される実践的指導力」『信州大学教育学部実践センター研究発表論文集』第1号　p. 2　1996

(7) 林向達・土井進「信大YOU遊サタデーにおける“人間力”の考察」『信州大学教育学部教育実践研究指導センター紀要』第4号　pp. 55-64　1996

(1)～(3) はYOU遊サタデーにおいて講座を開いた学生たちの実践記録である。YOU遊サタデーは、大学の名をもって地域社会に働きかける教育活動である以上、単なる遊びやお祭り騒ぎに終始するのもであってはならない。研究的な姿勢を持って実践し、教育実践から得たことは学術的にまとめていく努力がなされなければならない。このような課題意識に基づいて執筆・編集された冊子が (1) と (2) である。ここには教師としての力量形成を目指す学生たちの視点から見た子どもたちとの出会い、触れ合いの様子が如実に記述されており、YOU遊サタデーに関する第一次資料となっている。(3) はYOU遊サタデーとは何かが端的にわかるように、(1) と (2) を基に目的、実施日時、学年別参加者数と指導に当たった学生数、運営経費、開設された講座名等を資料として提示したものである。(4)～(7) はYOU遊サタデーについて考察した論文である。(4) においては教員養成学部におけるYOU遊サタデーの存在意識を明らかにするために、教育実習との関連について考察し応用教育実習として位置づけることができることを論じた。(5) と (6) においてはYOU遊サタデーを通して修得した実践的指導力の内実について考察し、子どもの心に寄り添う共感力と自己の体験を教材化し個性を発揮することによって、表現力・説得力を錬磨していることを明らかにした。そして (7) においては、教育学部改革のもう一人の主役である学生にとってのYOU遊サタデーの意義について考察し、YOU遊サタデーが実践的指導力の核心をなす「人間力」の向上の場となっていることを論じた。

以上 (1)～(7) の先行論文等においては、YOU遊サタデーの実践記録をまとめるとともに、それを基にして教員養成学部におけるYOU遊サタデーの持つ意義や学生が修得した実践的指導力の内実について考察した。これに対して本稿では、信州大学教育学部においてなぜYOU遊サタデーが起こり、学生によって支持されているのか。その背景にある学生の意識を「教員適正診断」のアンケート結果から新たに考察し、現状の教育学部カリキュラムは、学生の「教職への使命感や熱意」を喚起する上で改善が図られなければならないことを明らかにする。そして、教育学部カリキュラムに対する学生たちの不満をバネとして、1年次生を対象とした臨床経験の授業科目「教育参加」が新設されたことについて述べる。

4．教員養成学部における実践的指導力の養成

4．1．教育学部の「教職への使命感や熱意」の希薄化

信州大学教育学部では、平成5年度から臨床経験の授業科目「教育実習前・事後指導」を附属教育実践研究指導センターが開設することになった。この授業の最初の受講者となった学生が、六週間の教育実習を終えほっとして集まった「教育実習事後指導」の授業において、次のような「教員適正診断」に関するアンケート調査を実施した。すなわち、自分が教師に向いているかどうかを判断すると

き、以下の10項目においてそれぞれどの程度重視するかを「非常に重視する」「かなり重視する」「どちらともいえない」「ほとんど重視しない」「全く重視しない」の五段階で答えるものである。このうち「非常に重視する」と「かなり重視する」と答えた者を合計し、回答者全員にしめる割合を求めたところ次のようになった。

「教員適正診断」のアンケート結果（平成5年9月8日、22日に調査、315名中296名の回答）
①「自分の個性や性格」(92.2%) ②「創造性や独創性」(85.8%) ③「子どもに対する好き嫌い」(75.3%) ④「人間関係の円滑さ」(72.6%) ⑤「社会的視野の広さ」(71.6%) ⑥「体力や健康」(70.3%) ⑦「常識の豊かさ」(70.3%) ⑧「話し方のうまさ」(69.9%) ⑨「教職への使命感や熱意」(66.9%) ⑩「専門的な知識や技能」(66.6%)

この結果には次の2つの注目すべき点があると思われる。1つは、第1位の「自分の個性や性格」に次いで「創造性や独創性」が第2位を占め、極めて重視されていることである。これは実際に学生たちが教育実習の経験を通して、生き生きと輝いている子どもたちに触れ、このような子どもたちに働きかけていくには、教師自身が人間的魅力に満ちて、生き生きと個性を発揮していくことが大切であることを実感したからではないかと考えられる。やがてこの学生たちが「創造性や独創性」を発揮して活躍する教員となってくれることに大きな期待感が持たれた。2つ目は、10項目の中で「教職への使命感や情熱」と「専門的な知識や技能」が最下位を占めたことである。これは驚きであり、衝撃であった。教育実習を終えた教育学部生の中に、この2つの項目を他の項目に比べて重視しない者が多くいることに非常な不安を覚えた。何故なら教師が「自己の個性や性格」を生かし、「創造性や独創性」を発揮して教育の実践に邁進していくためには、その裏打ちとなる「教職への使命感や熱意」と「専門的な知識や技能」がなければ、とても子どもたちに立ち向かう教育実践などできるものではないと考えるからである。日本教育大学協会第一常置委員会が行った調査においても、教師に必要な人間的資質や能力として「教育者としての使命感」をあげた大学教官が581名中247名（43%）もあることが報告されている。[5)]

4．2．教員養成学部のカリキュラム上の問題

信州大学教育学部生に見られたこのような教職に対する意識は、ひとり学生の気質にのみ帰せられる問題ではなく、教育学部カリキュラムが「教職への使命感や熱意」を喚起するものに必ずしもなっていないことを問うものとしても受け止めてみる必要があると思われる。というのは、同じアンケートを大学1年生に対して行った調査結果が2つある。1つは広島大学学校教育学部において平成2年4月11日実施（350名中340名の回答）されたものである。[6)]これによると「自分の個性や性格」(92.4%)「子どもの好き嫌い」(87.9%) に次いで「教職への使命感や熱意」(84.7%) が第3位になっている。もう1つは信州大学教育学部において、平成8年4月19日に実施（312名の出席者全員の回答）したものである。ここにおいても「社会的視野の広さ」(81.6%)「人間関係の円滑さ」) (79.8%) に次いで「教職への使命感や熱意」(78.8%) は第3位となっている。この2つの大学の1年生の調査結果からうかがわれることは、教育学部に入学したばかりの1年生は、「教職への使命感や熱意」を強く抱いて教育学部を選択してきているということである。これが信州大学教育学部の場合、「教職への使命感や熱意」を重視する者の割合が3年次生の教育実習終了時において66.9%に大きく低下しているのである。この原因には社会的な背景など様々な要素があるものと言わなければならないが、教育学部のカリキュラムにも原因の一端があるものといわなければならない。前述した教大協の調査で、「他人へのおもいやり・共感能力」「人権尊重の意識」「社会性・対人関係能力」「教育者としての使命感」などの教師に必要な人間的資質や能力を形成する上で「現在、大学における教員養成教育には改善すべき問題点があると思いますか。」という質問に対して、566名中488名(86%) が問題点があるとしている。[7)]

信州大学教育学部のカリキュラムでは、3年次に6週間の教育実習が行われるまでは実際に子どもたちと接するような授業はほとんど行われてなかったといってもよい。また、教育実習においても教科指導のための研究会等の時間が多く、「もう少し子どもたちとの触れ合いの場を作って欲しかった」という声が多く聞かれる。このような実践的指導力にかかわるカリキュラムへの不満をバネとして、YOU遊サタデーが起こってきたのである。実践的指導力の概念について高久清吉氏は、狭義には「日常の教育実践のなかでの実際の取り扱いや処理に関する方法・技術の習熟を通して発揮される指導力」[8]であり、広義には「主体的、自主的な理解や判断に基づいた実践から生まれる指導力」[9]であると述べている。そして、実践的指導力をもった本当にスケールの大きい教師は「実地指導や実務に従事、参加させることによってだけ期待されるのではなく、同時に、いやそれ以上に、実践者自身の主体的、自主的な理解や判断や決定を助長する働きかけや方向づけによって期待されるべきだ」[10]と主張している。教員養成学部の学生にとって教育実習は、実践的指導力の基礎を修得する貴重な機会であることは論を待たないことである。しかし、制度化された教育自習においては高久が主張するような「主体的、自主的な理解や診断に基づいた実践」は生まれにくい。これに対してYOU遊サタデーは、正に学生自身が主体的、自主的な理解や診断に基づいて実践できる場となったものである。

4．3．臨床経験の授業科目「教育参加」の開設

YOU遊サタデーが学生たちの熱意によって2年間継続され、多くの実践結果を上げたことが原動力となって、教養部の廃止にともなう4年一貫カリキュラムが論議される中で、「教育参加」（1単位）という授業が新設されることになった。この授業は「教育実習」（6単位）「教育実習事前・事後指導」（1単位）とともに臨床経験の授業科目として位置づけされ、平成8年度から附属教育実践研究センターが開講することになった。「教育参加」“Teaching Experience”は、教育に関心を抱いて信州大学教育学部に入学した1年次生が、①附属松本学校園、県立松本盲学校で行われている特別活動や学校行事などの教育活動にボランティアとして「参加」すること、②附属松本学校園で行われる3年次生による教育実習の様子を「参観」すること、③上級生が実施するYOU遊サタデーに「参加」して、子どもたちとの触れ合いを体験すること、を通して子ども理解、教師理解、学校理解を深め、教育への意欲・関心を高めることを目的としている。山口（1993年）によれば、信州大学教育学部の教育実習を修了した3、4年次生は「教育実習」を有意義な科目の第1位（67%）に挙げ、教員養成カリキュラムのあるべき姿について、「幅広い教養を身につけられるようにする」ことに次ぐ第2位に「教育実習など、教育実践に触れる機会を多く」（48%）することを求めている。[11]「教育参加」が学生たちの要求に応え、実践的指導力養成の契機になるよう関係機関の方々と共に大いに努力していきたいと考えている。

5．「信大YOU遊サタデー」の課題

教職への使命感や熱意というものは、大学の主人公である学生自らが責任を担って子どもたちと触れ合う体験をする中から自ずと引き出され、育っていくものと考えられる。そのような場や機会を提供することが教員養成学部にとって重要であると考える。YOU遊サタデーは学生の単位にもならず、アルバイトにもならない。しかし、学生たちは子どもの喜びをわが喜びとする誠の心で、労を惜しまずに取り組んでいる。この尊い苦労の中で学生たちは、どんな困難にもへこたれない不屈の教師魂を培っているに違いない。そしてまた学生たちは、お金や単位にはかえることのできない、子どもの心に寄り添うという人間的資質と、共感力・表現力・説得力などの教師として必要な実践的指導力を育んでいるものと思われる。士魂に通ずる師魂の錬磨こそ、教員養成学部に期待されている実践的指導力養成の要諦といえるだろう。このような師魂を持った学生を一人また一人と手塩にかけて育成していくことが、YOU遊サタデー最大の課題である。

土井　進（信州大学教育学部）

【引用文献】
1) 国立大学協会教員養成制度特別委員会『報告書提言要約』p.6　1995（平成7）年7月
2) 同上 p.6
3) 先行論文（1）　p.10
4) 先行論文（2）　p.31
5)「教員の資質向上に関する調査報告書」日本教育大学協会第一常置委員会　p.6−7　1996（平成8）年3月
6) 高橋超ほか「教員養成学部入学生の進路決定に関する研究」『広島大学教育実践研究指導センター紀要』第3号　p.8　1991
7)『教員の資質向上に関する調査報告書』日本教育大学協会第一常置委員会　p.8　1996（平成8）年3月
8) 高久清吉著『教育実践学ー教師の力量形成の道ー』p.3　教育出版　1990
9) 同上 p.4
10) 同上 p.4
11) 山口恒夫「教育学部の教育体制と教員養成に関する学生の意識ー教育学部のカリキュラムに関する意識調査を通してー」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第1号　p.64　1993
〔本論文は、『関東教育学会紀要　第23号』関東教育学会　1996年11月に掲載されたものである。〕

2．学校週五日制時代の地域教育力蘇生への教員養成学部の対応
―― 学生パワーを地域社会に開く「信大YOU遊サタデー」の実践 ――

1．はじめに　―「信大YOU遊サタデー」とは何か―

我が国では平成4年9月から第2土曜日が、平成7年4月からは第4土曜日も休日となる学校週五日制が始まった。各学校・家庭・地域社会では、この新しい制度に対応するために様々な実践が展開されてきた[1]。教員養成を任務としている信州大学教育学部においても、学校週五日制時代にどのように対応していくかは重要な課題であった。このような状況の下に平成6年6月6日に、学生たちの主体的、自主的な取り組みによる「信大YOU遊サタデー（以下YOU遊サタデーと略す）」実行委員会が発足した。YOU遊サタデーとは、学校が休日となった第2、4土曜日に、地域の子どもたちを大学キャンパスに迎え、遊びや学びの体験講座を開き、学生たちと参加した子どもたちが思いっきり楽しんで、心と心の触れ合いを図る地域社会における教育実践である。

2．本稿の課題と方法

YOU遊サタデーには次の4つのねらいがある。

① 信州大学教育学部の学生が、自分の得意とする分野で、学生時代でなければできないようなユニークなアイデアによる遊びや学びの体験講座を開設することによって、学生生活の活性化を図る。（学生生活の充実）

② 教育学部教官や学生の持っているすぐれた教育力を地域社会に開き、貢献することによって教育学部と地域社会とのつながりを深める。（大学開放）

③ 学校週五日制に対する地域社会や家庭の取り組みがまだ試行錯誤の状況にある現在、教育学部が率先して子どもたちに遊びや学びの場を提供することによって、学校週五日制時代の地域教育力の再生に努める。（学校週五日制）

④ 教育学部には幼・小・中・高・特殊の各学校の園児・児童・生徒に対応できる学生が学んでいる。この学生たちが自己の持ち味を発揮して子どもたちとかかわることによって、教師となるための実践的指導力の基礎を身につける。（実践的指導力）

本稿は、この4つのねらいのうち大学開放と学校週五日制を視座におき、学校週五日制時代の地域

教育力を蘇生させる上で、国民教育への関心を抱いた学生を多数擁する教員養成学部が大きな可能性を秘めていることについて考察することを課題としている。そのための方法としてYOU遊サタデーに参加した子どもたちの親を対象に行った次の3つのアンケート調査を手がかりとする。

【アンケート調査A】　調 査 日：平成7年6月7日～6月26日
被調査者：第4回YOU遊サタデーに参加した300名から抽出した202名の子どもの保護者
調査方法：5月27日に行われたYOU遊サタデーから10日以上の冷却期間をおいてからアンケート用紙を郵送し、80円切手を貼って返送してもらった。
回 収 数：86名で回収率は42.5パーセントと低かったが、貴重な声が寄せられた。
質 問 文：「参加された講座を選ばれた理由についてお答え下さい。」「参加されたお子さまはどのような感想をお持ちですか。」「YOU遊サタデーに参加されて、お子さまの中で変わったことがあったらご記入下さい。」

【アンケート調査B】　調 査 日：平成7年10月28日（土）
調査対象：第7回YOU遊サタデーに親子で参加した保護者
調査方法：会場にアンケート用紙を置き、終了時に回収ボックスに入れていただいた。
回 収 数：約60名の保護者の内、23名から回答があった。
質 問 文：「今回お子さまが参加された動機をお書き下さい。」

【アンケート調査C】　調 査 日：平成8年6月10日～6月20日
調査対象：第8回YOU遊サタデーに参加した小・中・高校生の保護者225名
調査方法：5月25日に行われたYOU遊サタデーから10日以上の冷却期間をおいてからアンケート用紙を郵送し、80円切手を貼って返送してもらった。
回 収 数：95名から回答があり、回収率は42.2パーセントであった。
質 問 文：「お子さんが今回参加した講座は、子どもにとって有意義なものであったと思いますか。」「これからもYOU遊サタデーに参加したいと思いますか。」

YOU遊サタデーに関する実践報告や研究論文は、これまでに9編ある(2)。それらはいずれもYOU遊サタデーの4つのねらいの内、実践的指導力の養成や学生生活の充実という視座から考察したものであった。これに対して本稿は、YOU遊サタデーを地域社会における教育実践として位置づけ、YOU遊サタデーが地域社会においてどのような教育力を発揮しているのかを明らかにすることによって、教員養成学部がこれからの学校五日制時代の我が国の地域教育力の再生に大きな可能性を秘めていることについて論ずる。

3．「信大YOU遊サタデー」の概要

YOU遊サタデーは、表1．のように平成6年9月から8年5月までに8回、延べ123講座が開設され、その指導に当たった学生が延べ557名となった。また、YOU遊サタデーに参加した人は幼稚園児から小・中・高校生、一般成人まで合わせて延べ1,745名を数えるに至った。

表1．「信大YOU遊サタデー」の実施日時

第1回	平成6年9月10日（第2土曜日）	8：50～15：40	（長野キャンパス）
第2回	平成6年10月8日（第2土曜日）	8：50～15：40	（　〃　）
第3回	平成6年11月12日（第2土曜日）	9：10～15：20	（　〃　）
第4回	平成7年5月27日（第4土曜日）	9：00～15：30	（　〃　）
第5回	平成7年9月9日（第2土曜日）	9：00～12：00	（　〃　）
第6回	平成7年10月14日（第2土曜日）	9：00～15：30	（　〃　）
第7回	平成7年10月28日（第4土曜日）	12：30～16：00	（松本キャンパス）
第8回	平成8年5月25日（第4土曜日）	9：00～16：00	（長野キャンパス）

開設された講座は、大きく6つに分類される。その主なものを次に紹介する。

〈もの作り講座〉「お弁当の袋づくり」「ポストカードづくり」「がりがり竹とんぼづくり」「しめ縄を作ろう」「やさしい木工教室」「和紙のブローチづくり」「フェルトで作ろう　アニマルマスコット」「草木染のハンカチづくり」「お手玉を作って遊ぼう」「自然と遊ぼう　笹舟づくり」「自分のはんこを作ろうか」等。

〈交流体験講座〉「けん玉で遊ぼう」「教育学部ってどんなところ」「外国人と世界の遊びで楽しもう」「たのしい英語クラブ」「お父さん、地域で講座を開きませんか」等。

〈表現講座〉「小麦粉ねんど」「みんなで楽しい紙しばいを作ろうぜ！」「ギターをやろうジャーン」「かこう・書こう・描こう」「秋のどんぐりアート」「リズムで楽しく遊ぼう」「みんなで書道をやろうか」「自分の音楽をつくろう」「楽しく上手に写真を撮ろう」「ビデオカメラに挑戦」等。

〈料理講座〉「おいしい月見だんごを作ろう」「おからでクッキーづくり」「かんかんアイスクリームづくり」「そば作り名人になろう」「スイートポテトを作ろう」等。

〈実験講座〉「宇宙生物スライムを作ろう」「刃物研ぎ方教室」「自転車大分解」「不思議な化学実験をやってみよう」「金属の組織を見てみよう」「学校では教えてくれない化学実験」「はりがね工房」「高校生のための化学実験教室」等。

〈運動講座〉「ソフトボール天国」「大縄跳び」「トランポリン」「親子でバドミントン」「アニマルダンス」「磁石で探検しよう」等。

次に、参加人数を学年別に分類してみると表2のようになっており、小学生が圧倒的に多く、中学生の参加が極めて少ないことが分かる。また、指導に当たった学生をキャプテン、スタッフと呼ぶことにしたのは、地域社会における教育実践の場面では学生たちは教師という立場ではなく、お兄さん、お姉さんやがき大将の立場で子どもにかかわることになる。このため講座の中心者をキャプテン、キャプテンを助けてティームティーチングをする学生をスタッフと呼んで親しみがもてるようにした。キャプテンをつとめたのは学生だけではない。教官や地域社会の方々にも一市民として参加していただいている。これは、教官と地域社会人が学生たちと一体となってYOU遊サタデーに取り組むことによって、地域社会における子どもの望ましい人間形成の場となることを願っているからである。

表2. 学年別参加者数と指導に当たった学生・教官・地域社会人

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	合計
幼稚園児	2	5	4	19	10	28	23	29	120
小学生									
1年	7	35	35	39	21	36	22	21	216
2年	6	44	47	33	23	34	27	31	245
3年	6	32	27	53	19	37	12	40	226
4年	22	42	74	30	17	20	11	23	239
5年	8	27	38	82	23	38	19	28	263
6年	4	20	16	17	6	9	3	21	96
中学生	0	4	0	7	5	13	1	7	37
高校生	0	1	20	10	0	37	2	25	95
一般成人	2	3	13	10	17	55	3	105	208
合　計	57	213	274	300	141	308	123	330	1745
学　生	26	51	75	72	78	100	65	90	557
(キャプテン)	(11)	(20)	(16)	(14)	(12)	(24)	(18)	(24)	(139)
(スタッフ)	(15)	(31)	(59)	(58)	(66)	(76)	(47)	(66)	(418)
学部教官	0	0	0	1	2	5	1	4	13
地域社会人	0	0	0	6	0	4	1	6	17
開設講座数	9	15	17	18	11	22	15	16	123

4．学生パワーを地域社会に開く「信大 YOU 遊サタデー」の実践

地域社会の教育力低下が指摘されて久しい。かつては寺の境内や公園に自然と異年齢の子どもたちが集まり遊びができた。今日、都会といわず農村といわず、少子化や遊び文化の変化に伴い、地域社会で子どもたちの歓声が聞かれることは少なくなった。現代の子どもたちの関心はもっぱら、家庭教師や塾といった「契約」で結ばれた人間関係を基盤として、学校の階梯を登っていくことに向けられている。子どもたちの遊ぶ姿が見られなくなった地域社会から教育力が衰退していったのは、むしろ当然のことであったと言えよう。こうして大人の目も子どもの目も共に地域社会から離れ、学校にのみ過度に集中するようになった。大学は学校の最終段階として、全国の地域社会から多くの学生を集めている。今、地域社会の教育力低下が問題となっているとき、大学が学生パワーを地域教育力蘇生のために還元していく場を提供することは、有意義なことであると思われる。

4．1．子どもたちに魅力のある講座づくり

地域社会において教育活動をしようとするとき先ず第一に要求されることは、子どもたちが集まってくるだけの魅力あるプログラムを用意することである。そして、その情報を家庭に届けることである。魅力あるプログラムとは子どもにとっては「楽しい」ことであり、保護者にとっては安心できる「信頼性」のある企画であることが第一条件となってくる。「信大 YOU 遊サタデー」という命名もこのような条件を満足することを念頭において決定された。また、一つ一つの講座名のネーミングにも参加意欲を引き出す工夫がなされている。第5回 YOU 遊サタデーにおいて「牛乳パックのリサイクル講座」という名称で参加者を募集したのであるが、一人の応募者もなく休講せざるを得なかった。もし、「君も紙すき名人」というような講座名にしていたら応募者があったのかもしれない。楽しさを引き出すネーミング以上に重要なことは信頼性である。第1回 YOU 遊サタデーにおいては、地域社会での信頼感がまだ醸成されていなかったため、せっかくの準備にもかかわらず、5講座を休講にせざるを得なかった。地域社会における教育実践は、家庭の理解と信頼が得られないと成立しないという厳しさがある。

4．2．家庭への広報

こうしてできあがった YOU 遊サタデーのプログラムを家庭に届ける方法として、地元紙各社にお願いして資料1（略）のような参加者募集の案内を出している。地域社会といっても長野県全域からの参加者があるので、マスコミの力に頼る以外にないのである。しかし、広報の予算がないのでプログラム全体を掲載することができない。そこで、返信用封筒に切手を貼ってプログラムを請求し、それを見て往復ハガキで申し込むという手順を踏んでいる。第4回 YOU 遊サタデーでは参加者の便を考えて電話による申込みも受け付けたのであるが、こうすると1割以上の無断欠席者が出ることがわかった。このことから参加者の意思をしっかりと確認するために、上述の方法をとることにしている。プログラムは、郵送料80円で送れるように、資料2(略)・資料3(略)の2枚に精選している。

4．3．ゆうゆうカード（入場券）と修了証

返信ハガキは、資料4のように入場券(略)となって1週間前に各家庭に郵送される。このゆうゆうカードには講座名、キャプテン名、持ち物、開催日時、集合場所などの情報が記入されており、参加する子どもたちが心待ちにしているキップである。この入場券の提示によって、学生たちは責任をもって子どもを預かることになる。そして、講座の終了時に資料5のような修了証(略)を手渡し、大学正門まで見送って別れる。修了証にキャプテンが自署することによって、一人ひとりの子どもへの責任を自覚し、名前を覚えるように努めている。

4．4．YOU 遊サタデーのもつ地域教育力

保護者が子どもを YOU 遊サタデーに参加させようと思った動機には、「ノミなどを使って何かを作りたかったから」とか「スライムがおもしろそうだし、まさか自分で作れるなんて知らなかったか

ら」などのように、子ども自身が講座内容に興味・関心をもったというものもあるが、親の方から参加を勧めているものもある。例えば「いろいろ知らない人の中でも行動できるように社会性を身につけさせたかった」というものや「地域の中での遊びが少なくなっています。遊びを通しての交流があまりないので参加させようと思いました」というように、地域社会での遊びを通して子どもの社会性の発達を促したいという地域教育力への親の期待が込められていることがうかがわれる。

では、YOU遊サタデーに参加した子どもたちに何か変容が見られたのであろうか。アンケートCによれば、「これからもYOU遊サタデーに参加させたいと思う」かという質問に対して、「そう思う」が38%、「非常にそう思う」が65%、「どちらともいえない」が2%であった。回答率が42.2%と低いので全体の意向を反映しているものとは必ずしも言えないが、それにしても回答者の98%がYOU遊サタデーを支持してくれているということは、YOU遊サタデーには、学校や家庭ではなかなか経験できないことがあり、それが子どもの成長を促す力になっているからに違いない。その力とは何か。地域社会において学生によって発揮されている教育力とは一体何であろうか。アンケートAに寄せられた保護者の声をもとに次の3つのことが言えるのではないかと考える。

① 子どもの興味・関心を触発する力

もの作りの体験がYOU遊サタデーの場だけの線香花火で終わらず、家庭に帰ってからも継続している様子がうかがわれる。例えば「次の日さっそくブローチのキットを買って作ってみました。興味が湧いたようです。」「クッキー作りに興味を示すようになった。自分から料理を進んでやるようになった。」「小麦粉ねんどをうちでもやろう、とせがまれています。何でもやってみよう、できるかもしれないという気持ちが強くなったようです。」などである。

子どもたちは好奇心に満ちており、様々な経験を通して自分発見をしていこうとしている。学生自身が興味をもち、その楽しさを伝えたいという気持ちで開いている講座には、好奇心に満ちた子どもたちの興味・関心を大いに触発する力がみなぎっていると考えられる。

② 子どもの自立性を促進する力

子どもたちが毎日見慣れた人のいる家庭や学校へ行くのと違って、YOU遊サタデーに参加することは見知らぬ人の多い地域社会へ出ていくことである。これには少なからぬ勇気がいる。この勇気や決意によって自立への心が育っている様子がうかがわれる。

例えば「去年参加したときには自分では行かれなかったのだが、今年は一人で行かれるようになり、他の場においても一人で積極的に参加できるようになった。」「家族ではなく一人で参加して他の人たちと協力してできたことがうれしかったようです」「恥ずかしがりなので最初は心配でしたが、結構積極的で申し込みハガキの記入から持ち物の準備まで全部一人でやっています。」などである。

たどたどしい子どもの字でかかれた申し込みハガキが届くと、そこに何としても参加して楽しみたいという子どもの心が強く感じられ、スタッフ一同とてもうれしい気持ちになる。子どもたちが家庭と学校との往復による見慣れた人間関係の場だけでなく、地域社会に出かけて見知らぬ人とも人間関係を切り結んでいくYOU遊サタデーの場には、子どもの自立性を促進する力があると考えられる。

③ 子どもの身近なお手本としての力

学生たちには年下の子どもたちの心と触れ合いたいという願いがある。お兄さんお姉さんのいない子どもたちにとっては、親切に接してくれるキャプテン、スタッフの学生とのふれあいは、兄姉の存在を感じさせ身近なお手本となっている様子がうかがわれる。例えば「講座の指導者が大勢いてくださり、参加した子どもたちは大変感激して興奮して家に帰ってきました。楽しかったのですね。今までこのように感動した子どもを見たのは初めてです。」「大学というめったに来れない場所に対してや自分の背丈の何倍もあるお兄さんお姉さん方に対しての親近感がぐっと縮まり、自分たちの街にある大学、たたけば応えてくれる大学というイメージはしっかり子どもたちに焼き付いたようです。」「優

しかった大学生のことが忘れられず、自分もあのようになれたらと言っています。」「信州大学に行くんだと言っている。」「参加させてもらいパワーを感じました。学校でパワーを感じられる先生は本当に少ない気がいたします。何処に消えてしまうのでしょうね。子どもは体験したことを祖父母に話しておりました。とても楽しそうに、学校での出来事をあのように話すことはほとんどありません。どうしてかな？」などである。また、学生だけが年下の子どもとふれあったのではなく、異年齢の子どもたちの集まりであるYOU遊サタデーの場では、中学生や高校生が弟や妹になる小学生と接して喜びを感じている。ある中学生は「演劇の講座に参加する前は、小さな子ばっかりならいやだなといっていましたが、小さな子どもと友だちになったり、面倒をみてあげたり、とっても楽しかったようで、また参加したいと言っていました。」という。

身近なお手本としてのお兄さんお姉さん役の学生たちは、YOU遊サタデーに参加した子どもたちに温もりのあるふれあいの中で、巧まずに大きな夢や希望を与えているものと考えられる。保護者はこのことに対して「キャプテンやスタッフの皆さんが、とても優しく愛情に満ちた笑顔で対応して下さったのが印象的でした」と率直に感謝の気持ちを表している。

5．まとめと今後の課題

本稿では、YOU遊サタデーという地域社会における教育実践の場に働いている教育力として、①子どもの興味・関心を触発する力、②子どもの自主性を促進する力、③子どもの身近なお手本としての力、という3つの力があることについて保護者へのアンケート調査を基に考察した。中央教育審議会の第1次答申は、「完全学校週五日制の実施は、社会の隅々まで定着している学校教育の枠組みを変更するものであり、その実施に当たっては、その意義等について、家庭や地域の人々の十分な理解を得なければならない。」(3)と述べている。教員養成学部は、学校週五日制への地域社会の理解が深まるように努力することが重要であると考える。それを可能にすることのできる多くの学生パワーをどのように発揮していけばよいか研究を積み重ねていく必要があると考えている。

アンケートCで「お子さんが今回参加した講座は、お子さんにとって楽しいものであったと思う」かを聞いたところ、49%が「そう思う」と回答し、51%が「非常にそう思う」と回答している。この結果はキャプテン・スタッフの学生にとって一番うれしい励ましとなっている。保護者からは次のような出張YOU遊サタデーへの要望も寄せられている。「外へ出張していただけたらうれしいです。例えば育成会や子供会からの依頼に応えていただく等。是非お願いします」「準備などが大変とは思いますが、いろいろな小学校や中学校の体育館や調理室など、外に出てやっていただいても楽しいし、多くの人が参加できると思います。」我々は21世紀を見据えながら、学生と教官、地域社会人が連携して地域社会の教育力の蘇生に微力を尽くしていきたいと考えている。

土井　進（信州大学・教育実践研究指導センター）

【注及び引用文献】

(1)　長野県小県郡東部町では、平成4年9月の第2土曜日から常田公民館で小中学生を対象とした「常田寺子屋」を開設し、今日まで毎月欠かさず実施し大きな成果をあげている。このほか全国各地の取り組みを紹介したものに『学校週五日制の解説と事例―子どもの豊かな人間形成のために―』文部省　平成4年5月　大蔵省印刷局や『学校週五日制に対応した学校外活動の充実のための取り組みに関する事例集』文部省　平成5年7月　ぎょうせいなどがある。

(2)　信大YOU遊サタデーに関する先行研究は次の通りである。

①土井進編『平成6年度「信大YOU遊サタデー」の実践』 信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター　全114頁　1995

②土井進編『平成7年度第二期「信大YOU遊サタデー」の実践』 同上　全248頁　1996

③土井進・山口直行・渡辺一博「信大YOU遊サタデーの概要」 信州大学教育学部教育実践研究指導センター紀

要第4号　pp. 176-183　1996
④土井進「信大YOU遊サタデーのもつ応用教育実習としての意義」 同上第3号　pp. 109-118　1995
⑤土井進「信大YOU遊サタデーにおいて“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観」 日本教材学会年報第7巻　pp. 193-195　1996
⑥土井進「信大YOU遊サタデーを通して修得される実践的指導力」 信州大学教育学部実践センター研究発表論文集第1号　p. 2　1996
⑦林向達・土井進「信大YOU遊サタデーにおける“人間力”の考察」 信州大学教育学部教育実践研究指導センター紀要第4号　pp. 55-64　1996
⑧土井進「信大YOU遊サタデーに願うもの」 信濃教育第1318号　pp. 4-11　平成8年9月
⑨土井進「教員養成学部における実践的指導力の養成―「信大YOU遊サタデー」での体験的学習の指導を通して―」 関東教育学会紀要第23号　pp. 39-45　平成8年11月
(3) 「第15期中央教育審議会第一次答申」文部広報第966号　平成8年8月8日

英文要旨（略）

〔本論文は、日本教育大学協会第二常置委員会編『教科教育学研究　第15集』平成9年3月31日発行に掲載されたものである。〕

3.「信大YOU遊サタデー」を通して学生が修得した実践的指導力の基礎の特質

1. 本稿の目的

本稿は、平成9年度から平成15年度まで全国の教員養成系大学・学部で実施されたフレンドシップ事業の先駆けとなった「信大YOU遊サタデー」を実践した学生が、卒業後にこの事業で修得した実践的指導力の基礎は何であったと受け止めているのかを明らかにし、その後「信大YOU遊世間(ワールド)」として継続されているこの事業の改善充実を図ることを目的としている。

2.「信大YOU遊サタデー」とは何か

「信大YOU遊サタデー」とは、信州大学教育学部の理念である「臨床の知」の下、教師に求められる実践的指導力の基礎を修得することを目的として、主体的・自主的に参加した学生約100名によって企画・運営されている地域貢献の教育活動のことである。平成6年度に「教育実習事前・事後指導」の授業から派生的に誕生し、「信大YOU遊サタデー」の名称のもと第2・第4土曜日に大学キャンパスで子どもたちとふれあう体験講座として始まった。平成12年度まで7年間継続されたこの事業は、学生側の強い要望により授業科目とはせず、課外活動として実践された。その後、平成13年度からは継続的な活動へと深化・発展させることをめざして通年の授業科目「社会体験実習」の一環として組み込み、「信大YOU遊広場（プラザ）」と改称した。さらに平成15年度からは法人化した国立大学にとって、「地域貢献」の教員養成を目指すことが重要であると考え、名称を再度「信大YOU遊世間（ワールド）」と改め、地域社会の団体と協働した実践に取り組んでいる。

3.「信大YOU遊サタデー」の意義

この事業が教員養成カリキュラムの改革に果たした意義は大きく、次の4点を指摘することができよう。

① 大学キャンパスでの開催21回、地域に出向いての開催13回、合計34回の実践に延べ約1,800名の学生が主体的に参加し、約4,300名の子どもたちとふれあう学びの場を作り上げ、地域の教育に貢献した。

② 学生が自主的・主体的に参加し、仲間と共に学びの場を創造する労作業によって、教師の道への自覚と決意を深めると共に、企画力、教材開発力、子ども理解力、コミュニケーション能力等の実践的指導力の基礎を修得することができた。

③ この事業を通して体験的カリキュラムへの学生のニーズが強いことが検証されたので、信州大学教育学部では平成8年度に1年次に「教育参加」、平成11年度に2年次に「学校教育臨床演習」を新設すると共に、平成10年度から教育実習を3年次と4年次に分割し「基礎教育実習」「応用教育実習」とした。さらに平成14年度に1年次に「学校教育臨床基礎」を増設することによって、臨床経験科目の体系化が実現した。

④ 全国の教員養成系大学・学部の学生が交流する全国フレンドシップ活動が5回実施されたが、その基盤作りに貢献した。

4．学生が開発した教材の分類

大学キャンパスを会場とする「信大YOU遊サタデー」において、学生が開発した教材は次のように大別することができる。

4．1．「信大YOU遊サタデー」の教材

① ものづくり：紙すき・木工・キーホルダー・カレンダー・紙飛行機・竹とんぼ・楽器・ランチョンマット・ロボット・キャンドル・刃物とぎ・クリスマスリース・下駄・パラシュート・万華鏡・はと笛・コースター・つる細工・凧・籐かご・ブーメラン・紙しばい・絵本・しおり・しめ縄・笹舟・お手玉・空き缶ネームプレート・ブローチ・はんこ・針金工房・ポストカード・お弁当箱の袋など。

② 食べ物づくり：カンカンアイスクリーム・そばうち・紅茶・干し柿・餅つき・燻製・クッキー・綿あめ・スープ・お弁当・パン・うどんなど。

③ 科学実験：スライム・スーパーボール・大きなシャボン玉・フィルムロケット・永久ゴマ・銀の鏡・自転車大分解・消しゴムなど。

④ 運動：フリスビー・こままわし・ゴルフ・大縄とび・サッカー・ミニ運動会・バドミントン・トランポリン・ソフトボールなど。

⑤ 表現活動：ハロウィン・ネイチャーアート・マジック・ボディペインティング・ちぎり絵・書・折り紙・ステンシル・アニマルダンス・ドラムパーカッション・漫画・小麦粉粘土・どんぐりアート・草木染・ギター・演劇・けんだま・壁画・作曲・世界の遊び・おはじき・あやとりなど。

4．2．「信大YOU遊広場・世間」の教材

「信大YOU遊広場」や「信大YOU遊世間」では、学校が完全週五日制となり、子どもたちとのふれあい体験の場は大学キャンパスから地域社会へと拡大し、学生による単発的な活動から地域社会の人たちと連携した継続的な活動へと深化した。その結果、学生が開発する教材や活動にも地域性が反映されるようになり、農作業体験など生産的な活動が新しく生まれてきた。地域社会と連携した「信大YOU遊広場・世間」に深化・拡大したからこそ開発されるようになった教材や活動には次のようなものがある。

① 飼育栽培活動：田起こし作業・じゃがいも植え・れんげの花摘み・田植え・じゃがいも掘り・稲刈り・脱穀・さつまいもの苗植えと収穫・稗とり・にんじん種まきと収穫・そばの種まきと収穫・そばの土寄せ・草取り・とうもろこし種まきと収穫・虫取り・フナの放流など。

② ものづくり：かかしづくり・看板づくり・シロツメクサの花かざり・しめ縄・竹細工など。

③ 食べ物づくり：もちつき・おすし・おにぎり・じゃがいもふかし・焼き芋・枝豆・そばうち・たけのこ汁・うどんづくり・五平餅・縄文式パン・タンポポ茶・よもぎ団子など。

④ 運動：泥んこ遊び・畑での運動会・草投げ・水遊び・雪合戦・雪だるま・タイヤころがし・ジャングルジム・ドラム缶ころがし・鬼ごっこ・だるまさんが転んだ・人間知恵の輪・靴飛ばし・登山・魚つり・ハイキング・川遊びなど。

⑤　表現活動：ベル合奏・写生・ムーブメント・七夕飾り・石にペイントなど。

5．実践的指導力の三要素

教師には実践的指導力が必要であるとして、この言葉が初めて使われたのは教育職員養成審議会答申「教員の資質能力の向上方策について」（1987年12月）においてであった。ここで述べられた教師に求められる実践的指導力とは次の3つの要素が基盤となって発揮される教師としての本領を示す資質・能力である。すなわち、第一は「教育者としての使命感」であり、第二は「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」や「人間の成長・発達についての深い理解」であり、そして、第三は「教科等に関する専門的知識」や「広く豊かな教養」である。

この三つの要素を授業の構成要素である「教師」「子ども」「教材」と重ね合わせてみると、第一の要素は教師自身の志に関わる資質であり、第二の要素は子どもを理解し子どもに寄り添う力であり、そして、第三の要素は教材を開発する力であるととらえることができよう。このように実践的指導力は三つの要素に分類してとらえることができるが、実際にはそれらの資質能力が渾然一体となって教師の人格の中で統合され、子どもとの関わりにおいて臨機に発動してくる力量であると考えられる。

6．実践的指導力のアンケート調査

「信大YOU遊サタデー」の実践が学生の実践的指導力の基礎を形成する上でどのような影響を持ち得たのかを検証するために、平成14年10月にアンケート調査を実施した。第1期から第7期まで「信大YOU遊サタデー」実行委員会の中心となって活躍し、卒業後全国各地で教員として勤務している39名を抽出し、29名（回収率74.3%）から回答を得ることができた。実践的指導力の内容を示すA～Mの13項目は、前述の三つの要素から構成したもので濁川明男らが構成したものを参考にして設定した。

（アンケート文）　近年、教員養成において実践的指導力の基礎を培うことが強く求められていますが、あなたは教職を経験された立場から、「信大YOU遊サタデー」を通してどのような力がついたと思いますか。A～Mのそれぞれの項目について次の5段階で評価してください。

「5」よく力がついた　「4」やや力がついた　「3」どちらともいえない
「2」あまり力がついていない　「1」全く力がついていない

A．教科指導の裏づけとなる専門的な知識や技能、能力　（0%）
B．教科の指導内容に即した教材研究や授業づくりなどの教科指導力　（10%）
C．多様化する子どもに対応できる指導力や受容できる人間的幅　（27%）
D．教科指導や学校行事等に額に汗して取り組む実践的態度　（45%）
E．栽培・飼育・勤労生産・野外学習等が指導できる体験的な学習経験　（10%）
F．生活科や総合的学習、教科学習等を構想できる実践的な経験　（27%）
G．板書、話し方、発問構成、学習過程、指導案の作成等の基本的技能　（3%）
H．登山・キャンプ・アウトドア等の野外活動体験とその指導技術　（7%）
I．学級経営の理論と具体的な経営手法　（0%）
J．人間的な優しさや温かさ、心の豊かさ　（58%）
K．行事等を企画し、準備し、運営する経験に裏づけされた実践力　（62%）
L．他者との交流を深めることができるコミュニケーション能力　（52%）
M．周囲をまとめて導いていくリーダーシップ　（52%）

＊各項目の末尾の数字は、よく力がついたという「5」の評価をした人数の割合を示している。

A～Mの13項目を実践的指導力の三要素に分類してみると、教師自身の志に関わる資質である第一の要素には、D・J・Kが該当すると考えられる。子どもを理解し子どもに寄り添う力である第二

の要素には、C・L・Mが該当すると考えられる。そして、教材を開発する力である第三の要素には、A・B・E・F・G・H・Iが該当すると考えられる。

7．学生が修得した実践的指導力の基礎の特質

アンケート調査結果を見ると学生が「信大YOU遊サタデー」の実践を通して修得した実践的指導力の基礎には大きな特色がある。それは実践的指導力の第一の要素と第二の要素を修得したとする評価が高く、反対に第三の要素はほとんど評価されていないことである。先ず教師自身の志に関わる資質である第一の要素についてみると、K.「企画・準備・運営する実践力」(62%)、J.「人間的な優しさ温かさ、心の豊かさ」(58%)、D.「額に汗する実践的態度」(45%)は、いずれも高く評価されている。次に子どもを理解し子どもに寄り添う力である第二の要素についてみると、L.「他者とのコミュニケーション能力」(52%)、M.「リーダーシップ」(52%)、C.「子どもを受容できる人間的幅」(27%)となっており、これも高く評価されているといえよう。しかし、教材を開発する力である第三の要素に該当する項目においては、F.「総合的な学習の構想力」(27%)を除いて、A.「教科の専門的知識」(0%)、I.「学級経営の理論」(0%)、G.「板書等の基本的技能」(3%)、H.「登山・キャンプ等の体験」(7%)、B.「教科指導力」(10%)、E.「栽培・飼育等の体験」(10%)と極めて評価が低いことがわかる。教師となり教材研究、教材開発の厳しさに直面している彼らにとって教育実習での教材研究や教材開発の経験とは違って、単発的な活動である「信大YOU遊サタデー」では教材開発に関わる専門的な知識を修得するまでには至っていないことを示しているものと考えられる。ここに子どもたちとのふれあい体験を通して教職への志を強化したいという学生の願いを原動力とする「信大YOU遊サタデー」の特色と限界があると言わなければならない。しかし、学生同士が子どもと関わり合う前に、まず共同の教材開発に取り組むことによって「コミュニケーション能力」や「企画・準備・運営する実践力」を啓発しあっていることは重要である。

アンケート調査により「信大YOU遊サタデー」の実践を通して、学生たちは実践的指導力の第一と第二の要素の基礎を修得していることが明らかになった。アンケートの自由記述欄に「子どもを親身になって考えることの大切さはYOUサタにかかわる中で自分が大事にしたことでもあり、現場に来て教科指導・生徒指導・学級経営等すべての根底にあるものだと痛感している」という回答があった。教育者としての使命感や教育的愛情、子ども理解力などの資質能力こそは学生時代にしっかりと身につけなければならない基礎であるといえよう。「信大YOU遊サタデー」においてこのような重要な資質能力を涵養することができた最大の要因は、大学教員が学生の自主的、主体的な取り組みを尊重し、学生と共に師弟同行・師弟共育の精神で実践したところにあると受け止めている。

高久清吉が広義の実践的指導力は「主体的、自主的な理解や判断に基づいた実践から生まれる指導力」であると指摘しているように、教育者としての使命感や教育的愛情というものは、学生が自ら責任を担って、主体的に取り組む実践の中から自ずと醸成されていくものと考えられる。「信大YOU遊サタデー」は教師に求められる実践的指導力の根幹の陶冶に深く関わり、貢献しているところにその特質があると考える。

土井　進（信州大学教育学部）

【参考文献】

濁川明男・土井進「今、求められる教員養成における実践的指導力の基礎の育成」科学研究費補助金研究成果報告書『新免許法に対応する教員養成課程体験的カリキュラムの体系的構築に関する実践的研究』pp. 3-9　平成15年2月

高久清吉『教育実践学－教師の力量形成の道－』p. 3　教育出版　1990年

『信大YOU遊サタデーの実践』第1集～第7集　信州大学教育学部　平成6年度～平成12年度

〔本論文は、『教材学研究　第16巻』日本教材学会　平成17年3月31日発行に掲載されたものである。〕

4．1．「信大 YOU 遊サタデー」において“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観（その 1）

1．はじめに

本稿は、「信大 YOU 遊サタデー」において「お手玉作り」を開講し、小学校 3 年生から 6 年生までの 5 名を指導した泉貴子（音楽専攻 3 年）と「ブローチ作り」を開講し、小学校 1 年生から中学校 1 年生までの 20 名を指導した橋詰並子（英語専攻 4 年）の教育実践を取り上げ、その教材観の分析を通して、学生の「実践的指導力」の修得について考察しようとするものである。

2．「実践的指導力」修得の場としての「信大 YOU 遊サタデー」

大学における教員養成に当たっては「実践的指導力」の基礎の修得に重点をおくべきことが指摘されている。高久清吉はこの「実践的指導力」とは、狭義には「日常の教育実践のなかでの実際の取り扱いや処理に関する方法・技術の習熟を通して発揮される指導力」[1)]であると解している。学生たちが教育実習を通して身に付ける指導力とは、この狭義における「実践的指導力」であると考えられる。しかし、高久が「実践的指導力」を方法・技術的な習熟から生まれる指導力」というだけに狭く解釈せず、もっと広く、「主体的、自主的な理解や判断に基づいた実践から生まれる指導力」[2)]と解釈することが可能であり、また、必要でもあると述べているように、私は教員養成学部においては、教育実習経験の基礎の上に、高久が主張するような広義の「実践的指導力」を修得できる場を提供することが学生にとって有益であると考えている。このような考えの下に実践しているのが「信大 YOU 遊サタデー」[3)]である。「信大 YOU 遊サタデー」を担っているのは、教職への強い意志をもった学生たちである。教育実習を通して人間を相手にする教職の特性を経験した学生たちは、教科に関する自己の専門的力量を高める必要性とともに、一個の人間として、一人ひとりの子どもの心に分け入って、深く関わっていくことのできる豊かな人間的力量を錬磨する必要性を痛切に感じている。泉は、「私が教育実習を経験して自分の課題だと思ったのは、子どもの側に立つことです。授業をするにしても、何にしても、これが一番大切だと思い、また難しいとも思いました」[4)]と述べている。また、橋詰は、「教育実習を経験して私が感じたことは、とても単純ではあるが、子どもたち、生徒たちの喜ぶ顔が見たいということであった。教材を準備するのも、授業の構想を練るのもただその一心であった」と述べている。ここに読みとれることは、子どもの心をつかみ、その成長に関わっていくことのできる教師としての人間的力量の向上への強いねがいである。このような学生のねがいを実現する場として「信大 YOU 遊サタデー」が存在していると言える。

3．“もの作り体験学習”による子どもとの喜びの共有

子どもたちとの関わりの中で自己教育を図るには、教科指導の内容を取り上げるよりも、遊び感覚で楽しめる“もの作り体験学習”を設定し、子どもと一緒になって作業することがふさわしい。“もの作り体験学習”のうち「お手玉作り」と「ブローチ作り」の事例を取り上げたのは、この実践は 2 人の学生にとって自己形成上忘れることのできない体験を教材化したものであり、学生の人格からにじみ出た極めて個性的で優れた教育実践となったからである。「とにかく出来上がってびっくりするような物を子どもと共に作りたい、と願うことから私の YOU 遊サタデーは始まった」と述べる橋詰は、「小学校 5 年生の頃に母と一緒にこのブローチを作り大変感動し、今でも大切に持っている」ことに思いつき、「自分が体験して一番感動したことを教材化したい。そうすればきっと子どもたちも私がそうであったように感動してくれるのではないか」と考えた。一方、「お手玉作りを小学校 5 年生の時に、学校の児童祭で地域の方」から教わった泉は、「それが今でも自分の中に残っているとい

うことは、本当にすばらしいことで、貴重なものだと思っているので、それを今度、自分が子どもの中に残して上げるのに役立てばうれしい」と思って開講を決意した。この2人の実践は、まさしく「主体的、自主的な理解や判断」に基づいたものであり、自己の体験を教材化し、子どもたちと喜びを共有していく関わりの中から人間的力量の向上を目指そうとするものとなっている。

4．修得された「実践的指導力」の内容

4．1．子どもの心に寄り添う力

平成7年11月15日に「信大YOU遊サタデー」で講座を開設したことのある64名の学生（キャプテン）に、アンケート調査を実施した。そのうち回答が得られた35名の調査結果と2人の実践記録をもとに、学生が修得した「実践的指導力」の内容について考察することにしたい。まず、講座の実践を通してどのような収穫があったかという質問において、10選択肢の中から2項目の選択を求めたところ、「子どもたちの心に寄り添い、共に活動することができた」という項目が15名で最も多く、次いで「伸びゆく子どもたちの可能性、すばらしさに触れ、教職への意欲が強まった」という項目が13名であった。泉と橋詰も「子どもたちの心に寄り添い、共に活動することができた」ことを第一の収穫としてをあげている。

泉は子どもたちへの自らの関わりについて、「できたことをほめたり、一緒に喜んだりすることは、そうするよう気をつけたというより、自然にできた気がします。特に初めて針を持つ子が1時間以上をかけて1個目を作り上げたときは、みんなで喜べました」と述べ、また、「製作過程の特に最初の方では、指導場面は多かったですが、1人1人ができていくうちに、指導というよりは、共に作り、共感していく立場、また、一緒に遊ぶ相手となっていきました。そういう場面で、まるっきり子どもの友達になるのではなく、キャプテンという立場やその子の個性というか、独特さを引き出す」ことも忘れないように配慮したという。このような自然でしかも柔軟な対応ができた結果、「それぞれの子がその子なりに楽しんでくれていたように感じます。たくさん作りたい子は作ることで、遊びたい子は遊ぶことで、というように。それに自分で好きな形のお手玉を考えて作ってみたりして、こちらの用意した枠から飛び出して自由に作っていたのもうれしかった」と満足感を述べている。そして、「今回の講座で、子どもと一緒になって作り、共感していくことで、少しだけ“子どもの側に立つ”ということを感じることができた気がします。それはきっと、少人数だったことなどがあったからでしょう。たった数時間で子どもたちを理解するということは無理ですが、子どもたちと喜びを一緒に感じることで、その一歩を感じることができたと思います」と明確に述べている。ここには教育実習で自覚した自己の課題に立ち向かう方途を見出した自信すら窺える。そして、「このこと（子どもの側に立つということ）を機会があれば次のYOU遊サタデーで、また、それを将来教師となったときに生かしていき、さらに自分の課題として取り組んでいきたいです」と結び、子どもの側に立つことのできる人間的力量の形成を生涯の課題としてとらえるまでに至っている。

4．2．自分の個性を発揮して実践する力

上述の調査において、「教育実習」では経験できなかったが、「信大YOU遊サタデー」において経験でき有意義であったと思うことを8項目の中から複数回答可で求めたところ、「自分の考えに基づいてのびのびと授業を実施し、反応を確かめることができた」という項目が22名で最も多く、次いで「異年齢集団の指導を経験することができた」という項目が20名であった。2人の回答も同様であったが、このほかに「2時間単位あるいは4時間単位の時間だったので、一つのことをやり遂げることができた」という項目も上げられていた。やはり「実践的指導力」は、実践者の主体的、自主的な判断のもとに個性を発揮して実践する中に薫発されていくものと言えよう。

橋詰は「内容は自分の興味を広げたものだったので、比較的やりやすかったといえる。それを学校

教育の中にも広げていける力量を身に付けたいと思っている。これから教職に携わっていく原動力となるものは、やはり子どもたち、生徒たちの喜ぶ顔が見たいということであろう。そして、そのために私ができることは、これからも私自身が様々な事を経験し、感動し、人間的に豊かな人物になることではないだろうかと思っている」と述べ、豊かな体験を積み、人間的力量の向上を図っていくことを生涯にわたる自己教育の課題としている。

5．まとめと今後の課題

「主体的、自主的な理解や判断」に基づいた“もの作り体験学習”の実践を通して、学生たちが子どもの心に寄り添う力や自分の個性を発揮して実践する力を修得していることが分かった。学生たちが自らの体験を教材化して子どもと関わる場としての「信大YOU遊サタデー」の一層の充実に努力していきたいと考えている。　　土井　進（信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター）

【注と引用文献】

1)、2) 高久清吉著『教育実践学―教師の力量形成の道―』1990年

3)「信大YOU遊サタデー」は、信州大学教育学部で行われている学生の主体的、自主的な教育実践で、子どもたちを大学に迎えて“学び”や“遊び”の体験的学習を指導することによって教師となるための実践的指導力の向上を図ることを目的としている。平成6年9月から平成7年10月までに7回実施され、これを担った学生は延べ467名、参加者は1,415名である。また、開設された講座は64種類、107講座である。

4) 以下、二人の学生の教育実践記録の出典は、土井進編『第二期「信大YOU遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』pp. 65-67、87-89　1995年

〔本論文は、『日本教材学会年報　第7巻』平成8年3月31日発行に掲載されたものである。〕

4．2．「信大YOU遊サタデー」において“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観（その2）

1．はじめに

本稿は、「信大YOU遊サタデー」において「竹とんぼ作り」と「しめ縄作り」を開講した吉澤正彦（社会・4年）と、「笹ぶねづくり」を開講した新井清規（理科・4年）の教育実践記録[1]をもとに、学生たちはいつ体験したのか、それらのもの作りをYOU遊サタデーで開講した動機とねらいは何か、もの作り体験学習に取り組んでいる子どもたちの様子をどのようにとらえたか、そして、この教育実践からどのようなことを学んだかなど、学生たちが持つ“もの作り体験学習”の教材観について考察しようとするものである。

2．「信大YOU遊サタデー」の意義

「信大YOU遊サタデー」とは、学生たちが趣味や特技を活かした体験学習の講座を、第2、第4土曜日に大学キャンパスで開講し、地域の子どもたちを迎えて共に活動することによって、教師となるための実践的指導力の向上を図る場である。この取り組みは、教育実習を終えた学生たちから発せられた、もっと子どもたちとかかわる体験を積みたいという願いを実現するために、附属教育実践研究指導センターが学生たちとともに具体化したものである。平成6年9月から8年10月までに10回実施され、延べ161講座に2,115名が参加し、その指導に当たった学生は延べ863名となった。

学生たちは自らの体験をもとに講座づくりを構想し、アシスタントスタッフとのティームティーチングの方法を検討したり、予備実験や試作品作りを通して子どもたちのつまずきを予測したりしながら、遊学プラン（指導案）を練り上げ、必要な教材の開発に努める。当日になると学生たちは、初対

面の子どもたちから「今日は来て良かった」「また来たい」と言って喜んでもらえるように全力投球で関わっていく。学生たちが、このような緊張感をもって子どもたちと触れ合う「信大YOU遊サタデー」という場は、教師としての実践的指導力を錬磨する絶好の機会となっている[2)]。

3．「竹とんぼ作り」と「しめ縄作り」を指導した学生の教材観

吉澤は、小学5年生のときに地域の子ども会活動で「竹とんぼ作り」と「しめ縄作り」を体験した。父親は、もの作りによる人間形成が重要であるという信念から、自宅に「何でも手作り吉澤学校」を開き地域の子どもたちの指導に当たっているという人である。このような父親の影響を受けて、日本の伝統文化である竹とんぼやしめ縄を作ることが特技となっている学生である。

彼の開講の動機は、「興味のある子どもたちに、一人でも多く経験していってもらいたい」ということであった。彼は今の子どもたちも「竹とんぼというものは知っているし、やりたいと思っている」に違いない。しかし、社会の急激な変化や子どもの遊び文化の変化によって、なかなかその機会がもてないでいる。そこでYOU遊サタデーで「竹とんぼ作り」を開講し、子どもたちと喜びを共にしたいと考えた。彼は講座のねらいを①小刀を正しく使うことができ刃物の特性を知ることができる、②竹の性質を実感することができる、③自分の作った竹とんぼで工夫して遊ぶことができる、とした。何故なら「今の子どもたちは小刀で鉛筆を削ることもなくなり、全体的に刃物を使うことが下手になってきている」ので、竹とんぼ作りを行うことは、「小刀を使うことに慣れるために有効である」と考えたからである。この講座には小学校3年生から6年生までの48名が参加したが、作業が「難しかった」と答えた者が35名もあった。これは「普段から小刀を使い慣れていないという経験不足」から来るものであろうと彼は受け止めている。

一方、しめ縄についても子どもたちは毎年正月になると家に飾ってあるのでよく知っているが、「藁を手に入れることが困難」な社会状況になり、「自分の家で作るということがなくなってきている」。彼は「藁の利用について知り、昔の人の知恵にふれる」ことをねらいとしたのであるが、「しめ縄作り」は縄をなうというとても地味な活動が中心となるので、現代の子どもたちには受け入れられないかも知れないという不安が残ったという。ところが、参加した小学校3年生から中学校1年生までの9名の様子は、「どの子も興味をもって取り組み、反応はとても良かった」ので安心したという。

吉澤は、「竹とんぼ作り」や「しめ縄作り」に参加した子どもたちが、「今までできなかったことができるようになったという達成感」を味わってくれたことを一番の喜びとしている。また、子どもたちからだけでなくアシスタントスタッフとなった学生たちからも、初めて竹とんぼやしめ縄を作る体験ができたことへの大きな喜びが語られた。

4．「笹ぶね作り」を指導した学生の教材観

新井がYOU遊サタデーに参加した動機は「私自身への自戒の念」からであった、と次のように述べている。「今までの私は、教育問題についても現代社会の諸問題についても、単に言葉をつなげた理論を用いて直ぐに結論を出してしまいがちであったのである。自分の中において言葉というものをつなげた実体験のない理論を積み上げていくことによって、すべてを知っているような感じがしていたのである」と。このことに反省の念を抱いた彼の脳裏に、小学生時代の一つの自然体験が鮮やかに思い出された。それは「家に帰ると勉強しなさい、と言われるのが子どもながらに非常にいやで、田圃のあぜ道で道草をしているとき」のことであった。「たまたま田圃の中にオタマジャクシがいた。何遍も何遍もそれを見ているうちに、そのオタマジャクシからやがてえらがなくなり、カエルに変わっていく。今の私なら、教科書の写真か何かで見ればそうなんだで終わってしまいがちの現象であるが、当時の私は教科書には言葉でしか出ていないものが、現象として起こっていることを目の当た

りにして、少なからずうれしさや興奮を覚えたものであった。この体験は今の私にとっても大切な体験であり、必要な体験であったと思う。言葉で区切られてしまうオタマジャクシが、目の奥の方で今も姿をもって生き続けているからである。こうした体験の思い出を契機に、私はテンポよく言葉で区切り結論づけてしまう現代の風潮では、自分の目で実際に体験するという道草をしてみることも大切ではないかと考えるようになった」という。

彼は、このような道草となる自然体験講座として「笹ぶね作り」を思いつき、ねらいを次のように設定した。「笹ぶね作りが子どもたちにとっても道草であってくれればいい。道草の中で、子どもたちが自然のものを使って何かを作るといった行為に立ち止まり、子ども自身が子どもながらに考えながら笹ぶねを製作してくれればそれでいいと思っている。子どもたちの心の中に笹ぶねが見事に浮いてくれればそれだけで十分である」と。

参加した小学校1年生から2年生までの10名の子どもたちは、紙のような柔らかさのない笹を扱うのにかなり苦労している様子であった。ようやく出来上がったふねも実際に水に浮かべてみると、直ぐに沈んでしまう。それで子どもたちは何遍も何遍も作り直した。こうして子どもたちの願いが、「ただ笹ぶねを作るという思いから、何とかして沈まない笹ぶねを作れないものかという思いへと変化」していくことによって、だんだんと笹ぶね作りに熱中していった。彼は、子どもたちの変容していく様子と集中している姿に触れて、笹ぶね作りのような「簡単なテーマであっても、達成感や成就感というものを味わうことができるのだ」ということをつかんだ。また、「子どもたちが自発的に自分の問題を見つけて、それを追いかける作業というものは、すばらしいもの」であり、そのような子どもの活動を引き出す関わりの大切さを学んだという。さらに評価にあたっても「どれだけ見栄えのする笹ぶねができたかという点で評価してしまう」のではなく、一人一人の子どもたちが「その子どもなりに笹ぶねを作っているその姿を見なくてはいけないのだ」と強く思ったという。

5．まとめと今後の課題

これまで2人の学生が持つ“もの作り体験学習”の教材観について考察してきた。「信大YOU遊サタデー」におけるこれらの事例を通して、私は次のことを考えている。

(1) まず、小学生時代の生活体験や自然体験のもつ人間形成上の意義が大きいということである。YOU遊サタデーで講座を開いた60名の学生を対象に、講座を開設するに至った体験をしたのはいつか（平成7年11月実施、47名の回答）を聞いたところ、「小学生のころ」が27%で「高校生のころ」の9%、「中学生のころ」の4%を大きく上回っていた。YOU遊サタデーに参加した子どもたちにとっても貴重な体験になったことと考えられる。

(2) 第2は、学生たちが子どもたちが達成感を得て喜ぶ姿をわが喜びとして、深い充実感を得ていることである。これは教員養成という視点からは注目に値すると思う。

21世紀の我が国を担う子どもたちの「生きる力」を育むために、生活体験や自然体験が大切であると指摘されている[3)]。このことは子どもにとって重要であるばかりでなく、教員養成にとっても極めて重要なことである。上の調査では「大学生になって」が49%を占めて最も多かった。学生たちがさまざまな体験を通して、実践的指導力を身につけていくことのできる教員養成カリキュラムの開発にこれからも努力したいと考えている。

土井　進（信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター）

【注と引用文献】

1) 2人の学生の教育実践記録は、土井進編『平成7年度第二期「信大YOU遊サタデー」の実践』信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター　pp. 55-58、pp. 82-86　平成8年3月　に収録されている。

2) 土井進　教員養成学部における実践的指導力の養成ー「信大YOU遊サタデー」での体験学習の指導を通してー

関東教育学会紀要第23号　pp. 39-46　平成8年11月
3)「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」第15期中央教育審議会第1次答申　平成8年7月

〔本論文は、『日本教材学会年報　第8巻』平成9年3月31日発行に掲載されたものである。〕

5．信州大学学生による地域貢献活動とその評価
――14年間にわたる「信大YOU遊世間」の事例研究――

Evaluating the Contribution made over 14 year project by Shinshu University Students to the Local Community

Susumu Doi

【Abstract】

In this paper, We first clarify the evolution in the organization and the purpose of the "Shindai You-yu world project" over the last fourteen years.

Secondly We describe how this research has been planned and executed in cooperation with the local community.

Thirds, We provide what the students gained through their activities in the local community, and also clarify how the local community has evaluated the students' activities.

The follwing projects were :

1．Shinshu University Mosuge Farm
2．A smiling Club in Aoki village
3．A "Let's play and Learn" Project in Omi village
4．Shinshu Aguricaultural Elementary School in Suzaka city

The result suggests that the students have gained valuable and helpful insights through projects to them, which they could not have acquired through campus education, and moreover, these social activities have been highly evaluated by the community participants.

Keywords and phrases Shindai You-yu world project, contribution to the locai community, Shinshu University Mosuge Farm

【要　旨】

本研究の目的は、まず第1に14年間にわたって継続されている「信大YOU遊世間（ワールド）」という学生組織の目的と変遷を明らかにすることである。「信大YOU遊世間」は、1994年に開始された「信大YOU遊サタデー」を前身とし、次いで「信大YOU遊広場（プラザ）」と改称し、5年前から「信大YOU遊世間」として定着してきている。第2の課題は、地域社会との連携体制がどのように図られているかを明らかにすることである。そして、第3の課題は地域社会での活動による学生の学びと地域社会の人々からの評価を、次の4つの事例を通して明らかにすることである。即ち、長野市茂菅地区で実施されている「信大茂菅ふるさと農場」、青木村で実施されている「青木村えがおクラブ」、麻績村で実施されている「麻績村de遊ぼう」、そして、須坂市で実施されている「信州すざか農業小学校」である。この4つの事例研究を通して、「信大YOU遊世間」の活動が学生たちに、大学キャンパスの中だけでは決して得られない多くの学びをもたらしていることが明らかになった。また、この活動に対して地域社会からも高い評価が寄せられていることが明らかになった。

キーワード　信大YOU遊世間　地域貢献　信大茂菅ふるさと農場

1．はじめに　本稿の目的

「信大YOU遊サタデー」は、文部科学省の提唱によって1997年度（平成9年度）から国立大学が法人化された2004年度（平成16年度）まで、全国の教員繞成系大学・学部で実施されたフレンドシップ事業の先駆けとなり、モデルとなった。本学部においては、法人化を見据えて2003年度（平成15年度）に「信大YOU遊世間（ワールド）」と改称して、新たな学生組織のもとで活動が継続さ

れ14年目を迎えている。学生が地域社会に出て、地域の団体と連携して青少年の育成に取り組むこの実践は、信州におけるブランドの一つと言えるのではなかろうか。

本稿の課題は、まず第一に14年間にわたって継続されている「信大YOU遊世間」の組織と目的の変遷を明らかにすること。第二に地域社会との連携体制がどのように図られているのかを明らかにすること。そして、第三に地域社会の人々から寄せられている学生の活動に対する評価を4つの事例を取り上げて明らかにすることである。

2.「信大YOU遊サタデー」(平成6年度～平成12年度) 発足の意義

1994年度(平成6年度)に「信大YOU遊サタデー」と命名された、学生が主体となった地域貢献活動が始まった。これは教育実習だけでは実践的指導力の修得が不十分であり、もっと子どもたちとふれあう中で自らの力量を向上させたいと考えた36名の学生によって自主的に始められたものであった。平成6年6月6日に組織が立ち上がり、組織の名称をどうするかについての検討会が行われ、教師という立場に立つのではなく、子どもたち(YOU)のお兄さん・お姉さんとなって、思いっきり遊びたいという願いから「信大YOU遊サタデー」と名付けられたのであった。そして、第1回目の活動が1994年9月10日(土)に教育学部キャンパスで開かれ、次の9つの講座が開設された。スライム、小麦粉粘土、木工教室、お弁当箱の袋、自転車大分解、ビデオカメラ、英会話、音楽作り、けん玉。これらの講座に57名の子どもが参加し、26名の学生スタッフが誠心誠意子どもたちと接し、子どもにとっても学生にとっても心の底から楽しめる活動となった。この様子がNHKの朝の全国ニュースで紹介されたことが大きな要因となって、第2回からは100名～300名の子どもとその保護者が教育学部キャンパスに参加するようになった。こうして「信大YOU遊サタデー」は2000年度(平成12年度)まで7年間継続することによって、地域の青少年の育成や教員養成カリキュラムの改革に大きく貢献することになった。それらを総括すると次の4点にまとめることができよう。

① 大学キャンパスでの開催21回、地域に出向いての開催13回、合計34回のYOU遊サタデーに延べ約1800名の学生が主体的に参加し、約4300名の子どもたちとふれあい、地域の青少年育成に貢献することができた。

② 学生が自主的・主体的にYOU遊サタデーに参加し、仲間と共に学びの場を創造する労作業に取り組むことによって、教師の道への自覚と決意を深めると共に、企画力、教材開発力、子ども理解力、コミュニケーション能力等の実践的指導力の基礎を修得することができた。

③ この事業を通して体験的カリキュラムへの学生のニーズが強いことが検証されたので信州大学教育学部では平成8年度に1年次に「教育参加」、平成11年度に2年次に「学校教育臨床演習」を新設すると共に、平成10年度から教育実習を3年次と4年次に分割し、それぞれ「基礎教育実習」「応用教育実習」とした。さらに平成14年度に1年次に「学校教育臨床基礎」を増設することによって臨床経験科目の体系化が実現した。その後、平成17・18年度の教員養成GPによる研究成果を取り入れて、1年次に「教育臨床入門」「教育臨床基礎」、2年次に「教育臨床演習」、3年次に「教育実習事前事後指導」「基礎教育実習」、4年次に「応用教育実習」を配置し、臨床経験科目の一層の体系化が図られた。

④ 「信大YOU遊サタデー」は、文部科学省によって平成9年度～平成15年度まで全国の教員養成系大学・学部で実施されたフレンドシップ事業の先駆けとなるとともに、全国の学生が交流する全国フレンドシップ活動の基礎作りにも貢献した。

3．信大YOU遊「サタデー」から「広場」(平成13年度～)、「世間」(同15年度～現在) への転換

「信大YOU遊サタデー」は上述のように確かに大きな効果をもたらしたが、それに伴う問題点も明らかになってきた。まず第一に、100名～300名の子どもが参加する大きなイベントを1年に3回も実施することは容易なことではなく、学生実行委員の過重負担が問題となり、実行委員長を担って立とうとする学生が現れなくなってきた。第二は「信大YOU遊サタデー」は学生の主体的な取り組みであり、学生側の意思によって授業科目としては位置付けられていなかったので、万が一の事故に対する学部側の責任体制が明確ではなかった。第三の問題点は、教員採用試験の厳しさが増してくる中で4年生が実行委員をつとめる体制を見直す必要が生じてきた。そして、第四の問題点は、「信大YOU遊サタデー」の取り組みは学生にとっても参加した子どもたちにとっても意義深いものであったがゆえに、1日限りのイベントとして終わってしまうのはもったいない、相互の人間関係を継続的に深めていくことのできる方向へと、「信大YOU遊サタデー」の学生組織を見直そうとする動きが強まってきた。

こうして学生たちの願いを実現し、これまでの問題点を克服する体制として、次のような改革が試みられた。まず第一に、地域社会と連携した継続的な活動を願って名称を「信大YOU遊広場（プラザ)」と改称した。第二に、この「信大YOU遊広場（プラザ)」を取り込む「社会体験実習」という授業科目を立ち上げた。これによって授業の担当教員が決まり、教員養成カリキュラムとして位置付けられることになった。第三に、これまでの1日だけの「信大YOU遊サタデー」を数名の実行委員が指揮する体制ではなく、1年間にわたって継続的に体験活動を実施する組織を広場（プラザ）として立ち上げることにした。このことによってそれぞれのプラザ長が各プラザの責任を担うことになり、「信大YOU遊広場」の全体を指揮する実行委員長の負担が軽減されることになった。これによって各プラザ長が責任をもって力量を発揮する機会となり、幅広いリーダー養成が行われることになった。第四に、プラザ長は3年生が担当することになったので、先輩から後輩へと様々な技能や経験が伝えられ、後輩の成長を助けることにもなった。こうして平成13年度には「信大茂菅ふるさと農場」「信大牟礼ふるさと農場」「キャンパス・プレーパーク」「信大YOU遊・興譲館」など8つのプラザが開設され心機一転が図られた。

このような脱皮を図ったことによって、参加する学生がサタデーのころの100名規模から170名規模にまで拡大した。また、学生の活動も単発的なものから継続的、重層的なものへと深められるとともに、地域社会の大人の人たちとの触れ合いも広がってきた。このような利点は大学キャンパスで学生が中心になって実施してきた「信大YOU遊サタデー」にはないもので、学生の実践的指導力を養成する観点からも大変望ましいことであった。しかし、このような改革にも危機管理という観点から新たな問題点が浮かび上がってきた。子どもたちを地域社会から大学キャンパスに集める「サタデー方式」ではなく、地域のプラザで地域の子どもと触れあおうと意図したのであるが、上述のプラザは全て大学側から募集した子どもたちの集まりとなり、地域社会の団体との連携を構築することができなかった。その結果8つのプラザの活動が土曜日に競合することが多く、学生スタッフの分配が難しくなり、担当の指導教員も一人でいくつものプラザを掛け持ちして無事安全の遂行にあたらなければならなくなった。このような運営の仕方で「信大YOU遊広場」を継続していくことは、危機管理上無理であると判断し、2年間で終了することになった。

「信大YOU遊サタデー」が7年間で終わり、「信大YOU遊広場」が2年間で終わっても、学生達の子どもとの触れあい体験を求める意気込みが衰えることはなかった。そこで地域社会の教育は本来地域に根付いてこそ本物であるという考え方にたち、学生は智慧と汗を流すが、地域の子どもの安全は地域で担って頂けるという団体と連携していく道を選んだ。そして、地域社会の中で活動することを強調するために名称を「信大YOU遊世間（ワールド)」と改称し、次の4つの条件を満たす団体

を新聞報道を通して募集した。

① 子どもの育成や世代間交流などのふれ合い体験ができること。

② 学生も企画段階から参画できること。

③ 1年間単位での継続的な自然体験や社会体験ができること。

④ 子どもの安全等の責任は、その地域団体において受け持っていただくこと。

これらの条件を規準として、地域の団体側と「信大YOU遊世間」側が協議し、合意が得られたところから活動を開始することになった。

4.「信大YOU遊世間」の活動目標の変遷

2003年度（平成15年度）から始まった「信大YOU世間（ワールド）」は、それまでの10年間に問題となったことや課題を、学生達が何度も何度も討議し合って改善を図ってきた結果誕生したものであった。学生達が主体的に取り組み、1年ごとに先輩から後輩へと受け継がれたからこそ十年目を迎えることができたのであった。

2003年度（平成15年度）と2004年度（平成16年度）の活動目標は、次の3点であった。

① 信州大学の学生・教員が、地域社会の教育活動に参画することを通して、大学と地域社会の連携・融合を推進する。(学問、連携、融合)

② 自然体験・社会体験における企画・運営・振り返りを通して、学生が自ら考え、自ら判断し、自ら行動する実践力を身につける。(実践力)

③ 学生が地域社会での教育活動を通して経験幅を拡大し、人間的力量の骨格を鍛える。(人間力)

2005年度（平成17年度）の目標は、学生達の協議によって次のように改められた。

『わ』―「ふれあい」(友情)・「つながり」(連携)・「たすけあい」(共生)―

この『わ』を具現化するために、次の3項目が1年間の具体的目標として設定された。

①「土づくり」と「人づくり」の『わ』による環境マインドの育成

②「人」と「人」の『わ』による社会力の向上

③「心」と「身体」の『わ』による実践力（臨床の知）の陶冶

2006年度（平成18年度）は新しく「大樹―土は地域、樹は学生、枝は子ども、実は学びー」が目標として掲げられた。そして、2007年度（平成19年度）は、「共鳴―共に感じ、共に学ぶ、響き合いの輪―」が目標として掲げられ、10のプラザが地域社会の中で活動している。

これらの目標の底流に流れている学生たちの強い願いは、学生同士が連携して地域社会の青少年育成活動に貢献することによって、自らの人間力を高めたい、人間としての幅と深まりをめざしたい、そして、将来の教師としての実践的指導力の基礎を身につけたいという熱意であると考えられる。学生達は多大な労を惜しまずに教材作りに共に励むことによって、企画力、社会力、コミュニケーション能力などの教師に求められる実践的指導力の基礎を養成していると考えられる。

次に地域での活動を通した学生の学びと地域の人々からの評価について、4つの具体的事例を通して考察することにしたい。

5．信大茂菅ふるさと農場」における具体的事例

5．1．地域との連携体制

2000年（平成7年）3月に始まり今年度で8年目を迎えている「信大茂菅ふるさと農場」は、「信大YOU遊世間」のなかで最も長く継続されているプラザである。「信大YOU遊サタデー」が6年目を迎えた1999年（平成8年）に、岩手県盛岡市でNHK主催のシンポジウム「土から学ぶ子どもたちの未来」が開かれた。筆者は「信大YOU遊サタデー」が乗り越えなければならないイベント的

性格をどのようにして成し遂げるかを考え続けていた。そこに一筋の光明をもたらしてくれたのがシンポジストであったシンガーソングライターのイルカさんが紹介してくれた宮沢賢治の「稲作挿話」であった。それは次のような一節である。

これからの本統の勉強はねえ
テニスをしながら商売の先生から
義理で教はることでないんだ
きみのようにさ
吹雪やわづかの仕事のひまで
泣きながら
からだに刻んで行く勉強が
まもなくぐんぐん強い芽を噴いて
どこまでのびるかわからない
それがこれからのあたらしい学問のはじまりなんだ

筆者はこの一節にふれ、「信大YOU遊サタデー」が地域と連携した継続性のある取り組みに脱皮していく道は、荒廃地と化している休耕田を開墾することから始めることであると深く決意した。「人づくり」を「土づくり」から始めたいという思いを学部長に相談し、その了解をえてJAながのの組合長さんにお目にかかり、長野市茂菅地区に水田3アールと畑3アールを借り受けることが実現した。営農指導にあたって下さっているのはJAながの営農指導課の北沢課長さんと地元茂菅地区の農家林部信造さんである。農場長は自主的に立候補した学生がつとめ、林部さん、北沢課長さんの3者が綿密に連携を取りながら、子どもたちとの農作業体験を継続してきている。地域の子ども（20名～40名）が参加する活動は年間8回実施されている。

5．2．学生の地域社会における学び

大学のキャンパスの中では学べない様々なことを学生は地域社会での活動を通して学んでいる。平成17年度に農場長をつとめた学生は次のように述べている。

「私に農場長が務まるかなあ」というのが最初の正直な私の気持ちだった。それは、農場長は縁の下の力持ちとして崩れるわけにはいかないと思ったからだ。しかし、そんな思いはすぐに消えてしまった。それは一緒に活動を作り上げて下さる林部さんが縁の下の力持ちとなって支えてくださったからである。初めての活動では、林部さんが「信大茂菅ふるさと農場」という看板がないことを知ってすぐに用意して下さった。また、学生スタッフは、活動日が近づくと積極的に準備を夜遅くまで手伝ってくれたり、声をかけてくれたりした。こんなすばらしい人たちや仲間たちに囲まれて農場長をやれたことを幸せに思う。活動中は、どうしたら子ども同士の関わりを深められるかを考え込んだこともあった。しかし、それは、自然が難なく解決してくれた。カエルやバッタ、トンボが子ども同士をつなげてくれたのだ。まさに自然と人がつながった瞬間だった。そして、知らない人が土に触れることで知らず知らずのうちに会話が生まれ、笑顔になる。汗が流れているのも忘れて黙々と作業をする姿。嫌いだったはずのものを笑顔でほおばる姿。これらはすべて自然と人、そして人と人のつながりからうまれたものだと思う。普段の生活ではなかなか関わる機会の少ない子どもと学生、保護者、地域の方々、そしてJAの方々が一つの輪になったのも、自然が真ん中に入ってくれたからだと思う。そんな人々や自然に感謝したい。そして、作物を育てることの大変さを自分の体で実感することができた。」[1)]

5．3．学生の青少年育成活動に対する地域社会からの評価

地元の農家先生であり学生達が「長野のお父さん、お母さん」と言って尊敬し、慕っている林部信造さんは学生たちの活動に対して、次のような評価をして下さっている。

「『信大茂菅ふるさと農場』を開設して7年、この間に携わった大勢の学生の皆さんが社会人として、県内外で活躍されています。今年もこの実践農場で体験を重ねた学生の皆さんが、大きな夢と希望を持ち、先輩たちの後に続きます。私も定年後、土井先生とこの「ふるさと農場」で出会って以来7年、この農場から毎年、いろいろな事を体験させていただき、今なおこの出会いの素晴らしさを実感しています。人は出会いにより変わると言われます。良い出会いを大切にすることにより人は大きく育つと言われます。これまでにこの「ふるさと農場」で出会った人たちは皆、心の豊かさと明るさを持ち備えています。物事を明るく積極的に捉え固定観念にとらわれず、幅広い知識と探求心が旺盛であり、労を惜し

まず、自ら実体験を求め、汗を流す人たちであり夢があります。農場はあくまでも学生の皆さんの自主的な力で企画、立案、実践し、責任を持って運営し、出会いのすばらしさと感動を味わわせてくれます。専攻教科を越え、先輩、後輩との出会い、苦楽を共に味わう農場での仲間、個性豊かな子どもたちとの出会い、子どもの成長を願う父母の皆さんとの交流、自然界に生息する生物、植物とのふれあい、農作物を育てる楽しみ、収穫の喜びと感動。そして、国際協力田として飢餓に苦しむマリ共和国への援助米。食の大切さを知る等、幅広い活動の場を提供してくれます。このように、「茂菅ふるさと農場」は、人と自然との出会いを教え、教育学部ならではの農場として今日まで発展してまいりました。ここでの出会いは必ずや自分の糧となります。私も農場での出会いを大切に、来年度も若い皆さんのエネルギーをいただきながらがんばっていきたいと思います。」[2)]

6.「青木村えがおクラブ」における具体的事例

6.1. 地域との連携体制

青木村教育委員会と連携した「青木村えがおクラブ」の活動は3年目を迎えている。筆者は青木村の小岩井彰教育長と出会う機会があり、学生の成長のためと村の活性化のためという双方の求める理念が一致したのが契機となって「青木村えがおクラブ」が始まった。教育学部から青木村までは車で1時間以上かかるので移動が大変であるが、青木村は学生の活動を快く受け入れ、村の宿泊施設や温泉を使わせていただき、泊まり込みで活動することができる。また青木村では信州大学教育学部の「青木村えがおクラブ」だけでなく、信州大学工学部、長野大学、上田女子短期大学の学生も受け入れて村の活性化のための活動を幅広く展開している。そして、これらの団体を一つに組織して「和耕人」（わこうど）と命名し、相互の連携・協力関係を築いている。

「信大YOU遊世間」の各プラザでは子どもたちとの関わりが中心であるが、「青木村えがおクラブ」では子どもたちだけでなく、お年寄りの方や壮年の方など地域の様々な人々と一緒に活動している。「青木っ子合宿」と呼ばれる1週間にわたる通学合宿や村内ホームステイなど年間10回にわたる行事が実施されている。

6.2. 学生の地域社会における学び

青木村での学生たちの学びはとても深い。これは取りも直さず小岩井教育長のご指導によるものであるが、次にいくつか紹介したい。

「一時期は人間関係や生活の余裕がなくなったことで本当に悩んで、もう青木から縁を切って逃げたいとまで思いましたが、それを乗り越えて得たものは本当に大きいと感じています。青木にかかわる中では、自分の未熟さを思い知る機会が非常に多いですが、その分、成長できるきっかけになります。私は両親が信州に来たときには是非、青木村に連れて行きたいと思います。」

「今年一年を通して、青木村で人と人のつながりというものを学んだと思います。活動の中で具体的に動いてみることの大切さを教えてもらったと思います。」

「青木村で活動してきて苦しいこともあった。本気で怒られ、正直青木村に関わることをやめたいと思うことさえあった。しかし、今考えると怒られたことは本気でぶつかってきてくれている証拠で、自分の糧になったと感じる。」

「社会に出ることに臆病でしたが、青木村での多くの人と出会い、共に活動することで、とても楽しみになりました。」[3)]

6.3. 学生の青少年育成活動に対する地域社会からの評価

小岩井彰教育長は次のような評価を寄せてくださった。

「延べ200名を越す若者が青木村で活動してくれました。感謝します。様々な姿がありました。真剣なまなざしで授業参観しているもの、不登校の生徒の家で夕飯や風呂までいただき自分の存在意味を考えて涙するもの、中学校の教員と議論し、自分の思慮の浅さに悔し涙をながすもの、通学合宿で疲れ果てながら願いに向かって力をふりしぼるもの、83歳のおばあさんに取材を始めたところ、訪ねるたびに

おばあさんが化粧をし、おしゃれをして待っていてくれることの喜びと驚きを語ってくれるもの、地域の祭りに参加し真っ赤になりながら古老と語り合っているもの等々。そんな皆さんの姿から若さと熱を感じてきました。腹の底からいっしょに笑ったこともありました。共に悩んだこともありました。怒鳴ってしかったこともありました。諭したこともありました。酒を酌み交わしたこともありました。ずいぶん乱暴だったと反省もしています。しかし、願いを具現する方向を共に汗をかきながら現場で具体的に確認してきたつもりです。「一人の子どもの後にある多くの願い」「ご縁とおかげさま」「地域に生きる」「酌の仕方」「おとりもちの心」等の世の中の当たり前の人間関係について具体的な行動を通して伝えたいと考えてきました。皆さんの真摯な活動が子どもたちはもちろん、地域の大人たちの心もとらえ始めています。学校が活性化してきていますし、今度はいつ学生が来るのか待っているお年寄りや皆さんと酒が飲めることをこよなく愛している村の親父たちも出現しました。皆さんのおかげで確実に村が動き始めていると感じています。最後は人だと思います。本音で語り、共に汗して行動することが互いの社会力を高める源だと思います。皆さんの感想文に接し、身が引き締まる思いがしました。心から感謝すると共におかげさまの気持ちでいっぱいになりました。皆さんの熱い思いと真摯な姿勢を村全体で大切にし、学びの場を深め、広げていけたらと思っています。皆さんとのご縁に心より感謝いたします。共に進みましょう。」[4)]

7．「麻績村 dE 遊ぼう」における具体的事例

7．1．地域との連携体制

麻績村での YOU 遊世間の始まりは平成 17 年 2 月のことで今年で 3 年目になる。筆者は男子学生 2 人とともに麻績村の小学校で開かれた地域の高齢者による 60 年ぶりの「たたき独楽作り」というイベントに参加した。この席で市川祥介教育長さんと対話し、「おみ図書館」と信大 YOU 遊世間が連携して青少年の育成事業に参画させていただくことになった。

「おみ図書館」は平成 15・16 年度に小学校校舎の大規模改造が行われたときに、小学校図書館と公民館図書館とを兼ね備えたものとして建設され、児童館的役割も期待してスタートした。この「おみ図書館」を舞台として学生達は図書館運営委員会にも参加させていただき「麻績村 de 遊ぼう」のプラザが発足した。そして 1 年間に「バースデーカードを贈ろう」「おにおにシリーズ」「空へ飛ばそう僕の夢」「麻績村オリンピック」を開催し、子どもたちの喜びを広げた。

7．2．学生の地域社会における学び

麻績村での「信大 YOU 遊世間」を切り開いた学生は、「たたき独楽」作りを一緒に楽しんだ子どもとの触れ合いの感動を次のように述べている。

「子どもたちは、初めて会う僕らに緊張していましたが、少しづつ打ち解けていきました。とても素直で元気のいい子どもたちだなあと思いました。もう一度この子たちに会いたいなあと思いました。すると、ある子どもが「かずにい、また来てくれるよね？絶対また来てね」といいました。僕はすぐに「うん」と答えました。あのときは本当にうれしかったです。僕たちに「絶対また来てね」と言ってくれる子どもたちの思いに応えたくて、僕は「麻績村 de 遊ぼう」と名付けたプラザをやりたいと思いました。僕にとってこの子たちの言葉がこのプラザをやる何よりの原動力であり、やる気につながりました。」[5)]

7．3．学生の青少年育成活動に対する地域社会からの評価

前麻績村教育委員会教育長の市川祥介先生は、学生の活動に対して、次のような評価を寄せて下さった。

「信大 YOU 遊世間」の代表者が図書館運営委員の一員となり、図書館行事のサポートのみならず、「信大 YOU 遊世間」主催の活動を企画推進してもらった。それは、友だちや異学年とふれあえる遊び、高学年や男子向けの遊びを主なねらいとした「遊びの教室」の開催であった。具体的には「飛び出

すカードを作ろう」(6月)、「いろいろな鬼ごっこをしよう」(6月)、「空飛ぶ物を作ろう」(9月)、「麻績村オリンピックをしよう」(11月) である。どの活動も入念な事前の準備や子ども達への適切な対応もあって大好評であった。例えば、「麻績村オリンピックをしよう」の紙ホッケー競技では、活動的な高学年の男子も汗を流しながら懸命に取り組み、休憩時間中も紙スティックを補修するなど夢中になる姿がみられた。このようにYOU遊世間の若い学生諸君たちの活動は、「おみ図書館」の活動の幅を一層広げてくれただけでなく、若い世代との交流経験の少ない子どもたちや高齢者たちにも新たなエネルギーを与えてくれ、地域の活性化に大いに貢献してくれることに繋がったことは感謝にたえない。また、彼ら自身も人生経験豊かな高齢者や、子どもたちから学ぶことも多かったに違いない。それらが、これから教師として教壇に立つとき、必ず役立つであろうことを確信し、今後の活躍に対し大いに期待しているところである。」[6)]

8.「信州すざか農業小学校」における具体的事例

8.1. 地域との連携体制

須坂市では平成17年度に市長の提案によって「信州すざか農業小学校」を開校し、市内の全小学校から55人の児童を募集して年間20回の農作業体験学習を開始した。農家先生が直接児童の指導にあたるのであるが、さすがに農業の専門家ではあっても、1年〜6年の小学生を扱うことには苦労されている様子であった。そこで農家先生と子どもたちの間に学生が入れば、学生は両者をつなぐ役割を果たすとともに、農作業の体験学習の在り方についても実際に学べるに違いないと考えた。このような考え方を須坂市教育委員会生涯学習課にお伝えしたところ、快諾を得ることができ2年目を迎えている。

「信州すざか農業小学校豊丘校開設要領」は次のような目標を掲げている。

① 子どもたちの健やかな成長に欠かせない自然体験活動が不足している現状を考慮し、子どもたちがたくましい精神力、想像力等を身につけることを願い、総合的・自主的な体験活動の場として、年間を通した農業小学校を開校する。

② 子どもたちが、異年齢の子どもや保護者、地域の大人（主に高齢者）と触れあうことにより、相互の仲間作りや地域連帯感を養うとともに、地域の文化に触れることにより、ふるさと須坂の良さを再発見する手助けをする。

8.2. 学生の地域社会における学び

すざか農業小学校の活動に参加した学生は、多くの人との出会いを通して、3つのことを学んだと述べている。

「はじめにスタッフの仲間から学んだことは、子どもたちへの関わり方は一緒に作業することだけではないということです。作業する子どもの隣に何も言わず寄り添ってあげることも一つの支援であること、異年齢の子どもたちが遊ぶときは、前に出て子どもたちを引っ張らなくても子どもたち同士でルールを決めることができるので、見守ることも大切だということでした。次に保護者の方や農家先生から学んだ事は、子どもにとって危険だと思われることを子どもがしていたら叱るということを学びました。このことを学ぶ前の私は、子どもと関わるとき叱ることができませんでした。子どもに嫌われるということを恐れていたからだと思います。これから子どもと関わるときにはこの点に注意して関わりたいです。最後に子どもたちからは、多くのことを学びました。子どもは遊びの天才だということを実感しました。自然の物を何でも遊び道具に変えたり、大人が入らなくても自分たちでルールを決め楽しく遊ぶことができて素晴らしいと思いました。また、子どもは本当に純粋で素直であることも実感しました。ある活動の中で友人が転んで泣いているときに心配して声をかける子どもの姿を見ることができました。この活動に参加して教師となって現場に出た際に役立つことをたくさん学びました。大学での講義では学ぶことができない実践力が身に付いたと思います。」[7)]

8．3．学生の青少年育成活動に対する地域社会からの評価

信州すざか農業小学校豊丘小学校の農家先生であり、校長先生でもある羽生田郁雄氏は次のような評価をしてくださった。

「農業小学校の今後の運営と課題につきましては、子どもたちの成長支援の場として、これからも息の長い事業になるよう、私なりに精一杯協力をしていきたいと思います。我々農家先生として指導する立場の人間と致しまして、授業以外の日も、農地や作物の管理をしたり、授業に備えて用意をしたりと、全てが初めての取り組みであり試行錯誤の連続で、正直言ってかなりの負担となってしまったことも、これからの課題として見えてきました。「継続は力なり」平成18年度のこの農業小学校の活動は、須坂から、また新しい力を発信することができました。最後になりましたが、子どもは家庭・地域の宝であり、国や人類の宝です。子どもは遊びの中で育つことから、楽しく豊かな経験をできるだけ多くさせてあげたいと思います。この1年間ご支援ご協力をいただいた農家先生、応援して下さった保護者の皆様に感謝し、土井先生をはじめとする信州大学教育学部の学生スタッフの皆様には、農家先生の目の届かない部分で、お兄さんお姉さんとなり、子どもたちをまとめていただきました。皆様方の今後の活動に期待し、御礼申しあげます。誠にありがとうございました。」[8)]

9．おわりに　教員養成への貢献

信州大学は、2004年度（平成16年度）に独立法人化し、地域貢献を果たしていくことが益々重要になってきている。1994年度（平成6年度）に「信大YOU遊サタデー」が発足した頃には、まさかその十年後に信州大学が法人化するなどということは、思いもよらないことであった。これからの十年においても、法人化の進展とともに急激な変化が待ち受けているに違いない。「信大YOU遊世間」の運営においても、ブランドとして生き続けていくためには、厳しい質と誠実な実践が求められるにちがいない。教育者として真剣に自己改革に取り組み、学生の成長と地域貢献に尽くしていきたいと念願している。「信大YOU遊世間」の今後の課題は、一人ひとりの学生を大事にして、先輩から後輩への流れの中で学生が育つように配慮することである。先輩と後輩が共に語り合い、共に行動し、共に活動を振り返って、切磋琢磨していくことである。そして、この学生の輪の中に筆者も入って学生の声をよく聞いて、自ら成長していくことである。教員養成学部の使命は、「教育者としての使命感」「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」「人間の成長・発達についての深い理解」そして、「教科等に関する専門的知識や広く豊かな教養」を身につけた学生を教育界に送り出すことにある。

「信大YOU遊世間」の活動を通して学生たちは、「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」を深めることや「教育者としての使命感」を深めることにおいて有意義な成果を修めている。また、学生同士の友情を深めるなかで、企画力、創造力、コミュニケーション力などの実践的指導力の基礎を修練している。「信大YOU遊世間」という信州大学の地域貢献活動が、脱皮を重ねながら14年間も継続されてきたのは、一重に「いい先生になりたい！」と願う学生たちがいるからである。この活動が20周年を迎えられるように、筆者も学生とともに地域に出て汗を流したいと決意している。

土井　進（信州大学教育学部）

【注】

1) 松井泉樹「世代を超えた人と人をつなぐ自然の力」『「信大YOU遊世間」の教師教育学研究（第12集）―地域貢献の体験に観る「臨床の知」の省察―』信州大学教育学部2006年3月　24頁
2) 林部信造「『大茂菅ふるさと農場』での出会い」『「信大YOU遊世間」の教師教育学研究（第13集）―地域貢献の体験に観る「臨床の知」の省察―』信州大学教育学部2007年3月　47頁
3) 末松辰規ほか「共に学びの場を広げよう」『「信大YOU遊世間」の教師教育学研究（第12集）―地域貢献の体験に観る「臨床の知」の省察―』信州大学教育学部2006年3月　79～84頁
4) 小岩井彰「共に学びの場を広げよう」同上　13頁
5) 大塚一哉　同上　85頁

6) 市川祥介「YOU 遊世間の皆さんの「おみ図書館」での活躍」 同上 12 頁
7) 細田有希「教師となった際に役立つことを学べた」『「信大 YOU 遊世間」の教師教育学研究（第 13 集）一地域貢献の体験に観る「臨床の知」の省察一』信州大学教育学部 2007 年 3 月 80 頁
8) 羽生田郁雄「御礼、今年で 2 年目終了しました」 同上 84 頁

〔本論文は、地域ブランド研究会『地域ブランド研究』Vol. 3 信州大学人文学部 2007 に掲載されたものである。〕

6.「信州教育」の美質の継承と発展 ——「信大 YOU 遊世間」の展望——

1. 信州の地を踏む

今から 20 年前の平成 4 年（1992）3 月、トラック 2 台に家財道具一切を積み込んで川越から信州に向かった。碓氷峠のつづらおりの山道を上り詰めると、右手に浅間の雄姿が目に入ってきた。おお、ここが信州かと思うと緊張感が全身に漲った。荷を下ろしたのは長野市の下氷鉋で、字は上杉謙信公が馬を繋いだことに因んだ「馬繋」であった。信州は、教育にとりわけ力が入っている土地柄である。縁もゆかりもないこの地に赴任して、教員養成の使命を授けられたことの重大性を感ぜずにはおれなかった。腰掛的な気持ちでは到底任が務まらないと思い、本籍を富山県立山町から長野市の下氷鉋に移し、名実ともに長野県民となって、背水の陣をしいた。お茶ノ水女子大学附属中学校から信州大学教育学部に赴任するに当たって、お茶の水女子大学のある教授から次のような餞の言葉をいただいた。「あなたはお茶の水にいるより、信州教育の地で教員養成に携わる方が有意義であると思う。信州という地は教育について一家言のある人が多い土地柄であるから大変だと思うが、あなたは実践で来ている人だから理論の人には負けません。じっと聞いていなさい」と。この力強い励ましの言葉を支えにして、私の信州での仕事が始まった。

2.「信州教育」の美質の体現者、竹内隆夫先生との出会い

明治時代の思想家内村鑑三（1861－1930）は、信州と信州人について次のような言葉を遺している。「日本を潔めんと欲せば先ず信州を潔めんとは余輩の宿論なり、水の最も清きは信州なり。山の最も高きも信州なり。また人の最も純朴にして而も時には憐れむべき程までに正直なるも信州なり。若し日本に精神的大革命の臨むあらば、これ信州よりならん。」(1)また、長野県歌「信濃の国」（浅井洌作詞）には、「古来山河の秀でたる 国は偉人のある習い」と詠まれている。日本一高いアルプス山脈と日本一長い信濃川を擁する信州の風土は、人間形成の上にも大きな影響を及ぼしているものと考えられる。学生時代に「人間形成の論理」の講義を受けた上田薫先生は、「信州教育」について次のように述べている。

「わたくしはもともと信州とはなんの縁故ももたぬ人間である。ただ久しく信州の学校に出入りし、多くの教師たちを知己とすることができた。30 年を越える長い年月、わたくしは講師として学校を訪れつづけ、人びとと語る機会をえたのであった。・・・正直にいってある面からすれば、わたくしの教育理論を育ててくれたのは信州であったということもできるのである。わたくしは信州になにものかを返さねばならぬ。」(2)

また、梶田叡一先生は「信州教育」の特質を次のように捉えている。

「長野県の教育界には強い精神主義の伝統がある。人間について、教育について、本質的な視点から考え、議論しようと言う雰囲気がある。哲学や思想・宗教・文学や美術・音楽が、学校の先生方の口の端に日常的に上がるのも他では見られない特徴といってよい。そうした精神主義の中核には、人

間としてのあり方を深化・向上させる、人間的な成長・発達を真に実現していく、という関心の持ち方が一貫して見られる。」[3]

このお二人が指摘されているように、「信州教育」には深い精神性と哲学性がある。このような「信州教育」の美質を体現された教育者に、筆者は平成4年（1992）8月30日（日）付けの読売新聞紙上で出会った。黒板に人間の脳の構造を描き、講演されている写真の人物こそ長野県の美術教育者、「自問清掃」[4]の創始者、竹内隆夫先生（1917−2010）であった。竹内先生は昭和11年（1936）に長野県師範学校を卒業され、平成4年（1992）7月3日に第41回読売教育賞の最優秀賞を受賞された。75歳であった。選考委員評を執筆した藤原喜悦・早稲田大学教授は、「多年にわたる教育経験を踏まえて、自発性を徹底して尊重する実践を行い、多大の成果をあげていることが高く評価される。これからの教育に多くの示唆を与え、深く考えさせられた」[5]と述べている。

竹内先生の実践の根底に流れる深い教育哲学、「信州教育」の美質を学びたいと強く願い、お電話したところ「私が参ります」とおっしゃって、信州大学教育学部に来てくださった。私は真剣に教わった。竹内先生のお話を私だけでお聞きするのがもったいないので、是非学生にも聞かせたいと思った。そこで、平成4年度（1992）後期の自由選択科目「教育実践研究の基礎」に竹内隆夫先生をお招きし4回講義していただいた。この講義を31名が受講した。また、平成5年度（1993）の同科目にも、竹内先生に4回講義していただき、17名が受講した。竹内先生から徹底して自発性を尊重する「信州教育」の美質を学んだ学生の中に、自ら実行委員長を引き受け、平成6年6月6日に第1期「信大YOU遊サタデー」[6]実行委員会を立ち上げた山口直行君がいた。また、竹内先生の鞄持ちをして伊那市の小学校の「自問清掃」研修会に参加するとともに、平成7年度に第2期「信大YOU遊サタデー」の事務局を務めた角田正和君もいた。

3．竹内隆夫の「自問清掃」にみる「信州教育」の美質 ―「正直」と「愿愨」―

筆者は平成4年9月に竹内先生から直々に教育学部で「自問清掃」の5段階の指導法を教わる恩恵に浴した。「意志力」「情操」「創造力」「感謝」「正直」の5段階全体についての個人教授を受けた筆者は、感動に打ち震えながら次のようなお礼の手紙を認めた。

「拝啓　過日は「自問清掃」の5つの段階全てについて教えて下さり、誠にありがとうございました。教聖ペスタロッチの教育者魂に源を発する「自問清掃」は、21世紀を担う子どもたちを育てる教育者を目指す学生が身につけなければならない必須の教育方法であると思います。竹内先生の五段階の指導法の究極の目標となっている「正直」について、私が師事した周禮研究会の高田豊壽先生[7]は、昭和58年6月25日に次のように教えてくださいました。

「私には60年前、関東大震災のときの思い出がある。少年時代、私の家にはたくさんの人が逃れてきた。30人くらいの親戚の人々が集まり、そのほかの人々も合わせて、100人ぐらいが庭先にそろったことがあった。その時、高田先生のおばあさんのおじいさん（当時髭をはやしておられた）が、「ここのうちの子は、よく躾が行き届いているなあ」とおっしゃった言葉をいまだに忘れず覚えている。「厳格」なしつけをやっても、いいものは出てこない。「愿愨（げんかく）」なしつけをしなければいけない。「愿愨」とは、真っ正直で偽るところのない教育（Honest Upright）ということである。英国人はこのような教育を好む。根っからの教育をやることが一番良い」と。

竹内先生から「信頼しぬいていく教育」の醍醐味を教わることは、学生にとってこれ以上の仕合わせ、出会いはないと信じます。いよいよ本物が出てくる時代を迎えました。先生にはいよいよご壮健にて、信州のため、日本のため、そして世界のために益々ご活躍くださいますよう、心からお祈り申し上げます。また、私も全力で先生の研究会に参加し、勉強させていただきます。　敬　具

平成4年9月28日　　土井進　拝」[8]

4.「信州教育」の美質 ―「ずく」の発揮―

信州では「ずく」という方言が今日でもよく使われる。「ずく」があるとは、根性があって最後までやり遂げる、というような意味で用いられている。筆者は「ずく」という言葉に違和感を感じ、自分からこの言葉を使うことはなかった。しかし、ある時この言葉の正確な意味を知りたいと思って『日本方言辞典』を調べてみた。すると、「ずく」には漢字があり、「尽」の一字が当てられていることを知った。自分の持てる力を余すところなく出し尽くすという意味である。この「尽」という字に筆者は強い共感を抱いている。それは、菩薩が発する4つの誓願の3番目に、「法門無尽誓願学」(あらゆる学問を余すところなく学び尽くしたいと誓願すること)があるからである。このことを知ってからは、「ずく」(尽)を菩薩道[9]と重ね合わせて理解するようになった。

教育職員養成審議会の答申(1987)において、教師に求められる資質能力は「実践的指導力」であると公式に提言されて以来、教員養成におけるこのキーワードは今日に至るまで一貫して生きていると言えよう。①使命感や教育的愛情、②幼児児童生徒に対する理解、③教科等に関する専門的知識、そして、これら3つの資質能力を基盤として発揮される教師としての本領を示す力が「実践的指導力」であると説明されている。このような「実践的指導力」とは畢竟するに「ずく」を発揮することに他ならないというのが筆者の考える教師観である。そして、教師道とはまた菩薩道に他ならないと考えているのである。

筆者は「信州教育」の美質は「ずく」の発揮にあるとして、次のような一文を発表したことがある。

「信州の教育を支えてきた精神は一体何であったか。その一つは、「やせ蛙　負けるな一茶　ここにあり」に込められた負けじ魂であると思います。如何なる試練や苦難があろうとも、一個の人間が秘めている無限の可能性への揺るぎない信念に裏付けられた不屈の精神、すなわち、「ずく」(尽)の発揮であります。もう一つは、一介の青年教師林芋村(1886-1929)が詠んだ歌、「深雪せる　野路に小さき沓の跡　われこそ先に行かましものを」に込められた深い教育的愛情であります。子どもを生かし、育て、与え、そして許す教育者魂であります。士魂に通ずる師魂であります。このような信州の師魂が、時の文部行政から弾圧を受ける事件が本校(附属松本小学校)で起こりました。1924年(大正13)9月5日、次席訓導であった川井清一郎(1894-1930)が4年生の修身の公開授業において補助教材として森鴎外の「護持院ケ原の敵討」を用いました。文部省視学委員、長野県学務課長らは、国定教科書を使用していないことを理由に厳しく非難し、川井訓導は休職処分となり退職に追い込まれました。子どもに即して教材を開発し、授業を組織することに精魂を傾けている教師にとって、この事件は苦渋に満ちた塗炭の苦しみとなりました。その後、西田幾多郎門下の俊秀、木村素衛(1905-1946)が1938年(昭和13)に本校(附属松本小学校)において講演し、次の歌を詠んでいます。

底ひなく　深き愛あり　ますらをよ　いのちの限り　務めざらめやも」[10]

「信州教育」の底流に流れているものは、「ずく」であり、師弟同行、師弟共育の菩薩道の精神にほかならないと筆者は信じている。

5.「信大YOU遊」の精髄は学生の「ずく」

学生たちが、内に教育者としての自己実現をめざす強い志を抱き、外に信州の大地を想う郷土愛を抱いて、主体的・自発的に取り組んでいる「信大YOU遊サタデー・広場・世間」が、平成25年度(2013)で20周年を迎えようとしている。「信州教育」の風土に揉まれながら、先輩から後輩へと学生たちが熱い友情で結ばれてきたことに、心からエールを贈りたい。学生の主体的な活動を陰に徹して支えてきた筆者にとって、学生一人ひとりが頼もしい教育者となって成長し、巣立っていく姿を見つめることほど嬉しいものはない。

「YOU遊」のそもそもの発足の動機は、学生自身の要求から生まれたものであった。それは、教育実習を終えた学生たちが感じた不満と不安であった。もっと子どもたちと触れあって、子どもたちとの関わりの在り方について実践的に学びたい。教育実習を終えてこのまま卒業したのでは、とても不安である。学生の内面にこのような不満と不安があることを筆者は強く感じた。今、学生が一番大事な学びとして渇望していることは、子どもとの関わり合いであるということを感得した筆者は、何としてでもこの学生たちの願いを叶え、実現したいと強く決意した。そして、その仕事なら教員経験を14年間積んできた筆者に十分できると思った。否、学生の学びへの欲求を捉え、それに応えていくことこそ信州大学の教員としての筆者に課せられた使命であると自覚した。こうして学校週五日制時代の大学キャンパスに子どもたちを迎え、学生たちが思う存分子どもと触れあうことのできる「YOU遊」が実現したのである。「YOU遊」は現在では学生が地域社会に出向いて、地域のなかで子どもたちと触れあい、学ぶというプロジェクトに発展している。学生たちが地域社会と強く連携し、子どもたちの成長のために「ずく」を発揮している姿こそは、「信州教育」の美質を現代に継承し、発展させているいるものであると言っても決して過言ではあるまい。

6.「信大YOU遊世間」と「教職実践演習」

「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令」により、平成25年度（2013）の4年生の後期から教職科目として新設される「教職実践演習」が必修となり、大学が教員養成の質保障に対して責任をもつことになった。本学部ではこの授業をどのように設計するかについて、臨床教育推進室に設置された教職実践演習部門において鋭意検討が進められている。「教職実践演習」の授業内容として、文部科学省によって決められている事項は、次の4つである。

①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項　②社会性や対人関係能力に関する事項
③幼児児童生徒理解や学級経営に関する事項　④教科・保育内容等の指導力に関する事項

これらの内容が4年次の段階で十分に修得されているかどうかを、大学が診断・評価し、不十分であれば補充的に必要な演習を行うことが求められている。こうしてみると教員免許状取得のハードルが高くなったことがわかる。

しかし、「信大YOU遊世間」を実践してきている学生にとっては、何ら難しいハードルではないと筆者は考える。「YOU遊」の活動に参加している学生は、一人残らず教師になるための資質能力の向上をめざして、自らの主体的な意思と判断によって、地域社会に出向いて、地域社会と連携して、確かな信頼関係を築いてきているのである。このような献身的で情熱に満ちた「ずく」を発揮している学生にこそ、先生になって来てもらいたいという地域の方々の率直な励ましの言葉をいただいている。これからの教育困難な時代こそ「信大YOU遊世間」の学生の出番なのである。たとえ教員養成制度がどのように変化しようとも、その変化に対応しながらひたすら「信州教育」の美質を磨き、教育者としての信念を鍛え上げていけばよいのである。

平成25年度に「教職実践演習」を履修して卒業する第1期生は、ちょうど「YOU遊」の第20期生となる。「YOU遊」の第20期生が不思議にも「教職実践演習」の第1期生となる。これまでの18年間、4年次生から1年次生へと、先輩学生から後輩学生へと、「YOU遊」の松明が、誰からも褒められもせず、卒業の単位になるわけでもなく、アルバイトになるわけでもないのに黙々と受け継がれてきた。ただひたすら「少しでもましな教師」になりたい、そのための資質能力を研鑽したいという魂の声に導かれて18年間継続されてきた。先輩から後輩への心の絆によって受け継がれてきた「YOU遊」、その精髄は一体何か。それは「信州教育」の美質、すなわち「ずく」(尽)の継承と発展であると言えよう。いよいよ「YOU遊」で自らを鍛えた学生に光が当たる時代が来たと言えよう。

平成23年11月26日（土）、27日（日）に教育学部キャンパスで第10回YOU遊フェスティバルが

開催された。これには上越教育大学、横浜国立大学、福井大学、岐阜聖徳学園大学、鳴門教育大学、松本大学、清泉女学院大学、長野県短期大学から合計20名が参加した。また、松本キャンパスから1年生が40名参加するとともに、信州大学の人文・経済・理・医・農・工・繊維の全学部から学生が総勢275名参加した。他大学生や他学部生、そして1年生は一体どこに宿泊したのか。それは先輩たちの下宿であった。ここでの一宿一飯の出会いの中にFriendship（友情）が醸成されているのである。また、275名の朝食を用意するために担当学生は朝4時半からご飯を炊き、豚汁を用意した。学生はマイ箸、マイ椀で美味しくいただいた。お米は全部学生が「信大茂菅ふるさと農場」で収穫した完全無農薬のこしひかりであった。

全国各地から教育者の道を求めて「信州教育」の地に集った学生のみなさんが、これからの日本の教育界の主体者となり、敢えて困難な教育現場に身を投じ、艱難辛苦をエネルギー源として大成されることを切に願っている。

土井　進（信州大学教育学部）

【注・参考文献】

(1) 高井蒼風（1973）『続　信濃畸人傳』p. 72　一光社　内村鑑三の原典は不詳。

(2) 上田　薫（1976）『信州教育論』p. 1　明治図書

(3) 梶田叡一（1996）信州大学教育学部附属松本中学校50年史編集委員会『信州教育の水脈　正編』p. 3　郷土出版社

(4) 竹内隆夫は第41回読売教育賞最優秀賞受賞の応募原稿『自問教育のすすめ』において、「自問清掃」はフランスのフレネ学園の「イニシアチブの時間」と酷似していて驚きもしていると述べている。筆者は「自問清掃」の英語訳を次のように提示した。"Jimon Seiso"（Cleaning Activity on Students' 0 wn Initiative and Their Discretion）——古川忠司・土井進ほか（2007）「松川中学校における「自問清掃」の導入と展開（1）」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 1　p. 163

(5) 藤原喜悦（1992）読売新聞記事　平成4年8月30日（日）

(6)「信大YOU遊サタデー」の英語表記を当初は、"ShinDai　Fun　Share　Saturday"としていた。——土井進（1996）「信大YOU遊サタデーに願うもの」『信濃教育』第1318号　p. 4

現在の「信大YOU遊世間」の英語表記は、次の通りである。

Shinshu University Students' Project "YOU-you World", Where Students, Children, Parents and Citizens gather and enjoy themselves together. ——土井進（2011）「「信大YOU遊世間」の「地域ブランド」としての特質」『地域ブランド研究』Vol. 6　p. 57

(7) 高田豊壽先生については、土井進編著（2010）『周禮15講—「先生」の教育—』信州大学教育学部教師教育学研究室に詳しい。

(8) 平成4年9月28日付けの土井進の手紙の写しによる。

(9) 筆者の教育学の師、唐沢富太郎先生は『中世初期仏教教育思想の研究—特に一乗思想とその伝統に於いて—』（1954）東洋館出版社　を著され、他者の幸福のために尽くす（利他）ことをわが喜びとする（自利）生き方が菩薩道であると講義された。

また、東京都文京区教育委員会社会教育指導員であった戸畑忠政先生は、社会教育主事補から中学校教諭に転職する筆者に、「悉有仏性、師弟同行、師弟共育」（1978）と揮毫してくださった。

(10) 土井進（2005）「「いい先生」が育つ松本附属へ」『信州大学教育学部附属松本小学校百年史』pp. 5-6。一茶（小林一茶　1763-1827）。

V　現役信大生が「臨床経験」と「YOU 遊世間」から学んでいること

〈現役信大生が「臨床経験」と「YOU 遊世間」から学んでいること〉

第 17 期：平成 22 年度 4 年生、第 18 期：平成 23 年度 3 年生・2 年生・1 年生

―― ☆担当教員の実践報告★ ――

17. 第 17 期（平成 22 年度）：子ども理解力、教材開発力、コミュニケーション力

17. 1　感動や喜びの共有

17 年目の「信大 YOU 遊世間」を無事、大成功で成し遂げた学生の皆さん！本当にごくろうさまでした。様々な困難な場面を皆さんは仲間と連帯して乗り越え、友情を深めるとともに、教職への使命感を深めることができたことと思います。本当におめでとうございます。

「信大 YOU 遊世間」の目的は、その名前のとおり、信州大学の学生が、地域社会の中で地域の人たちと連携しながら、地域の子どもたちと様々な活動をとおして、感動や喜びを共有し、教師となるための実践的指導力（子ども理解力や教材開発力、コミュニケーション力など）の基礎を体得することにあります。また、具体的な活動を通して、地域の子どもや大人たちとの信頼関係を築くことをとおして、学生同士の信頼関係も築かれていきます。こうして学生が様々な人々と繋がり、地域社会をより良くしていく社会力を養成することも「信大 YOU 遊世間」の目的となっています。第 17 期の運営は、次の学生たちによって実施されました。

運営委員長　　片原範子（理数科学教育専攻 3 年）
副運営委員長　高見澤誠（理数科学教育専攻 3 年）・三石梨沙（理数科学教育専攻 3 年）
　　藤浦修司（社会科学教育専攻 3 年）

17. 2　地域社会での実践から体得する「臨床の知」

編集方針としては今年度も学生一人ひとりの感想を並列的に配置した形態から脱皮するために、各プラザ長が自分のプラザに関わってくれた学生の原稿をとりまとめて、「臨床の知」としてどのような学びがあったのかを分類、整理して、プラザごとに 1 本の実践報告として執筆することにしました。地域社会の子どもたちや保護者の皆様との 1 年間にわたる活動を通してどのような学びを得たのか、しっかりと省察して記録に残し、次へのステップとしていきたいと思います。「信大 YOU 遊世間」の実践はフレンドシップ事業と名付けられているように、活動を通して学生同士が切磋琢磨し、肝胆相照らす仲へと友情を深めていくことが大きな目標の一つとなっています。この点においては、学生は苦労を共にすることによってお互いに「善き友」となり、強い絆を結んでいます。「YOU 遊世間」の活動に見られる明るさ、元気良さ、積極性は、この強い絆の現れと言えましょう。

18. 第 18 期（平成 23 年度）：「YOU 遊」20 周年への磐石な地盤づくり

18. 1　学内版 GP に採択

今期の大きな特色は、「社会力を育む第 18 期「信大 YOU 遊世間」の実践」が、信州大学の学内版 GP「就業力育成支援プログラム」として採択されたことである。「YOU 遊」の実践が「就業力」の育成に貢献するものであると評価されたことは、今年度の活動への大きなエールとなった。学内版 GP の経費を 23 年度 1 年間の活動に充てるのではなく、これまでの 18 年間を総括するとともに、来る 20 周年に向けての地盤づくりを行いたいと考えた。

そこで『教員養成フレンドシップ事業「信大 YOU 遊」18 年の教師教育学研究』を編集・発行することにし、卒業生 124 名、在学生 63 名から「YOU 遊」の活動を振り返える省察文を執筆していただいた。また、この事業に対して全国の有識者 9 名、大学内・地域協力者 10 名から新たな視野を

切り拓く評価を寄せていただいた。衷心より御礼を申し上げたい。

18.2　第18期の執行部

第18期の執行部は次の学生たちが担った。

運営委員長	服部直幸（理数4）	麻績村dE遊ぼう	佐塚大悟（生活3）
副運営委員長	土屋克明（理数4）	同	藤橋美月（生活3）
副運営委員長	赤羽成美（生活3）	湯谷小子どもランド	鈴木喜多朗（理数3）
副運営委員長	高坂　泉（生活3）	同	佐原啓太（社会3）
信大茂菅ふるさと農場	井出愛香（実践3）	大岡ふるさとランド	北澤瑞樹（理数3）
同	菊池智香（理数3）	アップルズ	三石梨沙（理数4）
同	澗口歩美（理数3）	信州すざか農業小学校	入澤清里（実践4）
青木村えがおクラブ	内川瞬也（実践3）	YOUフェス実行委員会	松田祐輝（社会3）
同	町田香帆（実践3）	同	勝海公平（社会3）

18.3　主な出来事

18.3.1　あおきっこ通学合宿

青木村では、教育委員会の皆様の絶大なるご支援のもと、平成23年5月15日（日）～5月21日（土）、青木村文化会館で第7回「あおきっこ通学合宿」が実施された。これには学生25名、小学生44名が参加した。合宿で大切にした2大柱は、「自主性」と「協調性」であった。

18.3.2　麻績村CAMP

麻績村では7年目にして初めて1泊の「麻績村CAMP」が実現した。実現に至るまでには村長さん、教育長さんの陣頭指揮があった。平成23年7月23日～24日、旧日向小学校グランドと体育館、第2公民館を会場として実施され、学生38名、小学生50名が参加した。キャンプのテーマは、おみっこの頭文字をとった、「おおきな自然と、みんなで、つなげる、こころの輪」であった。

18.3.3　わらわら通学合宿

長野市大岡小学校と大岡中学校の児童生徒12名が参加した第3回「わらわら通学合宿」は、平成23年9月25日（日）～10月1日（土）まで、長野市大岡老人福祉センターを会場にして実施された。これには学生スタッフが11名参加し、合宿のねらいを次のように定めた。①家族と住み慣れた環境から離れ、自主、自立の心をつちかうと同時に、家族のありがたさに気づく。②テレビやゲーム機、携帯電話のない生活の中で時間の使い方を学ぶ。③異年齢集団で共同生活をすることを通して、思いやり、助け合いながら生活する楽しさを学ぶ。④目標を持って生活する楽しさを知る。

18.3.4　YOU-YOUキャンプ

長野市錬成センターを会場として13家族37名と学生スタッフ17名が参加して、「里山ふれあいキャンプ」が実施されたのは平成13年（2001）8月10日（金）～12日（日）であった。それから10年ぶりで平成23年8月9日（火）～13日（土）、「YOU-YOUキャンプ」が錬成センターで実施された。これには学生19名、小学生31名が参加した。目的は、「子どもたちが互いに協力して課題を解決することを通して、協力することの楽しさに気付き、絆を深めることができる」であった。

18.3.5　YOU遊フェスティバル

第10回YOU遊フェスティバルは、好天に恵まれ、平成23年11月26日（土）、27日（日）に教育学部キャンパスを会場として実施された。これまでにない過去最多の20講座が開講され、学生スタッフが274名、子どもが375名、これに保護者が加わり、参加者は800名を越えた。そのため開会式場となった第2体育館に学生スタッフは入りきらないのでグランドで待機した。学生スタッフの中には、教育学部以外の信州大学の他の7学部、人文・経済・理・医・農・工・繊維からも学生が参加した。また、次の8大学からも参加学生があった。遠路にもかかわらず、夜行バスを乗り継いで駆け

付けてくれた熱意に深く敬意を表したい。

鳴門教育大学、岐阜聖徳学園大学、福井大学、横浜国立大学、上越教育大学、松本大学、清泉女学院大学、長野県短期大学

18. 3. 6　親子体験型研修会

長野市 PTA 連合会と信州大学教育学部が連携して実施する「親子体験型研修会」が始まってから7年ほどになると思われる。「信大 YOU 遊世間」は毎年この取り組みに参加し、学生が子どもや保護者とふれあう体験を重視している。平成 23 年 7 月 30 日（土）に「YOU 遊」が開講した講座名と参加者数は次のとおりであった。

「ホットケーキとバターづくり」20 名、「輪ゴム鉄砲、射的」40 名、「流しそうめん」40 名、「大根の種をまこう、ジャガイモをゆでて食べよう」40 名

―― ☆現役信大生 63 名の学び★ ――

17. 第 17 期（平成 22 年度）：子ども理解力、教材開発力、コミュニケーション力

― 17 期 4 年生 16 名の学び ―

17. 1　YOU 遊世間でのかけがえのない経験 ―――――――――――――　4 年　片原範子

信大 YOU 遊世間での 3 年間の活動は、私に「子どもを知る」ということについて深く考えさせてくれました。教師として子ども達の前に立つ臨床経験科目とは違い、大学生のお姉さんとして子ども達の前に立つことで、より子ども達の身近で一緒に全力で遊び、楽しみ、感動することができたと感じています。その中で、子ども達とのコミュニケーションのとり方や、子ども達が秘めている力・可能性などを実感してきました。教師になっても、今までの経験が私にとって大きな支えになると思うし、この活動で出会い、多くのことを一緒に経験してきた仲間が一生の宝になると感じています。YOU 遊世間で学んだ「教師としての実践」をこれからは現場で実践し、一生教師として学び続けたいと考えています。

17. 2　良い経験をした「臨床経験科目」と「信大 YOU 遊世間」 ――――　4 年　三石梨沙

「臨床経験科目」と「信大 YOU 遊世間」では、両者とも大学を出て、実際に子どもたちと関わってきました。前者では実際の学校現場に入り、先生方の日々の業務や授業のしかたについて学びました。後者では、活動の企画の方法や地域の人々や子どもたちとの関わり方を学びました。この二つを比較すると、一番大切な子どもたちとの関わりについては「信大 YOU 遊世間」での活動の方が子どもたちと深くかかわることができたように感じます。自ら活動を作るという意欲を持つことでより子どもたちに愛着をもち、子どもたちのためを思って工夫していくことができました。「教育臨床科目」ではやらなければならないことに追われ、自分なりの工夫をしていく余裕がなかったことが残念です。また、「信大 YOU 遊世間」では、仲間や地域の方々と連携してみんなで活動を作っていく必要があったため、コミュニケーション能力もつけることができました。実際の現場に出る前に、大学 4 年間で「臨床教育演習」と「信大 YOU 遊世間」を通して子どもやその他たくさんのことについて学ぶことができ、良い経験となりました。

17. 3　関わりを通して ――――――――――――――――――――――　4 年　高見澤誠

私は教育キャンパスに来てからの 3 年間、積極的に人と関わることを意識して、YOU 遊世間や臨床経験科目に取り組んできました。その中で多くのことを学びましたが、特に印象的なことは、どんな活動の裏側にも支えてくださっている人がいるということです。湯谷小子どもランドの保護者会や、実習の担当教官の先生など、私たちが子どもたちと力いっぱい関われる

ように環境を整えてくれている方々の存在は本当にありがたく、私たちは心から感謝しなければいけないと思います。また、学生側もそういった方々の期待に応えられるように、100%の力をもって取り組まなければいけないと感じました。教壇に立っても、保護者さんやほかの先生との連携を大切にして頑張っていきたいと思います。

17.4　あおきっこ通学合宿での学び　　4年　荻原知子

私は、大学2年から3年間、あおきっこ通学合宿に関わらせていただいた。この3回の合宿での学びは表現できないほどあり、私自身にとっても大きな影響を与えてくれていると感じる。その中で挙げるとするならば、人と出会い、つながることのすばらしさや大切さを学んだことである。合宿を通して、一緒に頑張ってくれる仲間に出会い、理解し支えてくれる地域の方々と出会った。このように多様な人と出会い、つながったことで、さまざまな考え方や価値観に触れ、生きていく上で大切な人としての幅広い視点をもつことができるようになった。また、仲間集団という1つの枠の中で自分の役割やあり方を見つめ直すとともに1人では何もできないが多くの人が協力することで成し得るものがある喜びやすばらしさを感じることができた。さらに、私自身の小さいころからの夢である「教師」という職業へ後押しをしてくれたのもこの活動である。あおきっこ通学合宿の経験は私の人格形成に大きな影響を与え、今後生きていく上でとても大切な多くのことに気づかせてくれた。学生時代にすばらしい経験をさせてもらったことを幸せに思いますし、この経験は私の一生の宝物である。

17.5　チームワークの大切さ　　4年　小賀坂佳子

私は基礎教育実習、応用教育実習、特別支援教育実習を経験しましたが、これらの実習で学んだことと、YOU遊世間で学んだことが重なってくるのは、「チームワーク」という部分だと思います。私がプラザ長だったときに、麻績村で行った企画の中で一番成功したと思ったのは、「冬の大運動会」という企画でした。「冬の大運動会」と、それまでの何回かの企画の大きな違いは、「冬の大運動会」では企画の段階から多くの学生に携わってもらったということでした。そうしたことでアイディアが広がり、また、それぞれの学生も自分の役割をしっかり持つことができたので、当日はお互いに連携し合いながら活動することができました。反省会でも麻績村の方に、「学生同士のチームワークがよかった」とお褒めの言葉をいただいたのを今でも覚えています。実習でも、このようにみんなでアイディアを出しあうと自分一人でやるより何倍も良くなるという経験をたくさんしました。学生同士、実習生同士のチームワークがしっかりしていると、内容はより良いものとなり、また雰囲気も全体的に良くなります。そして、それは自ずと子どもたちにも伝わっていくのだと思いました。来年から教員になって現場に出ても、困ったら助けてと言い合える関係を周りの人たちと築いて、チームワークを大切にしていきたいと思います。

17.6　戸惑い学ぶ場　　4年　入澤清里

信州すざか農業小学校には、2年間参加させていただきました。社会教育の場に参加した経験が乏しい私は、「農業小学校で活動するようになっても、子どもとどう接したらいいのだろう」、「私は何をすればいいのだろう」などと戸惑ってばかりで、S先輩の後を付いて回っていました。今になって思うと、その戸惑いの時間が、YOU遊の活動の魅力なのかもしれません。YOU遊の活動では、子ども、地域の人々、学生など、多くの人々と関り合います。それゆえ、自分の戸惑いを多くの方々の姿や言葉から解消することができました。例えば、「子どもとどのように接したらいいのだろう」と戸惑った時には、目の前の子どもの目線に立って、自分がその時求められている役割を判断して行動することがまず大事であることを、S先輩や地域の方々の実際の姿から教えていただきました。多くの方々に学ばせていただいた、有り難い2年

間であったと思います。

17.7　とても大きな経験を与えてくれた活動　――――――――――　4年　土屋克明

まず、「臨床経験科目」で学んだことについて述べたいと思います。1年生の頃から信大附属の学校を中心に行ってきた「臨床経験科目」の中でも、最も自分にとって大きかったのは、基礎教育実習でした。合わせて一ヶ月、実際に子どもたちと授業を行い過ごした日々です。その中で、子どもたちのために授業の準備をし、子どもたちと一緒に学習し、子どもたちから教師のやりがいを教えられました。私はこの実習を通して、教師になりたい、という気持ちを持つようになりました。学校、授業という場で子どもたちと触れ合えるかけがえのない経験だったと思います。次に、「信大YOU遊世間」で学んだことについて述べたいと思います。信大YOU遊世間で学んだことは大きく二つあります。一つは、地域の方々や仲間との連携の重要性です。自分ひとりではなく、子どもたちを育てている地域の温かく心強い方々や、一緒に真剣になって子どもたちのことを考えくれる同じ想いを持った仲間がいて、子どもたちにとって素晴らしい活動ができると知りました。もう一つは、子どもたちのために頑張ることのやりがいです。たくさんの活動で、必死に子どもたちのことを考えて企画し、悩み、準備することがありました。それらも、最後に子どもたちが見せてくれる笑顔や姿で、一気に喜びに変わります。教師になっても子どもたちのために頑張りたいと強く思うようになりました。それぞれ自分にとってとても大きな経験を与えてくれた活動でした。

17.8　あおきっこ通学合宿で学んだこと　――――――――――　4年　駒村美代

食事係として参加した時のことです。下ごしらえなどやるべき仕事が多すぎて、子どもたちと関わる機会がありませんでした。子どもたちと楽しく過ごしている班付や本部の姿を見て羨ましく思うと同時に、自分に任された仕事の辛さに最終日が来るのを指折り数えていました。しかし、そんな時に考え悩んでいたことが「子どもが真ん中」という言葉の意味です。調理室にこもっていても聞こえてくる子どもたちの笑い声が、私を少しずつ「答え」へと導いていきました。私は、子どもたちと楽しい思い出をつくるとか、子どもたちからたくさんのことを学ぶだとか、「自分を真ん中」に考えていた自分に気づいたのです。それから日にちと共に育つ子どもたちへの愛情が自然と仕事の辛さを消し去り、子どもたちの笑顔や成長を一番に考えられる私にしてくれました。そして最終日には将来教師になっても、スーパーマンのように目立つ存在ではなく、子どもたちの気づかぬ所で愛情をエネルギーに、子どもたちの笑顔や未来を強く守っていける教師になろうと決意することができました。

17.9　自分の視野を広げる貴重な経験　――――――――――　4年　大井このみ

2年次の臨床教育演習では、教師としての自覚と責任に気付かされました。ある時、大量の洗剤を使って流し台を泡でいっぱいにしながら食器洗いをしている子どもたちがいました。私はその光景を見て、「自由に遊んで楽しそうだな」と思い、にこにこしながら黙って見ていました。しばらくして担任の先生が来て大量の泡を見た途端、子どもたちに「何やってるの？」と怒った口調で言い、その場の空気が一変しました。その瞬間、私は、自分に教師としての自覚が全く無かったことに初めて気付きました。いくら子どもたちが可愛くても、今は授業中で、やるべきことはやる、ということを忘れていました。それからは、「教師としての自分」を強く意識するようになりました。3年次の幼稚園での基礎教育実習では、子どもたちの内面を捉えることの大切さと難しさを学びました。また、「○○君またシール帳忘れているよ」などの教師のマイナスの言葉掛けから、子どもたちの中に差別意識が生まれてしまうことも知り、認める言葉掛けを意識するきっかけになりました。信大YOU遊世間では、キャンプなどで企画・運営した経験から、頑張った分だけ子どもたちから返ってくること、子どもの力を信

じること、のびのびとした環境で思い切り遊ぶことの大切さを学びました。様々な地域の子どもたちと触れ合うことは、自分の視野を広げるためにも貴重な経験になっています。

17.10 心のつながり　　4年　久保朝夏

4年間にわたる臨床経験科目と信大YOU遊世間での活動で、わたしは主に心のつながりを学んだ。両者の活動に共通して言えることは、子どもとのつながりはもちろんのこと、先生や学生同士、地域の方々などとのつながりもとても大切であるということである。子どもと心のつながりを持つために、自分自身は最大限努力をする。しかし、一人ではどうにもならないことや行き詰ったときには、仲間や先生、地域の方々の助けを得る。そこで、さらなる心のつながりが生まれる。結局は一方向のみのつながりではなく、他人を思って考え、行動することでみんながつながり、輪ができていくことを知った。人間一人では生きていけないとよく耳にするけれど、それは事実なのだと身をもって実感することができた。これらの経験は、社会に出る上で必要なことを前もって学ぶことができる貴重なチャンスであったと私は感じている。

17.11 臨床経験科目を充実させるために　　4年　山本敦司

私たちは、学部1年生時から臨床経験科目の授業を受けている。この授業の中では附属松本小や松本中に行かせていただいたり、教育参加で青少年教育施設へ行ったり、教育実習する中で子どもたちと関わる機会を得ることができている。しかし、その中で実戦的な指導力がついているかどうかは疑問である。子どもと関わる機会を与えてもらえるという点ではとてもいい経験をさせていただいているのだが、1年生の時には目的意識が薄く、やらなければいけないからやっていたという感じであった。その後、自分は教育参加の時に行かせていただいた乗鞍青少年交流の家と縁ができて、たくさんの活動に参加し、その中でたくさんのことを学ぶことができた。しかし、周りに話を聞いてみると「子どもと関わる活動にあんまり参加していない」、「参加したいがどこでそういう活動がある か分からない」ということを言っている人が多かった。このようなことから、学生が子どもと関わる活動をしたいと思った時に気軽に、そして継続的にやることができる活動を学生が知らないという現状があると思う。その点で信大YOU遊世間では地域密着型の活動が継続的にできると思う。しかし、現在信大YOU遊世間は学生全体に広まっておらず、閉鎖的な部分もあると思う。実戦的指導力を養うにはやはり実際に経験しなければならないと思う。なので、臨床経験科目の中に教育参加の青少年教育施設での活動の紹介や、信大YOU遊世間の活動をもっと紹介していくと良いと思う。そうすることで、学生が子どもと関わる機会が増えて、学びがもっと増え、学生のうちに子どもに対する接し方が身につくと思う。

17.12 教師になることへの魅力を学べた　　4年　金箱仁志

私は臨床科目で学校現場を教師として見ることができ、信大YOU遊世間では、学生として子どもたちを見ることができた。臨床科目では学校の先生方に教師としての基礎となる大変さや喜びを学ばせていただき、また、信大YOU遊世間の活動では子どもたちとの活動で実際に子どもたちと感情を共有することができた。また、活動に参加してくださる保護者の方々とも話をする場を設けていただいたこともあり、保護者からの視点も聞くことができた。実際に子どもや先生方・保護者の方々と接することのできる数少ないこの機会で、私は教師になることへの多くの魅力を教えていただくことができた。

17.13 経験して、今分かること　　4年　服部直幸

私は「信大YOU遊世間」を3年間経験しました。その3年間でたくさんのことを悩み、仲間と語り、活動しました。これを続けたいと思う気持ちは「人とのつながり」から生まれたと思っています。学生、子ども、地域の方、学校の先生とのつながりです。「今日もありがと

う」「またいらして下さい」と、活動をさせていただきながら、逆にこのような言葉をいただき、温かい気持ちでいつも帰っていました。この気持ちは「臨床経験科目」では味わうことができないと思います。教師でもなく、時には学生という気持ちも忘れ、一人の人間としてその地域に入り、何ができるだろうかと考え、多くの人とふれあってきたことの一つひとつは、今の私をつくってくれた大切な経験となっています。学校から離れて、人と向き合うことができることや、「楽しいから行こう！」と友人に声をかけると、さらにつながりが広がっていく「信大YOU遊世間」の価値を、今、私は感じています。

17.14　沢山の思いを受け止められる自分に　――――――――――　4年　田澤岳哉

○臨床経験科目…「田澤先生」。人生で初めて子どもからこう呼ばれたのが、本科目だった。自分が教師の道に本気で進もうと思ったのはこの頃からだった。本科目では、教師として子どもの前に立つことが一番の経験になった。子どもも私を教師として接してくる。学校という場で、職場仲間とどのようにして子どもを育てるか考えるようになった。　○信大YOU遊世間…「田澤兄ちゃん」。子どもは私を大学生のお兄ちゃんとして慕ってくれる。学校では見えにくい、子どもが親に見せる「甘え」のようなものを私に見せてくれた。親御さんも、子どもに寄せる想いを率直に伝えてくれる。学校以外での教育を考えるようになった。　○二つの活動から・・・大学一年の頃は教師にとって授業がすべてだと思っていた。しかし今は、子どもの思い、保護者の思い、住民の思い、教師の思いに触れ、学校という場を多面的にとらえるようになった。一方で、沢山の思いを受け止めなくてはいけない教師という職には、自分に一つでも芯となる専門性がないといけないと思った。自身を研き続ける自分でありたい。

17.15　臨床経験科目はすべてが欠くことのできない大切なもの　――――――　4年　井上岳人

臨床経験科目を終え，教育臨床入門・教育臨床基礎が教育臨床演習の土台となり、教育臨床演習が基礎教育実習の土台となり、基礎教育実習が応用教育実習の土台となり、自らの教師としての資質が培われていったように思います。1年次ではまだ漠然と教師になりたいと思っていた私にとって、教師という存在として学校に入る経験を与えてくれ、子どもと関わり合うことの難しさを学び、教師として自分がどのように子どもと関わっていくべきなのか考える機会となりました。2年次では、1週間という継続した時間をいただき、子どもと触れ合い、教師から諦めずに働きかけることで子どもは次第に心を開いてくれ、より内面に寄り添うことができると勉強させていただきました。3年、4年次では実際に授業を行っていくにあたり、たくさんの先生方のご指導を受け、仲間の実習生の協力をいただきました。そこで私は教育とは1人で行うのではなく、学校全体で行わなくてはならないと感じさせられました。また、YOU遊世間ではそれに加え重要なことを学びました。それは教育において最も大切なものは「子ども」ではありますが、それと並び「保護者」「地域」も決して無視のできない大切な存在だということです。この3つが関わり合って成立するものこそ「教育」だと学ばせていただきました。4年間を振り返ると、この臨床経験科目はすべてが欠くことのできない大切なものであり、すべてがつながり合い、自分の教師としての資質を身につけることができたと思います。

17.16　学校生活以外の場面での子どもの様子　――――――――――　4年　峯村和裕

「臨床経験科目」と「信大YOU遊世間」では、「子どもに関わり、教育について学ぶ」という点で共通していて、どちらも教員養成のために有意義なものであると考える。ただ、この2つには「参加が必須かどうか」と「重点をどこに置くか」という2点で違いがあると思う。「臨床経験科目」は、その参加が必須でありどの学生も参加することになるため、必然的に多くの学生と関わる機会が生まれることになり、学生がその知見を広める機会にもなると思う。また、「臨床経験科目」では、学校生活の中でも特に授業に関する活動に重点を置かれている

印象が強い。授業は学校生活の根幹となるものであるので、それについて学ぶことには大きな意義があると思うし、実際に授業を行うことができる機会というのは貴重なものである。それに対し「YOU 遊」は、参加が必須ではないので本当に参加したい人が参加してくるのだ。そういうやる気をもった学生同士が関わることができるのは有意義なことである。また、「YOU 遊」では学校生活から離れた子どもと関わることができる。子どものことを理解するためには、学校生活以外の場面での子どもの様子を知ることも必要だと思う。子どもにまだ先生として見られていない状況で子どもの姿を観察できるという経験は、将来、必ず生きてくるものだと思う。

18. 第 18 期（平成 23 年度）：「YOU 遊」20 周年への磐石な地盤づくり
― 18 期 3 年生 25 名の学び ―

18. 1　人の繋がり・人の豊かさ ―――――――――――――――― 3 年　楢崎亮人

私が「信大 YOU 遊世間」から学んだことは、「人と繋がること」の大切さです。私は信大 YOU 遊世間の活動に 2 年次から参加させていただいています。湯谷小子どもランドの活動から始まり、3 年生になると、大岡小学校や麻績小学校での活動や YOUYOU キャンプにも参加させていただきました。私は 1 年次のときは、子どもが嫌いでした。話が分からない子どもや言うことの聞けない子どもが、嫌いでした。しかし、2 年次に友人に誘ってもらい参加した湯谷小のキャンプをきっかけに、子どもの秘めている可能性や子どもの輝く姿を多く目にしてきました。いつしか、自分から色んなプラザの活動に参加したいと思えるようになり、3 年次には子どもとの関わりを求めている自分がいました。あるプラザでは子どもの温かさを感じ、あるプラザでは保護者の方と子どもへの接し方を真剣に話し合い、またあるプラザでは校長先生のお話を聞かせていただき、教師を目指す者としての心構えを改める機会を与えていただきました。私はあるプラザの活動でケガをした友達を急いで洗い場まで連れて行き、そっと水をかけてあげる子どもの姿を目にしました。「人の豊かさ」とは、「相手のことを自分のことのように考えることができること」なのではないかと、私はこの子どもの姿から学びました。私は知識や知恵を与えることよりも、子どもが豊かな人間性の溢れる子どもになる手助けをし、そのための最良の場を設え、その場に入り、共に学んでいくことが、教師の役目なのではないかと感じます。

18. 2　「臨床経験科目」と「信大 YOU 遊世間」両方の経験を活かして ――― 3 年　笠井萌子

私は今年 5 月にあおきっこ通学合宿に参加しました。中学校での基礎実習を終えた今、その両方を振り返ってみると、どちらも充実した経験になったと思います。実習で生徒の目線になって 1 時間の授業をどう工夫するか考える時と、通学合宿で子どもたちの立場から楽しめるような企画を考える時とでは、似た気持ちだったように感じます。それとは反対に、違うなと感じた点は、実習では生徒と先生という関係が取り払えないということです。どんな場面でも“教師ならどう振る舞うか”を考えて行動すべきだった実習に比べて、通学合宿では“全員が今を楽しむにはどうするのが良いか”を最優先で考えていたと思います。そして、子どもたちと一緒に考えることが多かったのです。「いい先生」と言われる先生は、その両方を兼ね備えて“全員が有意義な時間を過ごすために、教師としてできること”をいつでも意識していて、生徒と一緒に悩み、考えてくれる人なのではないでしょうか。臨床経験科目と YOU 遊世間の両方の経験を活かせるといいなと思います。

18. 3　YOU 遊世間と臨床経験科目から得たもの、そして今の自分 ――― 3 年　内川舜也

私は二年次より本格的に YOU 遊世間の活動に参加するようになった。教育学部に入っても

一年目は密に子どもたちと関わる機会が少なかったので、YOU遊での活動は毎回とても新鮮だった。最初は子どもたちとどう接したらいいのか、探り探りの状態だったが、何回か活動に参加したり先輩たちの子どもと関わっている姿を見たりしていく中で、自分なりの子どもとの関わり方を見つけていくことができた。YOU遊の活動を通して得た経験が今年の実習においてもとても強みになった。子どもたちとも積極的にコミュニケーションをとっていくことができたので、そのことで実習中に悩むことはなかった。しかし、実習がYOU遊の活動と違うことは学生ではなく、教師の立場で子どもと接するということだった。教師は子どもの命を一番に考え、子どもの人生を考えた指導をしなければならないということを実習から学んだ。もちろんYOU遊での活動中も子どもの安全を重視してきたが、実際に現場に出たことで自分の中でもっと強く意識することができた。また、YOU遊の活動を通して、これまでより人とのつながりが増えた。学生や子どもたちはもちろん、教育委員会の方々や学校の先生、地域の方々などと話す機会が増え、自分の考えも広がったし、これまで人と話すことが苦手だった私もその苦手が少し克服された。子どもとの関わりだけでなく、自分のこれからの人生においてもプラスとなるのがYOU遊である。また、臨床経験科目もYOU遊の学びがより深くなったり、気づけていない部分を気づかせてくれる大切な場なので両方を大切にし、これからもたくさんのことを学び、成長していきたい。

18.4　かけがえのないもの　　3年　町田香帆

「教師にだけは、なりたくない」と思いながら、この大学に入学した。しかし、今の私は「絶対に教師になりたい」と思っている。私を大きく変えてくれたのは、多くの人、多くの感動との出会いだ。その機会となったのが、YOU遊世間であり、臨床経験科目だと思う。講義を受けているだけでは、分からないこと、考えられないことが多くある。そこで学んだことを実際に実践したり、自分の目で見て、自分で感じたりすることで、学びが深まっていく。また、「もっと学びたい」と思える。自分の目標も見えてくる。正直、そこで何を学んだのか一言では表せない。多くありすぎるし、うまく言葉にできない。ただ言えることは臨床経験科目もYOU遊世間も、私にとってかけがえのないものであるということだ。だから私はこの大学に入れてよかったと思っている。そして、今後ここで学んだことや経験を生かして、絶対に先生になりたい。

18.5　「臨床経験」から学ぶ、「信大YOU遊世間」から学ぶ　　3年　花見直樹

私が今までに参加した臨床経験科目は教育臨床基礎、地域教育演習、教育臨床演習、そして基礎教育実習といくつもあります。もちろんこの臨床経験から学んだことはたくさんあります。教師としての言動であったり、教師が行う具体的な仕事であったり、子どもが学校でどう過ごし、どう学んでいるのかなどです。しかし私は臨床経験では学べないことを、信大YOU遊世間では学べると感じました。私はあおきっこ通学合宿に参加させていただきました。1週間以上も子どもと寝食を共にし、子どものことだけを常に考えるというのは初めての体験で、学校では見えなかった子どもの姿を見ることができたり、子どもに対して今までには無かった感情・考え方を持つことができたりしました。私が特に驚いたことは、子どもの成長の速さでした。私たちにとって1週間というのは短いですが、子どもは1週間でも大きく成長することができます。この合宿で、子どもの成長に感動すると共に、子どもが成長できるような支援の必要性を感じました。臨床経験でももちろん学び、成長することができます。しかし臨床経験では学べないことを信大YOU遊世間に参加することで学べると思います。教師になるために有意義な活動だと思います。

18. 6　臨床経験科目と信大 YOU 遊世間　　3 年　岩井孝憲

臨床経験科目と信大 YOU 遊世間では、大学で行われる講義とは違って、子どもたちと直接関わりあいます。一緒に遊んだり、授業を行ったり、他人の授業を参観したり、他にも料理やスポーツなど、様々な活動を子どもたちと行うことができます。私はそうして子どもたちを目の前にして自分のやるべきことを考えることで、教師に必要な力がどのようなものかを知ることができました。子どもたちと一緒に行う活動は、自分の思い通りにはいきません。それは子どもたちがとても自由で、私の子どもへの理解が足りないからだと身をもって体験できました。そういった教育の現状、そしてそれに対する自分の現状を知る機会として、臨床経験科目と信大 YOU 遊世間は私にとって大きな存在となりました。

18. 7　大岡から学んだこと　　3 年　土井翔太

自分は大岡の通学合宿という活動に参加した。一週間子どもと一緒に寝泊まりをし、いろいろなことを一緒に体験した。初めあまり話せず、男子と女子の間の壁がとてもあった。ご飯ですら一緒に食べることができない状態であった。しかし、一週間という活動の中でお互いに協力し、助け合い、様々な物を作り、共有していくことで、次第にその仲がよくなっていくことができた。そして最後には、男女分けてあった仕切りをなくし、皆で仲良く寝ていた。一週間という短い間であったが、大岡では多くのことを学んだ。地域の協力性の高さ、子どもたちのためなら、という配慮がとても素晴らしかった。自分には、地域が一つの家族であるかのように思えた。今の時代にこのような地域は少なく、とても貴重である。学校、地域、家族の三つが関わり合うことができるような、そして、その助けができるような教師になりたいと強く感じた、通学合宿でした。

18. 8　臨床経験と YOU 遊での活動を通して　　3 年　菊池智香

臨床経験科目と YOU 遊での活動を通して、子どもと関わることの大変さと楽しさを感じました。教育実習での事前準備や授業、茂菅農場での活動の企画運営をしていく中で、自分と一緒に活動する仲間との間で意思の疎通がうまくいかなかったり、子どもが予想外の行動をしたときに臨機応に動くことができなかったりしました。しかし、大変なことが多かった分、仲間や子どもたちと一緒に活動した時間はとても充実していたと感じています。一生懸命考えたり活動する子どもたちの姿や、新しいことを発見したときの表情に出会ったり、同世代の仲間とともに同じ目標に向かって頑張った事実は、臨床経験や YOU 遊での活動があったからだと思います。特に YOU 遊での活動は、臨床経験以上に子どもと関わることができたので、幅広く子どもと接することができ、かけがえのない経験となりました。

18. 9　子どもたちとの関わりを経験、その喜びを感じた　　3 年　久保田直美

「臨床経験科目」や「信大 YOU 遊世間」の活動のなかでは、たくさんの時間を子どもたちと過ごすことができました。そのような中で、子どもたちが興味をもち、自分から進んでがんばって活動に参加している姿をみてきました。また、子どもたちと共に楽しんだり気持ちを共有したりしながら、一緒に活動してきました。子どもたちが興味をもって楽しく活動できる場やそのような姿を受けとめ、一緒に過ごすことの大切さ、そこでどのように関わっていったらいいのかを感じ、学ぶことができたと思います。そして、子どもとかかわることの難しさや重さ、また楽しさや喜びを感じることができたと思います。これらは大学の講義の中だけでは学ぶことのできないものであり、これからも子どもたちとかかわっていきたいと思っているので、私にとって貴重な経験となっています。

18. 10　「臨床経験科目」と「信大 YOU 遊世間」の違い　　3 年　熊谷　航

私は 3 年生になって初めて、YOU 遊世間の活動に参加しました。一番最初の活動は基礎教

育実習を終えてからの「第3回大岡わらわら通学合宿」でした。この活動は大岡の子どもたちと一週間一緒に生活をするというもので、教育実習では学校で授業を受けている子どもの姿しか見ることができませんが、この活動では子どもの朝起きてから夜寝るまでの学校生活以外の姿を見ることができました。この活動では子どものいろんな表情にふれることができ、今まで参加しなかったことを後悔するくらいとても貴重な経験をすることができました。学生の段階で子どもと様々な形で関わることができるこのYOU遊世間は、教師を目指す者にとって、とてもいい機会になっていると思いますし、一度参加したらまた何度も参加したくなる魅力があると思います。

18.11 「臨床経験科目」、「信大YOU遊世間」における子どもへの思い ―― 3年 佐塚大悟

私は、臨床経験科目において、教師が持っている子どもたちへの測り知れない思いを学んだ。教師は子どもたちに対して様々な願いを持って接し、その願いから子どもたちが何を学んでいくかを常に考えている。自分も教育実習において教師の目線に立ち、どうしたら子どもたちの貴重な成長の一瞬に携われるだろうか、ということを第一に考えるようになった。一方、信大YOU遊世間では、地域から将来を担う子どもたちを育てたいという地域の方々の熱心な思いを、活動に参加する中で感じた。地域を通して子どもたちが成長していく姿を目の当たりにし、その重要性を学んだ。どの大人も子どもへの真摯な願いを持っている。「臨床経験科目」、「信大YOU遊世間」を通して、私は将来たくさんの子どもたちと関わっていく者として、自分の信念を持って子どもたちと関わっていきたいと考えるようになった。

18.12 私が臨床経験から学んだこと ―――――――――――――― 3年 松原 僚

私は基礎教育実習で、教育に関する観点が大きく変わりました。今までは子どもと関わることが楽しいからといったような理由で教師を目指していたのですが、基礎教育実習で楽しいだけでは教師は務まらないということに気づきました。やはり、授業を媒介としてコミュニケーションをとることが大切なのだと感じました。子どもは新しいことを「学ぶ」ことに対してすごく純粋、私が思いつかないような考え方をします。それが正しくても間違っていても教師の授業次第で子どもの学びは大きく変わるし、教師と子どもの関係も大きく変わります。今までは日常的にどうしたら子どもと上手く関わっていけるのかと考えていたのですが、基礎教育実習で子どもとコミュニケーションをとるのに授業が大切なのだと感じました。

18.13 子どもたちから学んだこと ―――――――――――――― 3年 赤羽成美

私は大学3年生になってからYOU遊世間へ参加するようになりました。参加したいと思うようになったのは、実際に子どもたちと触れ合うことでしか学べないものがあると思ったからです。そう思うようになったのも、1年生と2年生での臨床の経験を通して子どもたちと実際に出会い、多くのことを学ばせてもらったからです。YOU遊の子どもたちと活動をするようになってから、毎回の活動が気づきの連続でした。特に、夏に参加した3泊4日のキャンプは、私にたくさんのことを教えてくれました。子どもたちは出会ったばかりで、子どもたち同士、初日はあまり会話がない状態でした。しかし、次第に打ち解けてきて、相手を思いやる言動が見られるようになりました。そして、最後には自分の意見をぶつけ合う姿が見られるようになりました。4日間という短い間でしたが、その中でも子どもたちは一日一日少しずつ変化していました。私は、YOU遊の活動に参加するようになってから、子どもは常に変化しているのだということ、そしてそれが、子どもたちの無限の可能性を広げているのだということに気が付きました。

18.14 生徒たちを見て、その声をひろうようにしたら… ―――――――― 3年 田中沙結美

信大YOU遊世間などを通して、今までは小学生と関わることがほとんどでした。しかし、

基礎教育実習では中学生と関わる機会をもつことができました。小学生と中学生とでは考え方や生活の仕方は大きく違いますが、彼らと接する上で大切にしなければいけない部分はたいして変わらないように思いました。教育実習では自分のことで精一杯になってしまい、生徒たちの顔を全く見れない授業もありました。しかし、生徒たちを見て、生徒たちの声をひろうようにしたら、自然と生徒たちとの距離も縮まっていきました。高度なテクニックなどはいりませんでした。これは、小学生との関わりでも同じだと思います。これからも積極的に活動に参加して、様々な子どもたちと接する機会をもっていきたいと思いました。

18.15　さまざまな出会いの中で　　3年　藤橋美月

「臨床経験科目」と「信大YOU遊世間」の活動を通して、「『先生』としての自分」と「『お姉さん』としての自分」の2つの自分と向き合うことができました。臨床経験科目では、学校にいくと「藤橋先生」と呼ばれ、“先生として”自分には何ができるのかと考えるようになりました。その中で先生という職業の魅力を体感し、早く教壇に立ちたいと思うようになり、自分の夢が明確になっていきました。YOU遊世間では、自分たちのやりたいことをバックアップしてくださる土井先生をはじめ、教育委員会の方や保護者の方々と出会い、教育を違った方面から考えることができるようになりました。何よりも、私のことを「美月」と呼ぶ子どもたちは、私にとって大事な宝物です。両方の経験を通して、子どもたちのために真剣になる自分を好きになることができました。これが最も大きな収穫です。

18.16　経験して分かること　　3年　和田洋明

私が「臨床経験科目」や「信大YOU遊世間」から学んだことは、経験の大切さです。子どもたちとの関わりを重ねれば重ねていくほど、子どもたちの言動が時に私たちの想像を超えていることに気づき、それが多くの感動を私に与えてくれました。普段は落ち着かなくて手を焼く子が率先して活動に参加してくれた時のことや、最後の別れ際に「またね」と泣いていたことは、私の心に大きく響きました。そしてその時の感動が、「また子どもたちと関わりたい」とか「YOU遊世間の活動に参加したい」という気持ちを起こさせてくれました。また、そういうところにこそ教師という職業の魅力があることにも気づかされました。こういった子どもと直に関わる活動を通して、指導法のような技術も教師にとっては大切なことであるが、子どもたちと直に触れ合い苦楽を共有することで自分の視野を広げていくことや、感動を味わうことの方が大変重要であると感じるようになりました。

18.17　子どもに寄り添うことの大切さ　　3年　細田春菜

私が「臨床経験科目」や「信大YOU遊世間」から学んだことは、子どもに寄り添うことの大切さです。私がYOU遊世間の活動の一環である「あおきっこ通学合宿」に参加させていただいた時、周りの友だちと何度も喧嘩を起こしてしまい、時には暴力をふるってしまう一人の男の子と出会いました。なぜそんな行動をとるのか分からず、そういったことが起こるたびに「何かあったの？」と聞いていたが、話してくれようとはしませんでした。食事係の仕事もあり、その男の子の様子をしっかりと追うことができず、その現状を把握することができなかったにもかかわらず、私はそういった行動を起こすのは彼自身に何か問題があるものだと思っていました。ある日、みんなで遊んでいたときに再びその子が女の子に暴力をふるう姿が見られ、その子と向き合う時間を取ると、その子は泣きながら私に「痛いことをされた」と話してきました。私はその子が悪いものと決めつけていましたが、果たして本当にそうだったのかと考えさせられました。私が、「でも暴力は良くなかったね」と話すと、その子は分かって頷いてくれました。その子の真っすぐな心に触れ、何も理解していない自分をとても恥ずかしく思いました。そういった経験から、子どもに寄り添うことの大切さを知ることができました。

18.18　子どもと関わること　　3年　井出愛香

私は臨床経験科目を通じて教師という職業を考えることができたと思っています。特に2年時の教育臨床演習では、1週間小学校へ行き現場の先生から直接お話しを聞く機会をいただきました。それで、先生が子どもたちとどのような関わりをしているのか実感することができ、教師として子どもたちと関わることの楽しさを感じることができました。この経験が私の教職への希望を強める要因になっています。また、1年時から参加しているYOU遊世間の活動では、さらに身近なこととして子どもたちと関わることができています。特に私が関わっている茂菅ふるさと農場の活動は1年を通じて活動するので、子どもたちの成長を感じることができましたし、子どもを通じて保護者の方や地域の方、普段は関わりのないような学生との交流があり、教育実習では得ることのできない経験ができていると思っています。

18.19　関わるということ　　3年　北沢瑞樹

臨床経験科目では授業などの構成や学校という組織の在り方を学び、YOU遊世間では人との関わり方を学んだように思う。初めて活動に参加したとき、子どもと接することができて本当に楽しかった。しかし、子どもと触れ合うことはできても保護者さんとうまく話しをすることができなかった。というより、自分からは接するのを避けていた気がする。それは、何を話したらいいいかわからなかったからだと、今になってわかった。この一年で大きく変われたと思う。今は活動で子どもと関わるのも楽しいが保護者さん、地域の人と会話することも楽しみである。この一年で人と関わる機会がたくさん増えたし、幅広い年齢の人と関われたと思う。またその中で、どのように関わっていくか身についた。確かに勉強も大切である。しかし、生きていくうえで一番大切なことは、人と人が関わりあうことだと思う。同じ釜の飯を食べて寝食をともにすることで他人の良さに気づいていけると思う。部活をやめてまでもこういう体験ができたことが、本当に良かったと思う。

18.20　長期にわたって関わることで見えてくるもの　　3年　澗口歩美

臨床科目では、これまで児童・生徒であった自分が教師という立場で学校に行き、実際の現場で現職の先生方の様子を見させていただく貴重な経験でした。このような子どもたちと関わる機会があることで教員のイメージが持てました。また、YOU遊では学校とは違う環境で多様な子どもたちと関わることができます。今年度は運営する側として、参加者を募ったり活動を計画・実施したりしています。このような経験をしたことがなかったので、初めは戸惑うことばかりでしたが、農場長・副農場長と力を合わせて乗り切ってきました。これまで短期で参加するだけではあまり感じてこなかった、活動に協力してくださっている方々の存在や子どもたち一人一人の成長を感じることができています。天候や作物の成長で活動が左右されることもありましたが、教員になってからもこのような事態はありえることだと思うので、この経験を活かしていければと思います。

18.21　やってみなきゃ始まらない!!　　3年　髙坂　泉

信州大学教育学部に入学して3年がたとうとしている今、私が感じることは実際にやってみることの大切さである。たしかに知識も必要であるが、教室で大学の講義を受けているだけでは力は身につかない。知識を使う場が必要だと私は思う。私にとってのそんな場が、臨床科目であったり、YOU遊であった。臨床科目では実習生という先生に近い立場で、YOU遊ではお姉さんといったような家族に近い立場で、子どもに接してきた。どちらも子どもの生の反応が見られ、予想できないことも沢山起き、その度に頭を駆使して対応してきた。大学での学びを活かして子どもたちと接し、子どもたちと接して学んだことを受けて大学の学びに応用していく。この両方があるからこそ私の学びは深まったと思う。またYOU遊の活動では地域の

方や保護者の方と触れる機会も多く、様々な視点から活動についてや子どもについて考えることができたし、多くのことを学んだ。また地域で育てる大切さも感じた。どの経験も私には必要であり、これからも積極的に子どもたちと触れ合い活動していきたいと私は思う。

18.22 実践を通して自己を見つめ直すことができる ―――― 3 年 勝海公平

私が臨床経験科目や YOU 遊世間の活動に参加し学んだのは、実践を通して自己を見つめ直すことができるということです。実際に子どもと関わることで、知識だけではわからなかった子どもと関わる喜び、難しさなどを味わいました。その中で、私は子どものために何ができるのだろうかという思いをもちました。まだ、私にとってその答えは見えてこなくて、毎回の子どもとのかかわりにおいて反省する点も多いのですが、自分なりの答えを追い求めながらこれからも活動を実践していきたいです。また、子どものために本気になれる仲間ができたことが大きな財産だと思います。そういった仲間たちで、切磋琢磨しながら活動ができるという喜びを感じるとともに、自身の成長にもつながっているように感じます。こういった仲間たちに感謝しながら、これからも共に歩んでいきたいです。また、以前は絶対教師になりたいという思いは持っていませんでした。しかし、子どもたちとの活動を実践していく中で、教師という職業の魅力を感じ、絶対教師になりたいという思いをもつことができました。

18.23 学んだことは「人とのつながり」の大切さ ―――― 3 年 鈴木喜多朗

私が YOU 遊世間の活動を通して学んだことは、「人とのつながり」の大切さです。活動に参加しているとたくさんの人とのつながりが生まれてきます。子どもたち同士のつながり、私たち学生と子どもとのつながり、保護者の方、地域の方と私たちのつながり、と様々なつながりが生まれてきました。このつながりこそが、子どもたちを、私たち学生を人間として成長させてくれる基のようなものになっていると感じます。つながることで楽しさが生まれ、その楽しさから自己表現力やコミュニケーション能力、社会力を形成、向上させていくことにつながると感じました。私が活動を通して関わった子どもの中に、周りの子どもたちとなかなかうまく関われずにいる子どもがいました。しかし、活動を通してたくさんの子どもたちと、学生と関わることで自分から積極的に相手に話しかけられるようになっていきました。私は、このように、たくさんのつながりの中で、変化が生まれ、より人間として成長していけるのだと感じました。このようなつながりを作っていけるように、自分にはどんなことができるか考えていきたいと強く感じました。

18.24 「子どもとうまくかかわれたとき」の喜び ―――― 3 年 高橋涼介

子どもたちと接する信大 YOU 遊世間の活動や実習を通して、自分なりに子どもたちとのいいコミュニケーションの取り方を見つけ、たくさんの子どもたちと仲良くなろうと努力した。子どもたちの性格は地域性によってもまた集団となることでも大きく変わるし、もちろんその中でも、一人ひとり持っている個性が全然違う。その違いに苦労することもあったが、自分の願いが子どもに伝わったときや、子どもの新しい一面を見ることができたときの喜びはとても大きいものであった。そして、そのことに喜びを感じたことに自分自身とても驚いた。これらの活動を通して、子どもとうまくかかわることができたとき、それが自分の喜びになるということを学んだ。

18.25 「臨床経験科目」と「YOU 遊世間」は非常に効果的 ―――― 3 年 松田祐輝

私の考える臨床科目は全て、「教員」としての立場で子どもたちと接することが求められていると考えます。学校という空間の中で、教員としての自覚や経験、教員としての仕事の把握が主とされているのに対して、YOU 遊世間での活動はそれでは足りない子どもと純粋に触れ合うという経験と、地域の方々と関わり合いながら活動をしていくという社会力の向上が主と

されていると私は考えます。私自身、YOU遊世間の活動を通して、様々な機関や地域の方々と関わる機会を持つことができ、社会の中で生きる難しさや、地域の方々の暖かさを知ることができました。私はこの二つの活動が相互に足りない部分を補っていて、学校と地域両方で子どもたちと関わることができる非常に効果的なカリキュラムに自然となっていると、基礎教育実習とYOU遊世間の二つの活動を通して感じました。このYOU遊世間が今後も存続していくことを、切に願っております。

―18期（平成23年度）：2年生16名の学び―

18.26　子どもの可能性が広がる場　―――　2年　藤本千穂

YOU遊世間だからこそ見られる子どもの姿があります。学校外の社会で活動することによって、学生・地域の大人・初めて出会う人などと関わることで子どもは新しい自分を発見しているように感じます。普段自分がいる環境とは異なる場所で、自分の立場を改めて考えます。普段とのギャップに戸惑ったとき、普段の自分を出せないとき、悩みます。しかしそれは自然に自己を探求しているのです。学校・家庭の中での自分以外の自分を認識し、自分の概念を広げているのです。そして、その自分が存在し認めてもらえる場が、YOU遊世間で作られていると思います。新たな自分というのは、コミュニケーション能力の改善や他に対する気持ちの変動など、子どもそれぞれです。子どもたちが地域という社会の中で変化する場所を、YOU遊世間が形成できます。そして、その変化を見ることが、学生にとっての学びにもなっています。

18.27　すてきな経験　―――　2年　荒井麻耶

臨床経験科目とYOU遊世間をどちらも経験し、共通して言えることは、どちらも自分にとってとてもすてきな経験になっているということです。臨床経験科目では子どもたちの学校生活の日常をみることができ、普段の子どもの様子が分かりました。自分が“教える”という場面は少なかったですが、そこでは現場の先生方の授業や子どもとの関わりの工夫を学ぶことができました。そこから自分の関わり方に活かしていこうと思えることがたくさんありました。YOU遊世間は、自分たちが企画し進行していくため、活動の中で子どもたちを“まとめる”という力が必要になります。現場で実際に「先生」がいるところに入らせていただくときよりも、子どものことを“注意する”必要がある場面が多いと感じます。子どもと関わるということに変わりはないので、どちらも楽しくすてきな経験をさせていただいていますが、自分の中の意識が少し違うのかなと思います。臨床経験科目とYOU遊世間の活動が重なり合って、自分が成長していると思います。

18.28　全ての活動の繋がり　―――　2年　名取亮介

臨床経験科目から：一年次の臨床基礎（幼稚園）では、初めて「先生」として子どもたちとふれあう機会だった。経験も知識もなく、本当の先生ではないものの、子どもからしてみれば「先生」である。その為、今までは子どもとふれあう時は、「一緒に楽しく遊ぶだけ」という意識だったが、子どもの学びや成長、安全を積極的に考えるようになった。

YOU遊世間から：前述の経験から、子どもとのふれ合いに対する意識が変わっているので、「先生」という立場ではないにしろ、実際の教育場面に当てはめて、「この子は今何を学んでいるのか」「どう子どもたちをまとめていくのか」などと、考えながら活動するようになった。臨床経験科目で学んだことを、手軽に実践・実験できる場でもあった。

18.29　将来についてリアルに考えることができた　―――　2年　羽田　鋭

2年次は、1年次よりも格段に子どもと接する機会が増えました。まず初めに参加したのは

青木村の通学合宿で、1週間子どもたちと寝食をともにしました。そこでは教育者というより保護者の代理、面倒を見るお兄さんの立場で子どもたちと接しました。子どもと一緒になって思いっきり遊び、学校内とは違う子どもの姿を見ることができました。また、共同生活する上での問題に突き当たるなど、考えさせられる場面もありました。通学合宿では3回生4回生の先輩方の子どもとのかかわり方から学べたし、これからの大学生活についても教わることができました。次に参加したのは湯谷小こどもキャンプで、キャンプ長という役割を務め、1年生だけでキャンプの企画を考える経験をしました。どうしたら子どもたちが楽しんでくれるキャンプを作れるかみんなで考え、協力しながら作業をしました。計画していたことが、いざ本物の子どもたちを相手にすると全然思い通りに進まなくて、準備の大切さとその場での柔軟な対応の大切さを感じました。その後、夏休みに教育臨床演習があり、学校現場で先生の仕事内容や子どもとのかかわり方、学級運営の実際を間近にみることができました。自分の将来についてリアルに考えることができたと思います。また、教科教育、特別活動を見て自分が受けてきた教育との違いも感じました。私は信大YOU遊世間の活動でさまざまな経験を経たうえで、教育臨床演習に行けたことがとても自分の学びにとって良かったと感じています。教育臨床演習に明確な目標をもって挑むことができたし、以前の自分よりも納得のいくかかわりを子どもとできたと思います。

18.30　教師になっても忘れてはいけない部分　――――――　2年　加々美理沙

教育臨床演習では、学校現場における子どもの学びや成長の姿を見学することができました。以前は学校というものを教師・子どもの立場が確立した場所だと考えていました。しかし、実習では教師と子どもの心と心がつながり合い、互いに刺激をしあう場所なのだと感じました。信大YOU遊世間では、臨床演習の時よりはるかに子どもとの距離が近く、学校生活では薄れがちな“個を見る”ということができました。その中で、子どもの本音に触れられたり、子どもとの距離感について自分なりに考えることができました。活動の中で子どもの能力・発想に単純に驚かされ、大人が介入しなくても子どもの自主性によって成長する貴重な場面を見ることができ、自分が教師になっても忘れてはいけない部分に気付きました。

18.31　子どもと関わることの重要さを学ぶ　――――――　2年　後藤莉奈

YOU遊世間では子どもの名前を呼び捨てで呼ぶし、子どもも学生のことを呼び捨てかあだ名で呼ぶ。友達のように関わったり、時には親のように関わったり、子どもと真剣に向き合っている。私はYOU遊世間で子どもたちと一緒に笑ったり、遊んだりちょっと注意したりといろんなことを経験できたおかげで、教育臨床演習のときあまり不安もなく子どもと関わることができた。先生という立場で関わることに多少の不安を感じたが、私たちは先生である前に人間である。だからこそ、子どもと素で関わる経験は大事だと思った。どんなときも手を抜かずに子どもと関わることの重要さを、学ぶことができた。

18.32　自分に足りなかったものに気づけた　――――――　2年　山崎花奈子

私は一年次、附属松本小学校で教育臨床基礎実習を行った。活動の内容は主に授業の参観であり、その中で応用実習生の授業を参観し、自分も2年後にはこの立場にいるのだという緊張と不安、また自覚を持った。一年次の活動を通しての私にとっての教師のイメージは、授業者であった。授業をする上で必要な技術や指導案を書く力をつけることが、今の自分が勉強しなければならないことだと感じていた。しかし、二年次の教育臨床演習において、市内の小学校に5日間連続して通ったことで、そのイメージは大きく変わった。教師は授業をするだけではなく子どもたちの様子にも気を配るなど、生活面での役割の大きさを知った。教育臨床演習を終えた3週間後、私は大岡のわらわら通学合宿に参加し、小学3年生から中学1年生の12名

の子どもたちと共に一週間生活した。そこで子どもたちが学校以外でどのように生活しているのかを間近で見て、臨床演習から得た自分に足りなかった生活面への配慮という点について、より深く考え実践することができた。一週間、密に子どもと接することで、子どもが求めている事や、何を考えて生活しているのか、考えられるようになったと思う。このように考えると、私は臨床経験科目において自分に足りないと感じた部分について、YOU遊世間の活動を通してしっかりと向き合い、実際に子どもと接する中で学ぶことができたと思う。

18.33　怒ったり褒めたりするときの適度は？　　2年　**成瀬貴心**

長野キャンパスに移ってからYOU遊に参加させてもらうようになり、臨床実習との教育という面での難しさを感じています。臨床では、学校の中で児童と接するため、自分たちは教師、子どもは児童という立場がはっきりしているため指導がしやすいのですが、YOU遊では大学生と子どもなので、怒ったり褒めたりするときにどれくらいが適度なのか分かりません。子どもに楽しんでもらうのが第一だと思うので、怒ってしまうと子どもたちは楽しめなくなってしまうとか、学校とは違った指導法を求められるので、YOU遊では子どもと接するときすごく精神を使います。親や先生の元を離れリミッターが外れ、好き勝手できるようになった子どもたちの適切な指導の仕方が半年経ってもいまだに見つけられていないのが現状です。

18.34　実際に見る子どもの姿　　2年　**岩瀬由依**

これまでの「臨床経験科目」や「信大YOU遊世間」の活動を通して私が最も感じたこと、それは座学の限界である。大学の椅子に座って講義を受け、ただ知識を得るだけで本当に教師になれるのだろうか。実際に学校に通い、様々な環境の中で生活し成長する子どもたちの様子を知らずに現場に出ることは恐ろしいことである。今年の9月中旬に教育臨床演習の一環として公立の小学校に1週間配属され、その実態を間近に観察することができた。そこで最も印象的であったのは、驚くべきスピードで日々成長している子どもたちの姿である。彼らの言葉の中にはこちらがハッとさせられるものがたくさんあった。子どもは子どもたちの中で様々なことを学ぶ。そして子ども同士の会話というのは、現場にいかなければ聴くことはできない。座学では知り得ないのである。教師となり現場に出るまでに必要なことは、自らの目で子どもの現状や実態を見て学び、感じ考えることではないだろうか。そう感じるようになったのも、「臨床経験科目」や「信大YOU遊世間」の活動によるものである。

18.35　多様な機会を活かすということ　　2年　**三石早紀**

「信大YOU遊世間」には、昨年のYOU遊フェスティバルに参加したことをきっかけに参加・活動しています。教育学部の学生という立場で子どもたちを観察する機会はとても尊く、また得られるものは必ず将来に役立つと考えたからです。1年次から学部の必修で臨床経験科目にも参加していますが、学校の「内」と「外」で見せる子どもたちの表情は全然違います。しかし、どちらのほうがより楽しそうというものでもなく、子どもたちはみんな、「学校の内にある楽しさ」「学校の外にある楽しさ」を見つけ、感じているように思います。私たち学生・あるいは教師は、そんな子どもたちの楽しさや発見をアシストしていくことが仕事だと感じますし、またそれが教職の魅力だとも思います。学部生のうちから、このようにさまざまな子どもたちとかかわりを持てる信州大学のシステムを、これからも自分に活かしていきたいです。

18.36　子どもと活動して学んだこと　　2年　**手塚亮介**

「臨床経験科目」と「信大YOU遊世間」の活動を通してさまざまな場面で、さまざまな子どもと関わることができました。その中で、私が成長したことは、子どもとの関わりについて自分なりに考えられるようになったことです。子どもと接する上での問題点や課題など、実際

の子どもとの活動でしかわからないことがたくさんあることを知りました。また、このような問題点について自分で考える機会が増え、また、先輩方の対応や子どもとの接し方から学ぶことができました。そして、そのような活動の中で、子どもと関わる楽しさをあらためて実感し、教師という仕事のやりがいを確認できました。

18.37　教師から学んだことと子どもから学んだこと　　2 年　斎藤　恵

臨床経験科目では、今年の 1 週間の公立学校への実習で、先生が発問をクラスによって工夫していることや、個人指導では具体的にどこをどうしたらいいのか言ってあげると、生徒も理解しやすいということなど、見ていて学ばさせられることが多くありました。指導教員の方が、実習中に生徒の前で話をする時間を私にも下さったので、SHR などで教師が何を話すべきなのか、などについても考えさせられました。また、信大 YOU 遊世間の活動でも、子どもたちにどんな風に接するといいのか、子どもたちはどんなことが好きか、喜んでくれるのかという子どもたちと直に触れ合うことでしか学べないことをたくさん学ぶことができました。

18.38　考え方や見る視野が広がった　　2 年　田口詩織

それぞれ 2 つから学んだことがある。1 つ目は「臨床経験科目」から学んだことについてです。2 年のとき教育臨床演習に行き、普段大学のキャンパス内では決して学べないようなことを、自分の目で見て体験して、たくさんのことを得たと思う。例えば、今まで思い描いていた学校の様子と実際の学校現場の実情の違いである。一番驚いたのは、子どもの学習に対する態度である。机の中にしっかりと足が入っている子どもが、自分が小学生の時と比べて少ないと思った。教科自体の学力を問う前に、教えるべきものがあるのではないかと思った。次は「信大 YOU 遊世間」から学んだことについてです。YOU 遊世間の活動は、自分で目的意識を持って臨むので、精神面の成長が見られると思う。そして、毎回の活動後にリフレクションなど仲間内で振り返ることで、自分とはまた違った視点から新たの問題点も見つけられるので、自分自身の考え方や周りを見る視野が広がったと思う。

18.39　信大 YOU 遊世間を通して学んだこと　　2 年　杣木亮太

自分は主に「加茂小こどもキャンプ」に参加していた。初めは、ただ子どもとワイワイしたいなというような軽い気持ちで参加したが、このことが自分にとって大きな経験となった。自分が思っているように子どもと打ち解けることができず、うまく接することができなかった。しかし、何回も子どもと行動していく中で、「この子はこういう風に接すればいいのか、あの子はこうすればいいんだな」というふうに接し方を理解することができた。このことは 2 年生の教育臨床演習にも役に立った。それに加えて、キャンプを運営する中でも、子どもと接する以外の裏方をしたりすることを通して、学生間の友情を築くことができた。これからも色々な YOU 遊世間に参加していきたいと思う。

18.40　学校の外で学ぶこと　　2 年　宮田巴都樹

私は、今年度から YOU 遊世間の活動に参加しました。活動に参加した時はいつも、先輩方の子どもを見つめる姿勢や子どもとの関わり方に学ぶことがたくさんありました。他専攻の友達と一緒に活動するため、たくさんのつながりができました。また、信州大学の学生を受け入れて、活動を応援してくださる地域の方々との交流があります。この活動に参加しなければ得られないことがたくさんありました。特に大岡での活動では、学校にいるだけでは一緒に過ごすことのできない時間を共に過ごし、子ども達がお手伝いや宿題をして過ごすという、学校の中では見られない姿を見ることができて、本当に自分の中にずっと残っていくことを経験できました。また、土井先生や地域の方々のお話をお聞きできたことも、これからの学生生活、そしてその先の人生にいきる経験でした。来年度もたくさんの活動に参加して行きたいと思います。

18.41　子どもたちとの触れ合いの中で ―――――――――――――――― 2年　井上甲斐

私は、臨床経験科目と信大YOU遊世間での活動を通して、本当に多くの子どもたちと深い関わりを持つことができました。臨床経験科目では主に小学校へ行き、一人の教師として子どもたちから見られてきました。接し方についても教師らしさを考え、気をつけた場面が多かった気がします。そのような気配りも良い経験となりました。信大YOU遊世間の活動では教師と言うよりは活動の指導をする高学年の学生のような立場で、子どもたちと接しました。そのため、割りとすぐに子どもたちとも気軽に友好的な関係を作れました。あまりに関係が深まり過ぎて、むしろ大変だったこともありましたが、最終的には活動をして良かったと思え、達成感を持てました。こういった子どもと関わる活動を行ってきて思ったことは、子どもたちはみな兎に角個性的で、対策することはほぼ間違いなく無理ということです。でもそれがまた楽しく、例え関係が上手くいかなかったとしても、また活動後の研究をしていく中で改善していくことも可能ですから、次回への大きな期待に繋がり、非常に有意義だった気がしました。

―18期（平成23年度）：1年生 6 名の学び―

18.42　信大YOU遊フェスティバルに参加して ―――――――――――― 1年　西川知里

私は、今回初めてYOUフェスに参加させていただきました。なんか楽しそうだなという軽い気持ちで行ったのですが、先輩方が努力を重ねて作り上げたものを見て本当に感動しました。子どもたちのことを考えて作られているのが良く分かりました。教育臨床基礎では附属中に行っているため、中学生としか関わる機会がないので、今回YOUフェスで小学生や幼稚園生と交流できてとても新鮮でした。臨床基礎では、生徒たちとの関わり方について学ぶことが多かったのですが、YOUフェスでは子どもたちとの接し方について学べるのはもちろんのこと、協力して一つのものを作り上げる大切さを学ぶことができました。貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝したいです。ありがとうございました。

18.43　本気で教師を目指すための最高の環境、信州大学教育学部 ――― 1年　永原正裕

元々、そこまで子ども好きというわけではなかった。そんな私が入学してすぐ、茂菅農場での活動に参加した。子どもと接することの楽しさ、難しさを体感した。それが、私の教育学部での学びの出発点であった。今、実習先の子どもが可愛くてしょうがない。夏から、地域教育演習で、近所の小学校でお世話になっている。教育現場の現実を直視して、体感している。普段、教育書を読み、専門科目を受講する中で、常にそこの教室を思い浮かべている。そのクラスが、私の学校教育に対する学びの、原点だと思っている。臨床経験重視のカリキュラムに憧れて信大に来たこともあり、YOU遊や実習にはできる限り参加するようにしている。事前の課題設定、失敗を繰り返しながらの課題の克服や新たな課題の発見、事後の入念なリフレクション。一年生で行ったこれらの活動が、専門の勉強が本格化する二年生以後、活きてくると信じている。信大に来て良かった。臨床経験を積む度、そう思う。

18.44　また来年も参加したいと思える、刺激的な活動でした ――――― 1年　鈴木　睦

今回YOU遊フェスティバルに参加させていただいて、多くのことを学ぶことができ、とても良い刺激になりました。特に先輩方から学ぶことは多く、私が「教育臨床基礎」の活動で身につけたかった、子どもたちとの関わり方や叱り方なども学ぶことができました。一つの講座を安全に怪我なく行うために、たくさんの先輩方が膨大な時間をかけて綿密に準備をしてきたことを知り、本当にすごいと思いました。また、他大学の学生さんとお話しをすることができ、どんな活動をしているのかなどの情報交換ができて、これも良い刺激になりました。学生が主体となって行うこの活動は、「教育臨床基礎」の活動とは違い、1年である私にも積極性

がもとめられるものだったので、この場面ではどうすればよいのかなど、子どもたちとのふれあい方を自分で考えて行動に移す良い経験になりました。

18.45　子どもたちと関わる経験から学んだこと　　1年　北村隼一

私は、臨床経験科目やYOU遊世間などで小学生以下から中学生まで幅広い年齢の子どもたちと関わってきました。子どもたちと一緒に活動したり、授業を見学したりする中でたくさんのことを学ぶことができました。子どもたちとどのように関わっていけばよいか、子どもに何かを教えるとはどのようなことかを深く考えることもできたのもたくさんの活動に参加してきたからだと思います。YOU遊世間の活動は学校外での子どもの姿を見ることができます。そのような子どもの姿から臨床基礎では学ぶことができないことも学ぶことができたと思います。例えば、年上の子が年下の子と一緒に助け合う姿から年齢を超えたつながりの大切さなどです。1年生から子どもと関わる機会がたくさんありとても勉強になっています。2年生以降もたくさんの活動に参加し、多くのことを学び、理想の教師像に近づいていきたいです。

18.46　勉強になり、参加してよかったと心から思う　　1年　渡邉寿美華

臨床経験科目の教育臨床基礎では、附属中学校へ行き、先生として子どもたちとどう関わるかを見て学んだ。しかし、自分が直接子どもたちと関わる機会はそう多くはなく、しかも活動ごとに時間が空いてしまうので、関わりも表面的なもので終わってしまうことが多かった。信大YOU遊世間では、初めて小学生の子どもたちと関わった。今までは中学生が対象だったので、戸惑うことが多かったが、先輩たちの言動がとても勉強になった。実際の活動では、私が思っていた以上に、子どもたちのことをよく見て、行動していかなければならず、やってみると難しかった。結局、見て学ばなければ、教師というものがどういうことをすればいいのかわからないし、実際にやってみなければ、身につかない。そして実践してみて、子どもたちの笑顔が見られることほどうれしいものはないと思った。信大YOU遊世間では、子どもたちと一緒に学ぶ楽しさを教わったと思う。

18.47　この経験を、必ず、活かしていきたい　　1年　髙木淳子

教育学部生として入学したものの、1年のうちは自分から求めなければ子どもと関わる機会が得られないため、目的を見失いがちになってしまっていました。ですが、今回このYOU遊フェスティバルに参加して、学校とは違った子どもたちの姿に触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。私は「不思議つくり隊」の講座に参加しました。この講座は1年生から6年生まで幅広い学年層の子どもたちが約30人参加するということ、またハサミを扱うため怪我がないようにすることなど、注意すべき点が多々ありました。その中で、先輩方が様々なアイディアをだし、より良い講座にしようと工夫されている姿に触れられたことや準備に携われたことは、自分にとって貴重な経験となりました。当日は子どもたちのたくさんの笑顔に囲まれて私自身も元気をもらえ、とても楽しく活動することができました。今回この企画に参加することができ本当に良かったと心から思っています。この経験を臨床に行った時などに必ず活かしていきたいです。

資　料

1．「報告書」の〈もくじ〉にみる「信大 YOU 遊」の歩み
2．「信大 YOU 遊」18 年の主な運営担当者一覧
3．「信大 YOU 遊」に関連する主な「報告書」「著書」「論文」一覧
4．教員養成の視点でみる「信大 YOU 遊」18 年の歩み

1．「報告書〈第 1 集～第 18 集〉」の〈もくじ〉にみる「信大 YOU 遊」の歩み

〈第 1 集〉平成 6 年度（1994）　第 1 期「信大 YOU 遊サタデー」の実践

1．宇宙生物"スライム"をつくろう！
2．たのしいえいごクラブ
3．小麦粉ねんど・わりばし鉄砲
4．やさしい木工教室
5．お弁当箱の袋づくり
6．ビデオカメラに挑戦
7．けん玉で遊ぼう
8．自分のハンコを作ろうか
9・10．おやつパラダイス①・②
11．消しゴムをつくろう
12．自分の音楽をつくろう
13．自転車大分解
14．ポストカード作り
15．教育学部ってどんなところ
16．クリスマスカード作り
17．はりがね工房
18．壁画教室
19．みんなで書道をやろうか
20．パソコンで遊ぼう
21．ソフトボール天国
22．楽しく上手に写真を撮ろう

〈第 2 集〉平成 7 年度（1995）　第 2 期「信大 YOU 遊サタデー」の実践

＜もの作り講座＞
1．宇宙生物"スライム"をつくろう
2．オリジナルキーホルダーをつくろう
3．小麦粉ねんど
4．竹とんぼづくり
5．しめなわをつくろう
6．やさしい木工教室（本立てづくり）
7．紙ってすごい（ブローチ作り）
8．ペーパーグライダーをとばそう
9．フェルトで作ろうアニマルマスコット
10．紙ひもでかごをつくろう
11．アルミのネームプレートを作ろう
12．草木染のハンカチづくり
13．自然と遊ぼう　笹舟づくり
14．お手玉を作って遊ぼう
15．はりがね工房
16．オリジナルキャンドルづくり

＜交流体験講座＞
17．教育学部ってどんなところ
18．おしゃべり教育学
19．外国人と世界の遊びで楽しもう
20．たのしい英語クラブ
21・22．お父さん講座①・②
23．インターネット入門
24．「学校週五日制」フォーラム
25．社会科を 10 倍楽しくする方法
26．刃物の研ぎ方教室

＜表現講座＞
27．ギターをやろうジャーン
28．演劇しましょグリム童話ー
29．みんなで楽しい紙しばいを作ろうぜ
30．かこう・書こう・描こう
31．新スターへの道
32．秋のどんぐりアート
33．リズムで楽しく遊ぼう
34．イラスト講座
35．額縁作品をつくろう

＜料理講座＞
36．アイスクリームを作ろう
37．おやつパラダイス（クッキー）
38．おやつパラダイス（スイートポテト）
39．そば作り名人になろう

＜実験講座＞
40．不思議な化学実験をやってみよう
41．金属の組織を見てみよう
42．マウンテンバイクを整備しよう

＜運動講座＞
43．磁石で探検しよう（宝探し）
44．大なわとび　45．トランポリン
46．アニマルダンス
47．親子でバドミントン

〈第 3 集〉平成 8 年度（1996）　第 3 期「信大 YOU 遊サタデー」の実践

(1) 第 8 回信大 YOU 遊サタデー
1．プロへの一歩!?イラスト・漫画体験
2．不思議なしおり作り
3．何でも研げちゃう！刃物研ぎ
4．おやつパラダイス
　～○○でクッキーを作っちゃおう～
5．カンカンアイスクリームをつくろう
6．宇宙生物スラスラスライム
7．学校では教えてくれないマル秘化学実験
8．かわいいビーズ玉コレクション
9．いじめフォーラム'96
10．お父さんもキャプテンだ！
11．ガリガリ竹とんぼ
12．小麦粉粘土
13．続・教育学部ってどんなところ

(2) 第 9 回信大 YOU 遊サタデー
1．プロへの一歩!?イラスト・漫画体験
　パワーアップバージョン
2．ネイチャーゲーム
3．うちわで書
4．でっかいでっかいシャボン玉をつくろう
5．お父さんお母さん源氏物語を読みましょう
6．算数・数学の家庭教育
7．英語でクッキング
8．絵本をつくろう
9．家庭教育フォーラム"お父さん、出番ですよ"
10．おしゃべり教育学
11．とびだすビックリカードをつくろう！
12．おはじき・あやとり・おにごっこ
13．宇宙生物スラスラスライム
14．万華鏡をつくろう

(3) 第 10 回信大 YOU 遊サタデー
1．たのしく作ろう籐かご作り
2．プロへの一歩!?イラスト・漫画体験
　パワーアップバージョン II
3．小麦粉粘土サラサラドロドロカチカチ
4．でっかいでっかいシャボン玉をつくろう
5．学校では教えてくれないマル秘化学実験
6．君も紙づくり名人（牛乳パックから
　はがきを作ろう）
7．親子でサッカー
8．とびだす紙しばい
9．ドラム・パーカッション入門
10．宇宙生物スラスラスライム
11．ペーパーグライダーをとばそう
12．地図で旅行しよう
13．ペットボトルロケット
14．おどってあそぼ！1・2 ダンス

〈第 4 集〉平成 9 年度（1997） 第 4 期「信大 YOU 遊サタデー」の実践

◎講座紹介・HOW TO サタデー・講座記録
○物作り講座　キャプテン
・ブーメランを作ろう！
・ブーメランを飛ばそう
・楽しく作ろう籐かご作り
・宇宙生物スラスラスライム
・スラスラスライム
・宇宙からやって来た Sura Sura スライムくん
・ペーパーグライダーをとばそう
・自分で紙を作ってみよう
・いい紙つくろう！
　世界でたった 1 枚の紙を
・ステンシルって何？
　～君もやってみよう～
・やさしい木工教室
・からカラアート
・タオルマジック
　～タオルを使って動物をつくろう～
・フィルムロケット
　～えっ!! フィルムケースがとぶの？～
・作ってうれしいカレンダー
・天まであがれぼくのたこ
・うちわで書
・あけてビックリ！飛び出す絵本作り
・永久ゴマをつくろう
・折り紙ランド
○体験講座
・サラサラドロドロカッチカチ(小麦粉粘土)
・でっかいでっかいシャボン玉をつくろう
・ネイチャーゲーム II
・宝さがし（ネイチャーゲーム）
・山あそび　・こま　・コマ
・独楽であそぼ！　・こまであそぼ！
・気分はめいたんてい
・銅が金になる!? 錬金術の秘密
・つくってみよう銀の鏡
○食べ物講座
・どーんとうどんを作ってみよう
・モコモコデンキパン
・カンカンアイスクリーム
・一本日わたあめ屋さん一
○運動講座
・いい汗かこう!! 春の大運動会
・ドキドキの世界　・みんなでジャンプ
・これで私もパパパパ PUFFY でいい感じ！
○その他
・いじめフォーラム'97
・いじめ　・不登校フォーラム'97 秋
・ゾクゾク教育学部ってどんなところ
・世界の言葉と世界の遊びを楽しもう
◎出張 YOU 遊サタデー講座記録
○更埴出張 YOU 遊サタデー
・チャレン児プラザ 21 について
・宇宙生物スラスラスライム
・飛び出す絵本
○高遠出張 YOU 遊サタデー
・信州高遠フェスティバルについて
・宇宙生物ぷるるんスライムを作ろう
・ペーパーグライダーをとばそう
・からカラアート
・冒険ハイク～自然の中を探険しよう～
・ネイチャーアート
○小諸出張 YOU 遊サタデー
・乙女の森フェスタについて
・でっかいでっかいシャボン玉をつくろう
・フィルムロケットを飛ばそう
　～えっ!! フィルムケースが飛ぶの ?! ～
・宇宙生物スラスラスライム

〈第 5 集〉平成 10 年度（1998） 第 5 期「信大 YOU 遊サタデー」の実践

環　　境：　カンカンアイスクリーム
　ティッシュの箱がきれいな箱に
　リサイクルクリスマスリース
　バターってふしぎ
　雑草からの紙づくり
健　　康：　ぐるぐるサッカー
　フリスビろう！　Jump Beat Rope！
伝承・文化：　シャボン玉　竹とんぼ
　こまであそぼ！　・こま名人への道
　自分でできたよ　刃物とぎ
　竹とんぼ・親子で竹細工
交流（国際理解）：　心の休憩室
　先生・お父さん・お母さんもリフレッシュ
　気分はめいたんてい
　世界の歌を堪能しよう
　こんにゃくって不思議 ?!
　楽しいティータイム
　大豆の旅～とうふができたよ～
科　　学：　カンカンアイスクリーム
　フィルムロケット（バブーシャトル）
　ぷよぷよ　本日わたあめやさん
　新発売!! ミラクルボール七変化
　とべ！とべ！ペーパーグライダー!!
　ペットボトルロケットを飛ばそう
表　　現：　クリスマスをかざろう
　みんなで紙工芸に TRY
　　～和紙を染めて小物をつくろう～
　色砂を使って自分だけのカレンダーを作ろう
　スライムポンッ！　　ちぎり絵
　空缶を使ってキーホルダーを作ろう
　くるくるくねくねバスケット
　みんなでボディーペインティング
　毛糸でかんたんコースター作り

〈第 6 集〉平成 11 年度（1999） 第 6 期「信大 YOU 遊サタデー」の実践

物づくり講座：　切り絵をつくろう！
　のぞけば不思議!!　～万華鏡づくり～
　ペットボトルの車で遊ぼう
　昔の楽器「うなり木」
　電流イライラ輪を作ろう
　パラシュート部隊出動！
　ペットボトルのレコードに自分の声をいれよう
　君だけのミラクルスープを作ろう！
　めざせ工作名人！～親子で下駄作り～
　みんなで作ろう！ダンボール家具
　色砂で 2000 年ミレニアムカレンダーを作ろう
交流体験講座：カンカンアイスクリーム
　みんなで作ろう探偵物語
　ほら見てできたよ！自分だけのおべんとう
　キミもコスモポリタン～世界の人と遊び・歌・おどりをたんのうしよう～
　春にきれいな花を咲かせよう～ 1 からのチューリップ農園づくり～
　ころころもちもち
科学講座：　本日わたあめやさん
　帰ってきたスライム
　家族でトライ
　　～薫製屋さんになっちゃおう～
　はじめてのインターネット
　　～ホームページで自己紹介～
　パソコン大分解!!
伝承文化講座：できるかな～ハト笛～
　趣味 YOU 悠
　　～一杯の紅茶から広がる世界～
　紅茶時間（ティータイム）のイモスマスケーキを作ろう
　おかしな和菓子な、クリスマス
運動講座：　フリスビろう!?　ゴルフ
　親子でスマッシュバドミントン！
リサイクル講座：　野菜で紙をつくろう
　2000 年のお正月
　　～いぐさでリースづくり～
表現講座：　牛乳パック、大変身？？？
　君もマジシャン
　　～めざせマジックマスター～
出張 YOU 遊サタデー：
　伊那チャレン児プラザ 21／こどもフェスタ in OKAYA／高遠フェスティバル

〈第 7 集〉平成 12 年度（2000） 第 7 期「信大 YOU 遊サタデー」の実践

物づくり講座： ケナフで紙を作ろう
世界で 1 個の手づくりキャンドル
親子でチャレンジ！溶かしてつくるオリジナル超合金キーホルダー
みんなでとばそう！おもしろ飛行機大集合！ 色砂カレンダー
めざせチャンピオン!!
簡単“チョコマカ”ロボットコンテスト
交流体験講座：まほうのアイスクリーム
かさランラン
～どうぶつがさをつくろう～
SOBA～ソバ～
ランチョンマットを染めよう
おもしろ！学校探検隊
科学講座：大人気！ぷよぷるスライム
スーパー弾ける!! ミラクルボール
伝承文化講座： 君だけの田んぼ作り
シャボン玉で遊ぼう
ただいま紅茶の時間です
竹とんぼ 竹で遊ぼう！
秋の味覚～干柿をつくろう～
みんなでつくろう！わらのおうち
音を楽しむシリーズ
①ピャンベを作ろう
②ディジュリドゥーを作ろう
運動講座： フリスビろう！
見つけよう！出かけよう！
～みんなでミニ遠足～
表現講座： ハロウィン大行進！
特別講座： 牟礼 YOU 遊サタデー
家庭教育と総合的な学習の時間

〈第 8 集〉平成 13 年度（2001） 第 1 期「信大 YOU 遊広場（プラザ）」の実践

0 プラザから 6 プラザの実践記録
0 プラザ 「鉄腕アトム」
1 プラザ 「信大牟礼ふるさと農場」
2 プラザ 「信大茂菅ふるさと農場」
3 プラザ 「キャンパス教育の森」
4 プラザ 「キャンパスプレーパーク」
5 プラザ 「里山ふれあいキャンプ」
6 プラザ 「お出かけ YOU 遊プラザ」
第 1 回YOU遊フェスティバルの実践記録
YOU 遊フェスティバル本部
ハッピークリスマスツリー
―子どもの発想を広げるクリスマスツリー作り―
つくってとばそう!! ふんわりフリスビー ―紙パックのリサイクル―
ガムでけしゴムを作ろう!!
―世界で一つのけしゴム―
ほんとに聞こえる？ 簡単“手づくりラジオ”
ピョンピョンとぼう！なわとび kids
―なわとびを通しての仲間作り―
プレパリッ!? ウインナー！
―実践してみてわかったこと―
オリジナルポストカードを作ろう
―コンピュータを使ったポストカード作り―

〈第 9 集〉平成 14 年度（2002） 第 2 期「信大 YOU 遊広場（プラザ）」の実践

0 プラザから 7 プラザの実践記録
0 プラザ 「興譲館」
1 プラザ 「信大牟礼ふるさと農場」
2 プラザ 「信大茂菅ふるさと農場」
3 プラザ 「鉄腕アトム」
4 プラザ 「キャンパスプレーパーク」
5 プラザ 「ふれあい」
6 プラザ 「お出かけ」
7 プラザ 「イベント」
第 2 回YOU遊フェスティバルの実践記録
YOU 遊フェスティバル本部 ―ぬく？ぽか気分でワッショイショイ―
みんなで運動会
―「思いやる」こと・「思いを伝える」こと―
羊毛生まれ！フェルト玉星人パクパくん
―カラフル羊毛でフェルト作り―
Let's DanceSing!
―BOY も GIRL もみんなモー娘。―
さんすう村のコンサート ―学生の力でどこまで「数学」を教えられるか―
人との出会い すきすき紙すき
第一回わんぱく子どもドッチボール大会
気球よ飛べ！―悪戦苦闘の 17 日間―
プラスチック ?! に宝物をとじこめちゃおう！―子どもの想像力と創造力―
海の牧場
とろ～りとかしてペットボトルキーホルダー

〈第 10 集〉平成 15 年度（2003） 第 1 期「信大 YOU 遊世間（ワールド）」の実践

プラザの実践記録
0 プラザ 「信大 YOU 遊興譲館」
1 プラザ 「信大牟礼ふるさと農場」
2 プラザ 「信大茂菅ふるさと農場」
3 プラザ 「紅色アトム」
4 プラザ 「キャンパスプレーパーク」
「XY サタデースクール」
「わらの会」「湯谷小子どもランド」
「城山中間教室」「須坂町並みの会」
第 3 回YOU遊フェスティバルの実践記録
YOU 遊フェスティバル本部
あなたも私もムーブメント♪
☆スライムン☆
音で遊ぼう！作ろうメロディ
ビバ☆クリスマスパーティー
みんなで元気にサッカーだ！
ようこそ!! お菓子の城へ☆
わーい！ぺったん おもちつき♪
～茂菅でとれたお米だよ～
Let's ☆ きりたんぽ
マリック・マジック
～君は Mr. マリックを超えられるか～
飛んでけー！ぱんぴーナス！
合格祈願だ興譲館!! 最終頂上決戦 in 旭山

〈第 11 集〉平成 16 年度（2004） 第 2 期「信大 YOU 遊世間（ワールド）」の実践

Ⅰ. 信大茂菅ふるさと農場
Ⅱ. 林部農園支援隊
Ⅲ. XY サタデースクール
＜ながの校低学年＞
＜ながの校高学年＞
＜グリーン長野校＞
＜松本ハイランド校＞
Ⅳ. 湯谷小子どもランド
Ⅴ. にこにこ
Ⅵ. いるかクラブ
Ⅶ. 興譲館
＜長商定時制＞
＜城山中間教室＞
Ⅷ. ひだまりの会
Ⅸ. わらの会
Ⅹ. あおぞら空間支援隊
Ⅺ. 信州須坂町並みフェスタ・出前講座
Ⅻ. 山形小学校・出前講座
XIII. 岡谷市イルフプラザ・出前講座

〈第12集〉平成17年度（2005） 第3期「信大YOU遊世間（ワールド）」の実践

信大茂菅ふるさと農場　加茂児童館
XYサタデースクール　〈ながの校・グリーン長野校・松本ハイランド校〉
湯谷小子どもランド　長商定時制・興譲館
にこにこクラブ　ぺんぎんクラブ
ひだまりの会　わいわ～い♪元気クラブ
青木村えがおクラブ　麻績村dE遊ぼう
季刊早津倶楽部　虹の会中学生の部

第4回YOU遊フェスティバル（講座名）
ガキ大将養成講座
一日で　君もできるよ　さあやろう
手品工作　百人一首
昔にもどって作ろう遊ぼう
みんなでイライラ棒をつくろう!!
のび～る　ぺったん　おもちたん
みんなで踊ろうソーラン節

トレジャーハンター　～お宝GETだぜ～
ぼく・わたしは原始人!!
～火起こし体験～
ROAD TO WORLD CUP
クリスマスクッキー講座
竹田竹男の竹細工
やってみよう！　とんでみよう！
ダブルダッチ!!
作ってみよう☆君だけのアクセサリー

〈第13集〉平成18年度（2006） 第4期「信大YOU遊世間（ワールド）」の実践

信大茂菅ふるさと農場
XYサタデースクール
〈ながの校・グリーン長野校〉
湯谷小子どもランド　わらの会
麻績村dE遊ぼう　青木村えがおクラブ
にこにこクラブ　ペンギンクラブ
信州すざか農業小学校　虹の会

第5回YOU遊フェスティバル（講座名）
みんなで踊ろう！よさこいソーラン
みんなで作ろうペットボトルロケット
染めっ子体験団　蕎麦を傍に感じよう！
楽しくゲーム!!なのに勉強が大好きになる不思議な講座

ペーパーガンシューティング
夢のぱん工場
～自分だけのぱんを作ろう！～
やってみよう！フロアホッケー！
ドキワク大運動会　ピタゴラ装置を作ろう
トレジャーハンターエピソードⅡ
～迷宮の館～

〈第14集〉平成19年度（2007） 第5期「信大YOU遊世間（ワールド）」の実践

信大茂菅ふるさと農場
XYサタデースクール
湯谷小子どもランド　わらの会
青木村えがおクラブ　麻績村dE遊ぼう
信州すざか農業小学校　にこにこクラブ

第6回YOU遊フェスティバル（講座名）
宝を見つけるのは君だ
オリジナルボートを作ろう
レッツプレイハンドベル
ピタゴラそうちをつくっちゃおう
みんなで楽しくソーラン節をおどろう
ぼく・わたしはケーキやさん

かえってきた!!ペーパーガン・シューティング
野外クッキング♪♪　おやこでおやき
きょうは、ぼく・わたしがHEROなりきり隊
うどん名人になろう!!　第2弾ロケット
みんな集まれわんぱく運動会

〈第15集〉平成20年度（2008） 第6期「信大YOU遊世間（ワールド）」の実践

信大茂菅ふるさと農場　信大茂菅農業義塾
XYサタデースクール
湯谷小子どもランド　わらの会
青木村えがおクラブ　麻績村dE遊ぼう！
信州すざか農業小学校豊丘校
信州大岡わらわらクラブ

第7回YOU遊フェスティバル（講座名）
オカシde家づくり　巨大迷路に挑戦
劇的？Before After
～これが噂の改造計画～
うどん名人になろう　あそび屋わにわに
楽しい！かしこくなる！ゲーム
ビー玉コースター!!＋理科実験

つくろう　ぼくらのひみつきち
どっこい☆ソーラン
～楽しくおどろうソーラン節～
トレジャーハンター　不思議がいっぱい
わくわく漢字ワールド
みんなあつまれ！わんぱく大運動会
世界記録に挑戦！牛乳パック紙ヒコーキ

〈第16集〉平成21年度（2009） 第7期「信大YOU遊世間（ワールド）」の実践

信大茂菅ふるさと農場　信大茂菅農業義塾
あっぷるず　湯谷小子どもランド
青木村えがおクラブ　麻績村dE遊ぼう！
信州すざか農業小学校豊丘校
信州大岡ふるさとランド

第8回YOU遊フェスティバル（講座名）
クリスマスリースをつくろう
あがれ！ボクの気球、わたしの気球
トレジャーハンター
本日開店！ミニパンやさん？
あそび屋わにわに

HEROES～とらわれの姫を救え～
冬でもできる!!流し〇〇メン
はりがねカンパニー　日本縦断!!グル巡り
冬のドタバタ大運動会!!
いざ、ソーラン節～大漁目指して～
旭山に登って秋を描こう

〈第17集〉平成22年度（2010） 第8期「信大YOU遊世間（ワールド）」の実践

信大茂菅ふるさと農場　信大茂菅農業義塾
湯谷小子どもランド
青木村えがおクラブ　麻績村dE遊ぼう！
信州すざか農業小学校豊丘校
信州大岡ふるさとランド

第9回YOU遊フェスティバル（講座名）
みんなで楽しく!!ソーラン節
おばけやしきをつくろう！～みんなを怖がらせることはできるかな!?～
わたしたちのおやき屋さん
タイムトラベラー
～タイムマシン作っちゃいました～

ほくほく芋畑牧場
～バターって作れるんだ～
ぷっわぷわだよ　バルーンワールド
つくってわくわく！楽しい工作
巨大人生ゲーム!!
ドロリっチ！
夢のマイホーム☆
子育てを語ろう～学生の想い・親の想い～

〈第18集〉平成23年度（2011） 第9期「信大YOU遊世間（ワールド）」の実践

信大茂菅ふるさと農場
青木村えがおクラブ 大岡ふるさとランド
信州すざか農業小学校 アップルズ
あおきっこ通学合宿 麻績村CAMP
わらわら通学合宿 YOU-YOUキャンプ

第10回YOU遊フェスティバル講座名
姫をたすけて！お菓子の家の職人たちよ!!
ビッグライトレストラン！
みんなで踊ろう！ソーラン節！
やってみなくちゃわからない！（実験）
りんごジャムソムリエになろう！
おばけやしきを作って楽しもう！
アウトドアクッキング
みんなで灯そうステンドグラス！
○○中～ミッションをクリアせよ！～

キャンドルアート ちょっきんアート
不思議作り隊（万華鏡） 巨大お絵かき
無限のかなたへさあいくぞ!!
Trick Art（錯視作り・体験）
あつまれ！こどもひろば
世界のシアワセを探ろう
ソーマキューブを作ろう
フロアホッケーを体験しよう
大切にしよう自分・人（保護者との討論会）

2.「信大YOU遊」18年の主な運営担当者一覧

＊「信大YOU遊サタデー・広場・世間」（全18期）に参加し、「正副実行委員長、運営委員長」、「正副キャプテン」、「正副プラザ長」、「正副講座長」等を務めた学生の一覧です。
＊本誌発行に当たり原稿執筆の依頼をした。その際、異動等が判明した方の旧姓には＿＿を付した。

第1集 サタデー ［1期］ 平成6年度	山口 直行 林 向達 横川 瑞恵 渡辺 一博	澤田 良子 大谷 美穂 原 伸生 芦田 恵	高橋 貴子 福士 慈 森村田中忍 奥原 克水	片桐 宏 筒井 和之 喜多 篤史 佐藤 恵理	井上 清美 吉田 亘志 佐々木美紀子 花岡 正次	小倉 敬 中村 典子 宮澤 弘至 宮尾 由美	竹川 紀幸 松橋 博行 山崎 重幸	林 哲也 坂本 真哉 岡野 啓
第2集 ［2期］ 平成7年度	渡辺 一博 大谷 美穂 高橋 貴子 奥原 克水 内山加納文香 野本 聡 丸山 和利	安喰 和之 新井 清規 泉 貴子 市村 忠寛 今井 健文 岩村 彩 荻原まゆ美	笠原 あや 加藤 恭子 鈴木小林理英 斉藤かおる 嶋田 裕子 角田 正和 田中 清一	千葉 綾子 野本 毅 長谷川直紀 林 康成 堀内 文恵 美斉津礼奈 宮沢 元	柳沢 久美 吉澤 正彦 橋詰 並子 丹羽 則之 河南さおり 北村 史 池田 安美	佐野 徳子 山名 博夫 小林 直樹 塩苅 有紀 小谷 将紀 坂井 雅子 雨宮なるみ	佐藤 啓 中村 薫 下沢 栄子 井上 晴美 小野 雅子 池田 貴信	小林 大至 松永 泰幸 浦山 洋美 金森 晴彦 小坂 和
第3集 ［3期］ 平成8年度	内山加納文香 鈴木小林理英 野本 聡 安喰 和之 今井 健文 高橋 貴子	千葉 綾子 宮沢 元 渡辺 一博 片桐 宏 浅沼 康理 小木曽雄亮	桐山 潤 小宮山 博 酒井由佳里 登坂佐々木美恵 塚原土屋淳子 中村 典史	丸山 和利 山谷 早苗 黒沢 祐子 中島真由美 長谷川直紀 桃澤 啓	木戸口あい 竹下 雅道 竹下 宏江 小池 祐介 臣川 元寛 清水 由美	相沢大司郎 池上永利子 知野真里子 長島多賀子 清水あかね 秋山 薫	竹田みどり 檜山いづみ 宮本 愛 柳沢 勇志 小林 理恵 奥井 一良	田淵 久晃 中村 愛 尾島 久美 松下 貴晴 北島 茂樹
第4集 ［4期］ 平成9年度	中村 典史 浅沼 康理 小木曽雄亮 登坂佐々木美恵 登坂 武人	眞島 紀章 清水麻紀子 井口 佳美 森下 房枝	平林 徹 松元 徹 柏木 亘 太子澤田奈奈	吉沢麻衣子 市川 大輔 村田 恵 藤原小倉佐知子	阿部 利恵 武井斉藤聖子 増田 紀子 唐木 紫織	金井 弘子 中條 悟 長田ひろみ 宮下 聡	太田佐野美佳 山木 隆行 矢澤由紀子 成田 英道	芦田 英央 土屋ひとみ 山田 尚美 池田日詰清香
第5集 ［5期］ 平成10年度	登坂 武人 白井 敬 長田 雅子	尾沼 直也 加藤 豊司 佐藤 宏樹	杉山 雅幸 杉山井上真裕子 武末 裕子	田代 奈実 田中 崇 那須 良寛	平野山田理恵 谷口 美佳 高戸美佳子	早川千絵美 武田 昌之 油井 幸樹	大島 智子 川口井戸陽子 中澤 博子	池田 裕美 井口 佳美 吉澤麻衣子
第6集 ［6期］ 平成11年度	白井 敬 平野山田理恵 加藤 豊司 那須 良寛	杉山 雅幸 杉山井上真裕子 中村 祐介 坂田中沢典子	小池 悠介 笹崎 典子 中谷 弥哲	両角 孝之 千野加世子 池田 朋美	林 一真 山王 隆晃 高橋 歩	押澤 由記 本山 貴雅 町田 豊文	佐野 友和 増沢 るみ 佐藤 正志	河西 祐司 伊藤 慶 増野 隆
第7集 ［7期］ 平成12年度	中村 祐介 千野加世子 林 一真	西澤 俊輔 金井相磯素子 中山清水美香	林 美智子 町田 竜太 小池花村尚美	海沼 正典 大場 浩幸 安達 仁美	西山 裕 渡辺 勝由 野田耕次郎	浅野 剛 中村 和孝	神谷比嘉頼子 山盛 賢治	塚田 武好 三輪亜弥子
第8集 広場 ［①期］ 平成13年度	町田 竜太 小池花村尚美 那須 良寛 林 一真	西澤 俊輔 中山清水美香 林 美智子	白井 克典 寺坂岡部桂子 片瀬亜希子	大石富山裕子 小黒あかり 森川鹿子木愛	並床小島真知子 小林 則雄 梅田亜紀子	志村 昌之 大澤安貴子 塩原 孝茂	土田みどり 角 直子 井上 将彦	西 絢平 北原原山美樹

第 9 集 [②期] 平成 14 年度	山本　公三 小池花村尚美 池田　明子 萩原　美樹	丸山　大輔 五味渕　嘉 中野　考之 田中　慶子	田中裕次郎 小川　敦嗣 岩脇　悟子	藤岡　恵美 山際増田美和 幸阪　創平	山口石関千絵 夏井　一智 山本　真望	石井　里佳 髙橋　和之 那須　紋子	西川小島澄 浅川蓼沼夏子 山口　真史	藤本　晃子 西村　崇 森田　美保
第 10 集 世　間 [Ⅰ期] 平成 15 年度	丸山　大輔 小池花村尚美 五味渕　嘉 原　かつ江 藤田　優子 前崎　伸周	北川　伸尚 山口石関千絵 熊田　賢人 宇良　知子 池田神林彩井 岩羽　純一	笠原　千絵 石澤　昌史 藤浪　千晃 小林　崇 松土　智美 松本　好平	前崎　全洋 土肥　直也 前枝　真嘉 南波　朋美 中村　日砂	斉藤　崇 野口　陽子 岡田　洋平 中山　綾香 白木　新	関谷　北斗 前平かんな 鷲津　智子 長野　幸恵 武井　恒	丸山枝里子 沖田　幸子 黒崎　藍子 手島　由加 中河　亜美	中埜　晧介 村上　真美 吉村　真司 篠原　真美 秦　千暁
第 11 集 [Ⅱ期] 平成 16 年度	池田神林彩井 原　絵里 渡邉　彩 石澤　昌史 岩羽　純一	梅牧　歩美 遠藤　宇寛 鍵谷　美希 黒崎　藍子 嵯峨みず穂	林　真由美 松山　博一 森脇　奈美 矢野　智 川端　智子	原　千恵 別府　紀佳 松澤　栄美 吉澤あすか 菊池　翠	林　徹 羽入田拓磨 三澤由季子 鳥居　純司 久保田聡美	安田　真弥 田中真理子 中島　有美 埋橋　由佳 野辺紀久子	田畑　玲子 山口　陽子 藤澤麻里子 奥泉　祥子	竹内　史 富岡　頌子 丹羽　寛子 唐木　佑輔
第 12 集 [Ⅲ期] 平成 17 年度	前崎　全洋 青木松井泉樹 末松　辰規 大塚　一哉 早津　秀 江崎　美保 鈴木　春菜 小林　由紀	長野　彩子 塚本麻衣子 川端　智子 柳原　桃子 南部　利彦 川端　玲子 矢竹喜美子 永塚　達也	丸山　晃男 平林　照世 細川　李花 岸上　隆文 関　麻依子 森友　希恵 佐藤　由佳 熊　義史	西井　珠恵 丸田　青冴 中川　明子 大舘　良明 佐藤　真也 黒岩恵理子 大原由佳里	潮田　徹 中村千絵美 齋藤　清夏 田中真理子 丸山由起子 内山　佳奈 髙坂　優希	田中　菜穂 山北　真 兼平　梨香 小林　葉子 松崎　礼乃 田中　順子 小林　加奈	加納　冴子 田部井寛乃 刈屋光穂子 肥留間淳也 竹本美奈子 柴原　恵 河野　悠生	佐々木　顕 丸山　赳人 土肥　直也 足立　千明 坪内　章江 氏原　裕貴 小林　千春
第 13 集 [Ⅳ期] 平成 18 年度	松橋　彰行 丸山　晃男 平林　照世 細川　李花 永塚　達也 稲玉　恵美 浅井美由紀	清水　亜美 川辺　裕作 唐木　佑輔 本山　裕子 仲吉　咲香 堀端　優也	名無恵美子 花形美奈子 山田　桃子 小平　奈央 黒澤　加衣 堂前　直人	丸山　悟 落合　静香 常盤　千明 洞出　直美 持田有希子 大澤　美香	清水　恵 斉藤　健二 酒井　奈々 亦野　潤一 根岸　純平 田村　弘樹	小林亜友美 杉原　優華 國重　彩 浅田　沙織 平野　友視 五十嵐由美	大沼　ゆき 清水　麻紀 五味　沙織 榊原　礼菜 斉藤　健治 池田　桃子	江口みなみ 長尾　麻菜 桃澤　祐子 市原　哲也 上原　珠美 山上　夏美
第 14 集 [Ⅴ期] 平成 19 年度	春原　圭佑 落合　静香 常盤　千明 洞出　直美	須貝　和之 石井絵理子 滝沢　典子 田村　将太	齊藤　有希 野口　洋憲 布山奈津美 上田　雄介	加藤　博美 土田　恵久 青木　智博 旗持　貴優	小池　真弓 平野　結 大家恵梨子 青木みなみ	上田　綾乃 藤岡　泰裕 細田　有希 山崎　友美	大髙　真理 江花　悠 鈴木　亮子	太田　真実 河名　智子 押江　愛実
第 15 集 [Ⅵ期] 平成 20 年度	原　耕平 髙池　亮輔 宮川はるな 小林良太郎	吉田ちひろ 笠井　悠太 梅澤　美夏 原　卓也	中川　茜 小西　舞 伊藤　香澄 吉池　潤奈	宮下奈保子 一條　まな 菊地ゆかり 宮川　志織	酉澤　遥 飯島　理沙 西澤　直城 鈴木　祐香	早川　和宏 坂本　英幸 渋谷美奈子 石原加奈子	戸谷　望美 田中　陽菜 藤田　裕介 山崎　慶太	土屋　知毅 佐藤　悠司 志甫　知紀 飯村　昌史
第 16 集 [Ⅶ期] 平成 21 年度	東野　千尋 西澤　直城 飯島　理沙	市川　香織 早川　和宏 宮尾　亘	阿部　由季 鈴木　梢 肥野沙也加	布山　朋和 岩本　芙美 中村　恵理	田畑隆太郎 松井　遙 太田　香子	宇賀地由里 小西　陽一 米山　幸恵	坂本明日香 肥部　直幸 福田　朱里	岡澤　結子 矢土　裕和 園田　泉
第 17 集 [Ⅷ期] 平成 22 年度	片原　範子 肥野沙也加 三石　梨沙 髙見澤　誠	藤浦　修司 荻原　知子 小賀坂佳子 山越　俊	入澤　清里 土屋　克明 腰原　綾佳 駒村　美代	松田　祐輝 町田　香帆 佐藤美沙希 内川　舜也	木内　浩司 平澤　里恵 武藤　成美 原科　勇希	峯村　和裕 勝海　公平 金井　和也 佐久　理絵	大井このみ 久保　朝夏 山本　敦司	金箱　仁志 服部　直幸 田澤　岳哉
第 18 集 [Ⅸ期] 平成 23 年度	服部　直幸 土屋　克明 赤羽　成美	髙坂　泉 北沢　瑞樹 井出　愛香	菊池　智香 淵口　歩美 佐塚　大悟	藤橋　美月 鈴木喜多朗 佐原　啓太	松田　祐輝 勝海　公平 入澤　清里	内川　瞬也 町田　香帆	田口　詩織 岩瀬　由依	加々美理沙 秋元　雄喜

3.「信大 YOU 遊」に関連する主な「報告書」「著書」「論文」一覧

【報 告 書】

1. 土井進編著『平成5年度信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」の実践』全77頁、信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター、平成6年3月
2. 土井進編著『平成6年度信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」の実践』全101頁、同前、平成7年3月
3. 土井進編著『平成6年度「信大 YOU 遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』(第1集) 全114頁、同前、平成7年3月
4. 土井進編著『平成7年度信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」の実践』全54頁、同前、平成8年3月
5. 土井進編著『平成7年度　第二期「信大 YOU 遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』(第2集) 全248頁、同前、平成8年3月
6. 土井進編著『平成8年度信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」の実践』全70頁、同前、平成9年3月
7. 土井進編著『平成8年度　第三期「信大 YOU 遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』(第3集) 全272頁、同前、平成9年3月
8. 土井進編著『平成8年度　臨床経験の授業科目「教育参加」の開設と学生の反応』全72頁、同前、平成9年3月
9. 土井進編著『平成9年度　第四期「信大 YOU 遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』(第4集) 全258頁、信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター、平成10年3月
10. 土井進編著『平成9年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　信州大学教育学部における地元教育機関と連携した「教育参加」の実践』全193頁、同前、平成10年3月
11. 土井進編著『平成10年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書（その1）　第五期「信大 YOU 遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』(第5集) 全191頁、同前、平成11年3月
12. 土井進編著『平成10年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書（その2）　地元教育機関と連携した「教育参加」の実践』全114頁、信州大学教育学部附属教育実践総合センター、平成11年3月
13. 土井進編著『平成11年度フレンドシップ事業報告書（その1）　地元教育機関と連携した「教育参加」の実践(第4集)』全131頁、同前、平成12年3月
14. 土井進編著『フレンドシップ事業報告書（その2）平成11年度　フレンドシップ事業全国学生シンポジウム―生き生きとした未来へ、今、学生が求めるフレンドシップ事業とは―』全142頁、同前、平成12年3月
15. 土井進編著『フレンドシップ事業報告書（その3）　平成11年度　第六期「信大 YOU 遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』(第6集) 全200頁、同前、平成12年3月
16. 土井進編著『平成12年度フレンドシップ事業報告書（その1）　地元教育機関と連携した「教育参加」の実践(第5集)』全100頁、同前、平成18年3月
17. 土井進編著『フレンドシップ事業報告書（その2）平成12年度　第2回フレンドシップ事業全国学生シンポジウム報告書―21世紀の実践に向けて、フレンドシップ事業の課題と発展―』全77頁、同前、平成13年3月
18. 土井進編著『フレンドシップ事業報告書（その3）　平成12年度　第七期「信大 YOU 遊サタデー」の実践―体験的学習の指導による実践的力量の形成―』(第7集) 全176頁、同前、平成13年3月
19. 土井進編著『平成13年度　第1回里山ふれあいキャンプ報告書』全80頁、平成13年10月
20. 土井進編著『平成13年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　第1期「信大 YOU 遊広場」の実践―“臨床の知”を求めて―』(第8集) 全222頁、信州大学教育学部、平成14年3月
21. 土井進著『教職への志向と一体感の形成をめざす「教育参加」の効果』全92頁、平成10年度～12年度科学研究費補助金　基盤研究（C）(2) 研究成果報告書、平成13年12月
22. 土井進著『信州大学教育学部における臨床経験カリキュラムの体系的構築―実践的指導力の養成―』全318頁、信州大学教育学部教師教育学研究室、平成14年3月
23. 土井進編著『平成14年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　第2期「信大 YOU 遊広場」の実践―“臨床の知”を求めて―』(第9集) 全242頁、信州大学教育学部、平成15年3月
24. 土井進編著『平成14年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　第3回全国フレンドシップ活動　MYOKO ゆきんこフェスティバル』全118頁、信州大学教育学部附属教育実践総合センター、平成15年3月
25. 土井進編著『平成14年度フレンドシップ事業報告書　地元教育機関と連携した「教育参加」の実践（第7集)』全120頁、同前、平成15年3月
26. 土井進編著『平成15年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　信州大学における「地域貢献」の教員養成―第1期「信大 YOU 遊世間」の実践―』(第10集) 全235頁、信州大学教育学部、平成16年1月
27. 土井進編著『平成15年度フレンドシップ事業報告書　地元教育機関と連携した「教育参加」の実践（第8集)』全127頁、信州大学教育学部附属教育実践総合センター、平成16年3月
28. 土井進編著『平成16年度フレンドシップ事業報告書　信州大学における「地域貢献」の教員養成「信大 YOU 遊世間」の実践』(第11集)、全136頁、信州大学教育学部、平成17年3月
29. 土井進著『教師、その実践的指導力の構造と陶冶―新聞報道にみる信州大学教育学部の実践―』全167頁、信州大学教育学部教師教育学研究室、平成17年10月
30. 土井進編著『平成17年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　「信大 YOU 遊世間」の教師教育学研究―地域貢献の「体験」に観る「臨床の知」の「省察」―』(第12集) 全150頁、平成18年3月
31. 土井進編著『平成18年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　同前』(第13集) 全110頁、平成19年3月
32. 土井進編著『平成19年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　同前』(第14集) 全102頁、平成20年3月
33. 土井進編著『平成20年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書　「信大 YOU 遊世間」の教師教育学研究―「教職実践演習」への志向―』(第15集) 全127頁、平成21年3月

34. 土井進代表『実践的指導力育成のための教員養成プロフェッショナル・スタンダードの開発』研究成果報告書、基盤研究（C）（1）平成17年度～平成20年度、全109頁、平成21年3月
35. 土井進編著『平成21年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書 「信大YOU遊世間」の教師教育学研究』（第16集）全111頁、平成22年3月
36. 土井進編著『平成22年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書 「信大YOU遊世間」の教師教育学研究』（第17集）全95頁、平成23年3月
37. 土井進編著『平成23年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書 「信大YOU遊世間」の教師教育学研究』（第18集）全120頁、平成24年2月

【著　書】

1．土井進（1998）「臨床経験の授業科目“教育参加”の開設と効果」日本教師教育学会編『学校の問い直しと教師教育の課題』pp. 155-170、八千代出版
2．土井進（1999）「師魂を鍛える「信大YOU遊サタデー」小川秋實編著『知のプリズム―信州大学　創造の現場から―』pp. 137-140　信越放送
3．土井進（1999）「教育実習（臨床経験）」『信州大学教育学部五十年誌』pp. 183-194
4．土井進（2001）「茂菅子ども会育成会と連携した大学の生活科授業」「大学生のお兄さん、お姉さんといっしょにソバをつくろう！」佐島群巳ほか編『新訂生活科授業研究』pp. 127-129、pp. 199-204、教育出版
5．土井進（2001）「必修部分を越える教育実習」「「教育実習」の改善と大学・実習校との連携」髙倉翔編『新時代の教員養成・採用・研修システム』pp. 76-79、教育開発研究所
6．土井進（2002）「教育実習による学生の成長」日本教師教育学会編『講座教師教育学Ⅱ　教師をめざす』pp. 65-78、学文社
7．土井進（2005）「環境教育としての総合演習―信大茂菅ふるさと農場における“米づくりと人づくり”」佐島群巳他編『エネルギー環境教育の理論と実践』pp. 19-26、国土社
8．土井進（2007）「剥離しない学力と体験力」「信州大学の地域貢献活動―学生の体験力を高める「信大YOU遊世間」―」茅野敏英編著『考える力を高める体験学習』pp. 24-30、pp. 128-135、玉川大学出版部
9．土井進（2010）「「信大YOU遊世間」の活動報告」寺沢宏次ほか編『体動かせ、人と関われ、頭使え』pp. 39-43　ほおずき書房

【論　文】

1．小林輝行・土井進（1993）「授業科目「教育実習事前・事後指導」の開設について」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第1号、pp. 169-179
2．土井進（1994）「「教育実習事前・事後指導」の実践上の諸問題(1)」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第2号、pp. 49-56
3．土井進（1995）「「教育実習事前・事後指導」の実践上の諸問題(2)」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第3号、pp. 101-108
4．土井進（1995）「信大YOU遊サタデー」のもつ応用教育実習としての意義」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第3号、pp. 109-118
5．土井進（1996）「「教育実習事前・事後指導」の実践上の諸問題(3)」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第4号、pp. 173-180
6．土井進（1996）「「信大YOU遊サタデー」を通して修得される実践的指導力」『実践センター研究発表大会論文集』第1号、p. 2
7．土井進（1996）「教員養成学部における実践的指導力の養成―「信大YOU遊サタデー」での体験的学習の指導を通して―」『関東教育学会紀要』第23号、pp. 39-45
8．土井進（1996）「信大YOU遊サタデーに願うもの」『信濃教育』第1318号、pp. 4-11
9．土井進（1996）「「信大YOU遊サタデー」において“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観」『日本教材学会年報』第7号、pp. 193-195
10. 林向達・土井進（1996）「「信大YOU遊サタデー」における「人間力」の考察」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第4号、pp. 57-66
11. 土井進（1997）「「信大YOU遊サタデー」において“もの作り体験学習”を指導した学生の教材観(2)」『日本教材学会年報』第8号、pp. 207-209
12. 土井進（1997）「学校週五日制時代の地域教育力蘇生への教員養成学部の対応―学生パワーを地域社会に開く「信大YOU遊サタデー」の実践―」日本教育大学協会第二常置委員会編『教科教育学研究』第15集、pp. 3-18、サンプロセス
13. 土井進・漆戸邦夫（1997）「臨床経験の授業科目『教育参加』の開設」日本教育大学協会編『平成8年度日本教育大学協会研究発表論文・全体討議要旨』pp. 53-56
14. 坂本真哉・土井進（1997）「幼児期、児童前期における応答性のある教材の意義についての研究―信大YOU遊サタデーにおける小麦粉粘土の実践から―」『日本教材学会年報』第8号、pp. 147-149
15. 小林輝行・土井進（1997）「授業科目「教育参加」の開設について」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第5号、pp. 143-149
16. 土井進（1998）「学生から見た教育実習の問題点と改善方策」教育実習見直し検討小委員会編『信州大学教育学部における教育実習改革』pp. 35-40、信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター
17. 土井進（1998）「臨床経験の授業科目「教育参加」の開設と効果」『日本教師教育学会年報』第7号、pp. 155-170
18. 林向達・土井進（1998）「総合的な学習を構想・実践する力量の形成―「信大YOU遊サタデー」の講座づくりを通して―」『日本教材学会年報』第9巻、pp. 184-186
19. 林向達・土井進（1998）「学生主体の教育実践活動の成立・継続過程とその分類―「信大YOU遊サタデー」の足跡から―」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第6号、pp. 71-80
20. 中村典史・土井進（1998）「学生にとっての出張YOU遊サタデーの意義」『信州大学教育学部附属教育実践研究

指導センター紀要』第6号、pp. 147-154
21. 土井進（1999）「教職への志向と一体感の形成をめざす「教育参加」の効果」『日本教材学会年報』第10巻、pp. 195-197
22. 土井進（2000）「教師としての人間力の錬磨」『教育展望』通巻496、pp. 24-33、教育調査研究所
23. 古川忠司・鎌倉正之・土井進ほか（2000）「松川中学校における「自問清掃」の導入と展開(1)」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 1、pp. 163-172
24. 佐藤宏樹・田中崇・増野隆・土井進（2000）「現場教師から見た「フレンドシップ事業」の意義と成果」信州大学教育学部附属教育実践総合センター『実践センター研究発表大会論文集』第5号、pp. 15-16
25. 土井進（2001）「「信大茂菅ふるさと農場」と「信大牟礼ふるさと農場」の創設―「生活科」と「総合的な学習の時間」の研究開発をめざして―」『信州大学教育学部　学部・附属共同研究報告書』平成12年度　pp. 211-215
26. 海沼正典・土井進（2001）「学校や地域社会における農作業体験学習の意義―「信大茂菅ふるさと農場」での実践を通して―」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 2、pp. 123-132
27. 古川忠司・鎌倉正之・土井進ほか（2001）「松川中学校における「自問清掃」の導入と展開(2)」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 2、pp. 143-152
28. 土井進（2002）「若い教師にとっての基礎・基本―教員養成学部における実践―」『信濃教育』第1390号、pp. 4-13
29. 土井進（2002）「「総合演習」的性格を有する「信大YOU遊世間」」下田好行編『教職科目「総合演習」における教育内容・方法に関する開発研究』pp. 247-253、信州大学教育学部
30. 塩原孝茂・土井進（2002）「生活科における自然体験の意義と改善の方向」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 3、pp. 21-30
31. 志村昌之・土井進（2002）「農作業における子どもの「体験」と「学び」を結ぶ支援―「信大YOU遊プラザ」に見る学生の実践―」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 3、pp. 97-106
32. 那須良寛・土井進・谷塚光典（2002）「「教育参加」における学生の体験内容の分析―国立信州高遠少年自然の家での活動レポートから―」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 3、pp. 117-126
33. 土井進（2003）「地域と連携した体験的カリキュラムの開発」『平成14年度　客員研究員研究報告書』上越教育大学学校教育総合研究センター、pp. 11-14
34. 那須良寛・土井進・谷塚光典（2003）「「信大YOU遊サタデー」の実践による学生の経験幅の拡大―信州大学教育学部における体験的カリキュラムの創設の効果―」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 4、pp. 105-114
35. 濁川明男・土井進（2003）「今、求められる教員養成における「実践的指導力の基礎」の育成」小林辰至代表『新免許法に対応する教員養成課程体験的カリキュラムの体系的構築に関する実践的研究』pp. 3-9、平成12年度～14年度　科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書―」
36. 土井進（2004）「学生が生活科の目標の核心にふれる大学での体験的授業をめざして」信濃教育会『信州の生活科実践誌　ふるさとの大地』pp. 6-7
37. 土井進（2005）「体験力を育てる農業学習」『教育展望』通巻557号、pp. 24-33、教育調査研究所
38. 丸山大輔・土井進（2005）「「信大YOU遊興譲館」における不登校生徒の「社会力」の向上」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 6、pp. 61-70.
39. 土井進・関川光彦（2005）「「信大YOU遊世間」における実践的指導力の基礎の構造と陶冶」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 6、pp. 131-140.
40. 土井進（2005）「「信大YOU遊サタデー」を通して学生が修得した実践的指導力の基礎の特質」『教材学研究』第16巻、pp. 211-214
41. 土井進（2007）「信州大学学生による地域貢献活動とその評価―14年間にわたる「信大YOU遊世間」の事例研究―」『地域ブランド研究』Vol. 3、pp. 109-129、信州大学人文学部
42. 土井進（2008）「「生活科指導法基礎」の授業づくりにおける「信大茂菅ふるさと農場」の意義(1)」『信州大学教育学部紀要』第120号、pp. 15-26
43. 平田治・土井進（2008）「教員養成段階における「自問清掃」指導の意義と成果」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 9、pp. 145-154
44. 土井進（2009）「「生活科指導法基礎」の授業づくりにおける「信大茂菅ふるさと農場」の意義(2)」『信州大学教育学部研究論集』第1号、pp. 137-150
45. 土井進（2009）「「信大茂菅ふるさと農場」を教材とした総合演習（米づくりと食育）の実践」『教材学研究』第20巻、pp. 209-216
46. 土井進（2010）「総合・生活科の教材として10年を迎えた「信大茂菅ふるさと農場」『信州大学教育学部　学部・附属共同研究報告書』平成21年度、pp. 165-172
47. 土井進（2010）「「信大茂菅ふるさと農場」における「生活科指導法基礎」の授業づくり」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 11、pp. 21-30
48. 志村昌之・土井進（2010）「社会科・国語科との関連を図った「米づくり」の総合的学習」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 11、pp. 59-68
49. 土井進（2011）「「信大茂菅ふるさと農場」における学生の気付きに関する考察―「生活科指導法基礎」の授業づくり―」『信州大学教育学部研究論集』第4号、pp. 213-223
50. 土井進（2011）「「信大YOU遊世間」の「地域ブランド」としての特質」『地域ブランド研究』Vol. 6、pp. 57-65、信州大学人文学部
51. 小岩井彰・土井進（2012）「長野県青木村で「信大YOU遊世間」の学生が培った社会力」『地域ブランド研究』Vol. 7、pp. 47-53、信州大学人文学部

4．教員養成の視点でみる「信大 YOU 遊」18 年の歩み

年度（平成）	「信大 YOU 遊」関係	「臨床経験科目」関係	教育学部・全国の動向
1992（H 4）			附属教育工学センターから附属教育実践研究指導センターへ改組
1993（H 5）		3 年次「教育実習事前・事後指導」（1 単位）開始	
1994（H 6）	「信大 YOU 遊サタデー」発足		NHK テレビ朝 7 時の全国ニュースで「信大 YOU 遊サタデー」の紹介
1996（H 8）		1 年次「教育参加」始まる	
1996（H 9）	出張 YOU 遊サタデー始まる	長野県教育委員会と連携し「教育参加」を 2 単位に充実する	文部省、フレンドシップ事業開始
1998（H 10）		3 年次「基礎教育実習」（4 週間） 始まる	
1999（H 11）	フレンドシップ事業全国学生シンポジウム	4 年次「応用教育実習」（2 週間）始まる	学部改組（学生定員280名）、附属教育実践総合センターに改組、『信州大学教育学部五十年誌』『信州大学教育学部外部評価報告書』
2000（H 12）	信大茂菅ふるさと農場開墾、信大牟礼ふるさと農場開墾、第 2 回フレンドシップ事業全国学生シンポジウム	2 年次に「学校教育臨床演習」始まる	『信州大学教育学部　学部・附属共同研究報告書』
2001（H 13）	「信大 YOU 遊広場」始まる、菅平でふきのとうキャンプ、里山ふれあいキャンプ、湯谷小子どもランド		
2002（H 14）	信大 YOU 遊興譲館	1 年次に「学校教育臨床基礎」 始まる	
2003（H 15）	「信大 YOU 遊世間」始まる、XY サタデースクール、フレンドシップ事業 10 周年記念学生シンポジウム		
2004（H 16）	あおぞら空間支援隊		国立大学の法人化
2005（H 17）	青木村えがおクラブ 麻績村 dE 遊ぼう	「教育臨床基礎」 「教育臨床演習」	教員養成 GP「臨床の知」の実現 ―蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成―
2006（H 18）	信州すざか農業小学校		教育基本法
2007（H 19）			学校教育法 大学院 GP 授業研究アリーナで共創する「臨床の知」
2008（H 20）	第 9 回全国フレンドシップ活動 in 信州 信州大岡ふるさとランド		小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 教員免許更新講習
2009（H 21）	信州大学 60 周年記念事業、第 8 回 YOU 遊フェスティバル 信州大学功労賞		高等学校学習指導要領
2010（H 22）	長野県農業協同組合中央会「虹の懸け橋賞」		
2011（H 23）	学内版 GP に採択「社会力を育む第 18 期「信大 YOU 遊世間」の実践」 YOU-YOU キャンプ		
2012（H 24）		「教育臨床入門」 「教育臨床演習」 「教育実習事前事後指導」 「初等教育実習」 「中等教育実習」	学部改組　小中両免必修、専攻制からコース制へ

謝　辞

本書を編むにあたり、筆者が長年にわたりご指導を受けてきた教育学者、教師教育学のご専門の先生方9名に、「YOU遊」が有する意義についての外部評価をお願いした。どの先生もご快諾くださり、「YOU遊」のもつ教育学的意義について、甚深無量のご教示を開示してくださった。このご恩に深く深く感謝申し上げたい。また、「YOU遊」の実践にあたり直接の上司としてご指導を賜った先生方、そして地域協力者10名から内部評価を執筆していただいた。衷心より御礼申し上げる次第である。

特に齋藤昭先生からは、「YOU遊」の教育実践を「信州教育」に位置付けるという視野をご教示いただいた。佐島群巳先生からは、「YOU遊」の実践哲学は土着思想であり、子どもの感性と知性を育む方法であるとご教示いただいた。加藤章先生からは、「やりたい人が、やりたいことを、やりたいようにやる」という学生の主体性、自発性を重視した「YOU遊」の実践は、21世紀的な教師教育の一つの在り方であるとご教示いただいた。高倉翔先生からは、教員養成制度改革の流れの中で「YOU遊」は「実践的指導力」育成と「教職科目」改革の先駆的実践であるとご教示いただいた。門脇厚司先生からは、学生が「YOU遊」の活動を通して「人とのつながりや支え合いや助け合いの大切さを身を以て」学び、「社会力」を育成しているところに意義があるとご教示いただいた。藤枝静正先生からは、ご自身が開発された「教師の資質能力モデル」（レベルと領域）に照らし、「YOU遊」事業は教師力（実践的指導力）の基底としての人間力に注目しているとのご教示をいただいた。小泉秀夫先生からは、「本物の文化や科学」に触れるように勉強（教材研究）して、質の高い題材を探すことの重要性についてご教示をいただいた。濁川明男先生からは、「教職実践演習」は正にフレンドシップ事業が目指してきたことであり、この事業が教師教育に携わる教師自身によって立ち上げられ、周囲の理解と協働を生み出し、ボトムアップの歩みをしてきた点に大きな意味がある、とご教示いただいた。近森憲助先生からは、フレンドシップ事業の魂は学生自身が企画・実施・評価する自主的で主体的な活動であるところに存在するとのご教示をいただいた。

「YOU遊」発足時の教育学部長が小林輝行先生であり、附属教育実践研究指導センター長が漆戸邦夫先生であった。このお二人の先生からはとても温かい励ましのお言葉をいただいた。「何か問題があったら私が責任をとりますから、安心してこの事業を始めてください」。この力強いご指導のもとで「YOU遊」は呱々の声をあげることができた。私はこのお二人の師の精神を思い出すとき感涙を抑えることができない。

JA長野に荒廃地の斡旋をお願いに行ったところ、教育学部は農業機関ではないので農地を借りることはできないと言われたときに、藤澤謙一郎教育学部長がJAながの代表理事組合長に掛け合ってくださり、「信大茂菅ふるさと農場」が開設された。そして、藤澤学部長自らが田んぼに入って子どもたち、学生たちと一緒に田植えをしてくださった。教員養成のための教材として、「信大茂菅ふるさと農場」を提供してくださっているJAながの、そして技術指導をいただいている営農指導課の小池健様はじめ関係者の皆様には、12年間お世話になっている。衷心より感謝申し上げたい。

長野市茂菅地区農家、林部信造氏の教員養成事業への格段のご理解とご尽力のお陰で、12年もの歳月にわたって「人づくり」のための「土づくり」を実践して来ることができた。中でも忘れられないのは、私が心筋梗塞で倒れたとき、最早農場もこれまでと放棄したい旨相談した。すると真っ先に林部さんの口を突いて出てきたお言葉は、「農地は一端放棄したら、もう2度と返ってこない。私が学生さんと一緒に耕すから、あなたは監督していればそれでよい」であった。

麻績村教育委員会教育委員長の市川祥介先生、元青木村教育委員会教育長の小岩井彰先生には、学生たちのために村を開放してくださり、学生が思う存分子どもたちと触れあい、地域の皆様と触れあう機会を設けてくださった。座学を中心とした大学の講義だけでは到底修得できない「社会力」を豊かに育成していただいた。

数学研究者関川光彦先生は、学生の教育者としての大成を願い、昼休み時間に開催される「YOU遊」の全体会に何年にもわたって出席し、3分間スピーチをしてくださった。

守時公枝先生は、兵庫県芦屋市から21回手弁当で「YOU遊」と「いじめ研究会」に参加され、学校現場におけるいじめ問題への対応について、学生や卒業生の声に耳を傾けてくださった。

「湯谷小子どもランド」の元代表、中谷隆秀氏は積極的に学生を受け入れ、学生が主体的に企画する場を提供してくださった。また、第9回全国フレンドシップ活動in信州の折には、他大学の学生のためにご自宅を開放し、ホームステーを引き受けてくださった。

この他にもお名前をあげることができないが、たくさんの方々のご理解とご支援によって「YOU遊」が運営されてきたことに心から御礼を申し上げたい。本当にありがとうございました。

平成23年12月15日　　信州大学教授　土井　進

あとがき

平成21年（2009）4月6日に行われた信州大学入学式の席上、小宮山淳学長から「信大YOU遊世間」の学生代表に対して、「地道な地域連携活動を通して本学の地域社会での信頼感を高めるとともに社会活動の振興に功績があった」として、「信州大学功労賞」が授与された。この慶事に続いて、平成23年度（2011）信州大学学内版GP：就業力育成支援プログラムに「社会力を育む第18期「信大YOU遊世間」の実践」が採択された。学生の社会人力育成に貢献している「信大YOU遊世間」の取組に対して、大学本部から重ねての深いご理解とご支援をいただいたことに心から感謝申し上げたい。このGP経費を最大限に生かす道は、これまでの成果を『教員養成フレンドシップ事業「信大YOU遊」18年の教師教育学研究』として学術的にまとめることであると考えた。

自らが体験した「YOU遊」を、400字程度の省察文にまとめて原稿にしていただくために、何年も前からの年賀状を取り出してきて住所を調べた。また、林部さんご夫妻にも長年の手紙類を調べていただいた。また、長野県内に勤務されている人には信濃教育会『学事関係職員録』をもとに学校へ依頼状を発送した。しかし、住所や姓が変わっていたり、どうしても連絡先がわからず、原稿依頼ができなかった方々にはお詫び申し上げたい。この努力の結果、124名もの卒業生と63名の在学生から省察文をいただくことができた。この187名に心から御礼申し上げたい。卒業生の中に依頼状が届いたその日のうちに省察文を送ってくださった方が一人あった。その原稿には次のような手紙が添えられていた。

「お久しぶりです。ご連絡をいただきましてありがとうございました。土井先生もお元気そうな様子で大変嬉しく思いました。田植えも12回目になるのですね。月日が経つのは本当に早いものです。本日、早速原稿を書いてみました。内容がテーマに沿っているか不安ではありますが、YOUサタという活動を通して、育てていただいたことを書かせていただきました。まだ、締切りまでに日がありますので、何度でも書き直します。人を教える立場になってみて、あの時の土井先生がどれほどご苦労をされていたか、改めて分かります。お世話になったままで、ご恩返しができていないのですが、何とか長野県の教育に携わることを通して、少しずつご恩返しをしていけたらと思っています。」

ここに込められた深い感謝の念と長野県の教育に尽くしていこうとする誓願にこそ、「信州教育」の美質が継承されているものといえよう。

表表紙と裏表紙に「遊」の字を揮毫してくださった林部澄翠（本名、幸子）先生は、新日本書道書友会の理事・師範である。学生からは、夫君林部信造さんとともに「長野のお父さん」「長野のお母さん」と呼ばれて親しまれ、深く尊敬されている。このご夫妻が一人ひとりの学生に、ある時は茂菅農場で、ある時はリンゴ畑で、そしてある時はご自宅に呼んで、慈愛の言葉で語りかけてくださっている。このような学生への関わりに脈打っているものこそ、「信州教育」の精髄ではなかろうか。

最近、「YOU遊世間」が内包する意味合いは、仏典の「衆生所遊楽」という世界観に酷似していると考えるようになってきた。人々が遊楽する社会を築くために微力を尽くしていきたいと念願している。

本書を発刊することができたのは、一重に企画構想の段階から編集校正の段階まで、懇切丁寧に取り組んでいただいた信州の出版社「オフィス春日」の春日英一氏のお陰である。衷心より感謝申し上げる。

最後に、18年間にわたって学生のみなさんと苦楽をともにして、「YOU遊」の道を切り拓いてくることができたのは、信州の厳しい寒さに耐えてひたすら内助の功に徹して私を支えてきてくれた妻・美知子のお陰である。ここに記して心からの感謝を捧げ、擱筆する。

平成24年1月5日

土井　進

表紙の文字「遊」について

～～～～～～～～～

人生は生きること　そして、活かすこと
書もまた同じ

～～～～～

1 枚の紙にかもし出される白と黒の調和は
無限の可能性を秘めた素晴らしい世界です。
まさに、「YOU 遊ワールド」の心です。

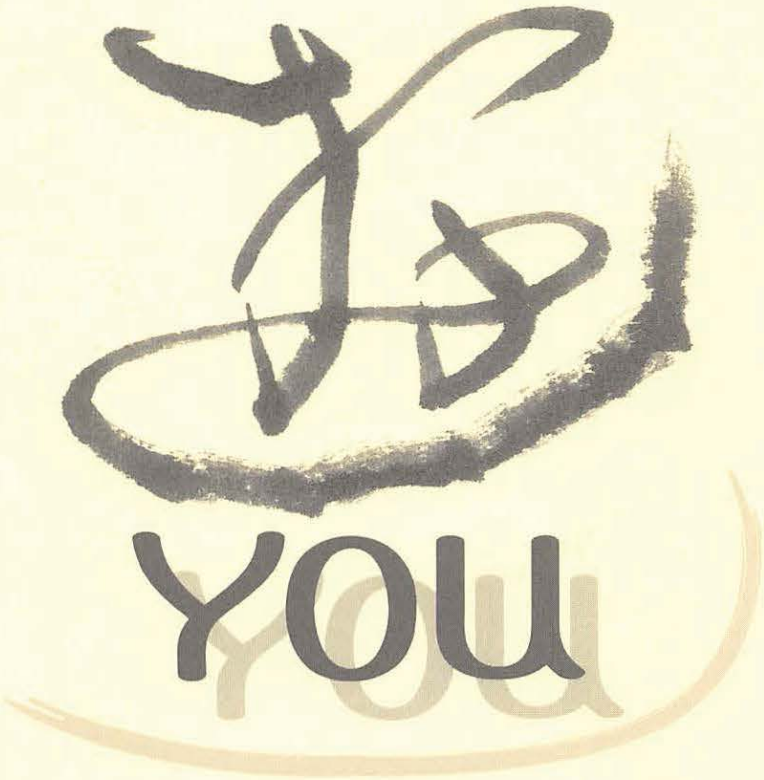
書家　林部 澄翠

平成 23 年度学内版 GP：就業力育成支援プログラム
取組名称：社会力を育む第 18 期「信大 YOU 遊世間」の実践　報告書

教員養成フレンドシップ事業
「信大 YOU 遊」18 年の教師教育学研究

2012（平成 24）年 1 月 30 日印刷 ©
2012（平成 24）年 2 月 2 日発行

編　　集　「YOU 遊」18 年記念誌編集委員会
発 行 人　土　井　　進
E-Mail : doisusm@shinshu-u.ac.jp
発　　行　信州大学　教育学部　教師教育学研究室
〒380－8544　長野市西長野 6－ロ
電話 026－238－4260　FAX 026－238－4260
制　　作　オフィス春日
E-Mail : xmbxp210@ybb.ne.jp



「YOU遊」18年記念誌